“Zoom-Zoom”・・・

それは英語で「ブー、ブー」という車の走行音をあらわす、子供言葉です。
誰でも、子供の頃は、動くことに対するあこがれがありました。
車のエンジン音が響くと、ドキドキする感じ。
カラダがビュンビュン流れる時の、快感。
めまいがするようなうれしさ。

きっと、みんな知っていたはずです。
でも、大人になると、ちょっと忘れていたりする。
それを、マツダは忘れません。
それが、私たちの“Zoom-Zoom”の意味。

小さい時に知っていた、
ウズウズするような走る喜びを忘れていない皆様のために、
素晴らしいクルマを作り続けます、という
私たちの新しいブランド・パーソナリティのコア・エッセンスです。

人馬一体

Jinba-ittai

クイックガイド

このクイックガイドはロードスターの特徴的な装備について、簡単な操作方法などを紹介しています。

クイックガイドの中で使用しているマークは次の内容を示しています。


詳しい説明をそれぞれの章に記載しています。
ご使用前に必ずお読みください。


知っておくと便利なことを記載しています。

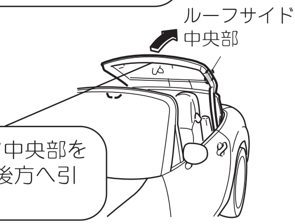
オープンエアを楽しむために
～ソフトトップ～

開けるとき



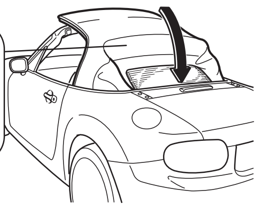
1 ロック解除ボタンを押しながら、トップロックレバーを手前に引きロックを解除します。



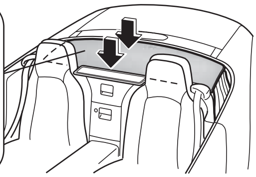


2 ルーフサイド中央部を持って、車両後方へ引きます。

3 リヤガラスを手で軽く押さえながら、ソフトトップを後方へ移動します。



4 ソフトトップを後側から前側の順に、カチッと音がするまで押さえつけ、確実に固定します。

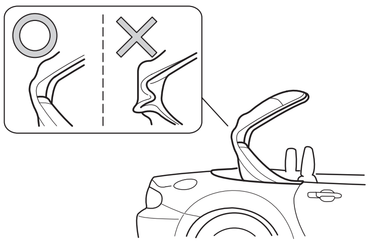


詳しくは第3章「ソフトトップ」をお読みください。

ソフトトップを開けて走行するとき、エアロボードを起こしておくと後方からの風の巻き込みを防ぐことができます。

詳しくは第4章「室内装備」をお読みください。

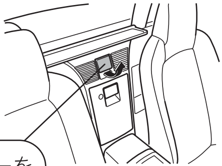
ソフトトップを押さえる力が大きいと、ソフトトップが不自然に折れ曲がり幌に無理な力がかかるおそれがあります。手順3のとおりリヤガラスを押さえてソフトトップを折りたたんでください。



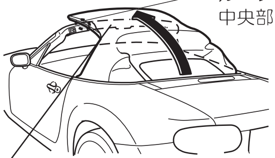
エアコンについて・・・
ルーフを開けた状態でダイヤルをOPEN MODEの位置にすると、より快適にエアコンを使用していただけます。

詳しくは第４章「空調」をお読みください。

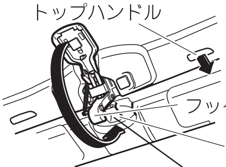
閉めるとき



1 ロック解除レバーを手前に引きロックを解除します。



2 ルーフサイド中央部を持ちながら、ゆっくりと引き上げます。



3 シートに座り、トップハンドルを持って、ソフトトップをフロントガラス側に押し当てます。
トップロックレバーをゆっくりと動かして、フックがストライカーにかかっていることを確認し、カチッと音がするまで押し上げます。

詳しくは第3章「ソフトトップ」をお読みください。

ソフトトップを長期間開けた状態で放置すると幌が収縮し、ソフトトップを閉めるときにトップロックレバーのフックがストライカーにかかりにくくなることがあります。

オープンエアを楽しむために ～パワーリトラクタブルハードトップ～

開けるとき

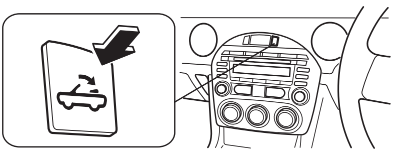
スイッチ操作により電動開閉することができます。

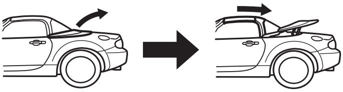




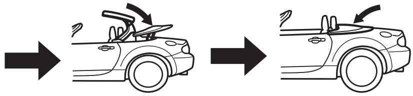
1 ロック解除ボタンを押しながら、トップロックレバーを手前に引きロックを解除します。

2 オープンボタンを押し続けます。





デッキが開きます。 → ハードトップが開きます。

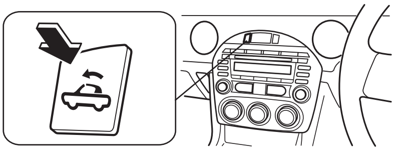


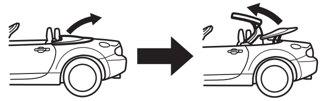
→ ハードトップが格納されます。 → デッキが閉まります。

詳しくは第3章「パワーリトラクタブルハードトップ」をお読みください。

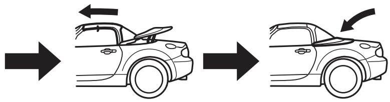
閉めるとき

1 クローズボタンを押し続けます。

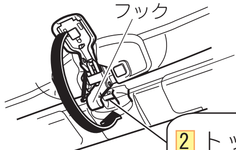




デッキが開きます。 → 格納部からハードトップが出ます。



→ ハードトップが閉まります。 → デッキが閉まります。



2 トップロックレバーをゆっくりと動かして、フックがストライカーにかかっていることを確認し、カチッと音がするまで押し上げます。

詳しくは第3章「パワーリトラクタブルハードトップ」をお読みください。

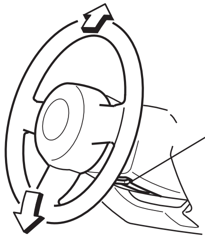
エアコンについて・・・
ルーフを開けた状態でダイヤルをOPEN MODEの位置にすると、より快適にエアコンを使用していただけます。

詳しくは第４章「空調」をお読みください。

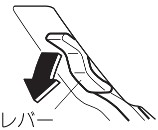
快適な運転を楽しむために

快適な運転を楽しむために、シート、ハンドルを正しく調節しましょう。また、シートベルトは必ず着用してください。

ハンドルの角度調節



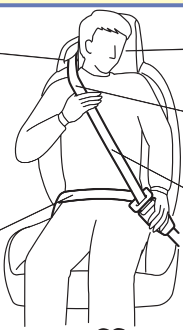
レバーを下げて、ハンドルを適切な位置に調節します。



調節後は、レバーを押し上げてロックします。

詳しくは第3章「各部の調節」をお読みください。

シートベルトの正しい着用のしかた



ベルトがシートベルトガイドに通っていることを確認します。

上体を起こし、シートに深く腰かけます。

ベルトが首、あご、顔などにあたらず、肩に十分かかるようにします。

ベルトを腰骨のできるだけ低い位置に密着させます。

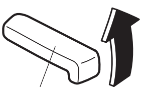
ベルトにねじれがないか確認します。

詳しくは第2章「シートベルト」をお読みください。

シートの調節



角度調節（リクライニング）



レバーを引いたまま、背もたれを前後に動かして調節します。

前後調節（スライディング）

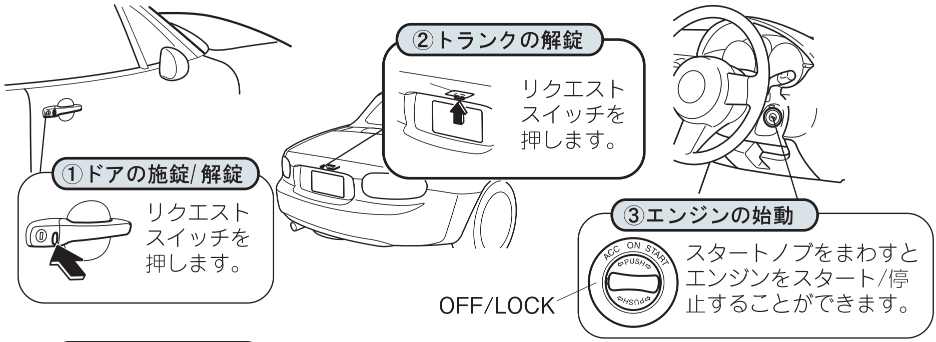
レバーを引き上げたまま、シートを前後に動かして調節します。

詳しくは第2章「シート」をお読みください。

便利な装置

アドバンストキーレスエントリー&スタートシステム

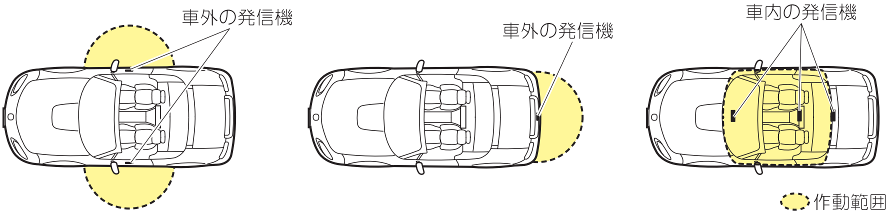
アドバンストキーレスエントリー&スタートシステムにより次の操作をすることができます。



作動範囲について

アドバンストキーを携帯し、車内および車外の作動範囲に入ったとき作動します。

①ドアの施錠/解錠　②トランクの解錠　③エンジンの始動



詳しくは第3章「アドバンストキー」をお読みください。

室内の収納スペース

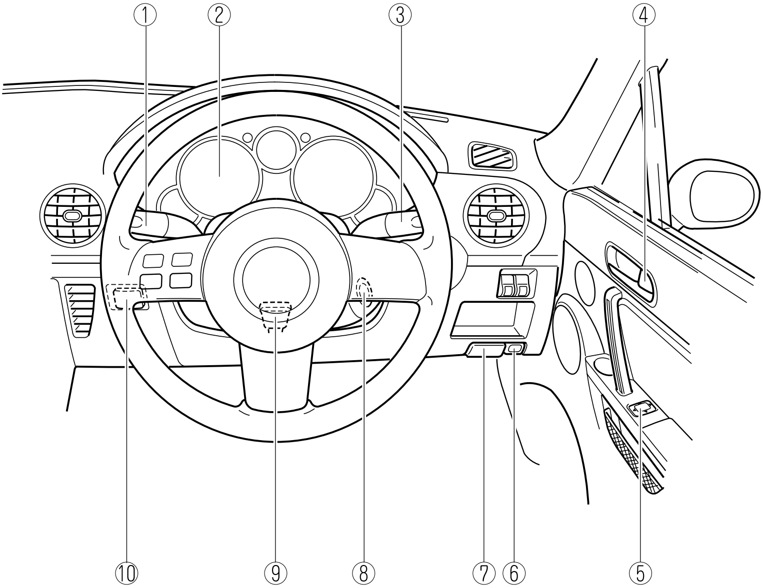
車両には次のような多くの収納スペースがあります。



詳しくは第4章「室内装備」をお読みください。

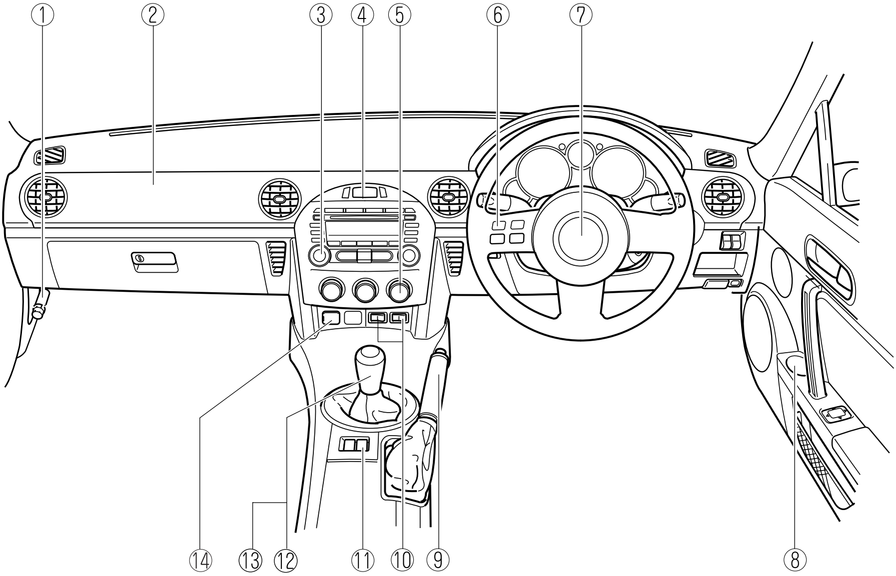
目次

ハンドルまわり



 車両や仕様変更などにより取り付け位置および装備が異なります。

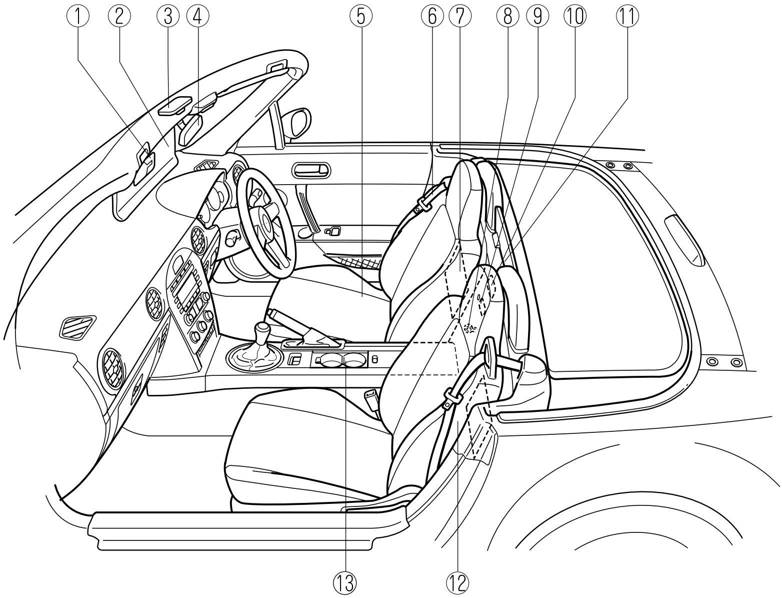
運転席まわり



車両や仕様変更などにより取り付け位置および装備が異なります。

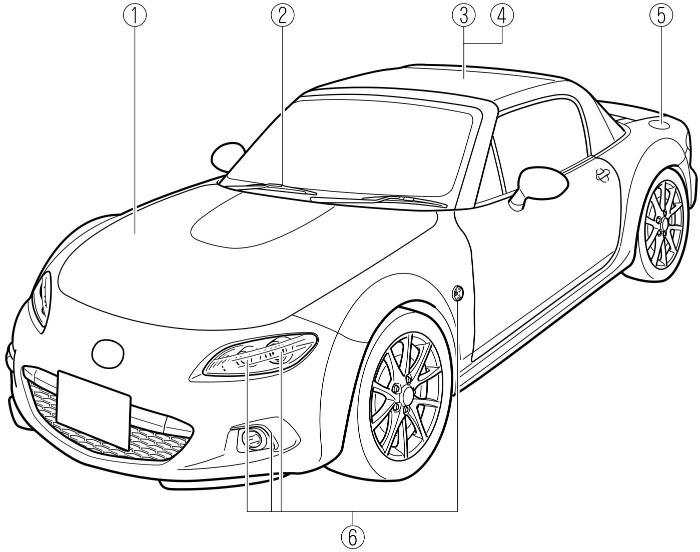
イラスト目次

室内

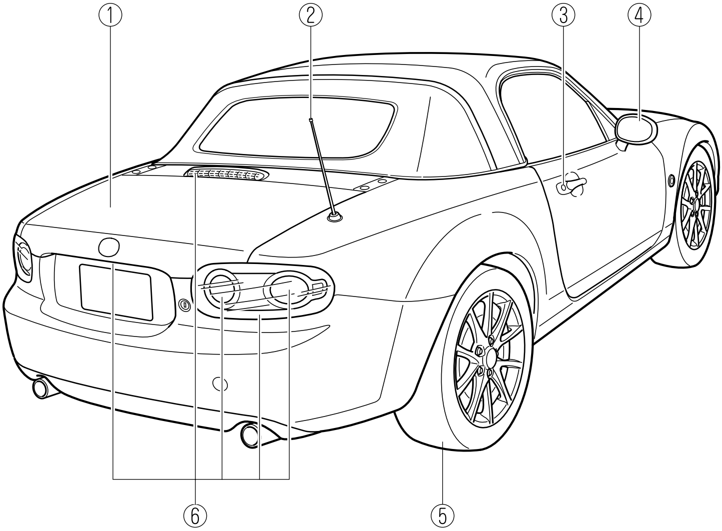


車両や仕様変更などにより取り付け位置および装備が異なります。

フロント外観



リヤ外観



 車両や仕様変更などにより取り付け位置および装備が異なります。

MEMO

詳細目次

1 必読！安全ドライブのために

2 安全装備

5 万一のときは

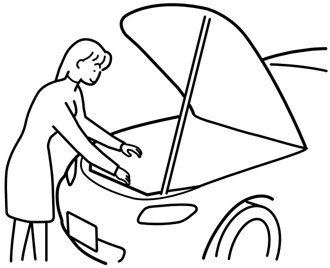
6 車との上手なつきあいかた

MEMO

1 必読！安全ドライブのために

安全のために知っておいていただきたいこと、守っていただきたいことをまとめております。よく読んでお守りください。

点検は必ず実施する



安全で快適な運転をするために、日常点検整備および定期点検整備を実施することが法律で義務づけられています。
点検要領については別冊のメンテナンスノートを参照してください。
いつもと違う点に気づいたら、早めにマツダ販売店で点検を受けてください。

バッテリーがあがりやすいときはマツダ販売店で点検を受ける

バッテリーがあがりやすいときは、バッテリーの性能が低下しているおそれがあります。このような状態でエンジンを始動すると、破裂 (爆発) につながるおそれがあり危険です。バッテリーがあがりやすいときは、マツダ販売店で点検を受けてください。
また、交換は必ずマツダ販売店にご相談ください。

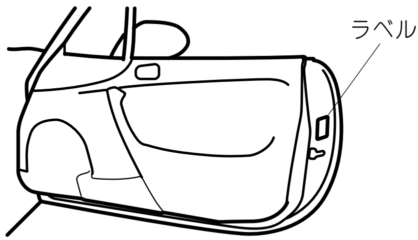
日常点検としてタイヤを定期的に点検する

タイヤの点検は法律で義務付けられています。
タイヤは以下の点検をしてください。

- タイヤの空気圧
- タイヤのき裂･損傷
- タイヤの溝の深さ、異常摩耗

点検要領については別冊のメンテナンスノートを参照してください。

タイヤの空気圧は必ず指定空気圧に調整する



タイヤの空気圧が不足したままで走行しないでください。タイヤの空気圧が不足していると車両の安定性を損なうばかりでなく、タイヤが偏摩耗したりします。また、タイヤの空気圧が不足したままで高速走行すると、タイヤがバースト (破裂) するなどして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
適正空気圧は、運転席ドアに貼付されているラベルで確認してください。

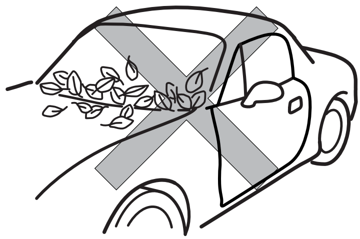
タイヤの側面などにき裂や損傷のあるタイヤを装着しない

- 異常があるタイヤを装着しないでください。
  - 異常があるタイヤを装着すると、走行中にハンドルがとられたり、異常な振動を感じることがあります。
    また、パンクやバースト (破裂) などにより思わぬ事故につながるおそれがあります。
    走行中、異常な振動を感じた場合はマツダ販売店で点検を受け、正常なタイヤと交換してください。
  - 異常のあるタイヤを装着していると、車の性能 (燃費·走行安定性·制動距離など) が十分に発揮できないばかりでなく、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、部品に悪影響をあたえるなど、故障の原因になるおそれがあります。
- 道路の路肩などにタイヤの側面を接触させたり、凹凸やわだちの乗り越しは避けてください。タイヤの損傷、き裂などをまねくおそれがあります。

摩耗限度をこえたタイヤは装着しない

タイヤの溝の深さが少ないタイヤや摩耗限界表示 (ウェアインジケーター) が現れているタイヤを使用しないでください。そのまま使用すると、制動距離が長くなったり、雨の日にハイドロプレーニング現象※により、ハンドル操作ができなくなったり、タイヤがバースト (破裂) するなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。摩耗限界表示が現れたらすみやかに正常なタイヤと交換してください。
→265ページ「タイヤの点検」
※ぬれた路面を高速で走行すると、タイヤと路面の間に水の膜ができ、タイヤが浮いた状態になり、ハンドルやブレーキが効かなくなる現象。

外気取り入れ口をふさがない



フロントガラス前部の外気取り入れ口が、雪や落ち葉などでふさがっているときは取り除いてください。外気が導入できないため、車内の換気が十分できなくなるおそれがあります。

指定燃料以外の燃料を補給したり、純正以外の燃料添加剤を使用しない

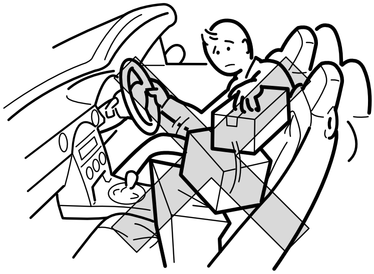
- 指定燃料以外の燃料を補給したり、純正以外の燃料添加剤を使用しないでください。
→286ページ「燃料」
有鉛ガソリンや粗悪ガソリン、軽油、アルコール系燃料を補給すると次のような悪影響をおよぼします。
    - エンジンや燃料系部品が損傷したり、最悪の場合車両火災につながるおそれがあります。
    - エンジンの始動性が悪くなるおそれがあります。
    - ノッキングが発生したり、エンジンの出力が低下するおそれがあります。
- バイオ燃料混合ガソリンをお使いになることもできます。
→106ページ「燃料補給口」
- 無鉛プレミアムガソリンが入手できない場合、無鉛レギュラーガソリンをお使いになることもできますが、エンジンの性能を十分発揮できないことがあります。
また、エンジン始動時やアクセルペダルを踏み込んだときに、異音が聞こえることがあります。

燃料補給時の注意

- 必ずエンジンを止めてください。火災につながるおそれがあります。
- 燃料を補給するときは、必ず次の点を守ってください。身体に静電気を帯びたまま作業をすると、放電による火花で燃料に引火、爆発し重大な傷害につながるおそれがあり危険です。
    - 燃料補給作業は必ず一人で行ない、補給口に他の人を近づけないでください。
    - 静電気を除去するため、フューエルキャップを開ける前には、車体または給油機などの金属部分に触れてください。
    - 静電気の放電を防ぐため、フューエルキャップの開閉は必ずツマミ部分を持って行なってください。
    - 再帯電を防ぐため、燃料を補給する人は給油中に車内のシートに座らないでください。
- 補給口にはタバコなどの火気を近づけないでください。火災につながるおそれがあります。
- 給油ノズルは確実に給油口へ差し込んでください。給油ノズルが確実に差し込まれていないと、オートストップの作動が遅れ、燃料が吹きこぼれるおそれがあります。
- 給油ノズルのオートストップ作動後は、追加給油しないでください。オートストップ作動後に追加給油すると、燃料があふれ出るおそれがあります。
- フューエルキャップを開けるときは、ゆっくりとゆるめ、空気の抜ける音が止まってから取りはずしてください。急に開けると、燃料が噴き出すことがあるため火災につながったり、目や皮膚に付着すると傷害につながるおそれがあります。

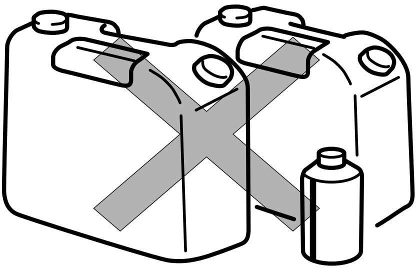
- フューエルキャップは、確実に閉めてください。キャップが確実に閉まっていないと、走行中に燃料がもれ、火災につながるおそれがあります。
- 純正部品以外のフューエルキャップは使用しないでください。燃料装置や排出ガス発散抑止装置などの故障につながるおそれがあります。
- ドアや窓を必ず閉めて燃料を補給してください。火災になった場合、室内に燃え広がるおそれがあります。
- 気化した燃料を吸い込まないよう注意してください。人体に有害な成分を含んでいる燃料があります。特にアレルギー体質の方は、注意してください。

荷物を積むときは固定する



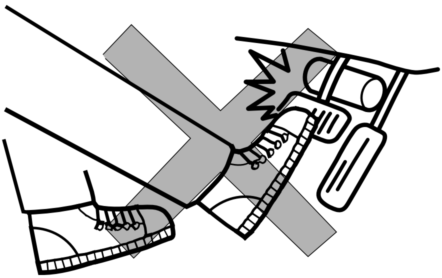
荷物を積むときは、助手席にそのまま置いたり積み重ねたりせず、確実に固定してください。走行中に荷物が移動したりくずれたりしてけがや思わぬ事故につながるおそれがあります。

可燃物、危険物は積まない



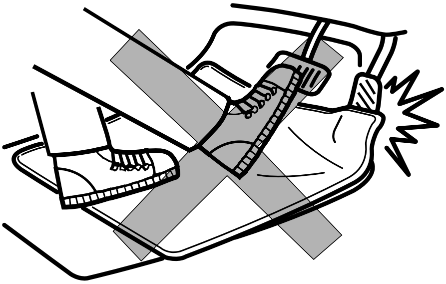
燃料のはいった容器やスプレー缶は積まないでください。爆発、火災につながるおそれがあり危険です。

運転席足元には物を置かない



運転席足元にあき缶などの物を置かないでください。ブレーキペダルやアクセルペダルに物がはさまったりすると、ブレーキやアクセルペダルが正しく操作できなくなるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

フロアマットは車に合ったものを使用する



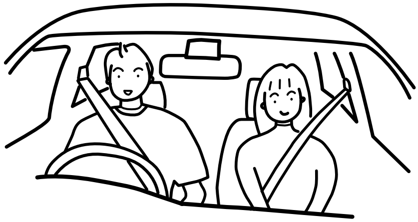
車に合ったものを、フロアカーペットの上にしっかり固定して使用してください。
フロアマットを敷くときは次の点を守ってください。フロアマットがすべったり、ブレーキペダルやアクセルペダルにフロアマットが引っかかるなど、ペダル操作のさまたげとなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- 大きすぎるフロアマットは使用しない
- フロアマットは重ねて使用しない

正しい運転姿勢に調節する

走行前には、シート、ハンドルの位置を正しい運転姿勢がとれるように調節してください。
→40ページ「正しい運転姿勢」

シートベルトは全員着用する

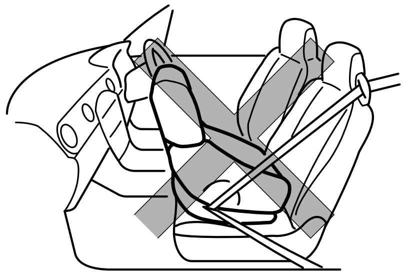


走行する前に運転者はもちろん同乗者にも必ずシートベルトを正しく着用させてください。シートベルトを着用していないと、急ブレーキ時や衝突時などに身体が拘束されないため車内の物に打ちつけられたり、車外に放りだされ、重大な傷害につながるおそれがあります。
→44ページ「正しい着用のしかた」

お子さまにもシートベルトを着用させる

- お子さまにも必ずシートベルトを着用させてください。お子さまを抱いたり、ひざの上に乗せたりすると、急ブレーキ時や衝突時に十分に支えることができず、お子さまが投げ出されたり押しつぶされ、重大な傷害につながるおそれがあります。
- シートベルトが首や顔などにあたったり、腰骨に正しく着用できないお子さまには、別売りのチャイルドシート、ジュニアシートをお使いください。チャイルドシート、ジュニアシートを使用しないと、万一の場合シートベルトの効果が十分に発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。
- お子さまがエアバッグの前に立っていたり、正しい姿勢で座っていなかったりすると、エアバッグが作動したときに強い衝撃を受け、お子さまの命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

チャイルドシートは正しく取り付ける



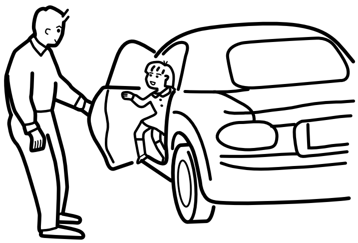
警告ラベル



- 助手席には絶対にチャイルドシートを後ろ向きに取り付けないでください。エアバッグが膨らむと、チャイルドシートの背面に強い衝撃が加わり、お子さまの命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあり危険です。助手席にチャイルドシートを取り付けるときは、必ず前向きに取り付け、シートを最後部まで移動させてください。

  助手席エアバッグ装備車には図のような警告ラベルが貼付されています。この警告ラベルは、助手席に後ろ向きチャイルドシートを取り付けてはいけないということを示しています。
- チャイルドシートを取り付けたときは、確実に取り付けられていることを確認してください。取り付けかたは、それぞれの商品に付属している取扱説明書に従って取り付けてください。

ドア、窓ガラス、ソフトトップ、ハードトップの開閉は大人が操作する



お子さまにはドア、窓ガラス、ソフトトップ、ハードトップの開閉をさせないでください。手、足、首などをはさんだりして重大な傷害につながるおそれがあります。

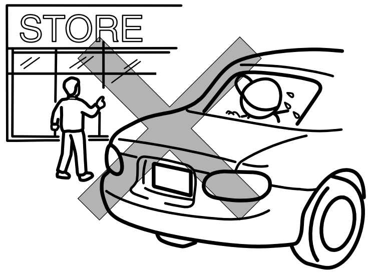
- パワーウインドーロックスイッチはロックの位置にしてください。
  →100ページ「パワーウインドー」
- ドアを閉めたあとは必ず施錠してください。

窓から手や顔を出させない



走行中はお子さまが窓から手や顔を出さないよう注意してください。車外の物に当たったり、急ブレーキを踏んだとき、重大な傷害につながるおそれがあります。

車から離れるときはお子さまも一緒に連れていく



車から離れるときはお子さまだけを車内に残さないでください。

- お子さまのいたずらにより、装置の作動、車の発進、火災など思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 炎天下の車内はたいへん高温になり、お子さまが脱水症状を起こすおそれがあります。症状がひどくなると脳に障害が残ったり、最悪の場合死に至るなどお子さまの命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

SRSエアバッグシステムの注意

55ページの「SRSエアバッグシステム」をよくお読みください。

お車に乗る前に

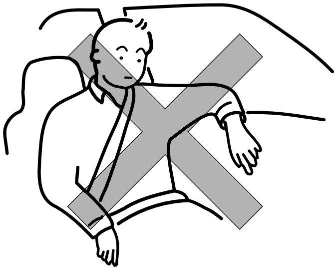
SRSエアバッグシステムはシートベルトの働きに加えて乗員を保護する装置であり、シートベルトに代わるものではありません。シートベルトは必ず着用してください。

用品の交換、取り付けなどについて

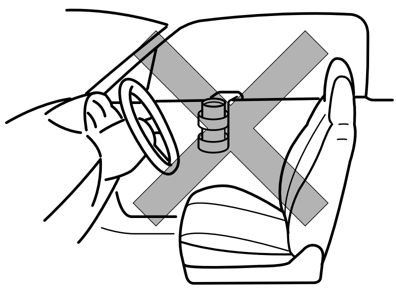
- ハンドルを交換しないでください。また、パッド部にステッカーなどを貼り付けたりしないでください。万一の場合エアバッグが正常に作動しなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。
- インストルメントパネル上部にステッカーを貼り付けたり、芳香剤、アクセサリー用品、手荷物などの物を置いたりしないでください。また、ルームミラーにワイドミラーを取り付けたりしないでください。エアバッグが正常に作動しなくなったり、エアバッグが膨らむときにこれらの物が飛散し、重大な傷害につながるおそれがあります。

サイドエアバッグについて

- シート背もたれの外側部分に手、足、顔を近づけた姿勢で座らないでください。シートに座ったときは、ドアにもたれかかったり、窓から腕を出したりしないでください。サイドエアバッグが作動したときに強い衝撃を受け、重大な傷害につながるおそれがあります。



- シートにシートカバーを使用しないでください。シートカバーを使用するとサイドエアバッグが正常に作動しなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。
- ドアやシート付近にカップホルダーなどのアクセサリー用品を取り付けないでください。サイドエアバッグが膨らむときにこれらの物が飛散し、重大な傷害につながるおそれがあります。



メンテナンスについて

次のような作業が必要なときは、必ずマツダ販売店にご相談ください。これらの作業を行なうとエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤って作動し、重大な傷害につながるおそれがあります。

- SRSエアバッグの取りはずし、取り付け、分解、修理
- ハンドルまたは周辺部品の取りはずし、取り付け、分解、修理
- インストルメントパネルまたは周辺部品の取りはずし、取り付け、分解、修理
- シートの交換、取りはずし、取り付け、分解、修理
- 車両前部または側部の修理
- オーディオなど用品の取りはずし、取り付け

アクティブボンネットの注意

用品の交換、取り付けなどについて

- フロントバンパー、ボンネット、サスペンション、ホイール、エアロパーツをマツダ純正品以外に交換しないでください。システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- サスペンションを改造しないでください。車高やサスペンションの硬さが変わると、システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- 部品を装着するときは、マツダ販売店にご相談ください。不適切に取り付けると、衝撃を正しく検知できず、正常に作動しなくなるおそれがあります。

走行中はエンジンを止めない

走行中にエンジンを止めると、ブレーキの効きが悪くなり、ハンドルも重くなるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

坂道ではエンジンブレーキを使う

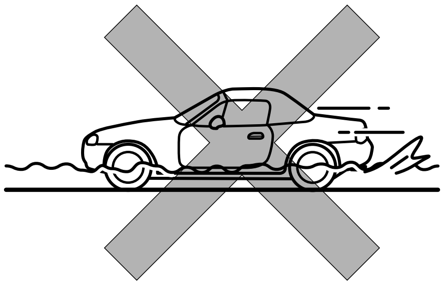
ブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキが過熱し、効きが悪くなることがあります。
下り坂ではフットブレーキとエンジンブレーキを併用してください。また、ぬれた路面や積雪路、凍結路では急激なエンジンブレーキの使用 (シフトダウン) は避けてください。スリップするおそれがあります。
エンジンブレーキとは、走行中アクセルペダルから足を離したときにかかるブレーキ力で低速ギヤほどよく効きます。

すべりやすい路面では慎重に運転する



ぬれた路面や凍結路、積雪路などのすべりやすい路面では、急加速や急ブレーキ、急ハンドル、急激なエンジンブレーキを避け、スピードをひかえめにして運転してください。ぬれた路面を高速で走行すると、タイヤと路面の間に水の膜ができ、タイヤが浮いた状態 (ハイドロプレーニング現象) になるおそれがあります。

冠水した道路を走行しない

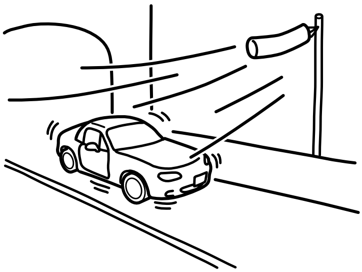


冠水した道路を走行しないでください。冠水した道路を走行すると、エンストするだけでなく、電気部品や電子部品のショート、水を吸い込んでのエンジン破損など、車両に悪影響をおよぼします。万一、水中に浸ってしまったときは、必ずマツダ販売店へご相談ください。

水たまり走行後や洗車後はブレーキの効きを確認する

水たまりを走行したあとや洗車後は、ブレーキパッドがぬれているため、ブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方のブレーキだけが効いて、ハンドルをとられるおそれがあり危険です。ブレーキの効きが悪いときは、低速で走りながら、効きが回復するまでブレーキペダルを軽く数回踏んでブレーキを乾かしてください。

横風が強いときは慎重に運転する



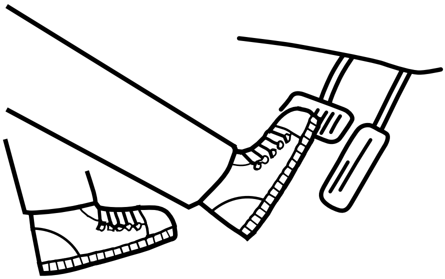
横風が強く、車が横に流されるようなときは、ハンドルをしっかり握り、スピードを徐々に落としてください。トンネルの出口、橋の上、山を削った切り通しなどは特に横風が発生しやすいので注意してください。走行安定性を失い、思わぬ事故につながるおそれがあります。

クラッチペダルやブレーキペダルに足をのせたまま走行しない

クラッチペダルやブレーキペダルに足をのせたまま走行したり、必要以上に半クラッチ操作を行わないでください。

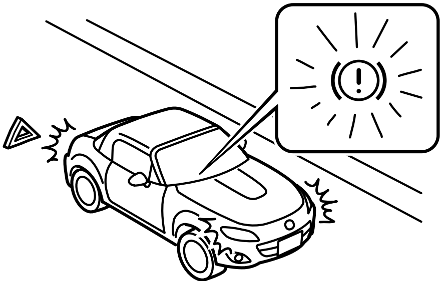
- クラッチやブレーキの部品が早く摩耗します。
- ブレーキが過熱し、効きが悪くなるおそれがあります。

ブレーキ操作は右足で



- ブレーキペダルは必ず右足で踏んでください。慣れない左足でのブレーキ操作は、緊急時の反応が遅れるなど、適切な操作ができないおそれがあります。
- アクセルペダルの操作でブレーキペダルに靴が接触することがないように、運転に適した靴で運転してください。

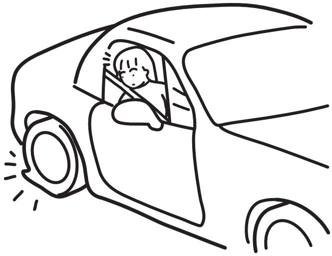
警告灯が点灯/点滅したら車を止める



走行中に警告灯が点灯/点滅したときは、ただちに安全な場所に停車し、適切な処置を行なってください。警告灯の点灯/点滅を無視して運転を続けるとエンジンなどを損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

→144ページ「警告灯、表示灯」

パンクやバースト (破裂) してもあわてない



走行中タイヤがパンクやバースト (破裂) したときは、ハンドルをしっかり持ち、徐々にブレーキをかけスピードを落としてください。

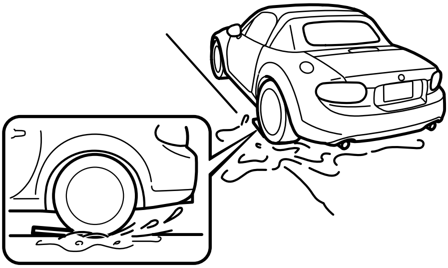
急ブレーキをかけるとハンドルをとられるおそれがあります。

次のようなときはパンクやバースト (破裂) が考えられます。

- ハンドルがとられるとき。
- 異常な振動があるとき。
- 車両が異常に傾いたとき。

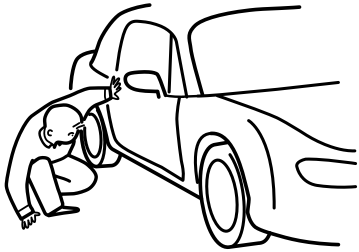
スタックした状態から脱出するときは注意する

ぬかるみ、砂地、深雪路などで駆動輪が空転したり、埋まり込んで動けなくなることをスタックといいます。



- 周囲の安全を十分に確認してください。脱出直後に車両が突然動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- タイヤ前後の土や雪を取り除くか、タイヤの下に木や石をあてがい、マニュアル車はチェンジレバーを1またはRに、オートマチック車はセレクトレバーをDまたはRにいれて、アクセルペダルを軽く踏みます。チェンジレバー/セレクトレバー操作中はアクセルペダルを踏まないでください。トランスミッションなどを損傷するおそれがあります。また、車両の周辺に人がいないことを確認してください。あてがった木や石が飛散し、重大な傷害につながるおそれがあります。
- タイヤを高速で回転させないでください。タイヤがバースト (破裂) したり、異常過熱するため思わぬ事故につながるおそれがあります。
- アクセルを過度に空ぶかししたり、タイヤを空転させないでください。トランスミッションなどを損傷するおそれがあります。

床下に衝撃を受けたら下まわりを点検する



安全な場所に停車して、車の下にブレーキ液や燃料の漏れがないか、また各部に損傷がないか確認してください。
異常があったときは、マツダ販売店に連絡してください。
そのまま走行すると故障や思わぬ事故につながるおそれがあります。

異常を感じたときはマツダ販売店で点検を受ける

次のようなときは、車が故障しているおそれがあります。そのまま走行すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。
マツダ販売店で点検を受けてください。

- 普段と違う音や臭い、振動がするとき。
- ハンドル操作に異常を感じるとき。
- ブレーキ液が不足しているとき。
- 車の下に油のあとが残っているとき。

オートマチック車の特性

167ページの「オートマチックトランスミッション」もあわせてお読みください。
オートマチック車は、クラッチ操作とギヤの切り替えを自動化した車で、その分操作の負担が軽くなります。運転は楽になりますが、安易に運転することは禁物です。
オートマチック車の特性を理解し、正しい操作をする習慣をつけてください。

クリープ現象

エンジンがかかっているとき、セレクトレバーがP、N以外にはいっていると、アクセルペダルを踏まなくても車が動き出します。この現象をクリープ現象といいます。

- 停車中は車が動かないようにブレーキペダルをしっかり踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- エンジン始動直後やエアコン作動時は、エンジンの回転数が高くなりクリープ現象が強くなります。ブレーキペダルをしっかり踏んでおいてください。
- 渋滞や狭い場所での移動は、クリープ現象を利用すると、アクセルペダルを踏まずにブレーキ操作のみで速度を調節できます。

キックダウン

走行中、セレクトレバーがDのときアクセルペダルをいっぱいに踏み込むと、自動的に低速ギヤに切り替わり、急加速させることができます。
この操作をキックダウンといいます。

- 追い越しや高速道路での合流など、加速が必要なときに行ないます。
- すべりやすい路面やカーブを走行するときは、急激なアクセル操作はしないでください。

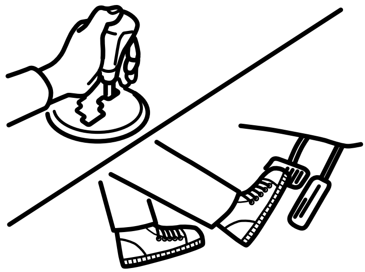
エンジンをかける前に

正しい運転姿勢をとり、右足でアクセルペダルとブレーキペダルが確実に踏めるか確認します。
ペダルの踏み間違いのないように、ペダルの位置を確認しておいてください。

エンジンをかけるときは

安全のため、セレクトレバーは駆動輪が固定されるPにいれ、ブレーキを効かせた状態でエンジンをかけてください。

発進するときは



- アクセルペダルを踏んだままセレクトレバーを操作しないでください。車が急発進し思わぬ事故につながるおそれがあります。
- エンジン始動直後やエアコン作動時は、エンジンの回転数が高くなり、クリープ現象が強くなります。
- マニュアル車では発進時の速度をクラッチ操作とアクセル操作を併用して調節しますが、オートマチック車ではアクセル操作のみで行ないますので、アクセル操作は慎重に行なってください。

走行するときは

- 走行中はセレクトレバーをNにいれないでください。トランスミッションの故障につながります。また、エンジンブレーキが全く効かないため思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 高速走行中、またはぬれた路面や積雪路、凍結路を走行しているときは、急激なエンジンブレーキの使用 (シフトダウン) は避けてください。タイヤがスリップし、思わぬ事故につながるおそれがあります。

停車するときは

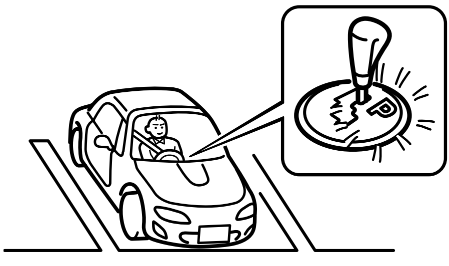
- 停車中、むやみにアクセルペダルを踏まないでください。セレクトレバーがP、N以外にはいっているとき、誤ってアクセルペダルを踏むと急発進するため思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 停車後、再発進するときはセレクトレバーの位置に思い違いがないよう確認してください。意に反して車が動き出すと、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだり、上り坂でセレクトレバーを前進位置にいれ、アクセルをふかしながら停車しないでください。トランスミッションが過熱し、故障につながるおそれがあります。

後退するときは

- 後退時は身体を後ろにひねった姿勢になります。ブレーキペダルを確実に踏めるよう注意してください。
- 少し後退したときなどはセレクトレバーをRにいれたことを忘れてしまうことがあります。後退したあとは、すぐにセレクトレバーをNにもどし、発進時にはセレクトレバーの位置を確認してください。

駐車するときは

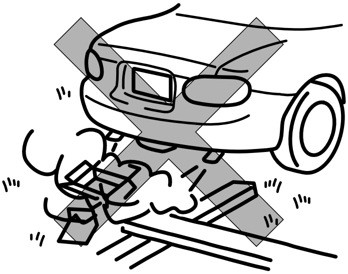
- 駐車するときは、セレクトレバーをPにいれ、パーキングブレーキをかけてください。パーキングブレーキをかけただけや、セレクトレバーをPにいれただけで駐車していると、車が勝手に動き出し思わぬ事故につながるおそれがあります。
- エンジンをかけたまま駐車しないでください。万一セレクトレバーがP以外にはいっていた場合、クリープ現象で車が勝手に動き出したり、乗り込むときに誤ってアクセルペダルを踏み、急発進するなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- セレクトレバーをPにいれるときは、車を完全に止めてから行なってください。車が完全に止まる前にセレクトレバーをPにいれると、トランスミッションに無理な力がかかり故障につながるおそれがあります。



そのほかに気をつけること

坂道などで、セレクトレバーを前進位置に入れたまま後退したり、後退位置に入れたまま前進することは行わないで下さい。エンジンが停止してブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなったりして思わぬ事故につながるおそれがあります。

燃えやすい物のそばに車を止めない



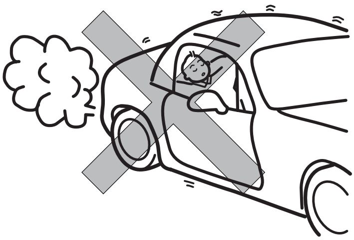
車を止める時には、次の点を守ってください。

- 走行したあとは排気管が高温になっているため、枯れ草など、燃えやすいものがそばにあると火災につながるおそれがあります。
- 壁やベニヤ板などが後方にある場合は、間隔を十分とってから停車してください。排気ガスにより変色、変形したり、そのまま放置しておくと火災につながるおそれがあります。

ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けない

ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けると、パワーステアリング装置を損傷するおそれがあります。

仮眠するときはエンジンを止める

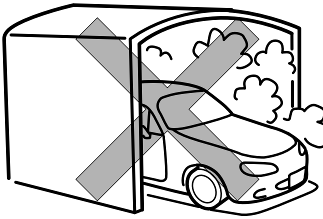


エンジンをかけたままで仮眠しないでください。無意識にチェンジレバー/セレクトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込み車が発進したり、エンジンや排気管の異常過熱による火災など思わぬ事故につながるおそれがあります。
また、排気管が損傷していたり、換気の悪い場所では、知らない間に排気ガスが車内に侵入し、一酸化炭素中毒になるおそれがあり危険です。
→35ページ「一酸化炭素中毒に気をつける」

長時間停車するときは空調を外気導入にする

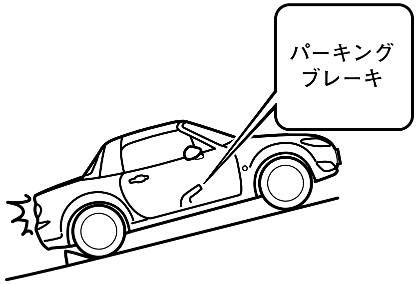
エンジンをかけたまま長時間停車するときは、空調を手動で外気導入にしてください。
空調を内気循環にすると、車内の圧力が下がり排気ガスが入り易くなるため、一酸化炭素中毒になるおそれがあり危険です。
→35ページ「一酸化炭素中毒に気をつける」
→178ページ「エアコンを上手に使用していただくために」

換気の悪い場所でエンジンをかけたままにしない



換気の悪い場所ではエンジンをかけたままにしないでください。ガレージの中や積雪した場所、その他周囲が囲まれた換気の悪い場所では、排気ガスが行き場を失い車内へはいりやすくなるため、一酸化炭素中毒になるおそれがあり危険です。
→35ページ「一酸化炭素中毒に気をつける」

坂道駐車はパーキングブレーキをしっかりかける

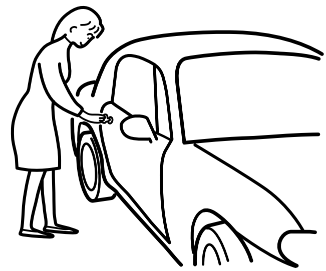


坂道での駐車は、パーキングブレーキをしっかりかけ、マニュアル車はチェンジレバーを1またはRに、オートマチック車はセレクトレバーをPにいれてください。
急な坂道ではさらに輪止めをしてください。輪止めをしないと車が動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

車の移動はエンジンをかける

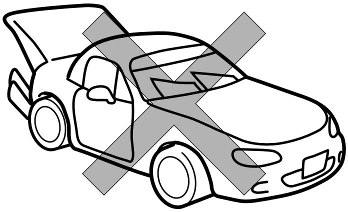
車を少し移動させるときでも、必ずエンジンをかけてください。下り坂などで傾斜を利用して移動させると、ハンドルがロックされたり、ブレーキの効きが悪いため思わぬ事故につながるおそれがあります。

車から離れるときは必ずパーキングブレーキをかけ、施錠する



車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけエンジンを止め、ドアを施錠してください。また、盗難にあわないために、車内には貴重品を置かないでください。

違法改造はしない



車の性能や機能に適さない部品を装着したり、自分でエンジン調整や配線などをしないでください。故障や、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、国土交通省に届け出た部品以外を装着すると違法改造になることがあります。部品の装着をするときは、マツダ販売店にご相談ください。

タイヤ、ホイール、ホイールナットを交換するときはマツダ販売店に相談する

- ホイール、ホイールナットは純正品以外を装着しないでください。純正品以外のものを装着すると車の性能が十分に発揮できないばかりでなく、走行中にナットがゆるみホイールがはずれるなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、駆動系部品に悪影響をおよぼしたり、違法改造になることがあります。
- タイヤの状態が車の性能に大きく影響します。また、駆動系部品に悪影響をあたえないために、次の点を守ってください。
    - 前後輪とも指定された同一サイズ、同一種類のものを使用してください。特にスノータイヤなどの冬用タイヤを装着するときは注意してください。
    - タイヤサイズは、運転席ドアに貼付されているラベルで確認してください。くわしくはマツダ販売店にご相談ください。
    - 摩耗差の著しいタイヤを混ぜて使用しないでください。
- タイヤはゴム製品のため、長期間使用すると徐々に劣化していきます。安全な走行状態を確保するために、使用開始後5～7年を目安にマツダ販売店で点検を受けてください。

タイヤバルブキャップは純正品を使用する

タイヤバルブキャップは純正品以外を使用しないでください。純正品以外を使用するとバルブの損傷により、適正空気圧にならないおそれがあります。そのまま走行すると空気圧が低下し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

ディスチャージヘッドランプバルブを交換するときはマツダ販売店に相談する

ディスチャージヘッドランプのバルブ·コネクター·電源回路·光軸 (ヘッドランプの照らす方向) 調整部分を分解したり、取りはずしたりしないでください。
ディスチャージヘッドランプは高電圧を使用しているため、取り扱いを誤ると感電するおそれがあります。ディスチャージヘッドランプの交換·修理をするときは、必ずマツダ販売店へご相談ください。

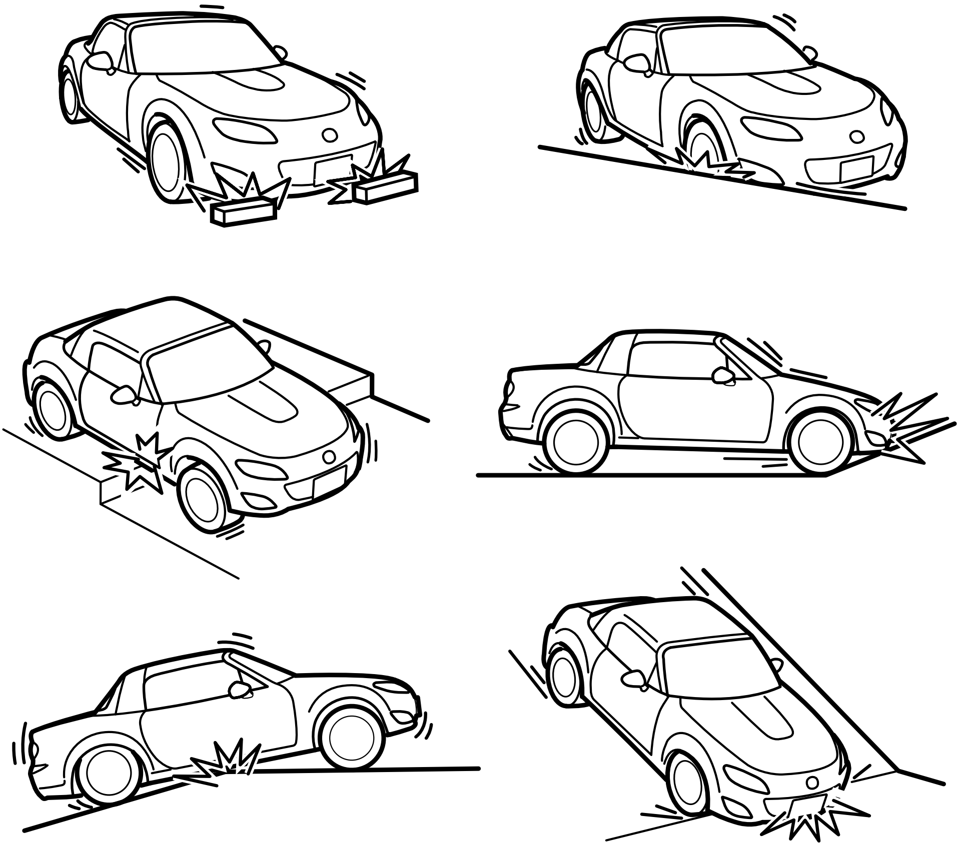
部品の取り付け、交換はマツダ販売店に相談する

電話、無線、オーディオなど電気部品や電子部品を取り付けるときは、電子機器類に悪影響がでるおそれがありますので、マツダ販売店にご相談ください。
また、不適当な部品を取り付けたり、取り付け方法を誤ると、ブレーキ (ABS)、エアバッグの誤作動、エンジン不調、車両火災など思わぬ事故につながるおそれがあります。

路面などと車両との干渉に注意する

次のようなとき、バンパーやマフラーなど車体の下部を損傷するおそれがありますので、十分注意してください。

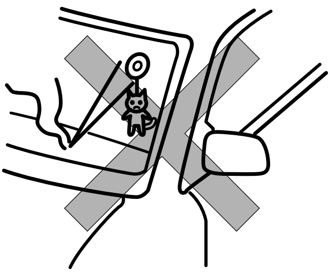
- 車止めのある場所への駐車
- 路肩に沿っての駐車
- 路肩など段差のある場所への乗り降り
- 駐車場など急な坂道への出入り
- 凸凹やわだちのある道路の走行



ナンバープレートは正しい位置に取り付ける

ナンバープレートを勝手に取りはずしたり、位置を変えないでください。
ナンバープレートは正しい位置に確実に取り付けることが義務付けられています。

アクセサリーを取り付けない

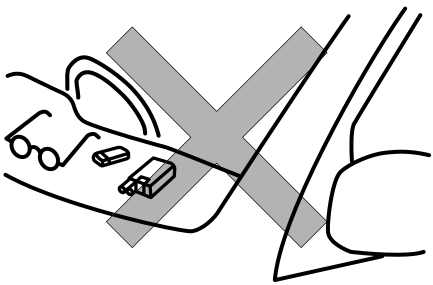


窓ガラスやその周辺にアクセサリーを取り付けると、運転のさまたげになったり、吸盤がレンズの働きをして、火災が起こるなど思わぬ事故につながるおそれがあります。

一酸化炭素中毒に気をつける

自動車から出る排気ガスには、一酸化炭素が含まれています。一酸化炭素は、無色/無臭の有毒な気体です。体内に入ると、一酸化炭素中毒を起こします。
一酸化炭素中毒の初期症状は、目まい/吐き気/頭痛などの体調不良ですが、症状が進むと意識不明になって動けなくなります。また、症状によっては死亡に至ることがあります。
万一、排気管などに腐食や損傷があったり、排気音に異常を感じたときは、マツダ販売店で点検を受けてください。また、車内で排気ガスの臭いがしたときは、すべての窓を全開にするか、空調を手動で外気導入にして新鮮な外気をとり入れてください。
そのまま走行すると、排気ガスが車内に侵入し、一酸化炭素中毒になるおそれがあり危険です。

ライターやメガネを車内に放置しない



炎天下に駐車するときは、車内にメガネやライターを放置しないでください。車内が高温になるため、ライターが爆発したり、プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが変形・ひび割れを起こすことがあります。

エンジンルーム内のファンやベルトに気をつける

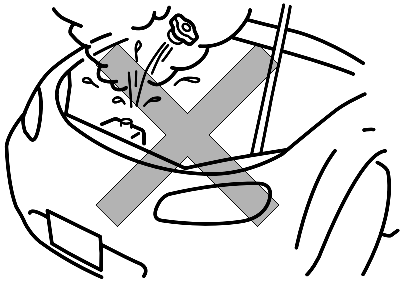


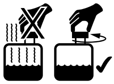
エンジンルーム内を点検するときは、ファンやベルトなどの回転部に触れないようにしてください。特に、エンジンルームが高温のときは、エンジンが止まっていてもファンが回転することがあるため、手や指などが巻き込まれるなど、重大な傷害につながるおそれがあります。

エンジンルーム内に物を置き忘れない

エンジンルームの点検をしたときは、工具や布を置き忘れないようにしてください。置き忘れるとエンジンなどを損傷したり、火災につながるなど思わぬ事故につながるおそれがあります。

ラジエーターが熱いときはキャップをはずさない





エンジンが十分に冷えるまではリザーバータンクのキャップを開けないでください。エンジンが熱いときにキャップをはずすと、蒸気や熱湯が噴き出してやけどなど、重大な傷害につながるおそれがあります。

発進時には安全を十分確認する

発進時は周囲の状況に十分注意してください。

- 信号待ちなどで停車したときや、駐車後に発進するときは、周囲の安全を十分確認してから発進してください。
- 後退するときに十分な視界を得られないときは、車から降りて後方の安全を確認してください。

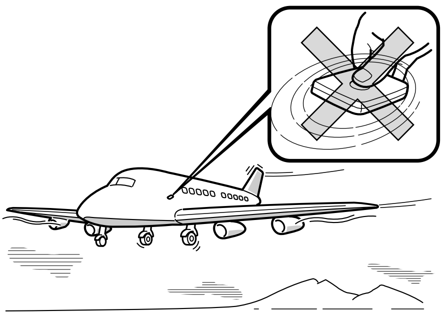
運転中は携帯電話を使用しない



運転しながらハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

航空機内ではアドバンストキーを操作しない

航空機内ではアドバンストキーを操作しないでください。アドバンストキーを航空機内へ持ち込むことは可能ですが、操作すると航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。また、かばんやポケットなどで保管する場合は、アドバンストキーのスイッチが容易に押されないように注意して下さい。

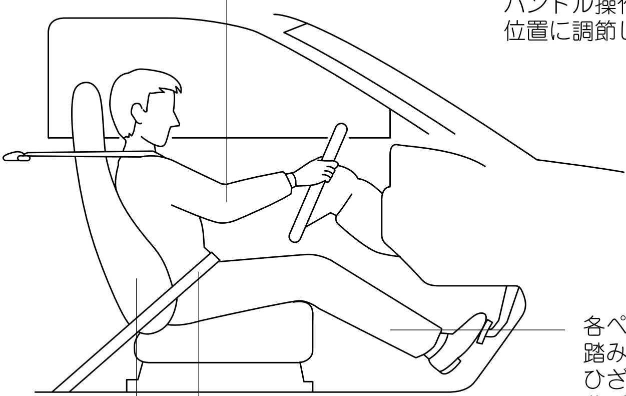


MEMO

2 安全装備

正しい運転姿勢

正しい運転姿勢がとれるようにシートを調節してください。



⚠ 警告

■シート各部の調節は、必ず走行前に行なってください。
走行中に行なうと、運転姿勢が不安定になったり、前方不注意になるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■背もたれと背中の間にクッションなどを入れないでください。
正しい運転姿勢が取れないばかりか、衝突時にシートベルトなど拘束装置の効果が十分に発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。

■背もたれは必要以上に倒さないでください。
急ブレーキ時や衝突時に、体がシートベルトの下に滑り込み、シートベルトの効果が十分発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。

■シートの下に物を置かないでください。
物がはさまってシートが固定されず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

シートを調整する際は、調整する人やまわりの人が手や足などをはさまれないように注意してください。

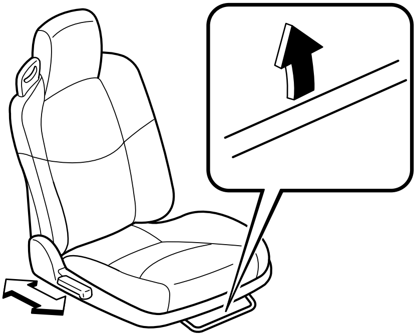
シート

⚠ 警告

■操作後は確実にロックされていることを確認してください。

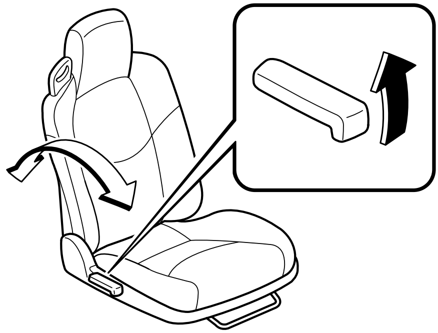
走行中シートが不意に動くと運転姿勢が不安定になるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

前後調節 (スライディング)



調節後はシートを前後に軽くゆさぶって、確実にロックされていることを確認してください。

角度調節 (リクライニング)

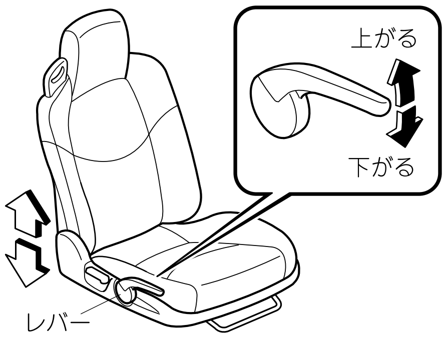


調節後は背もたれを前後に軽くゆさぶって、確実にロックされていることを確認してください。

⚠ 注意

後ろに倒した背もたれをもとにもどすときは、必ず背もたれを押さえながら操作してください。背もたれを押さえずに操作すると、背もたれが急にもどり、けがをするおそれがあります。

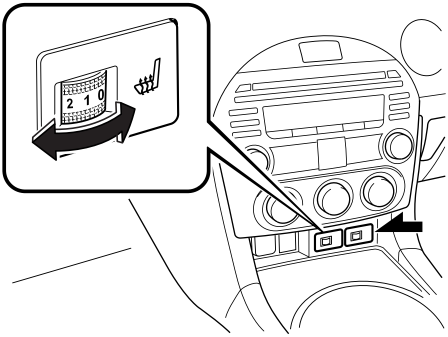
高さ調節 (運転席のみ)☆



 ☆印はグレードや仕様変更などにより装備の有無が異なります。

シートヒーター☆

シートを温めることができます。



エンジンスイッチがONのとき、ダイヤルをまわすと作動します。ダイヤルの数字が大きいほど、温度が高くなります。ダイヤルを0の位置にすると、作動が停止します。
使用しないときは、ダイヤルの位置を0にしてください。

⚠ 注意

- **次のような方がご使用になる場合は、熱すぎたり、低温やけどを起こしたりするおそれがありますので、十分注意をしてください。**
  - **乳幼児、お子さま、お年寄り、病人、体の不自由な方**
  - **皮膚の弱い方**
  - **疲労の激しい方**
  - **深酒やねむけをさそう薬 (睡眠薬、かぜ薬など) を使用された方**
- **毛布や座布団など保温性のよいものをかけた状態で使用しないでください。シートが異常加熱し、低温やけどをするおそれがあります。**
- **仮眠するときは使用しないでください。シートが異常加熱し、低温やけどをするおそれがあります。**

⚠ 注意

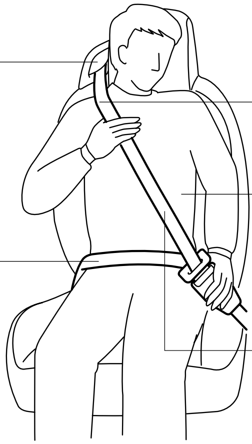
- **突起のある重量物をシートの上に置いたり、針金やピン等でシートクッションをつきささないでください。シートが異常加熱し、低温やけどをするおそれがあります。**
- **シートの清掃にベンジンやガソリンなどの有機溶剤を使用しないでください。ヒーターやシートの表面を損傷するおそれがあります。**

知識

エンジン回転中に使用してください。また、連続して長時間使用しないでください。

正しい着用のしかた

車を運転する前に必ず着用し、同乗者にも必ず着用させてください。



⚠ 警告

着用について

■シートベルトは全員が着用してください。
着用しないと、急ブレーキ時や衝突時に、重大な傷害につながるおそれがあります。

■シートベルトは成人サイズの方の乗員による着用を目的としています。
お子さまを乗せる際は、必ずお子さま専用シートを使用してください。

■1つのシートベルトを同時に2人以上で使用しないでください。
2人以上で使用すると、万一の場合シートベルトの効果が十分に発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。

■シートベルトの改造や交換をしないでください。また、クリップなどでシートベルトにたるみをつけないでください。
万一の場合シートベルトの効果が十分に発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。

■ベルトがねじれた状態で使用しないでください。
ねじれがあると、万一の場合衝撃力が分散できず局部的に強い力を受けるため、重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 警告

■シートベルトを腕の下に通して着用しないでください。
ベルトが肩に十分かかっていないと急ブレーキ時や衝突時に、身体が前方に投げ出され、重大な傷害につながるおそれがあります。

■背もたれは必要以上に倒さないでください。
急ブレーキ時や衝突時に、身体がシートベルトの下に滑り込み、シートベルトの効果が十分に発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。

■シートベルトは必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させてください。
シートベルトが腰骨からずれていると、急ブレーキ時や衝突時に、腹部に強い圧迫を受け、重大な傷害につながるおそれがあります。

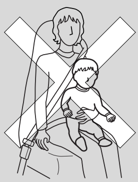
■妊娠中の女性や疾患のあるかたもシートベルトを着用してください。
ただし、急ブレーキ時や衝突時、局部的に強い力を受けるおそれがあるため医師に相談し、注意事項を確認してください。腰ベルトは腹部を避けて腰骨のできるだけ低い位置に密着させてください。また、肩ベルトは肩に十分かかるようにし、腹部を避けて胸部に密着させてください。



■シートベルトのバックルの中に異物を入れないでください。
異物が入るとプレートがバックルに完全にはまらず、シートベルトの効果が十分に発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。

<u>お子さまを乗せるときは</u>

■お子さまにも必ずシートベルトを着用させてください。
お子さまを抱いたり、ひざの上に乗せたりすると、急ブレーキ時や衝突時に十分に支えることができず、お子さまが投げ出されたり押しつぶされ、重大な傷害につながるおそれがあります。



シートベルト

⚠ 警告

■ シートベルトが首や顔などにあたったり、腰骨に正しく着用できないお子さまには、別売りのチャイルドシート、ジュニアシートをお使いください。

チャイルドシート、ジュニアシートを使用しないと、万一の場合シートベルトの効果が十分に発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。

メンテナンスについて

■ シートベルトにほつれ、すりきずなどの異常があるときは、マツダ販売店で交換してください。

そのままの状態で使用すると、万一の場合シートベルトの効果が十分に発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。

■ シートベルトの汚れを取るときは、中性洗剤を使用してください。

有機溶剤を使用したり、染色、漂白するとベルトの強度が低下し、万一の場合シートベルトの効果が十分に発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。

■ シートベルトを掃除するときは、絶対に分解しないでください。

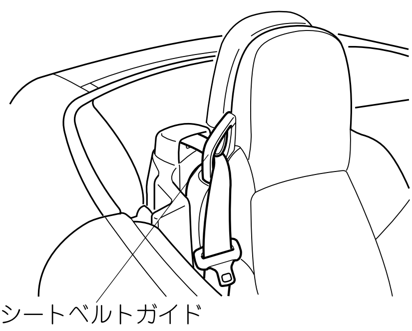
分解すると、万一の場合シートベルトの効果が充分に発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。

■ 事故などにあったときは、衝撃でシートベルト本来の機能が損なわれているおそれがありますので、必ずマツダ販売店で交換してください。

そのままの状態で使用すると、万一の場合シートベルトの効果が十分に発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 注意

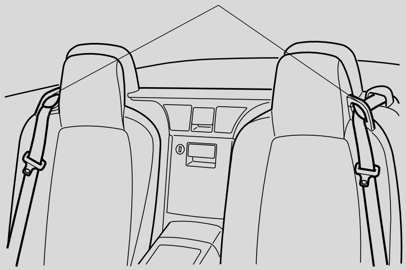
シートベルトやシートベルトガイドが汚れると、ベルトの巻き取りが悪くなるので汚れを取ってください。



3点式シートベルト

⚠ 警告

シートベルトを着用するときはシートベルトガイドに必ず通してください。通さずに使用すると万一の場合シートベルトの効果が十分に発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。



シートベルト警告灯



点灯するとき

電源ポジションがONのとき、運転席シートベルトを着用していないと点灯します。運転席シートベルトを着用すると消灯します。

点滅するとき

運転席シートベルトを着用しないまま約20km/h以上になると点滅します。その後も着用しないままだと点灯しつづけます。運転席シートベルトを着用すると消灯します。

→44ページ「正しい着用のしかた」

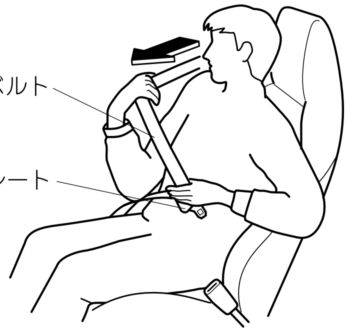
シートベルト着用忘れチャイム

運転席シートベルトを着用していないまま、車速が約20km/h以上になるとしばらくの間チャイムが鳴ります。(鳴り始めると、車速を落としても鳴り続けます。)

運転席シートベルトを着用すると鳴り止みます。

着用するとき

1 プレートを持って、ベルトをゆっくり引き出します。



2 ベルトを素早く引き出し、ロックされることを確認してください。

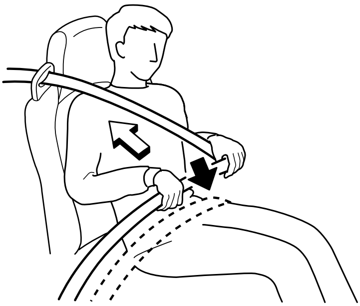
知識

ベルトがロックして引き出せないときは、一度ベルトを巻き取らせてからゆっくり引き出してください。 それでも引き出せないときは、一度ベルトを強く引っ張ってからベルトをゆるめ、再度ゆっくり引き出してください。

3 ベルトにねじれがないかを確認してから、プレートをバックルにカチッと音がするまで差し込みます。

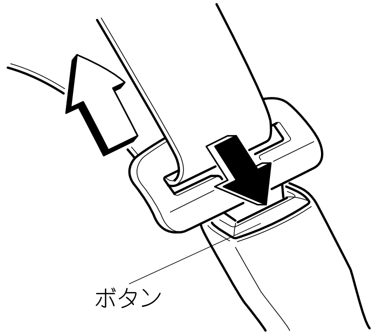


4 ベルトを腰骨のできるだけ低い位置にかけ、たるみが無いようにベルトを引いて身体に密着させます。



はずすとき

はずすときはバックルのボタンを押します。ベルトにねじれがないかを確認しながら、ゆっくりと巻き取らせます。



ELR (緊急時固定機構) 付シートベルト

3点式シートベルトにはELR (緊急時固定機構) が装備されています。
シートベルトは身体の動きにあわせて伸縮しますが、強い衝撃を受けると、ベルトが自動的にロックされ身体を固定します。

プリテンショナー付シートベルト

シートベルトには、プリテンショナー機構が装備されています。
車両前方から強い衝撃を受けると、シートベルトを引き込み、シートベルトの効果をより高める装置です。

⚠ 警告

■ **シートベルトは正しく着用してください。**

正しく着用していないと、プリテンショナー機構の効果が十分に発揮できないため、万一の場合重大な傷害につながるおそれがあります。

■ **プリテンショナー機構の部品や配線を修理したり、電気テスターを使ってプリテンショナー機構の回路診断をしないでください。**

正常に作動しなくなったり誤って作動し、重大な傷害につながるおそれがあります。

■ **プリテンショナー機構が装備された車を廃車される場合は、必ずマツダ販売店にご相談ください。**

プリテンショナー機構が不意に作動し、重大な傷害につながるおそれがあります。

知識

- プリテンショナー機構は、車両前方から強い衝撃を受けたとき作動しますが、衝撃が弱いと作動しません。
- プリテンショナー機構の作動により、白煙が見えることがありますが、火災ではありません。また、人体への影響はありません。ただし、皮膚などの弱い方はまれに刺激を受けることがあります。プリテンショナー機構作動時の残留物 (カス) が目や皮膚に付着したときは、できるだけ早く洗い流してください。
- プリテンショナー機構は一度作動すると、2回目以降の衝突では作動しません。
- プリテンショナー付シートベルトは、一度作動すると再使用できません。事故などにあったときは、必ずマツダ販売店で点検を受け、作動済みのときは交換してください。

エアバッグ警告灯/プリテンショナー警告灯



点灯するとき

- 電源ポジションをONにすると点灯し、しばらくすると消灯します。
- 次のようなときはシステムの異常が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。
  - 電源ポジションをONにしても点灯しないとき。
  - 点灯し続けるとき。

点滅するとき

点滅し続けるときはシステムの異常が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。

⚠ 警告

■エアバッグ警告灯/プリテンショナー警告灯が点灯または点滅したまま走行しないでください。

衝突したときにエアバッグまたはプリテンショナー機構が正常に作動せず、重大な傷害につながるおそれがあります。マツダ販売店で点検を受けてください。

ロードリミッター付シートベルト

ロードリミッターは、車両前方から強い衝撃を受けたときなど、シートベルトに一定以上の荷重がかからないように作動する装置です。

運転席/助手席シートベルトにかかる荷重を規定値に保つことで、乗員の胸に加わる力を減少させます。

⚠ 警告

■シートベルトは正しく着用してください。

正しく着用していないと、ロードリミッターの効果が十分に発揮できないため、万一の場合重大な傷害につながるおそれがあります。

知識

ロードリミッター付シートベルトは、一度作動すると再使用できません。事故などにあったときは、必ずマツダ販売店で点検を受け、作動済みのときは交換してください。

お子さま専用シートについて

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、お子さま専用シートをお使いください。
車両に固定するお子さま専用シートには、シートベルト固定タイプ、またはISOFIX対応タイプの2種類があります。
シートベルト固定タイプのチャイルドシートは、助手席のシートベルトを使用してシートに固定します。
この車両は、ISOFIX対応チャイルドシート固定ロアアンカレッジが装備されていないため、ISOFIX対応タイプのチャイルドシートを取り付けることができません。
お子さま専用シートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。必ずお子さま専用シートに付属の取扱説明書をよくお読みのうえ、確実に取り付け、使用方法を守ってください。

⚠ 警告

■ お子さまの首や顔などにシートベルトがあたったり、腰骨に正しく着用できない場合は、お子さまの年齢や体の大きさに合ったお子さま専用シートをお使いください。

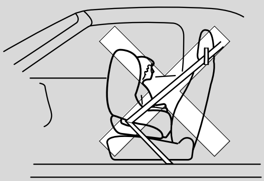
お子さま専用シートを使用しないと、急ブレーキ時や衝突時にお子さまが投げ出されたり押しつぶされ、重大な傷害につながるおそれがあります。

■ お子さま専用シートを取り付けるときは、商品に付属している取扱説明書に従って、正しく取り付けてください。

正しく取り付けられていないと、急ブレーキ時や衝突時に、重大な傷害につながるおそれがあります。

■ 助手席には絶対にチャイルドシートを後ろ向きに取り付けないでください。

エアバッグが膨らむと、チャイルドシートの背面に強い衝撃が加わり、お子さまの命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあり危険です。助手席にチャイルドシートを取り付けるときは、必ず前向きに取り付け、シートを最後部まで移動させてください。
助手席エアバッグ装備車には図のような警告ラベルが貼付されています。この警告ラベルは、助手席に後ろ向きチャイルドシートを取り付けてはいけないということを示しています。



警告ラベル



お子さまの安全

知識

ISOはInternational Standard Organization (国際標準化機構) の略です。

お子さま専用シートの種類

ECE R44の基準に適合するお子さま専用シートは、お子さまの体重によって次の5種類に分類されます。

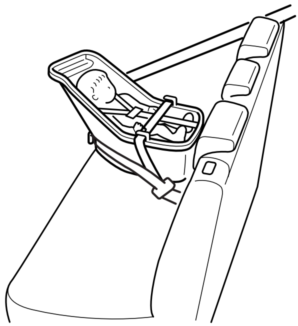
知識

ECE R44は、お子さま専用シートに関する国連法規です。

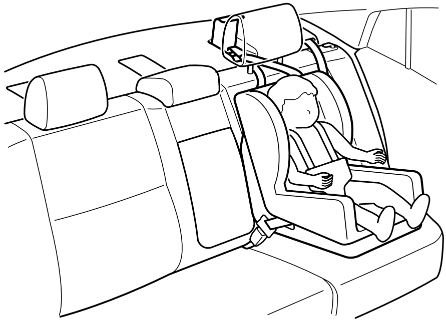
グループ	体重
0	10kgまで
0+	13kgまで
I	9～18kg
II	15～25kg
III	22～36kg

本書では、シートベルト固定タイプの一般的なお子さま専用シート3種類について説明します。
次のイラストは取り付け例です。取り付けるときは、商品に付属している取扱説明書に従ってください。

ベビーシート
ECE R44基準のグループ0、0+ に相当

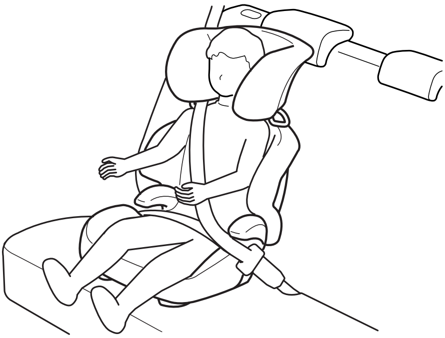


チャイルドシート
ECE R44基準のグループIに相当



ジュニアシート

ECE R44基準のグループII、IIIに相当



シート位置別お子さま専用シート選択の目安

お子さま専用シートは次の表を目安に選択してください。
詳しくはお子さま専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

⚠ 警告

■お子さま専用シートを取り付けるときは､必ず選択の目安表を確認してください。
誤った取り付けをすると正しく固定されず､急ブレーキや衝突時に､重大な傷害につながるおそれがあります。

シート位置別お子さま専用シート選択の目安 (ISOFIX対応タイプ)

ISOFIX対応タイプのチャイルドシートは使用できません。

シート位置別お子さま専用シート選択の目安 (シートベルト固定タイプ)

質量グループ	着座位置 (または他の場所)
	助手席
0 (10kgまで)	X
0+ (13kgまで)	X
I (9～18kgまで)	X
II (15～25kgまで)	L*1
III (22～36kgまで)	L*1

上表の記号について:
L＝この質量グループに対応しているお子さま専用シートについてはマツダ販売店にご相談ください。
X＝お子さま専用シートを取り付けることはできません。

*1 マツダ純正のお子さま専用シートを前向きに取り付けることができます。

SRSエアバッグシステムについて

SRSとはSupplemental Restraint System (サプルメンタルレストレイントシステム) の略で、補助乗員保護装置の意味です。
エアバッグは、電源ポジションがONのとき車両前方または側方から強い衝撃を受けると瞬間的に膨らみ、運転者および同乗者の頭部や胸部などへの衝撃をやわらげます。
SRSエアバッグシステムはシートベルトの働きに加えて乗員を保護する装置であり、シートベルトに代わるものではありません。シートベルトは必ず着用してください。

⚠ 警告

お車に乗る前に

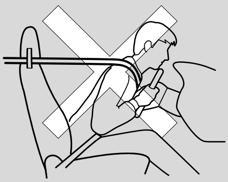
■運転者はもちろん、同乗者も必ずシートベルトを着用してください。

SRSエアバッグシステムはシートベルトと併用することで効果を発揮します。シートベルトを着用していないと、重大な傷害につながるおそれがあります。

シートに座ったときは

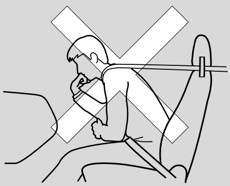
■ハンドル中央部に手を置いたり、顔や身体を近づけたりしないでください。

エアバッグが作動したときに、強い衝撃を受け重大な傷害につながるおそれがあります。



■シートの前端に座ったり、インストルメントパネルにもたれかかったり、手や顔を近づけないでください。

エアバッグが作動したときに強い衝撃を受け重大な傷害につながるおそれがあります。



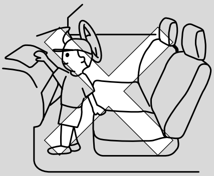
お子さまを乗せるときは

お子さまにも必ずシートベルトを着用させてください。

SRSエアバッグシステム

⚠ 警告

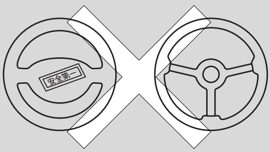
お子さまがエアバッグの前に立っていたり、正しい姿勢で座っていなかったりすると、エアバッグが作動したときに強い衝撃を受け、お子さまの命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあり危険です。



<u>こんなことにも注意</u>

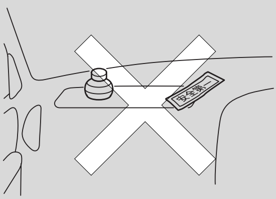
■ハンドルを交換しないでください。

また、パッド部にステッカーなどを貼り付けたりしないでください。万一の場合エアバッグが正常に作動しなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。



■インストルメントパネル上部にステッカーを貼り付けたり、芳香剤、アクセサリー用品、手荷物などの物を置いたりしないでください。

また、ルームミラーにワイドミラーを取り付けたりしないでください。エアバッグが正常に作動しなくなったり、エアバッグが膨らむときにこれらの物が飛散し、重大な傷害につながるおそれがあります。



■車両前部にグリルガードなどを装着しないでください。

SRSエアバッグシステムに影響をおよぼすため、万一の場合エアバッグが正常に作動しなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 警告

■ サスペンションの改造をしないでください。

車高やサスペンションの硬さが変わると、衝撃を正しく検知できないため、エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤って作動し、重大な傷害につながるおそれがあります。

■ SRSエアバッグシステムの部品や配線を修理したり、電気テスターを使って、SRSエアバッグシステムの回路診断をしないでください。

正常に作動しなくなったり、誤って作動し、重大な傷害につながるおそれがあります。

メンテナンスについて

■ 事故後は必ずマツダ販売店で点検を受けてください。

エアバッグが作動しない程度の事故であっても、事故の衝撃でシステム本来の機能を損なっているおそれがあるため、万一の場合エアバッグが正常に作動しなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。

■ 次のような作業が必要なときは、必ずマツダ販売店にご相談ください。

これらの作業を行なうとエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤って作動し、重大な傷害につながるおそれがあります。

- SRSエアバッグの取りはずし、取り付け、分解、修理
- ハンドルまたは周辺部品の取りはずし、取り付け、分解、修理
- インストルメントパネルまたは周辺部品の取りはずし、取り付け、分解、修理
- シートの交換、取りはずし、取り付け、分解、修理
- 車両前部または側部の修理
- オーディオなど用品の取りはずし、取り付け

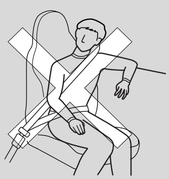
■ 車を廃車される場合は、必ずマツダ販売店にご相談ください。

不意にエアバッグが作動し、重大な傷害につながるおそれがあります。

サイドエアバッグについて

■ シート背もたれの外側部分に手、足、顔を近づけた姿勢で座らないでください。

シートに座ったときは、ドアにもたれかかったり、窓から腕を出したりしないでください。サイドエアバッグが作動したときに強い衝撃を受け、重大な傷害につながるおそれがあります。



警告

■シートにシートカバーを使用しないでください。

シートカバーを使用するとサイドエアバッグが正常に作動しなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。

■ドアやシート付近にカップホルダーなどのアクセサリー用品を取り付けないでください。

サイドエアバッグが膨らむときにこれらの物が飛散し、重大な傷害につながるおそれがあります。

■シートの下に荷物などを置かないでください。

シートの下部にあるサイドエアバッグの配線が損傷し、万一の場合エアバッグが正常に作動しなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。

注意

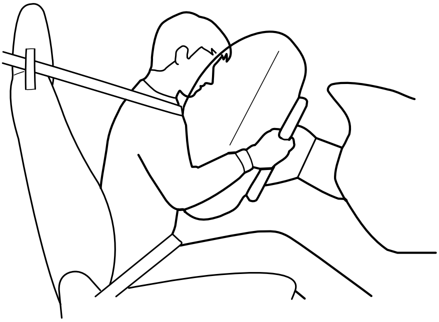
- エアバッグが作動した直後は、しばらくの間エアバッグ取り付け部をさわらないでください。エアバッグが作動すると高温になるため、やけどをするおそれがあります。
- ドアを閉じるときは窓ガラスが割れるほど強く閉めないでください。サイドエアバッグが作動するおそれがあります。

知識

- エアバッグは瞬時に膨らむため、エアバッグとの接触により打撲やすり傷など、けがをするおそれがあります。
- エアバッグが膨らむと白煙が出ますが、火災ではありません。また、人体への影響はありません。ただし、皮膚などの弱い方はまれに刺激を受けることがあります。エアバッグ作動時の残留物(カス)が目や皮膚に付着したときは、できるだけ早く洗い流してください。
- エアバッグは一度膨らむと再使用できません。マツダ販売店で交換してください。
- 車をおゆずりになる場合は、必ず次のオーナーにSRSエアバッグシステム装備車であることをお伝えください。
- 助手席エアバッグが膨らむときにガラスが破損することがあります。

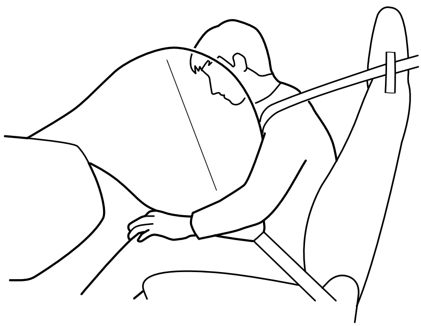
運転席エアバッグ

運転席エアバッグはハンドルの中央に格納されています。



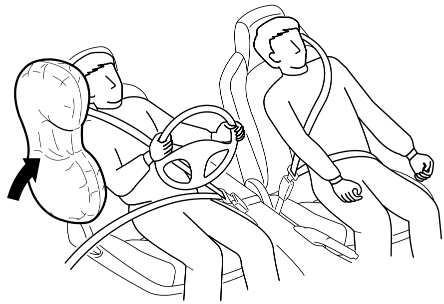
助手席エアバッグ

助手席エアバッグはインストルメントパネルに格納されています。
助手席に同乗者がいなくても運転席エアバッグと同時に膨らみます。



サイドエアバッグ☆

サイドエアバッグはシート背もたれの外側部分に格納されています。
乗員の有無に関係なく衝撃を受けた側のサイドエアバッグが膨らみます。



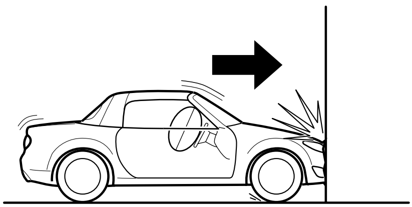
作動するとき、しないとき

運転席/助手席エアバッグは正面衝突において、サイドエアバッグは側面衝突において、強い衝撃を受けたときに作動します。

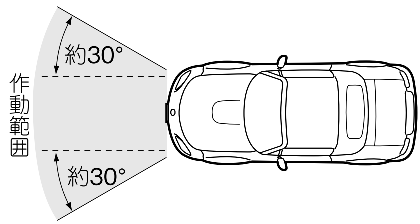
運転席/助手席エアバッグが作動するとき

次のようなときには、衝撃が大きいと作動します。

約22km/h以上で固いコンクリートの壁などに正面衝突したときと同じ程度の衝撃を受けたとき

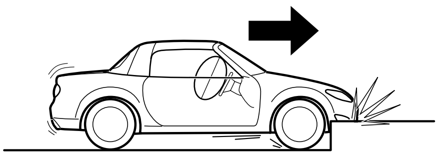


正面衝突など車両の前方左右約30°以内の方向から強い衝撃を受けたとき

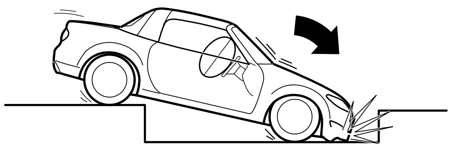


次のようなときには、路面などから車両下部に強い衝撃を受けると作動することがあります。

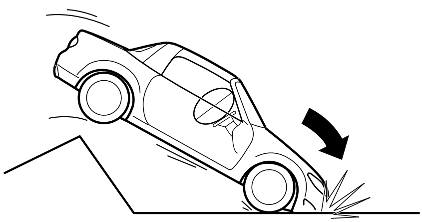
中央分離帯や縁石などに衝突したとき



深い穴や溝に落ちたとき



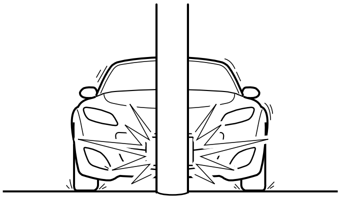
ジャンプなどで地面にぶつかったとき



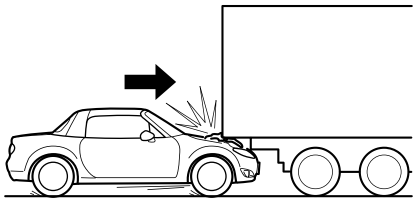
運転席/助手席エアバッグが作動しにくいとき

次のようなときには、衝撃の大きさによって作動しないことがあります。

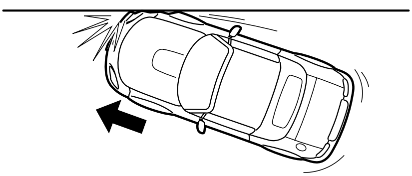
立木や電柱に衝突したとき



トラックの下などに潜り込んだとき



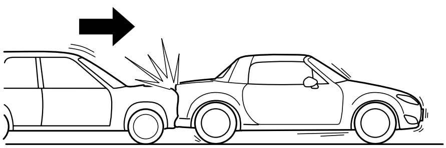
斜め前方に衝突したとき



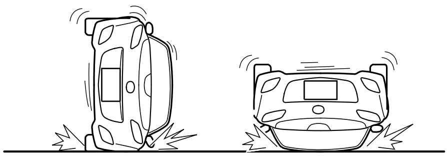
運転席/助手席エアバッグが作動しないとき

次のようなときには作動しません。

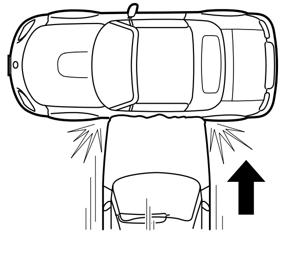
後ろ方向から衝突されたとき



横転や転覆したとき



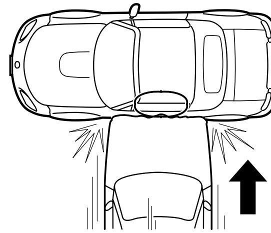
横方向から衝突されたとき



サイドエアバッグが作動するとき

次のようなときには、衝撃が大きいと作動します。

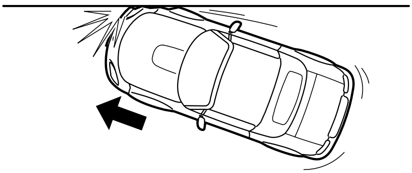
車両の側面(運転者または助手席同乗者付近)に横方向から衝突されたとき



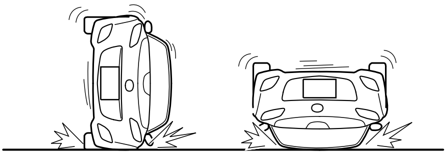
サイドエアバッグが作動しにくいとき

次のようなときには、衝撃の大きさによって作動しないことがあります。

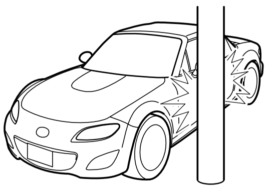
斜め前方に衝突したとき



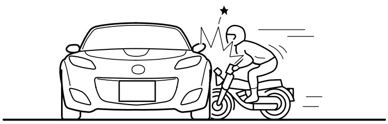
横転や転覆したとき



車両の側面(運転者または助手席同乗者付近)から立木や電柱に衝突したとき



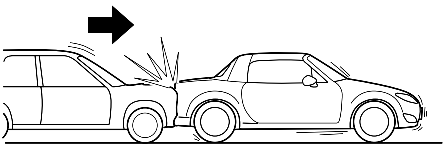
2輪車が側面に衝突したとき



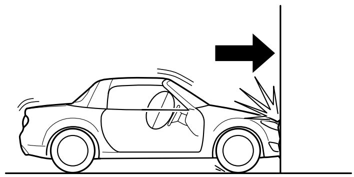
サイドエアバッグが作動しないとき

次のようなときには作動しません。

後ろ方向から衝突されたとき



正面衝突したとき



エアバッグ警告灯/プリテンショナー警告灯



点灯するとき

- 電源ポジションをONにすると点灯し、しばらくすると消灯します。
- 次のようなときはシステムの異常が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。
  - 電源ポジションをONにしても点灯しないとき。
  - 点灯し続けるとき。

点滅するとき

点滅し続けるときはシステムの異常が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。

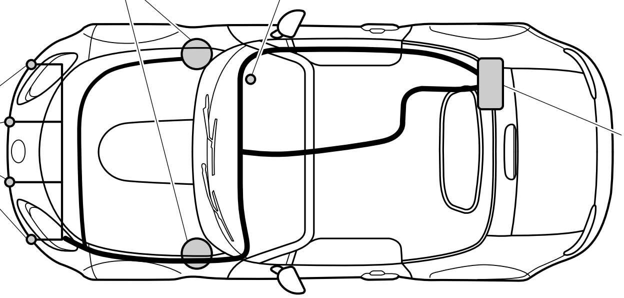
警告

■エアバッグ警告灯/プリテンショナー警告灯が点灯または点滅したまま走行しないでください。

衝突したときにエアバッグまたはプリテンショナー機構が正常に作動せず、重大な傷害につながるおそれがあります。マツダ販売店で点検を受けてください。

アクティブボンネットについて

歩行者と衝突して、一定以上の衝撃が車両前部に加わったとき、ボンネットの後端を瞬時に持ち上げ、エンジンルーム内の部品との空間を広く保つことで、歩行者の頭部がボンネットに衝突したときの衝撃をやわらげます。電源ポジションがONのとき、作動速度範囲での走行時に、歩行者やその他の物体との衝突により、フロントバンパー裏に取り付けているセンサーが一定以上の衝撃を感知すると、システムが作動し、ボンネットを持ち上げます。



警告

■アクティブボンネットが作動したときは、必ずマツダ販売店にご相談ください。

アクティブボンネットが作動したとき、ボンネットオープナーを引くと、さらにボンネットが上がります。ボンネットが上がったまま走行すると視界が妨げられ、おもわぬ事故につながるおそれがあります。また、ボンネットを無理に押し戻さないでください。作動したボンネットは手動では下げることができないため、ボンネットが変形したり、思わぬケガをするおそれがあります。アクティブボンネットが作動した後マツダ販売店まで運転する場合は、持ち上がったボンネットが視界の妨げにならないことを確認した後、十分に速度を落とし注意して運転してください。

注意

アクティブボンネットが作動した直後は、アクチュエータに触れないでください。作動直後はアクチュエータが熱くなっているため、やけどをするおそれがあります。

取り扱いについて

- ボンネットが完全に閉まっていないと、正常に作動しないおそれがあります。走行前に必ず確認してください。
- 電源ポジションをONにするとメーター内のアクティブボンネット警告灯が点灯し、しばらくすると消灯します。消灯した後、5秒後にシステムが作動可能な状態になります。
- 四輪とも同一指定サイズのタイヤを使用してください。異なるサイズのタイヤを使用すると、システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- フロントバンパー周辺に衝撃が加わったときは、アクティブボンネットが作動しなくてもセンサーが損傷している可能性があります。必ずマツダ販売店で点検を受けてください。
- アクティブボンネットの部品や配線を取り外したり修理しないでください。また、電気テスタを使ってシステムの回路診断をしないでください。誤って作動したり、正常に作動しないおそれがあります。修理や交換作業が必要なときはマツダ販売店にご相談ください。
- フロントバンパー、ボンネット、サスペンション、エアロパーツ、ホイールをマツダ純正品以外に交換しないでください。システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- フロントバンパーにマツダ純正品以外を取り付けないでください。また、ボンネットに物を取り付けないでください。システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- ボンネットを強く閉めたり、アクチュエータに荷重を加えないでください。アクチュエータが損傷し、システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- サスペンションを改造しないでください。車高やサスペンションの硬さが変わると、システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- 部品を装着するときは、マツダ販売店にご相談ください。不適切に取り付けると、衝撃を正しく検知できず、正常に作動しなくなるおそれがあります。
- 廃車にするときは、必ずマツダ販売店にご相談ください。正しく取り扱わないと、思わぬ傷害を受けるおそれがあります。
- アクティブボンネットは、一度作動すると再使用できません。マツダ販売店で交換してください。

アクティブボンネット

作動するとき、しないとき

作動するとき

次のような衝撃を受けたときに作動します。

- 作動速度範囲での走行時、フロントバンパーに歩行者と同等、もしくはそれ以上の衝撃を正面から受けたとき (衝突したときにフロントバンパーに痕跡が残らないような場合でも、一定以上の衝撃が加われば作動します。また、軽い物、小さな動物や他の小さな物体でも衝突の状況、速度によっては作動することがあります。)
- その他に、次のような車両下部やフロントバンパーに衝撃を受けたときも作動することがあります。
  - 縁石に衝突したとき
  - 深い溝や穴に落ち込んだとき
  - ジャンプして地面にぶつけたとき
  - 駐車場のスロープ、うねりのある道路、突起物や落下物などにぶつけたとき

作動しにくいとき

次のような場合は、衝撃を感知しにくいため、作動しないことがあります。

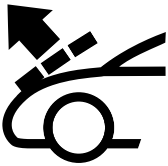
- 走行中、フロントバンパーの左右の角や側面に歩行者がぶつかったとき
- かばんなど衝撃を吸収できるものを携帯した歩行者と衝突したとき

作動しないとき

次のようなときには作動しません。

- 作動速度範囲外での走行時にフロントバンパーが衝撃を受けたとき
- 横方向や後部から衝撃を受けたとき
- 横転、転覆したとき (事故の状況、形態によっては、アクティブボンネットシステムが作動することがあります。)

アクティブボンネット警告灯



点灯するとき

- 電源ポジションをONにすると点灯し、しばらくすると消灯します。
- 次のようなときはシステムの異常が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。
  - 電源ポジションをONにしても点灯しないとき
  - 点灯し続けるとき

点滅するとき

点滅し続けるときはシステムの異常が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。

⚠ 警告

■アクティブボンネット警告灯が点灯または点滅したまま走行しないでください。

歩行者に衝突したときにアクティブボンネット機構が正常に作動せず、本来の機能を果たせないおそれがあります。マツダ販売店で点検を受けてください。

EDR (イベントデータレコーダー) について

本車両は、SRSエアバッグ及びアクティブボンネットを制御するためのコンピュータを搭載しています。そのコンピュータは、システムが正常に作動していることを診断するとともに、衝突や衝突に近い状態のとき、以下のデータを記録･蓄積するEDRを装備しています。

記録するデータ

EDRはSRSエアバッグ及びアクティブボンネットの次のような情報を記録します。

- アクティブボンネットが作動したときの車速
- エアバッグ及びアクティブボンネット作動に関する情報 (加速度波形等)
- エアバッグシステム及びアクティブボンネットの故障診断情報

知識

EDRは会話などの音声や映像は記録しません。

データの開示について

マツダおよびマツダが委託した第三者は、EDRに記録されたデータを、車両衝突安全性能の向上などを目的に取得･利用することがあります。
なお、マツダおよびマツダが委託した第三者は、取得したデータを以下の場合を除き、第三者へ開示･提供することはありません。

- お車の使用者の同意がある場合
- 裁判所命令などの法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行なうなどの使用者や車が特定できないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

ABSについて

ABS (アンチロックブレーキシステム) は、すべりやすい路面での制動時に起こる車輪のロックを防いで車の方向安定性を保ち、操縦性を確保する装置です。

警告

■ ABSを過信せず安全運転に心がけてください。

ABSが作動した状態でも車の方向安定性や操縦性には限界があります。また、次のようなときには、速度をひかえめにし、車間距離を十分にとって運転してください。
ABSが装備されていない車に比べて制動距離が長くなることがあるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- **ジャリ道、新雪道を走行しているとき。**
- **タイヤチェーンを装着しているとき。**
- **道路の継ぎ目などの段差を乗り越えるとき。**
- **凸凹道や石だたみなどの悪路を走行しているとき。**

注意

前後輪とも必ず指定されたサイズや種類のタイヤを装着してください。指定されたサイズや種類以外のタイヤを装着すると、ABSが正常に作動しないことがあります。

知識

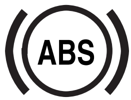
- ABSは低速 (約10km/h以下) では作動しませんが通常のブレーキ性能は確保されています。
- エンジン始動時や発進直後にモーター音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

ABS装備車の取り扱い

急ブレーキを踏まなくてはいけないような状況に陥らないよう、安全運転を心がけてください。
万一の危険な状況では、次のようにしてください。

1. 危険を感じ急制動が必要なときは、ためらわずブレーキペダルをしっかりと踏み込んでください。
2. ブレーキペダルを踏んだとき、ペダルから小刻みな振動を感じることがあります。これはABSが正常に作動しているときの現象で異常ではありません。そのままブレーキペダルを踏み続けてください。
3. 障害物を回避するときは、ブレーキペダルを踏みながらハンドルを操作してください。

ABS警告灯



点灯するとき

- 電源ポジションをONにすると点灯し、しばらくすると消灯します。
- システムに異常があるときは点灯し続けます。マツダ販売店で点検を受けてください。

ABS

⚠ 警告

■ ブレーキ警告灯とABS警告灯が同時に点灯したときは、ただちに安全な場所に停車し、マツダ販売店に連絡してください。

急制動時に後輪が通常より早くロックしやすくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

知識

- ABS警告灯が点灯しているときは、ABSが作動しないため、急制動時やすべりやすい路面での制動時には、車輪がロックすることがあります。
- ABS警告灯が点灯しているときは、ABSは作動しませんが、通常のブレーキ性能は確保されています。

トラクションコントロールシステム (TCS)

TCSについて (DSC装備車)

TCS (トラクションコントロールシステム)は、水にぬれた路面や雪道などのすべりやすい路面での発進や旋回加速時に起こる駆動輪の空転を防ぎ、適切な駆動力と操縦性を確保する装置です。

警告

■ TCSを過信せず安全運転に心がけてください。

TCSが作動した状態でも駆動力の確保や車の操縦性には限界があり、無理な運転は思わぬ事故につながるおそれがあります。

知識

- エンジン回転が高いときにTCSが作動すると、エンジン回転の変動や車体の振動を感じることがありますが、異常ではありません。
- TCSを解除するときは、DSC OFFスイッチを押して解除してください。
→73ページ「DSC OFFスイッチ」

TCS/DSC作動表示灯



点灯するとき

- 電源ポジションをONにすると点灯し、しばらくすると消灯します。
- 次のようなときはシステムの異常が考えられます。
マツダ販売店で点検を受けてください。
    - 電源ポジションをONにしても点灯しないとき、または点灯したままのとき。
    - 走行中に点灯したとき。

点滅するとき

走行中にTCSまたはDSCが作動すると点滅します。

ダイナミック·スタビリティ·コントロール (DSC)

DSCについて★

DSC (ダイナミック·スタビリティ·コントロール) は、すべりやすい路面での走行時や、緊急回避など急激なハンドル操作による車両の横すべりをおさえるため、ABSやTCSなどにより、ブレーキやエンジンの出力を自動的に制御して、車両の安定性を確保する装置です。

「ABSについて」、「TCSについて」もあわせてお読みください。

→69ページ「ABSについて」
→71ページ「TCSについて (DSC装備車)」

⚠ 警告

■ DSCを過信せず安全運転に心がけてください。

DSCが作動した状態でも車両の安定性や操縦性には限界があるため、無理な運転は思わぬ事故につながるおそれがあります。特にDSC作動表示灯が点滅しているときは、車両が横すべりしやすい状態になっています。慎重に運転してください。

⚠ 注意

- **前後輪とも必ず指定されたサイズで、メーカー、銘柄、パターン (溝の模様) が同一のタイヤを装着してください。また、摩耗差の著しいタイヤを混ぜて使用しないでください。指定以外のサイズや、異なる種類、摩耗差の著しいタイヤを使用すると、DSCが正常に作動しないことがあります。**
  また、タイヤチェーンや応急用スペアタイヤ装着時のように径の異なるタイヤを使用したときは、DSCが正常に作動しないことがあります。
- **ハンドルおよびハンドル関連部品の交換/修理は、必ずマツダ販売店にご相談ください。ハンドルには運転操作状態を検出するためのセンサーがあり、ハンドルの中心位置がずれるとDSCが正常に作動しないことがあります。**

TCS/DSC作動表示灯



点灯するとき

- 電源ポジションをONにすると点灯し、しばらくすると消灯します。
- 次のようなときはシステムの異常が考えられます。
  マツダ販売店で点検を受けてください。
  - 電源ポジションをONにしても点灯しないとき、または点灯したままのとき。
  - 走行中に点灯したとき。

 ☆印はグレードや仕様変更などにより装備の有無が異なります。

点滅するとき

走行中にTCSまたはDSCが作動すると点滅します。

DSC OFF表示灯



点灯するとき

- 電源ポジションをONにすると点灯し、しばらくすると消灯します。
- DSC OFFスイッチを押して、TCS/DSCを解除すると点灯します。
- 次のようなときはシステムの異常が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。
  - 電源ポジションをONにしても点灯しないとき、または点灯したままのとき。
  - TCS/DSCを解除していないのに点灯したとき。

点滅するとき

バッテリーのターミナルやヒューズの脱着などにより、バッテリーとの接続が断たれるとDSCが作動しなくなり、DSC OFF表示灯が点滅します (TCS/DSC作動表示灯も点灯します)。次の手順で作動可能な状態にしてください。

バッテリーとの接続が断たれたとき

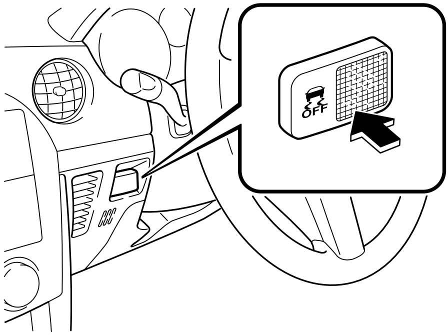
DSCを作動可能な状態にするために、次の操作を行なってください。

1. 電源ポジションをONにします。
2. ハンドルを右いっぱいまでまわし、その後左いっぱいまでまわします。
3. DSC OFF表示灯が消灯することを確認します。
4. 電源ポジションをOFFにし、再度ONにします。
5. TCS/DSC作動表示灯が消灯することを確認します。

電源ポジションを再度ONにした後でもTCS/DSC作動表示灯およびDSC OFF表示灯が消灯しないときは、マツダ販売店に連絡してください。

DSC OFFスイッチ

スイッチを押すとTCS/DSCが解除され、メーター内のDSC OFF表示灯が点灯します。
もう一度押すとTCS/DSCが作動可能な状態になり、DSC OFF表示灯が消灯します。



知識

- ぬかるみや新雪などからの脱出時にTCSが作動し、アクセルペダルを踏み込んでもエンジンの出力が上がらず、脱出困難なときにTCS/DSCを解除します。
- TCS/DSCを解除した状態でエンジンを停止した場合、次にエンジンを始動するとTCS/DSCは作動可能な状態にもどります。
- TCS/DSCを解除したときも、ブレーキLSD機能は作動します。
- DSC OFFスイッチを長く押し続けると、スイッチの故障検出機能によりTCS/DSCがシステムダウンすることがあります。TCS/DSCがシステムダウンすると、TCS/DSC作動表示灯とDSC OFF表示灯が同時に点灯します。このような場合は、一度エンジンを停止し、エンジンを再始動してください。TCS/DSCが作動可能な状態にもどります。

3 操作と取り扱い

アドバンストキーについて

アドバンストキーを携帯することで、アドバンストキーレス機能 (アドバンストキーレスエントリー&スタートシステム)により次の操作をすることができます。
→81ページ「アドバンストキーレスの機能を使っての操作」

- キーを取り出すことなくドアの施錠/解錠、トランクの解錠をする。
- キーを取り出すことなくエンジンを始動する。

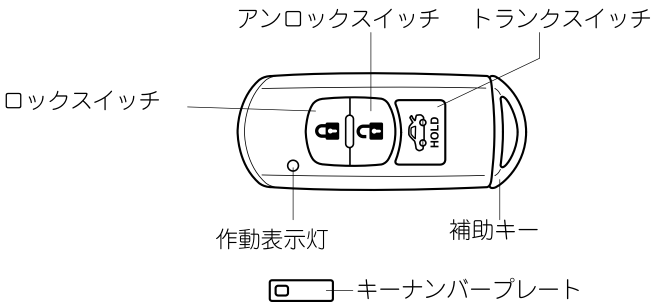
アドバンストキーは、アドバンストキーレス機能以外の操作も行うことができます。スイッチまたは補助キーを使用することで、次の操作をすることができます。
→87ページ「アドバンストキーレスの機能を使わない操作」

- リモートコントロール機能 (ロックスイッチ、アンロックスイッチ、トランクスイッチ) でドアの施錠/解錠、トランクの解錠をする。
- 補助キーでドアの施錠/解錠、トランクの解錠またはエンジンの始動をする。

知識

アドバンストキーは必ず運転者が携帯してください。

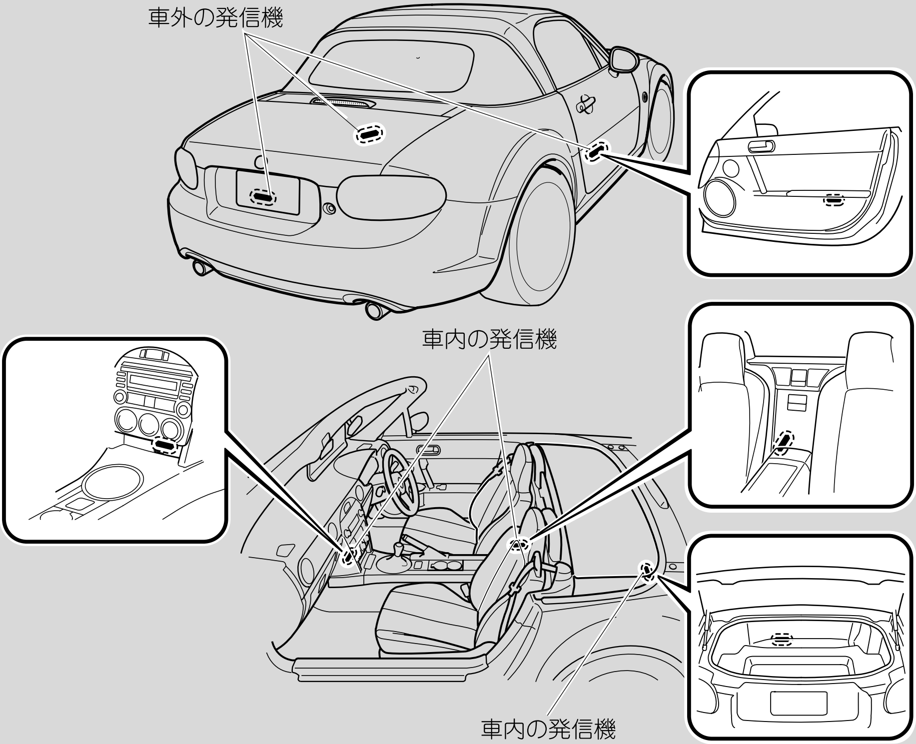
アドバンストキーは2個あります。



⚠ 警告

■植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器の医療用機器を使用している方は、車内･車外の発信機から約22cm以内に医療用機器が近づかないようにしてください。

電波により、医療用機器の作動に影響をおよぼすおそれがあります。



■植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器以外の医療用機器を使用している方は、アドバンストキーの電波の影響を医師や医療用電気機器製造業者などに確認してください。

電波が悪影響をおよぼすおそれがあります。

■アドバンストキーレス機能を作動させないようにすることもできます。

詳しくはマツダ販売店にご相談ください。

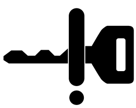
アドバンストキー

注意

- アドバンストキーは、微弱な電波を使用しています。次のようなときはアドバンストキーが正常に作動しないことがあります。
  - アドバンストキーを携帯電話などの通信機器と一緒に携帯しているとき
  - アドバンストキーが金属製のものに接したり、おおわれたりしているとき
  - アドバンストキーをパソコンなどの電化製品の近くに置いたとき
  - 純正品以外の電子機器を取り付けたとき
  - 近くに電波を発する設備があるとき
- アドバンストキーは強い電波を受信すると、それに反応して電池を著しく消耗することがあります。テレビやパソコンなどの電化製品の近くに置かないでください。
- アドバンストキーの故障を防ぐために次のことをお守りください。
  - 強い衝撃をあたえたり、ぬらしたりしないでください。
  - 分解しないでください。
  - 重い物を上に置かないでください。
  - インストルメントパネルやボンネットの上など直射日光があたる場所や高温になる所に放置しないでください。
  - 超音波洗浄器などにかけないでください。
  - 磁気を帯びた製品を近づけないでください。

知識

- 電池の寿命は、約1年程度です。メーターにKEY表示灯 (緑) が点滅した場合は、新しい電池と交換してください。
  電池の消耗度合いによってはKEY警告灯/表示灯が点灯や点滅しない場合もありますので、1年を目安に電池の交換をおすすめします。



- アドバンストキーは同じ車両で最大6個まで使用することができます。マツダ販売店にご相談ください。
- アドバンストキーを紛失したときは、盗難などを防ぐため、マツダ販売店にご連絡ください。

キーナンバープレート

お客様以外のかたにキーナンバーを知られないために、キーナンバープレートにキーナンバーを打刻しています。

知識

- キーナンバープレートは車両以外の安全な場所に、大切に保管しておいてください。
- 万一、アドバンストキー (補助キー含む) を紛失したときは、マツダ販売店でキーナンバーをもとにアドバンストキー (補助キー含む) を作ることができます。
- 車両をおゆずりになるときは、次にお使いになるかたのために、すべてのアドバンストキー (補助キー含む) と一緒に、キーナンバープレートを車両につけてお渡しください。

電池の交換

次のようなときは電池残量が少なくなっていることが考えられます。

- エンジンをきったときにメーター内のKEY表示灯 (緑) が点滅する
- アドバンストキーの作動表示灯が点灯しない
- どのスイッチを押しても作動しない
- 作動範囲が狭く不安定になる

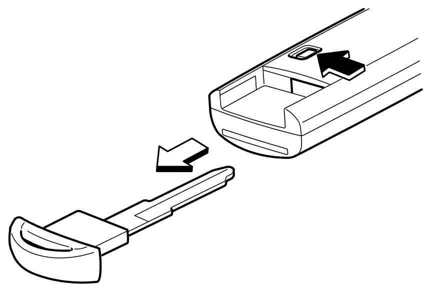
電池交換のとき、アドバンストキーが破損するおそれがあるため、マツダ販売店での交換をおすすめします。お客様自身で電池の交換をする場合は、次の手順で交換してください。

電池の規格: リチウム電池CR2025

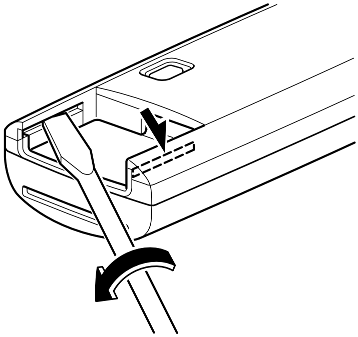
注意

- **電池の+ 側と− 側は必ず正しく取り付けてください。液漏れなどにつながるおそれがあります。**
- **電池を交換するときは内部回路や電極に触れたり、電極を曲げたりしないように注意してください。またアドバンストキーの内部にゴミなどを付着させないでください。故障につながるおそれがあります。**
- **電池を交換してもアドバンストキーが作動しないときは、マツダ販売店にご相談ください。**

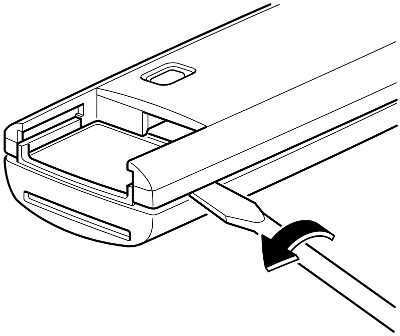
1 補助キーを引き出します。



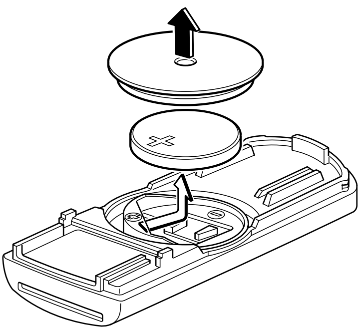
2 マイナスドライバーなどを使ってカバーを少し開けます。



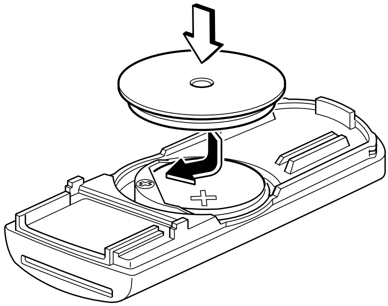
3 マイナスドライバーなどを使ってカバーを取り外します。



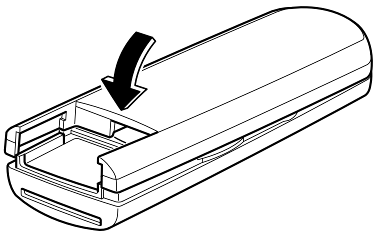
4 キャップを外して、電池を取り出します。



5 新しい電池を、**+** 側を上にして差し込み、キャップをかぶせます。



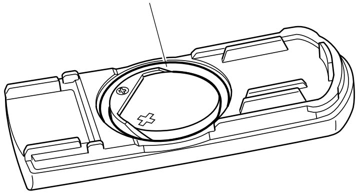
6 カバーを取り付けます。



7 補助キーを差し込みます。

⚠ 注意

- **ゴムリングを傷つけないようにしてください。**
- **ゴムリングが外れた場合は、新しい電池を入れる前にゴムリングを取り付けてください。**



アドバンストキーレスの機能を使っての操作

作動範囲

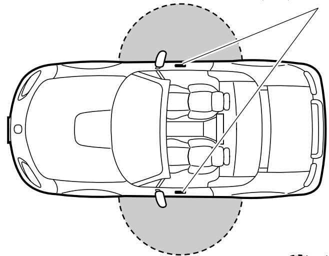
アドバンストキーを携帯し、車内および車外の作動範囲に入り、所定の操作をしたときのみ作動します。

知識

- アドバンストキーの電池が消耗しているときや、強い電波、ノイズのある場所では作動範囲が狭くなったり、作動しないことがあります。
  電池交換の目安は76ページを参照ください。
- 窓ガラスやドアハンドルに近づきすぎた場合などは作動しないことがあります。

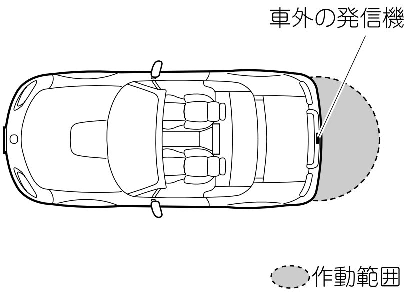
ドアの施錠/解錠

作動範囲は、運転席ドアハンドル、助手席ドアハンドルの中央部から周囲約80cm以内です。



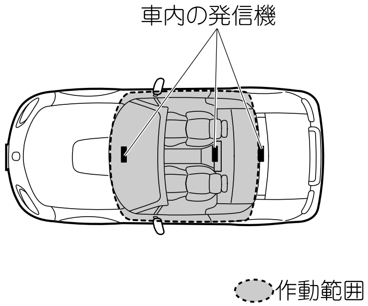
トランクの解錠

作動範囲は、トランクの中央部から周囲約80cm以内です。



エンジンの始動

作動範囲は、車内のほぼ全域です。

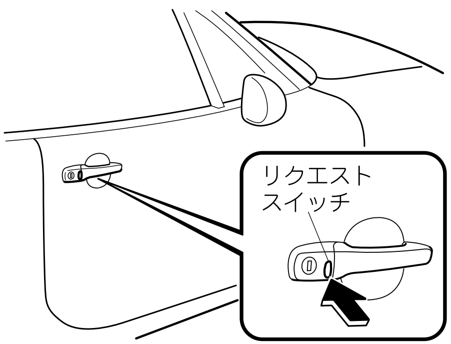


知識

- 荷室は作動範囲外ですが、エンジンの始動が可能になることがあります。
- 次のような場所にアドバンストキーを置くと、エンジンの始動ができない場合があります。
  - インストルメントパネルの周辺
  - グローブボックスや小物入れなど
  - リヤパッケージトリムの上
- 車外でも、ドアや窓ガラスに近づきすぎた場合は、エンジンの始動が可能になることがありますが、エンジンの始動は必ず運転席で行なってください。
- 作動範囲内にアドバンストキーを検知すると、作動表示灯がしばらくの間点滅します。

ドアの施錠/解錠

アドバンストキーを携帯し、ドアのリクエストスイッチを押すと、すべてのドアが施錠/解錠します。



■ 施錠したとき
非常点滅灯が1回点滅し、チャイムが1回鳴ります。

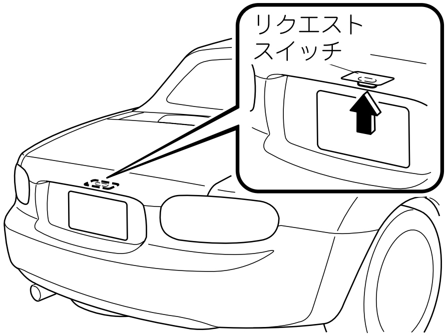
■ 解錠したとき
非常点滅灯が2回点滅し、チャイムが2回鳴ります。

知識

- リクエストスイッチで施錠した後は、ドアが確実に施錠されたことを確認してください。
- リクエストスイッチで施錠/解錠すると確認のためチャイムが鳴ります。チャイムは鳴らないようにすることもできます。
  →92ページ「設定変更 (カスタマイズ機能)」
- リクエストスイッチを押さずに、自動的に施錠するように設定を変えることができます。
  →92ページ「設定変更 (カスタマイズ機能)」
  (オートロック機能)
  アドバンストキーを携帯してすべてのドアを閉めると、チャイムが1回鳴ります。そのまま作動範囲から出ると約3秒後に自動的に全ドアを施錠します。(作動範囲から出ない場合でも約30秒後に自動的に施錠します。)
  ただし、ドアが完全に閉まる前に作動範囲を出ると施錠されません。車から離れるときはドアが施錠されたことを必ず確認してください。
- リクエストスイッチを押して解錠した後、約30秒以内に次のいずれの操作も行なわなかった場合、自動的に施錠されます。
  - ドアを開ける。
  - 補助キーをエンジンスイッチに差し込む。
  - エンジンスイッチをOFF以外にする。

トランクの開けかた

アドバンストキーを携帯し、トランクのリクエストスイッチを押すと、トランクが開きます。

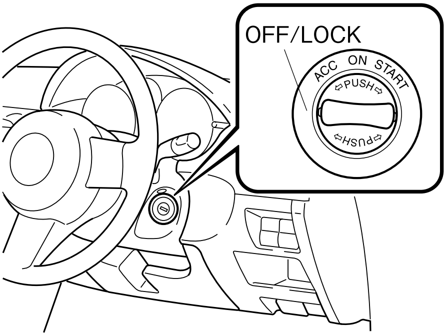


知識

- トランク内にアドバンストキーを入れたままトランクリッドを閉めると、トランクは閉まりますが、アドバンストキーの閉じ込みを防止する目的で、リクエストスイッチを押すことにより、トランクを開けることができます。
- **(パワーリトラクタブルハードトップ装備車)**
  パワーリトラクタブルハードトップが半開状態のとき、トランクは開きません。トランクを開ける前に、パワーリトラクタブルハードトップを全開/全閉にしてください。

エンジンの始動

各状態の働き



※印字 (刻印) は実際の車両と異なる場合があります。

電源ポジション (エンジンスイッチ)	働き
OFF/LOCK	電源OFFの状態
ACC	エンジン停止時に、オーディオなどが使用できる位置
ON	エンジン回転中の位置
START	エンジンを始動する位置

知識

- 電源ポジションをONにしたとき、燃料タンク付近からフューエルポンプのモーター作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。
- エンジンを止めたままで、オーディオなどを長時間使用したり、電源ポジションをONまたはACCのまま放置しないでください。バッテリーがあがるおそれがあります。
- ハンドルがロックされているときは、スタートノブをまわしにくいことがあります。ハンドルを左右に動かしながらスタートノブをまわしてください。
- オートマチック車はセレクトレバーの位置がP以外のときは、スタートノブをまわして、電源ポジションをACCからOFFにすることができません。

エンジンをかける前に

1 パーキングブレーキがかかっていることを確認します。

2 マニュアル車はチェンジレバーがニュートラル位置、オートマチック車はセレクトレバーがPの位置にあることを確認します。

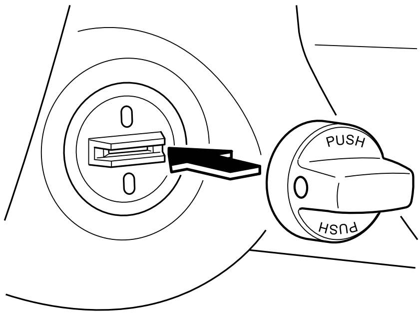
3 正しい運転姿勢をとり、右足でアクセルペダルとブレーキペダルが確実に踏めるか確認します。

4 ペダルの踏み間違いのないように、ペダルの位置を確認しておいてください。
→40ページ「正しい運転姿勢」

エンジンをかけるとき

知識

- アドバンストキーは必ず運転者が携帯してください。
- スタートノブがエンジンスイッチから取りはずされているときは取り付けてください。
  取り付け後はスタートノブがはずれないことを確認してください。



1 アドバンストキーを携帯していることを確認します。

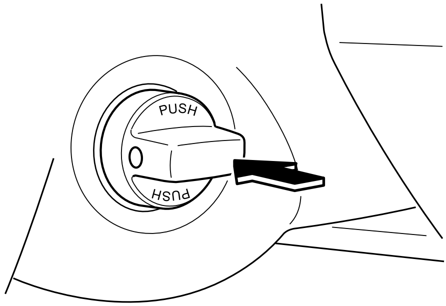
2 ブレーキペダルをしっかりと踏みます。

3 マニュアル車は、クラッチペダルをいっぱいに踏み込みます。

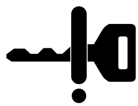
知識

クラッチペダルをいっぱいに踏み込まないとエンジンがかからないようになっています。
→163ページ「クラッチスタートシステム (マニュアル車)」

4 スタートノブをゆっくりと奥まで押し込みます。



5 メーター内のKEY表示灯 (緑) が点灯するのを確認します。



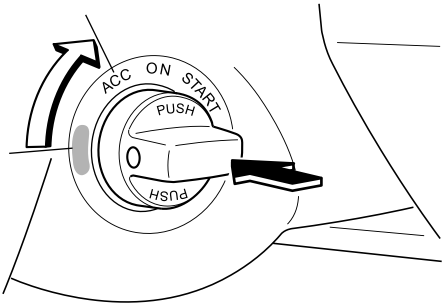
知識

次のようなときはメーター内のKEY警告灯 (赤) が点滅し、エンジンをかけることができません。

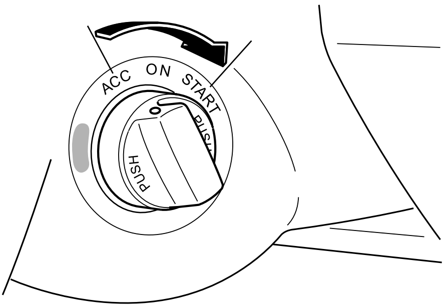
- アドバンストキーの電池切れ
- アドバンストキーが作動範囲内にない
- アドバンストキーを車内でも感知しにくい場所に置いているとき
  →81ページ「作動範囲」
- アドバンストキーに類似した他社のキーが作動範囲内にある

アドバンストキー

6 スタートノブを押し込みながら、まわして、電源ポジションをACCにします。



7 アクセルペダルを踏まずに、スタートノブをまわして、電源ポジションをACCからSTARTにし、エンジンをかけます。



⚠ 注意

連続して10秒以上スタートノブをまわして、電源ポジションをSTARTにしないでください。スターターの故障やバッテリーあがりの原因になります。エンジンがかからないときは、スタートノブをまわして、電源ポジションをOFFにもどし、10秒以上待ってからエンジンをかけなおしてください。

知識

冷間始動後は、エンジン制御システムの働きによりエンジン回転数が高くなりますが、自動的に適正な回転数に下がります。

エンジンをきるとき

1 オートマチック車はセレクトレバーをPの位置にします。

2 スタートノブをまわして、電源ポジションをONからACCにします。

知識

- スタートノブをまわして、電源ポジションをONからACCにするとエンジンは停止しますが、バッテリーあがりの原因になりますので、ACCで放置しないでください。
- エンジンをきって電源ポジションをONからACCまたはOFFにしたとき、アドバンストキーの電池容量が少なくなっていることを感知したら、メーター内のKEY表示灯 (緑) が約30秒間点滅します。新しい電池と交換してください。
→79ページ「電池の交換」

3 電源ポジションがACCでスタートノブを押し込み、電源ポジションをOFFにします。

⚠ 注意

車から離れるときは、電源ポジションがOFFになっていることを確認してください。

知識

- 電源ポジションをOFFにするときは、スタートノブをACCで押し込んでまわす必要があります。押し込まずにまわすと、スタートノブはACCで止まるため、そのまま放置するとバッテリーがあがるおそれがあります。車から離れるときは、電源ポジションがOFFになっていることを確認してください。
- 電源ポジションをOFFにせずに車から離れると、警報やメーター表示でお知らせします。
→90ページ「警報」

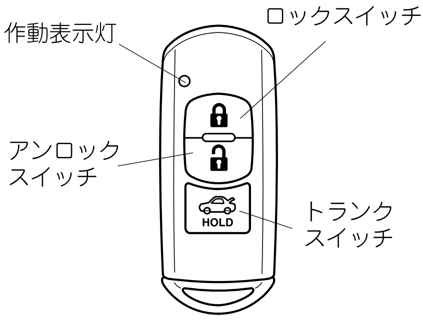
アドバンストキーレスの機能を使わない操作

リモートコントロール機能

リモートコントロール機能を使用すると、車の周囲1m以内ですべてのドアの施錠/解錠、トランクの解錠ができます。
スイッチはゆっくりと確実に押してください。

知識

- エンジンスイッチに補助キーを差し込んでいるときは、リモートコントロール機能は作動しません。
- 電源ポジションがOFFの位置以外のとき、またはスタートノブが押しこまれているときは、リモートコントロール機能は作動しません。
- いずれかのドアが開いているときは、ロックスイッチを押しても施錠しません。
- リモートコントロール機能の作動範囲は、周囲の状況により変わることがあります。車から離れるときは必ず施錠されていることを確認してください。



ドアの施錠/解錠

■ 施錠するとき
ロックスイッチを押します。
非常点滅灯が1回点滅し、チャイムが1回鳴ります。

■ 解錠するとき
アンロックスイッチを押します。
非常点滅灯が2回点滅し、チャイムが2回鳴ります。

知識

- スイッチを押すと作動表示灯が点灯します。
- リモートコントロール機能を使用して、施錠/解錠すると確認のためチャイムが鳴ります。
  チャイムは鳴らないようにすることもできます。
  →92ページ「設定変更(カスタマイズ機能)」
- ロックスイッチまたはアンロックスイッチを連続して押すと、非常点滅灯が不規則に点滅することがあります。
- アンロックスイッチを押して解錠した後、約30秒以内に次のいずれの操作も行なわなかった場合、自動的に施錠されます。
  - ドアを開ける。
  - 補助キーをエンジンスイッチに差し込む。
  - スタートノブを押し込む。

トランクの開けかた

トランクスイッチを約1秒押すと開きます。

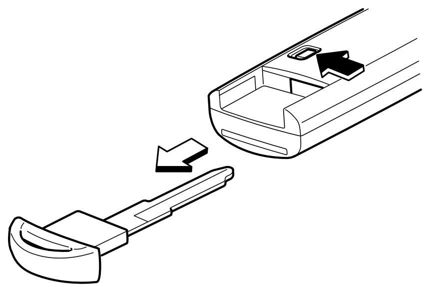
知識

(パワーリトラクタブルハードトップ装備車)
パワーリトラクタブルハードトップが半開状態のとき、トランクは開きません。トランクを開ける前に、パワーリトラクタブルハードトップを全開/全閉にしてください。

補助キー機能

アドバンストキーに内蔵された補助キーを使用します。

補助キーの取りはずしかた



ドアの施錠/解錠

補助キーを操作して、ドアの施錠/解錠ができます。
→94ページ「補助キーによる施錠/解錠」

トランクの開けかた

補助キーを操作して、トランクの解錠ができます。
→98ページ「トランクの開閉」

⚠ 注意

(パワーリトラクタブルハードトップ装備車)
パワーリトラクタブルハードトップを開閉しているときは、キーを使用してトランクを開けないでください。
トランクリッドやデッキが損傷するおそれがあります。

エンジンの始動

補助キーを操作して、エンジンの始動ができます。
→162ページ「エンジンスイッチ」

アドバンストキー一時停止機能

アドバンストキーが車内またはトランク内にあるとき、車内またはトランク内に置いてあるアドバンストキーの機能 (スタートノブでのエンジン始動、リクエストスイッチの操作) が盗難防止のため、一時停止する場合があります。
次のいずれかの操作で復帰させてください。

- 一時停止したアドバンストキーのロックスイッチまたはアンロックスイッチを押す
- 別のアドバンストキーを携帯し、KEY表示灯 (緑) が点灯するまでスタートノブを押し込む
- 補助キーを差し込み、エンジンスイッチをONの位置までまわす

警報

システム故障警報

アドバンストキーレス機能になんらかの故障が発生すると、メーター内のKEY警告灯 (赤) が点灯し続けます。

⚠ 注意

KEY警告灯 (赤) が点灯し続けるときは、アドバンストキーレス機能による運転を続けないでください。安全な場所に停車し、補助キーによる運転に切り替え、早めにマツダ販売店で点検を受けてください。
→162ページ「エンジンスイッチ」

スタートノブもどし忘れ警報

電源ポジションがACCで、運転席ドアを開けると、チャイムが鳴り続け、電源ポジションがOFFになっていないことをお知らせします。

アドバンストキー車外持ち出し警報

次のようなときはチャイムが鳴り、KEY警告灯 (赤) が点滅し続け、電源ポジションをOFFにせずに、アドバンストキーを車外に持ち出したことを知らせます。KEY警告灯 (赤) はアドバンストキーを車内にもどすと消灯します。

- 電源ポジションをOFFにせずに運転席ドアを開け、アドバンストキーを車外に持ち出したとき (チャイムが3回鳴ります。)
(電源ポジションがACCのときは、スタートノブもどし忘れ警報が作動するため、ドアを開けたときからチャイムが鳴り続けます。)
- 電源ポジションをOFFにしないで、アドバンストキーを車外に持ち出したあと、全てのドアを閉めたとき (チャイムが6回鳴ります。)

知識

アドバンストキーは微弱な電波を使用しているため、金属物と一緒に携帯したり、電波環境の悪い場所に置くと、車外に持ち出されたと認識してしまい、アドバンストキー車外持ち出し警報が作動することがあります。

リクエストスイッチ不作動警報

次のようなとき、アドバンストキーを携帯してドアのリクエストスイッチを押すと、チャイムが6回鳴り、ドアを施錠できないことをお知らせします。

- いずれかのドアが開いているとき
(半ドア状態など)
- 電源ポジションをOFFにしていないとき
- エンジンスイッチに補助キーを差し込んでいるとき

アドバンストキー電池切れ警報

電源ポジションをONからACCまたはOFFにしたとき、KEY表示灯 (緑) が約30秒間点滅し、アドバンストキーの電池容量が残り少なくなっていることをお知らせします。アドバンストキーが使用できなくなる前に新しい電池と交換してください。

→79ページ「電池の交換」

知識

電池容量が少なくなっても、KEY表示灯 (緑) が点滅しないように設定することができます。

→92ページ「設定変更 (カスタマイズ機能)」

エンジン始動不許可警報

次のようなとき、KEY警告灯 (赤) が点滅し、電源ポジションをOFF以外にできないことをお知らせます。

- アドバンストキーの電池が切れたとき
- アドバンストキーが作動範囲内にないとき
- アドバンストキーを車内でも感知しにくい場所に置いているとき
  →81ページ「作動範囲」
- アドバンストキーに類似した他社のキーが作動範囲内にあるとき

アドバンストキートランク内閉じ込み警報

すべてのドアを施錠した状態で、トランク内にアドバンストキーを入れたままトランクを閉めると、チャイムが約10秒間鳴り、アドバンストキーがトランク内にあることをお知らせします。

この場合トランクは閉まりますが、リクエストスイッチを押すことによりトランクを開けることができます。トランクから取り出したアドバンストキーは機能しない場合があります。

→89ページ「アドバンストキー一時停止機能」

アドバンストキー車内閉じ込み警報

アドバンストキーを車内に置いたまま別のアドバンストキーにより施錠すると、チャイムが約10秒間鳴り、アドバンストキーが車内にあることをお知らせします。この場合施錠はできますが、車内のアドバンストキーは機能しない場合があります。

→89ページ「アドバンストキー一時停止機能」

設定変更 (カスタマイズ機能)

以下の機能の設定をマツダ販売店で変更することができます。詳しくはマツダ販売店にご相談ください。

機能	内容	初期設定	変更内容
アドバンストキー電池切れ表示	KEY表示灯 (緑) が点滅し、アドバンストキーの電池残量が少なくなっていることを知らせます。	ON	OFF
施錠/解錠作動確認チャイム	ドアを施錠/解錠すると確認のためチャイムが鳴ります。	ON	OFF
オートロック機能	アドバンストキーを携帯して、すべてのドアを閉めて作動範囲から出ると、約3秒後に自動的にすべてのドアが施錠します。(作動範囲から出ない場合でも、約30秒後に自動的に施錠します。)	OFF	ON

こんなときは

次のようなとき、アドバンストキーの誤操作による車両盗難などを防ぐために、警報およびメーター内の警告灯/表示灯でお知らせします。

→90ページ「警報」

警報	確認すること
ドアを開けたときに、チャイムが「ピーピー、ピーピー、…」と連続で鳴り続けるとき	電源ポジションをOFFにしているか確認してください。
ドアを開けているときに、チャイムが「ピーピー、ピーピー、…」と3回鳴り、メーター内のKEY警告灯 (赤) が点滅しているとき	アドバンストキーを車外に持ち出していないか確認してください。
ドアを閉めたときに、チャイムが「ピピッ、ピピッ、…」と6回鳴り、メーター内のKEY警告灯 (赤) が点滅しているとき	アドバンストキーを車外に持ち出していないか確認してください。
ドアを施錠しようとしたとき、またはトランクを閉めたときに、チャイムが「ピピッ、ピピッ、…」と約10秒間鳴るとき	アドバンストキーを車内、またはトランクに置き忘れていないか確認してください。
ドアを施錠しようとしたときに、チャイムが「ピピッ、ピピッ、…」と6回鳴るとき	電源ポジションをOFFにしているか確認してください。
	いずれかのドア、トランクが開いていないか確認してください。
メーター内のKEY表示灯 (緑) が点滅しているとき	アドバンストキーの電池残量が少なくなっています。新しい電池と交換してください。 →79ページ「電池の交換」
メーター内のKEY警告灯 (赤) が点灯し続けているとき	アドバンストキーが故障しています。安全な場所に停車して、補助キーによる運転に切り替え、早めにマツダ販売店で点検を受けてください。

ドア

⚠ 警告

■ ドアを閉めたあとは、確実に閉まっていることを確認してください。

半ドアのまま走行すると、走行中に不意にドアが開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ ドアを開けるときは、周囲の安全を確認してください。

ドアを急に開けると、後続車や歩行者がぶつかるなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

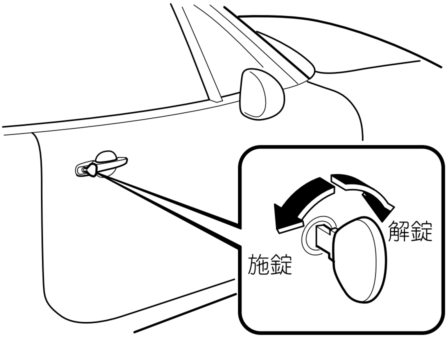
強風時にドアを開閉するときは、注意して開閉してください。ドアが風にあおられると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

知識

車から離れるときは、必ずエンジンを止め、ドアを施錠してください。また、盗難にあわないために、車内には貴重品を置かないでください。

補助キーによる施錠/解錠

補助キーを差し込み、まわします。



アドバンストキーレス機能による施錠/解錠

アドバンストキーを携帯して操作すると、施錠/解錠できます。

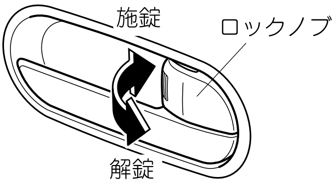
→81ページ「アドバンストキーレスの機能を使っての操作」

リモートコントロール機能による施錠/解錠

リモートコントロール機能を使用すると、施錠/解錠できます。

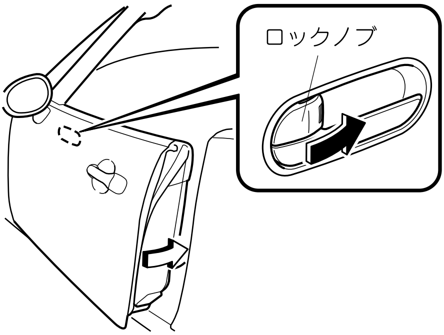
→87ページ「リモートコントロール機能」

ロックノブによる施錠/解錠



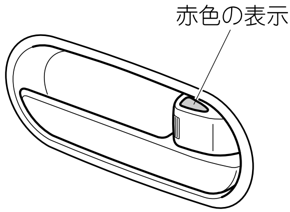
車外から操作するとき

車内のロックノブを施錠側にし、ドアを閉めるだけで施錠できます。



知識

- 運転席ドアはキーの閉じ込みを防止するために、この方法では施錠できません。
- キーの閉じ込みを防止するために、キーを持っていることを確認してから施錠してください。
- ロックノブを解錠しているときは赤色の表示が見えます。



パワードアロック

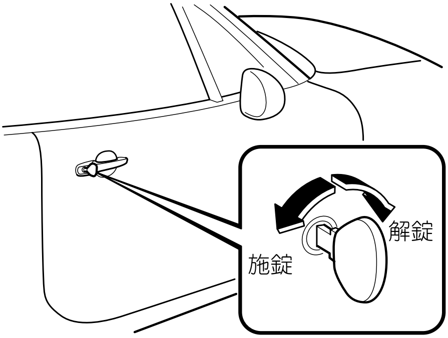
運転席ドアを施錠/解錠すると、助手席のドアの施錠/解錠ができます。

知識

いずれかのドアが開いていると施錠できません。

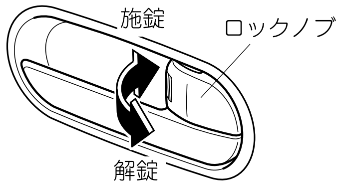
キーによる施錠/解錠

運転席ドアに補助キーを差し込み、まわします。



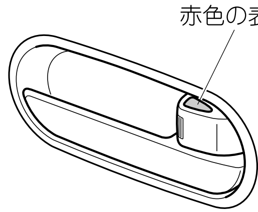
ロックノブによる施錠/解錠

運転席ドアのロックノブを操作します



知識

ロックノブを解錠しているときは赤色の表示が見えます。



アドバンストキーレス機能による施錠/解錠

アドバンストキーを携帯して操作すると、施錠/解錠できます。

→81ページ「アドバンストキーレスの機能を使っての操作」

リモートコントロール機能による施錠/解錠

リモートコントロール機能を使用すると、施錠/解錠できます。
→87ページ「リモートコントロール機能」

トランク

⚠ 警告

■トランクルーム内に人を乗せないでください。
トランクルームに閉じ込められると中から開けられません。また、急ブレーキ時や衝突時に重大な傷害につながるおそれがあります。

■トランクリッドは必ず閉めてから走行してください。
開けたまま走行すると、車内に排気ガスが侵入し、一酸化炭素中毒になるおそれがあり危険です。

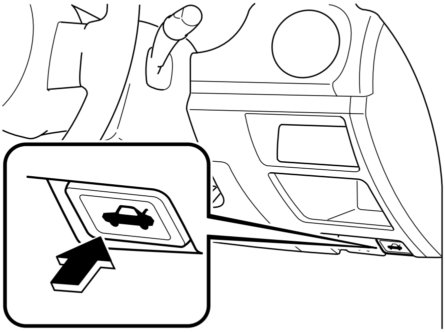
⚠ 注意

- トランクルームの荷物を出し入れするときは、エンジンを止めてください。排気熱によりやけどをするおそれがあります。
- トランクリッドを開けるときは、トランクリッドを全開にしてください。トランクリッドを途中で止めると、振動や突風などでトランクリッドが閉まり、けがをするおそれがあります。

トランクの開閉

車内から開けるとき

運転席ドアの下にあるトランクリッドオープナースイッチを押します。



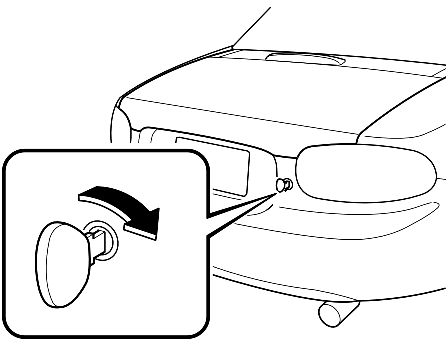
知識

(パワーリトラクタブルハードトップ装備車)

パワーリトラクタブルハードトップが半開状態のとき、トランクは開きません。トランクを開ける前に、パワーリトラクタブルハードトップを全開/全閉にしてください。

車外から開けるとき

キーを差し込み、右側にまわします。



⚠ 注意

(パワーリトラクタブルハードトップ装備車)

パワーリトラクタブルハードトップを開閉しているときは、キーを使用してトランクを開けないでください。

トランクリッドやデッキが損傷するおそれがあります。

アドバンストキーレス機能による解錠

アドバンストキーを携帯して操作すると、開きます。

→81ページ「アドバンストキーレスの機能を使っての操作」

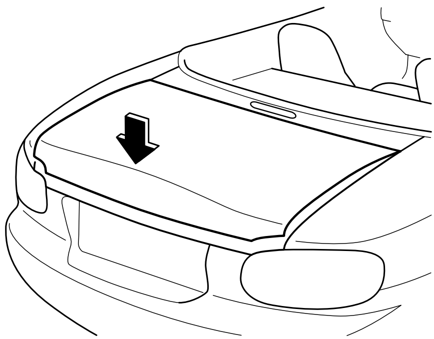
リモートコントロール機能による解錠

リモートコントロール機能を使用すると、開きます。

→87ページ「リモートコントロール機能」

閉めるとき

トランクリッドをゆっくり下げて、押さえつけるように閉めます。



⚠ 警告

■ **トランクリッドを閉めたあとは、トランクリッドをゆさぶって確実にロックされていることを確認してください。**

走行中にトランクリッドが開くと、荷物などが落ちて思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

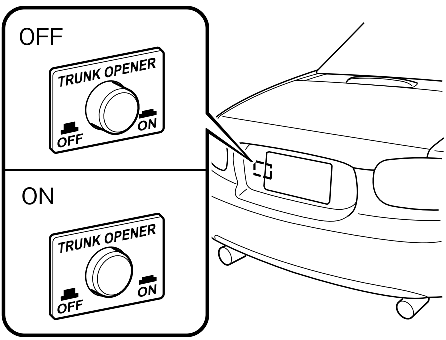
トランクリッドを閉めるときは、手などをはさまないように注意してください。万一、手などをはさむと、けがをするおそれがあります。

ロック機構

トランク裏側にあるトランクロックスイッチをOFFにすると、トランクオープナースイッチでトランクが開かなくなります。

知識

ロック機構を使用していても、キーを使うとトランクを開けることができます。盗難にあわないために、トランク内には貴重品を置かないでください。



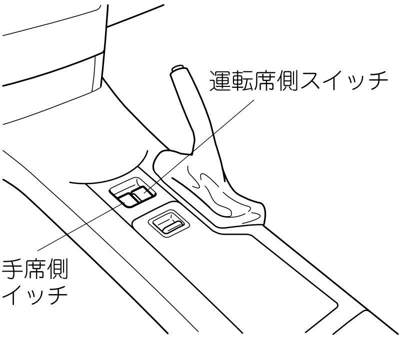
スイッチをONの位置にすると、トランクオープナースイッチで、トランクが開きます。
スイッチをOFFの位置にすると、次の操作でトランクが開きます。

- トランクのリクエストスイッチを押す
- アドバンストキーのトランクスイッチを押す
- 補助キーを差し込み、右側にまわす

もとにもどすときは、トランクを開け、トランクロックスイッチをOFFにします。

パワーウインドー

電源ポジションがONでパワーウインドーロックスイッチがアンロックの位置のとき、パワーウインドースイッチを操作すると窓ガラスの開閉ができます。



⚠ 警告

■ 窓ガラスを閉めるときは、同乗者の手や顔などをはさまないように注意してください。

また、特にお子さまには十分気をつけてください。

万一、手や顔などをはさむと重大な傷害につながるおそれがあります。

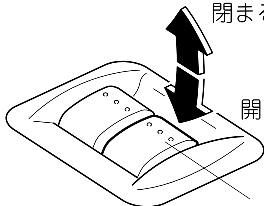
■ お子さまにパワーウインドースイッチの操作をさせないでください。

万一、手や顔などをはさむと重大な傷害につながるおそれがあります。

窓ガラスの開閉 (パワーリトラクタブルハードトップ装備車)

運転席側

スイッチを押している間は開き、引き上げている間は閉まります。



クイックリフレッシュ機能

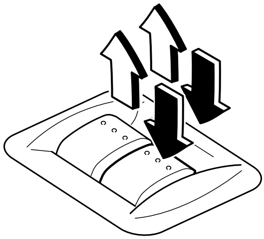
全閉しているとき、スイッチを軽くワンタッチするだけで、窓枠から約3cm開くことができます。車内を換気したいときなどに便利です。

知識

全閉しているとき、スイッチを軽く押していると、窓枠から約3cm開いたところで一旦止まります。そのまま押し続けると、再び開き始めます。

クイックリフレッシュ機能の解除

1. 電源ポジションをONにして、5秒以内に次の操作を完了させます。
運転席側スイッチを強く2回押し、強く2回引き上げます。



2. 電源ポジションをOFFにします。

3. 電源ポジションをOFFにしてから40秒以内に、電源ポジションをONにして、5秒以内に次の操作を完了させます。
運転席側スイッチを強く2回押し、強く2回引き上げます。

知識

- 時間内に操作が完了しなかったり、途中で他の操作をすると解除できません。一度電源ポジションをOFFにして、始めからやり直してください。
- 操作しても解除できないときは、マツダ販売店にご相談ください。

クイックリフレッシュ機能の復帰

クイックリフレッシュ機能が解除されている状態で、もう一度クイックリフレッシュ機能の解除の操作をすると、復帰します。

知識

操作しても復帰できないときは、マツダ販売店にご相談ください。

自動開閉機構

スイッチを強く押すと自動で全開し、強く引き上げると自動で全閉します。
途中で止めるときは、スイッチを逆方向に軽く操作します。

知識

車両整備などでバッテリーとの接続が断たれたあと、再接続したとき、またはスイッチを操作し続けたときは、自動で全開/全閉できなくなります。
次の操作で復帰させてください。

1. 電源ポジションをONにします。
2. スイッチを押して窓ガラスを全開にします。
3. スイッチを引き上げて窓ガラスを全閉にし、そのまま約2秒間引き上げ続けます。
4. ドアおよびソフトトップ/ハードトップが閉まっていることを確認します。
5. はさみ込み防止機構の設定をするために、自動で全開/全閉操作を5回繰り返します。

はさみ込み防止機構

閉めるときに、窓ガラスと窓枠との間に異物のはさみ込みを感知すると、窓ガラスが上がるのを停止し、自動的に途中まで下がります。

注意

次の場合には、はさみ込み防止機構が作動しないため、指などをはさまないように注意してください。万一、指などをはさむと、けがをするおそれがあります。

- **窓ガラスが閉じ切る直前**
- **スイッチを引き続けたままの状態**

知識

- はさみ込み防止機構は次のようなときに作動します。
  - 電源ポジションがONで窓ガラスを自動で閉めているとき。
  - 電源ポジションをOFFまたはACCにしてから約40秒の間に窓ガラスを閉めているとき。
- 走行条件や環境により、窓ガラスに異物をはさんだときと同じ衝撃または荷重が加わると、はさみ込み防止機構が作動することがあります。
  万一、はさみ込み防止機構が作動し、窓ガラスを自動で閉めることができないときは、スイッチを引き続けてください。窓ガラスを閉めることができます。

キーOFF後作動機構

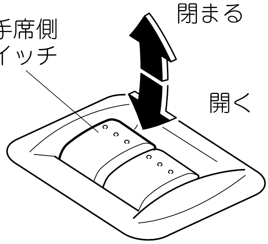
電源ポジションをACCまたはOFFにしたあとでも、約40秒間は開閉することができます。

知識

クイックリフレッシュ機能は作動しません。

助手席側

スイッチを押している間は開き、引き上げている間は閉まります。

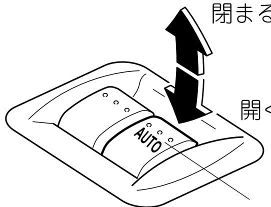


自動開機構

スイッチを強く押すと自動で全開します。
途中で止めるときは、スイッチを逆方向に軽く操作します。

運転席窓ガラスの開閉 (パワーリトラクタブルハードトップ非装備車)

スイッチを押している間は開き、引き上げている間は閉まります。



クイックリフレッシュ機能

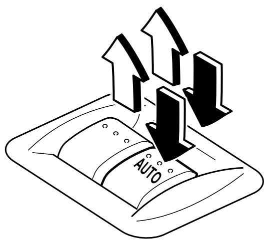
全閉しているとき、スイッチを軽くワンタッチするだけで、窓枠から約3cm開くことができます。車内を換気したいときなどに便利です。

知識

全閉しているとき、スイッチを軽く押していると、窓枠から約3cm開いたところで一旦止まります。そのまま押し続けると、再び開き始めます。

クイックリフレッシュ機能の解除

1. 電源ポジションをONにして、5秒以内に次の操作を完了させます。
   運転席側スイッチを強く2回押し、強く2回引き上げます。



2. 電源ポジションをOFFにします。
3. 電源ポジションをOFFにしてから40秒以内に、電源ポジションをONにして、5秒以内に次の操作を完了させます。
   運転席側スイッチを強く2回押し、強く2回引き上げます。

知識

- 時間内に操作が完了しなかったり、途中で他の操作をすると解除できません。一度電源ポジションをOFFにして、始めからやり直してください。
- 操作しても解除できないときは、マツダ販売店にご相談ください。

クイックリフレッシュ機能の復帰

クイックリフレッシュ機能が解除されている状態で、もう一度クイックリフレッシュ機能の解除の操作をすると、復帰します。

知識

操作しても復帰できないときは、マツダ販売店にご相談ください。

各部の開閉

自動開閉機構

スイッチを強く押すと自動で全開し、強く引き上げると自動で全閉します。
途中で止めるときは、スイッチを逆方向に軽く操作します。

知識

車両整備などでバッテリーとの接続が断たれたときは、自動で全開/全閉できなくなります。
次の操作で復帰させてください。

1. 電源ポジションをONにします。
2. スイッチを押して窓ガラスを全開にします。
3. スイッチを引き上げて窓ガラスを全閉にし、そのまま約2秒間引き上げ続けます。
4. ドアおよびソフトトップ/ハードトップが閉まっていることを確認します。
5. はさみ込み防止機構の設定をするために、自動で全開/全閉操作を5回繰り返します。

はさみ込み防止機構

閉めるときに、窓ガラスと窓枠との間に異物のはさみ込みを感知すると、窓ガラスが閉まるのを停止し、自動的に途中まで開きます。

注意

次の場合には、はさみ込み防止機構が作動しないため、指などをはさまないように注意してください。万一、指などをはさむと、けがをするおそれがあります。

- **窓ガラスが閉まりきる直前**
- **スイッチを引き続けたままの状態**

知識

- はさみ込み防止機構は次のようなときに作動します。
  - 電源ポジションがONで窓ガラスを自動で閉めているとき。
  - 電源ポジションをOFFまたはACCにしてから約40秒の間に窓ガラスを閉めているとき。
- 走行条件や環境により、窓ガラスに異物をはさんだときと同じ衝撃または荷重が加わると、はさみ込み防止機構が作動することがあります。
  万一、はさみ込み防止機構が作動し、窓ガラスを自動で閉めることができないときは、スイッチを引き続けてください。窓ガラスを閉めることができます。

キーOFF後作動機構

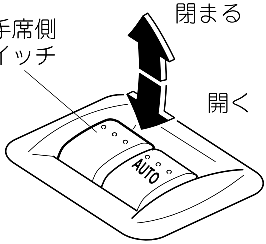
電源ポジションをACCまたはOFFにしたあとでも、約40秒間は開閉することができます。

知識

クイックリフレッシュ機能は作動しません。

助手席窓ガラスの開閉 (パワーリトラクタブルハードトップ非装備車)

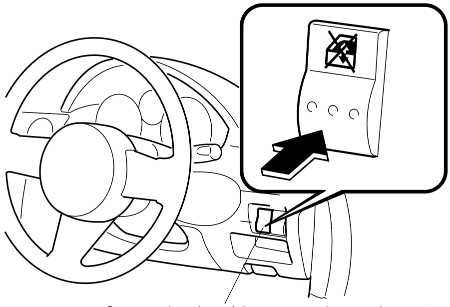
スイッチを押している間は開き、引き上げている間は閉まります。



パワーウインドーロックスイッチ

■ ロックの位置のとき
全ての窓ガラスは開閉できません。

■ アンロックの位置のとき
全ての窓ガラスの開閉ができます。



⚠ 警告

■ お子さまが同乗しているときは、パワーウインドーロックスイッチをロックの位置にしておいてください。

お子さまが誤って操作したとき、手や顔などをはさむと重大な傷害につながるおそれがあります。

燃料補給口

⚠ 警告

■燃料補給時には必ずエンジンを止めてください。

火災につながるおそれがあります。

■燃料を補給するときは、必ず次の点を守ってください。

身体に静電気を帯びたまま作業をすると、放電による火花で燃料に引火、爆発し重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

- 燃料補給作業は必ず一人で行ない、補給口に他の人を近づけないでください。
- 静電気を除去するため、フューエルキャップを開ける前には、車体または給油機などの金属部分に触れてください。
- 静電気の放電を防ぐため、フューエルキャップの開閉は必ずツマミ部分を持って行なってください。
- 再帯電を防ぐため、燃料を補給する人は給油中に車内のシートに座らないでください。

■燃料補給口にはタバコなどの火気を近づけないでください。

火災につながるおそれがあります。

■給油ノズルは確実に給油口へ差し込んでください。

給油ノズルが確実に差し込まれていないと、オートストップの作動が遅れ、燃料が吹きこぼれるおそれがあります。

⚠ 警告

■給油ノズルのオートストップ作動後は、追加給油しないでください。

オートストップ作動後に追加給油すると、燃料があふれ出るおそれがあります。

■ドアや窓を必ず閉めて燃料を補給してください。

火災になった場合、室内に燃え広がるおそれがあります。

■気化した燃料を吸い込まないよう注意してください。

人体に有害な成分を含んでいる燃料があります。特にアレルギー体質の方は、注意してください。

⚠ 注意

- 指定燃料以外の燃料を補給したり、純正以外の燃料添加剤を使用しないでください。
  有鉛ガソリンや粗悪ガソリン、軽油、アルコール系燃料を補給すると次のような悪影響をおよぼします。
  - エンジンや燃料系部品が損傷したり、最悪の場合車両火災につながるおそれがあります。
  - エンジンの始動性が悪くなるおそれがあります。
  - ノッキングが発生したり、エンジンの出力が低下するおそれがあります。
- 燃料補給作業中に、燃料を車にこぼさないようにしてください。燃料が付着すると変色、シミ、塗膜はがれの原因となります。
- 燃料を補給する際には、ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守ってください。

知識

- 無鉛プレミアムガソリンが入手できない場合、無鉛レギュラーガソリンをお使いになることもできますが、エンジンの性能を十分発揮できないことがあります。
  また、エンジン始動時やアクセルペダルを踏み込んだときに、異音が聞こえることがあります。
- バイオ燃料混合ガソリンをお使いになることもできます。バイオ燃料混合ガソリンは、日本工業規格 (JIS) や「揮発油等の品質の確保に関する法律」が定めたガソリンの規格に合致しており、製品として使用に問題ないことが確認されています。バイオ燃料混合ガソリンの商品名としては「バイオ·ガソリン」、および「いい！スリー」の2つがあり、いずれの製品も使用できます (商品マーク参照)。

バイオガソリン

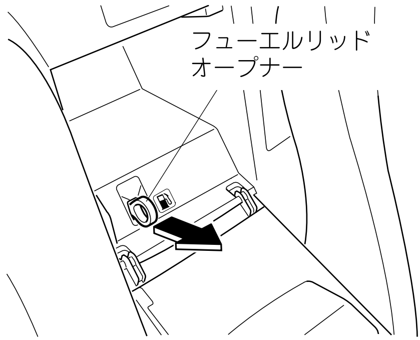
いい!スリ〜

燃料補給口は車の左側後方にあります。
燃料計の指針が“E”に近づいたら、早めに燃料を補給してください。
使用燃料とタンク容量は次のとおりです。

使用燃料	タンク容量 (参考値)
無鉛プレミアム (無鉛ハイオク) ガソリン	50L

フューエルリッドの開閉

リヤコンソールボックス内にあるフューエルリッドオープナーを引くと開きます。



閉めるときはフューエルリッドが確実にロックするまでフューエルリッドを押しつけます。

フューエルキャップの開閉

⚠ 警告

■ フューエルキャップを開けるときは、ゆっくりとゆるめ、空気の抜ける音が止まってから取りはずしてください。

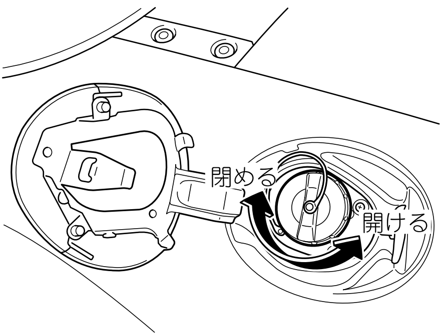
急に開けると、燃料が噴き出すことがあるため火災につながったり、目や皮膚に付着すると傷害につながるおそれがあります。

■ フューエルキャップは、確実に閉めてください。

キャップが確実に閉まっていないと、走行中に燃料がもれ、火災につながるおそれがあります。

⚠ 注意

純正部品以外のフューエルキャップは使用しないでください。燃料装置や排出ガス発散抑止装置などの故障につながるおそれがあります。

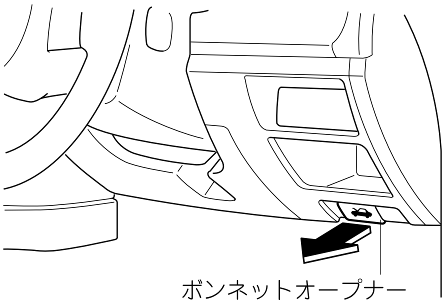


キャップを閉めるときは、カチッ、カチッと2回以上音がするまで締め付けてください。

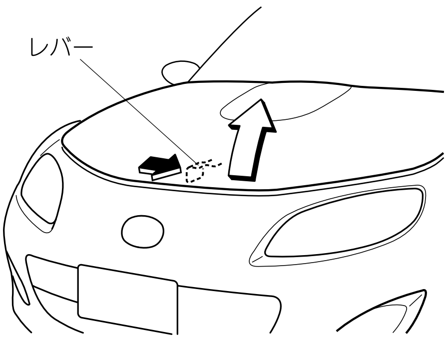
ボンネット

開けるとき

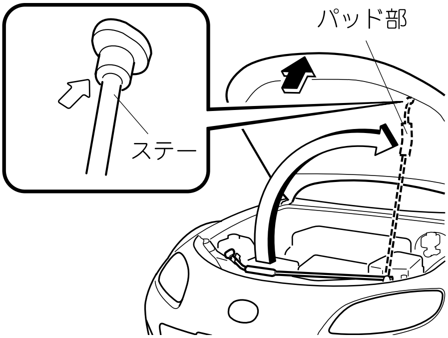
1 運転席右下にあるボンネットオープナーを引くと、ボンネットが少し浮き上がります。



2 ボンネットのすき間に手を入れ、レバーを押したままボンネットを持ち上げます。



3 パッド部を持ってステーを起こし、矢印で示すボンネットのステー穴に差し込んで固定します。



⚠ 警告

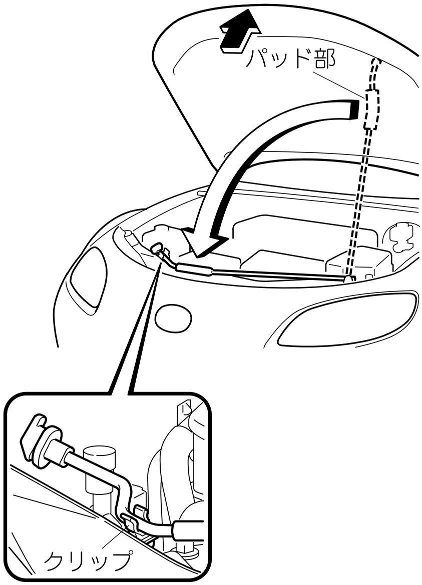
■アクティブボンネットが作動したときは、ボンネットオープナーを引かないでください。

ボンネットオープナーを引くと、さらにボンネットが上がり視界の妨げとなるため危険です。また、ボンネットを無理に押し戻さないでください。手動では下げることができないため、ボンネットが変形したり、思わぬケガをするおそれがあります。アクティブボンネットが作動したときは、必ずマツダ販売店にご相談ください。

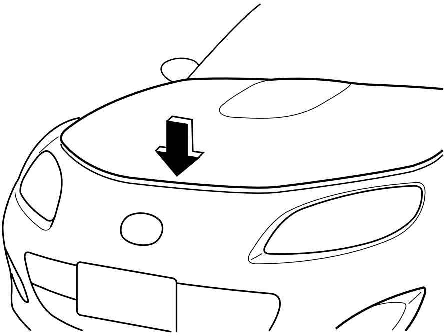
閉めるとき

1 エンジンルームに工具などが残されていないことを確認します。

2 ボンネットを手でささえてステーをはずし、パッド部を持って、クリップに固定します。



3 ボンネットをゆっくりおろし、手を離します。ボンネットの先端の中央部をガチッと音がするまで押しつけ、確実に閉めます。



⚠ 警告

■ボンネットが確実に閉まっていることを確認してください。

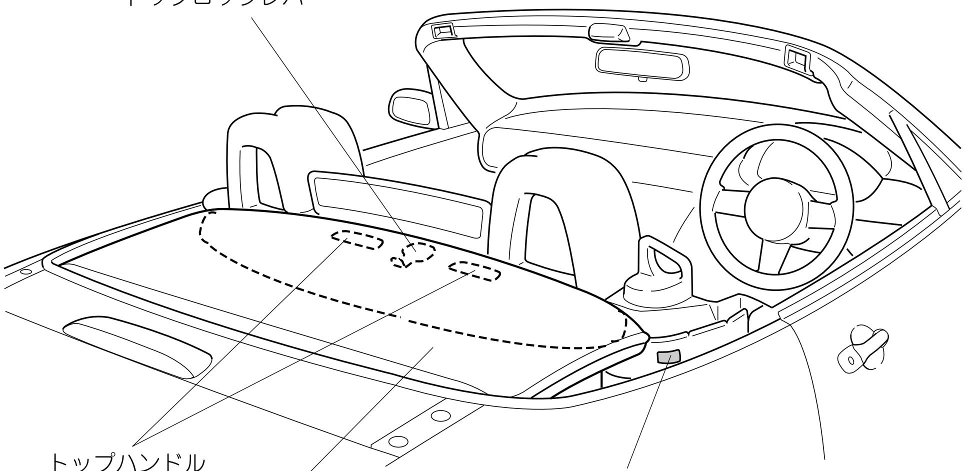
走行中にボンネットが開くと視界がさまたげられ、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- ボンネットを閉めるときは、手などをはさまないように注意してください。万一、手などをはさむと、けがをするおそれがあります。
- エンジンルームの点検をしたときは、工具や布を置き忘れないようにしてください。置き忘れるとエンジンなどを損傷したり、火災につながるなど思わぬ事故につながるおそれがあります。

ソフトトップ★

ソフトトップを開閉するときは、交通のさまたげにならない安全な場所に停車してから行なってください。



⚠ 警告

- 風が強いときにはソフトトップを開閉しないでください。風にあおられ思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 走行中は、車両から手や頭などを出さないでください。走行中に車外のものにあたったり、急ブレーキをかけたときに重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- ソフトトップを開けた状態で乗り降りするときは、フロントガラスの端に身体をぶつけないように注意してください。けがをするおそれがあります。
- ソフトトップを開閉するときは、フレームなどで手や指をはさまないよう慎重に行なってください。
- ソフトトップ周辺に落ち葉などがあるときは取り除いてください。排水口が詰まり、水漏れするおそれがあります。排水口の詳しいお手入れの仕方については、マツダ販売店にご相談ください。

注意

- ソフトトップは高品質の幌生地を使用しているため、手入れの方法を誤ると生地が硬化したり、シミや光沢ムラなどを起こすおそれがあります。
→269ページ「ソフトトップの手入れ」
- ソフトトップがぬれた状態で折りたたまないでください。品質低下やカビの原因になります。
- 盗難やいたずら防止のため、また雨から室内を保護するために、車から離れるときはソフトトップが確実に閉まっていることを確認してください。
- 外気温が5° C以下のときはソフトトップを開閉しないでください。凍結などにより、ソフトトップが損傷するおそれがあります。

開けるとき

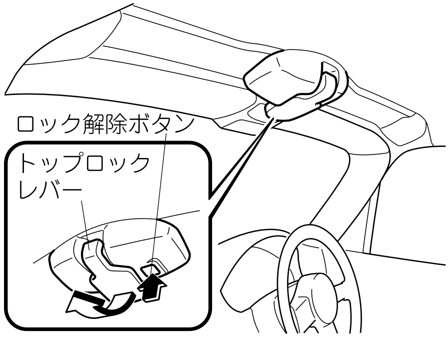
1 パーキングブレーキがかけてあることを確認します。

2 左右の窓ガラスを全開にします。

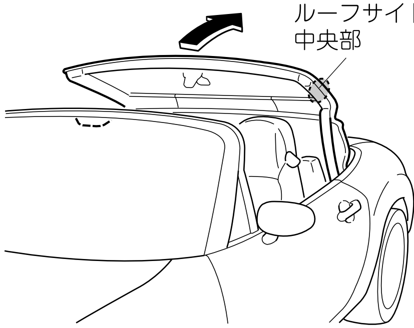
3 エンジンを止めます。

4 ソフトトップが格納される部分に、物が置かれていないことを確認します。

5 ロック解除ボタンを押しながら、トップロックレバーを手前に引いてロックを解除します。ロックがはずれたことを確認します。

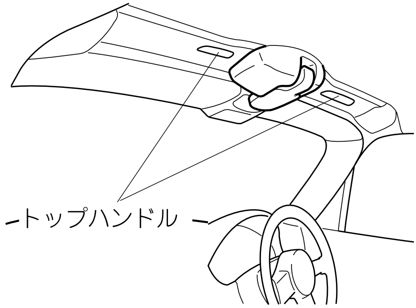


6 車両の外側に立ち、ルーフサイド中央部を持って、ソフトトップを車両後方へ引きます。

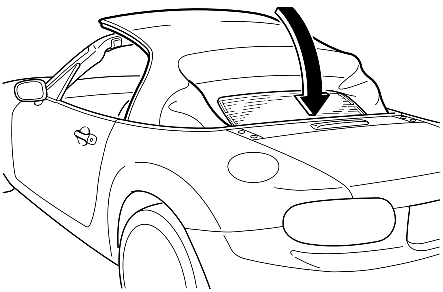


知識

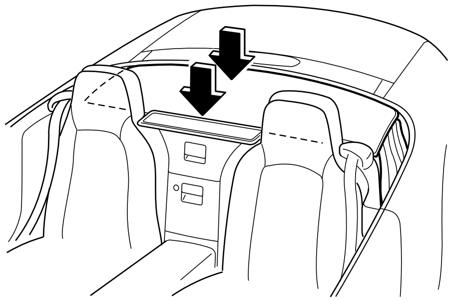
トップハンドルを使うと、車内からソフトトップを開けることができます。



7 リヤガラスを手で軽く押さえながら、ソフトトップを後方へ移動します。



8 ソフトトップを折りたたんだら、後側から前側の順に、カチッと音がするまで押さえつけます。
ソフトトップをゆさぶり、確実にロックされたことを確認します。



⚠ 警告

折りたたんだソフトトップの上に荷物などを置かないでください。走行中に飛散し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

折りたたんだソフトトップの上に座らないでください。ソフトトップの損傷や、転落してけがをするおそれがあります。

9 エアロボードを起こします。

知識

ソフトトップを開けて走行するとき、エアロボードを起こしておくと後方からの風の巻き込みを防ぐことができます。
→213ページ「エアロボード」

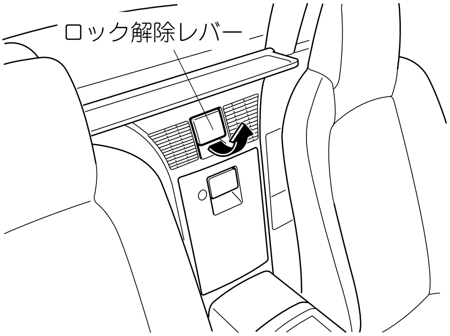
閉めるとき

1 パーキングブレーキがかけてあることを確認します。

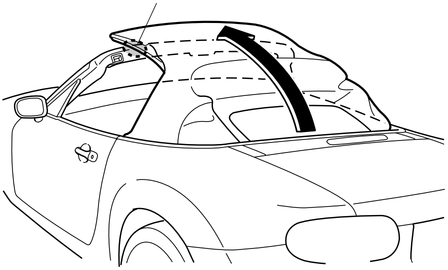
2 左右の窓ガラスを全開にします。

3 エンジンを止めます。

4 ロック解除レバーを手前に引き、ロックを解除します。

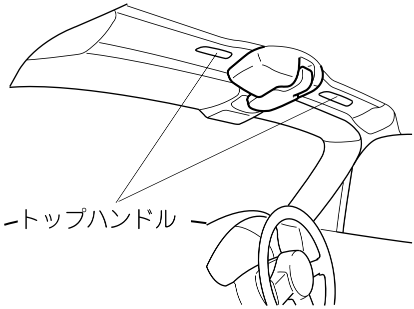


5 車両の外側に立ち、ルーフサイド中央部を持ちながら、ゆっくりと引き上げます。

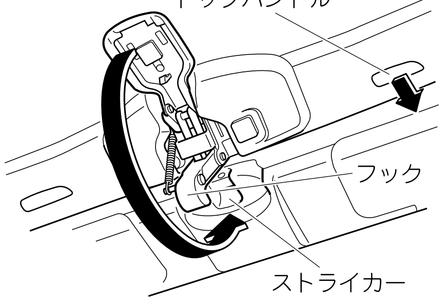


知識

トップハンドルを使うと、車内からソフトトップを閉めることができます。

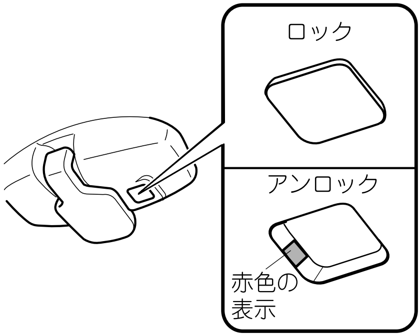


6 シートに座り、トップハンドルを持って、ソフトトップをフロントガラス側に押し当てます。
トップロックレバーをゆっくりと動かして、フックがストライカーにかかっていることを確認し、カチッと音がするまで押し上げます。



⚠ 注意

- **ロック解除ボタンに赤色の表示が見えているときは、ソフトトップがロックされていません。ソフトトップをもとにもどすときは確実にロックし、赤色の表示が見えないことを確認してください。ロックしないまま走行すると、ソフトトップが不意に開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。**



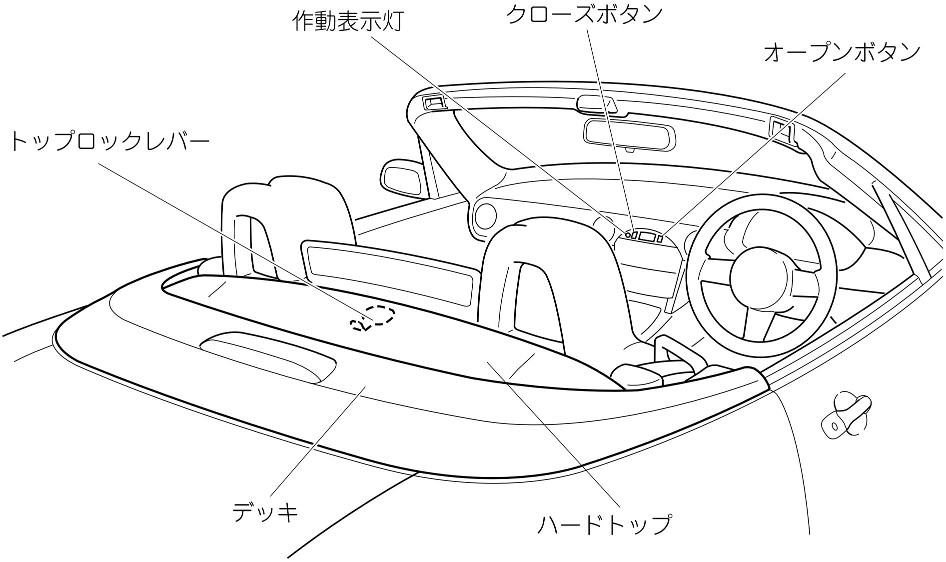
- **ソフトトップ (幌) の汚れを水で洗い流すとき、窓ガラスと幌の合わせ目付近に直接水をかけないでください。車内に水が入るおそれがあります。**
  →269ページ「ソフトトップの手入れ」

知識

- ソフトトップを長期間開けた状態で放置すると幌が収縮し、ソフトトップを閉めるときにトップロックレバーのフックがストライカーにかかりにくくなることがあります。
- トップロックレバーをロックしてもソフトトップの閉まりが悪い場合は、マツダ販売店で点検を受けてください。

パワーリトラクタブルハードトップ★

パワーリトラクタブルハードトップは、ボタン操作により電動開閉することができる機能です。開閉操作により、ハードトップ、デッキ、窓ガラスが連動して作動し、ハードトップは、デッキ下の格納部に格納されます。



⚠ 警告

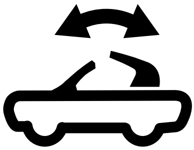
- ハードトップを開閉するときは、周囲に人がいないことを確認してください。ハードトップが不意に動き出した場合、車両にはさまれるなど思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 走行中は制限速度を守って運転してください。制限速度を超えて運転すると、横転や転覆など思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 車両が動いているときは、シートベルトを着用しシートに座ってください。車内で立ったり、デッキまたはコンソールの上に座ると、急ブレーキをかけたときに重大な傷害につながるおそれがあります。
- 走行中は車両から手や頭などを出さないでください。走行中に車外のものにあたったり、急ブレーキをかけたときに重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- **ハードトップを開けた状態で乗り降りするときは、フロントガラスの端に身体をぶつけないように注意してください。けがをするおそれがあります。**
- **ハードトップが半開の状態では走行しないでください。ハードトップが損傷するなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。**
- **お子さまにハードトップの操作をさせないでください。お子さまが誤って操作すると、不意にハードトップが閉まりお子さまや同乗者の手や頭をはさんだりするなど思わぬ事故につながるおそれがあります。**
- **デッキやリヤガラスの周辺およびハードトップの格納部に荷物を置かないでください。荷物やハードトップが損傷するなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。**
- **ハードトップ周辺に落ち葉などがあるときは取り除いてください。排水口が詰まるおそれがあります。**
- **ハードトップを開けるときは、リヤウインドーデフォッガー (曇り取り) スイッチがOFFになっていることを確認してください。デフォッガーの熱でハードトップや内装材が損傷するおそれがあります。**
- **ハードトップを開閉するときは、ハードトップの上方 (地上高約1.5m) に障害物がないことを確認してください。ハードトップや障害物を損傷するおそれがあります。**
- **ハードトップを開閉しているときは、ハードトップやデッキに荷重をかけないでください。ハードトップの開閉機構が損傷するおそれがあります。**

- ハードトップを開閉するときは、交通のさまたげにならない安全かつ水平な場所に停車してから行ってください。坂道や段差に乗り上げた状態で開閉すると、ハードトップの開閉機構が損傷するおそれがあります。
- ハードトップを開けて走行するときは、車内の荷物が風で飛ばされないようにしてください。
- 車から離れるときは、盗難やいたずら防止のため、また雨から室内を保護するために、ハードトップや両側ドアが確実に閉まっていることを確認してください。
- 自動洗車機 (コイン洗車機) や高圧洗車機を使用しないでください。ハードトップが損傷するおそれがあります。
- 外気温が低く、ハードトップおよびその周辺が凍結している場合は、無理に開閉しないでください。ハードトップが損傷するおそれがあります。
- ハードトップがぬれているときは、ハードトップを開けないでください。車内に水が入り、故障につながるおそれがあります。
- 風が強いときにはハードトップを開閉しないでください。風にあおられ思わぬ事故につながるおそれがあります。

作動表示灯



点灯時

ハードトップが半開であることをお知らせします。

点滅時

ハードトップが開閉中であることをお知らせします。(ボタン操作中)

消灯時

ハードトップが全開または全閉であることをお知らせします。

> **知識**
>
> 作動表示灯の点滅が早いときはシステムの異常が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。

作動条件

次の作動条件をすべて満たしているとき、電動でハードトップを開閉することができます。

- 車両が停止しているとき。
- 電源ポジションがONのとき。
- マニュアル車はチェンジレバーがニュートラル、オートマチック車はセレクトレバーがPまたはNのとき。
- トランクが閉まっているとき。

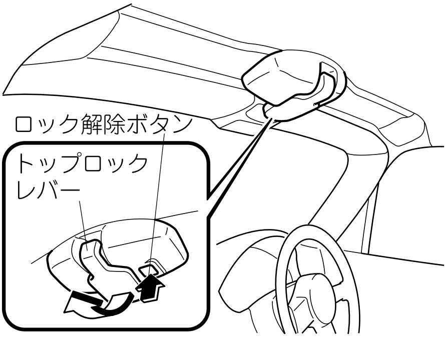
> **知識**
>
> 作動条件をすべて満たしているにも関わらず開閉できない場合は、マツダ販売店で点検を受けてください。
> 緊急時は、応急処置として手動で閉めることができます。
> →123ページ「閉まらなくなったとき」

開けるとき

1. 交通のさまたげにならず、安全に作業できる地面の平らで固い場所に車を停車させます。
2. マニュアル車はチェンジレバーをニュートラルに、オートマチック車はセレクトレバーをPにいれます。
3. ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキをかけます。
4. エンジンをかけます。

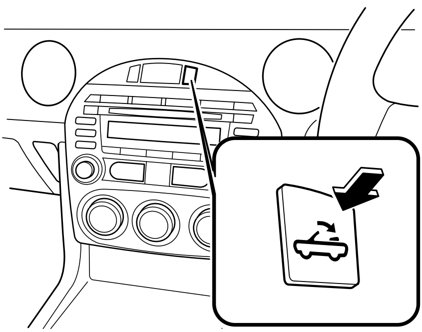
> **知識**
>
> エンジンを止めたままで、ハードトップを開閉しないでください。バッテリーがあがるおそれがあります。

5 ロック解除ボタンを押しながら、トップロックレバーを手前に引いてロックを解除します。



6 作動表示灯が点灯し、ロックがはずれたことを確認します。

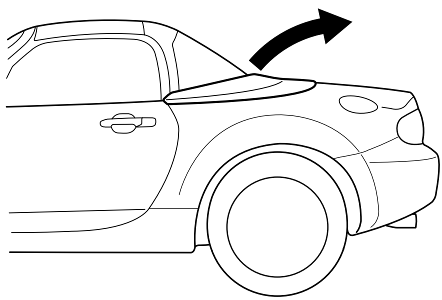
7 ハードトップが完全に開くまで、オープンボタンを押し続けます。



知識

- オープンボタンを押すと、チャイムが鳴ります。
- オープンボタンを押している間は作動表示灯が点滅し、ハードトップが開きます。
- 開けているときにボタンから手をはなすと、ハードトップは止まります。もう一度ボタンを押すと、再び開きます。

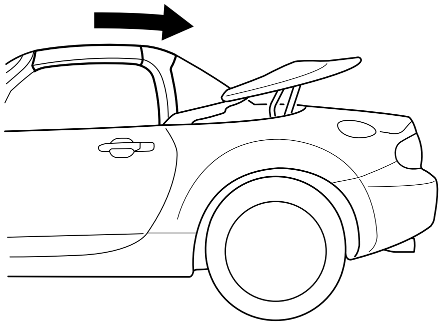
8 デッキが開きます。



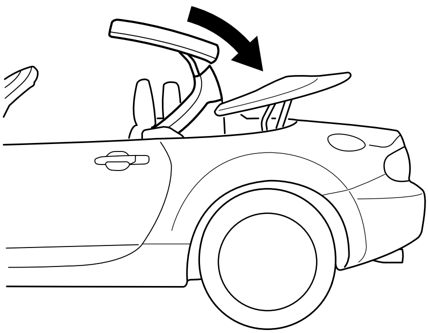
知識

窓ガラスが閉まっているときは、デッキと同時に窓ガラスが少し開きます。

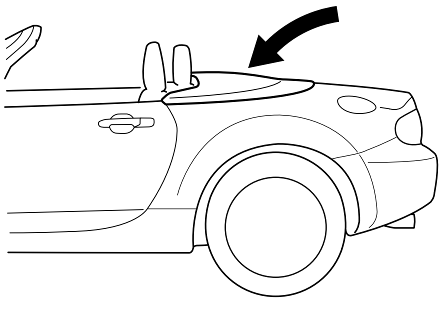
9 ハードトップが開きます。



10 ハードトップが格納部に格納されます。



11 デッキが閉まります。



知識

作動が完了するとチャイムが鳴り、作動表示灯が消灯します。

閉めるとき

1 交通のさまたげにならず、安全に作業できる地面の平らで固い場所に車を停車させます。

2 マニュアル車はチェンジレバーをニュートラルに、オートマチック車はセレクトレバーをPにいれます。

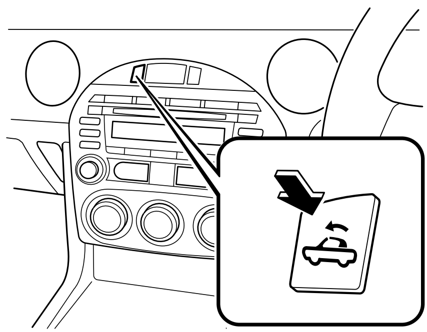
3 ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキをかけます。

4 エンジンをかけます。

知識

エンジンを止めたままで、ハードトップを開閉しないでください。バッテリーがあがるおそれがあります。

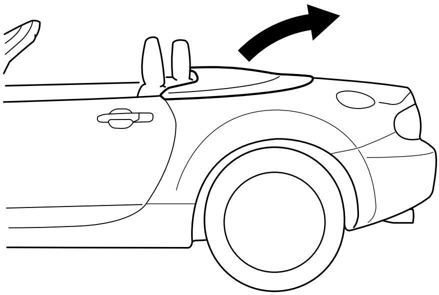
5 ハードトップが完全に閉まるまで、クローズボタンを押し続けます。



知識

- クローズボタンを押すと、チャイムが鳴ります。
- クローズボタンを押している間は作動表示灯が点滅し、ハードトップが閉まります。
- 閉めているときにボタンから手をはなすと、ハードトップは止まります。もう一度ボタンを押すと、再び閉まります。

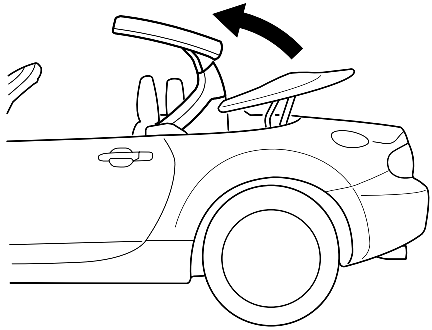
6 デッキが開きます。



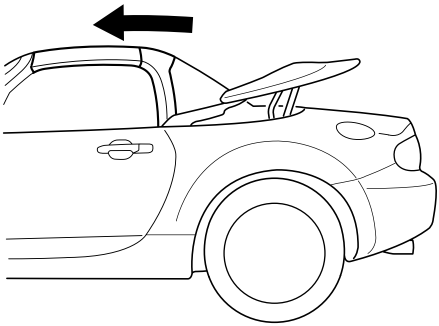
知識

窓ガラスが閉まっているときは、デッキと同時に窓ガラスが少し開きます。

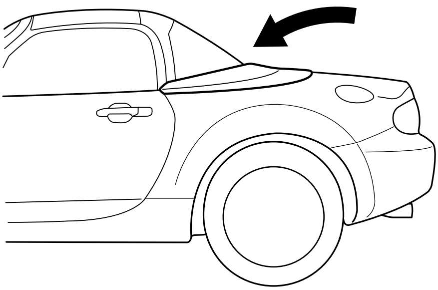
7 格納部からハードトップが出てきます。



8 ハードトップが閉まります。



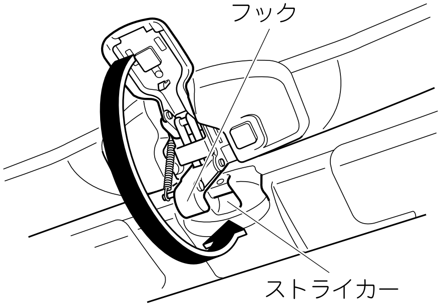
9 デッキが閉まります。



知識

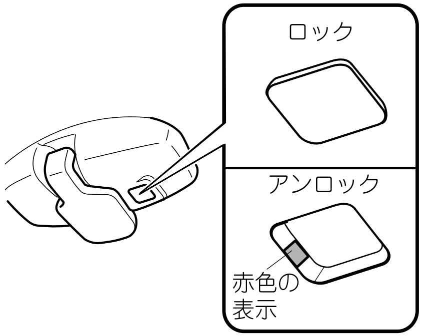
- 作動が完了するとチャイムが鳴り、作動表示灯が点灯します。
- 窓ガラスは自動で閉まりません。

10 トップロックレバーをゆっくりと動かして、フックがストライカーにかかっていることを確認し、カチッと音がするまで押し上げます。



⚠ 注意

ロック解除ボタンに赤色の表示が見えているときは、ハードトップがロックされていません。ハードトップをもとにもどすときは確実にロックし、赤色の表示が見えないことを確認してください。ロックしないまま走行すると、ハードトップが不意に開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。



ハードトップの汚れを水で洗い流すとき、窓ガラスとルーフの合わせ目付近に直接水をかけないでください。車内に水が入るおそれがあります。
→267ページ「外装の手入れ」

知識

- フックがロックされると、作動表示灯が消灯します。
- トップロックレバーをロックしてもハードトップの閉まりが悪い場合は、マツダ販売店で点検を受けてください。

閉まらなくなったとき

ハードトップがクローズボタンで閉まらなくなったときは、パワーリトラクタブルハードトップの作動条件を確認してください。
→118ページ「作動条件」
パワーリトラクタブルハードトップの作動条件をすべて満たしているにも関わらず閉まらない場合は、マツダ販売店で点検を受けてください。
緊急時は、応急処置として手動でハードトップを閉めることができます。
手動でハードトップを閉める手順は以下のとおりです。

1. デッキを固定しているロックを解除し、デッキを開ける。(デッキを開ける)
2. ハードトップを持ち上げて閉める。(ハードトップを閉める)
3. ロープをデッキのリンクに結びつけ、デッキを閉める。(デッキを閉める)

⚠ 注意

- **ハードトップが半開の状態では走行しないでください。**
- **風が強いときには作業を行なわないでください。風にあおられ思わぬ事故につながるおそれがあります。**
- **作業は必ず大人2人で行なってください。特に、ハードトップを持ち上げる作業は、必ず大人2人以上で行ってください。2人いない場合は作業を行なわないでください。けがをするおそれや、車両を損傷させるおそれがあります。**
- **作業には、複数の工具を同時に使用するなど、技術が必要な箇所があります。また、長時間無理な姿勢を続ける作業など、力が必要な箇所、けがをするおそれのある箇所が含まれます。マツダ販売店で点検を受けていただくことをおすすめします。**

知識

電灯を使用すると、作業がしやすくなります。

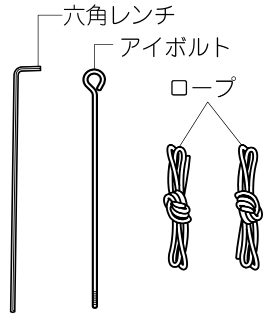
手動で閉める前に

1. 交通のさまたげにならず、安全に作業できる地面の平らで固い場所に車を停車させます。
2. マニュアル車はチェンジレバーを1またはRに、オートマチック車はセレクトレバーをPにいれます。
3. ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキをかけ、電源ポジションをOFFにします。
4. 必要に応じて、非常点滅灯を点滅させ、停止表示板(停止表示灯)を使用します。

手動で閉めるとき

工具の準備

グローブボックス内にある次の3種類の工具を用意します。
→219ページ「工具、ジャッキ」



デッキを開ける

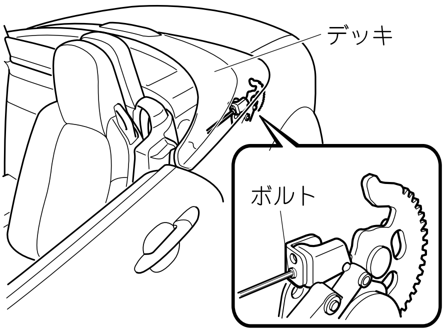
1. アンテナを取り付けている場合は、アンテナを取りはずします。

→184ページ「脱着式」

⚠ 注意

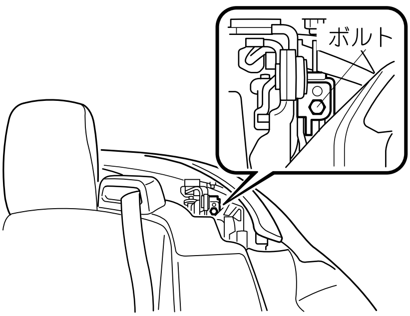
アンテナは取りはずして作業を行なってください。作業中にアンテナを損傷させるおそれがあります。

2 ギヤーユニットのボルトに六角レンチを差し込みます。

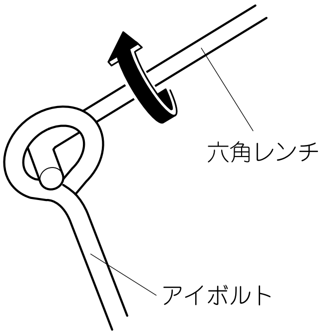


知識

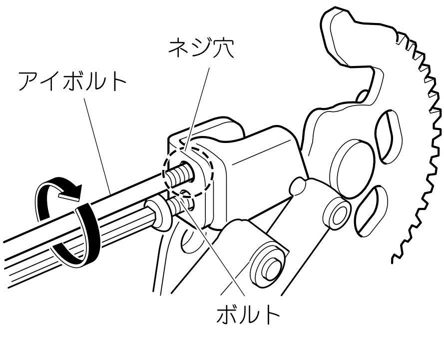
ギヤーユニットはデッキ下部にあります。



3 アイボルトを図のように使用して、六角レンチを左に4回まわしてボルトをゆるめます。



4 ゆるめたボルトの上部のネジ穴にアイボルトをあて、右に2回まわしてアイボルトを締め込みます。



知識

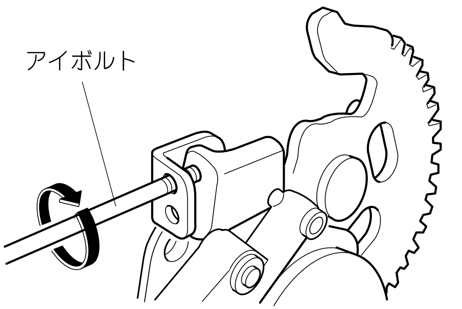
六角レンチを差し込んだ状態でアイボルトを締め込んでください。アイボルトをネジ穴にいれるとき、六角レンチがネジ穴の位置の目安となります。

5 六角レンチを使用して、ゆるめたボルトをさらに左にまわして取りはずします。

知識

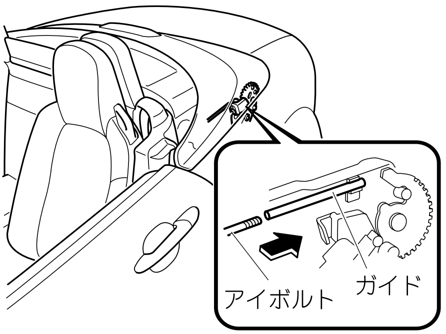
- ボルトをはずすときは、六角レンチをゆっくりと水平に引き、車内にボルトが落下しないように気をつけてください。
- 取りはずしたボルトはマツダ販売店に持参してください。ボルトが車内に落ちてしまった場合は、マツダ販売店にご相談ください。

6 アイボルトをさらに右に5回まわして、アイボルトを締め込みます。

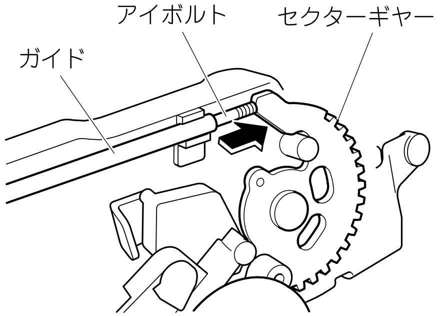


7 アイボルトを左にまわして取りはずします。

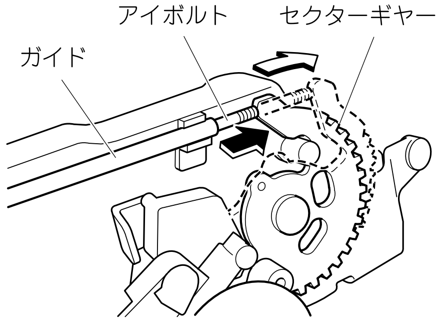
8 アイボルトをガイドに通します。



9 アイボルトをセクターギヤーに押しあてます。



10 セクターギヤーを車両後方へ押しまわし、ロックを解除します。



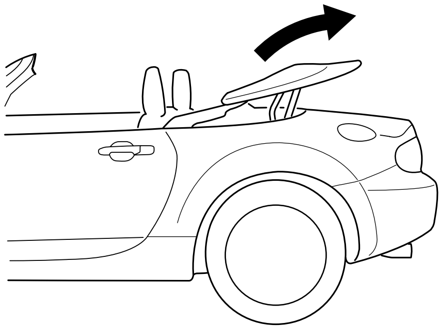
注意

ロックを解除するときは、十分に注意しながら作業を行なってください。アイボルトがセクターギヤーからすべり、けがをするおそれがあります。

11 ロックを解除したらアイボルトをガイドから抜き取ります。

12 反対側も同様の作業を行ないます。

13 車両の両側に立ち2人でデッキを持ち上げて完全に開けてください。



注意

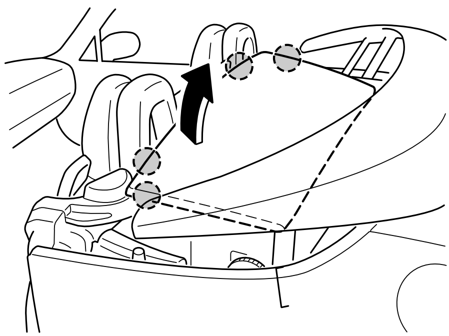
- 作業は2人で行なってください。けがをするおそれや車両に無理な力がかかり車両を損傷させるおそれがあります。
- デッキが完全に開くまで手を離さないでください。デッキが下がり、けがをするおそれがあります。
- デッキは無理に持ち上げないでください。ロックが解除されていない場合、デッキを無理に持ち上げるとデッキを破損させるおそれがあります。

ハードトップを閉める

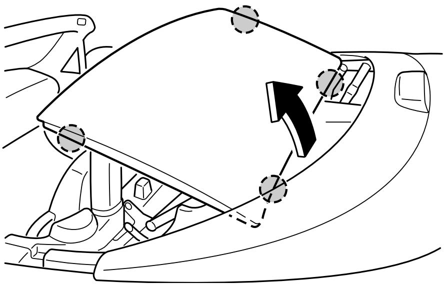
注意

- 作業は必ず大人2人で行なってください。2人いない場合は作業を行なわないでください。けがをするおそれや、車両を損傷させるおそれがあります。
- 作業には、長時間無理な姿勢を続ける作業など、力が必要な箇所、けがをするおそれのある箇所が含まれます。
- ハードトップを閉めるときは、十分に注意しながら作業を行なってください。手や指をはさみ、けがをするおそれがあります。

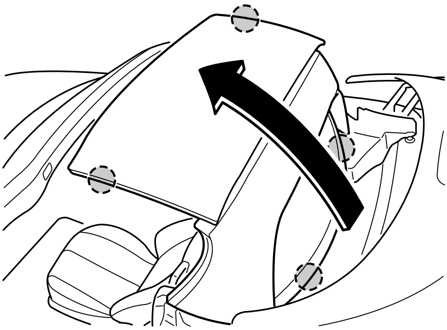
1 ハードトップの前面と側面を持ち、ハードトップの後方にすきまができるまで持ち上げます。



2 ハードトップの側面とハードトップの後面を持ち、リヤガラスの後方にすきまができるまで持ち上げます。



3 ハードトップの側面とリヤガラスの後面を持ち、車両前方に引き、ハードトップを完全に閉めます。

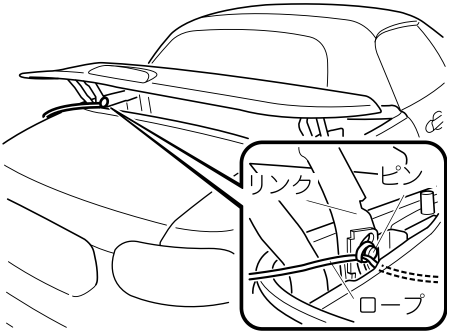


4 トップロックレバーをロックします。

→120ページ「閉めるとき」

デッキを閉める

1 ロープは中央部がゆるまないように、リンクのピンに二重に結びます。

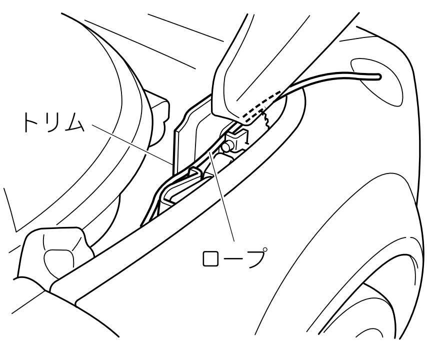


知識

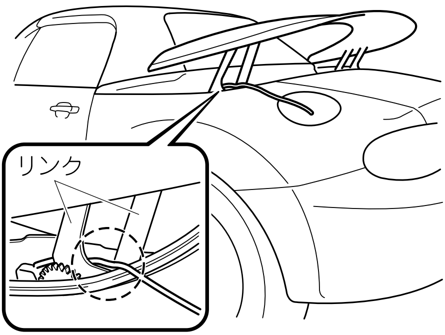
ロープはデッキの固定およびマツダ販売店で点検を受けていただくときに必要です。

2 ロープの一端はトリムのすき間に通して車内へ入れます。もう一端は2本のリンクの間を通して車外へ出します。

車内へ



車外へ

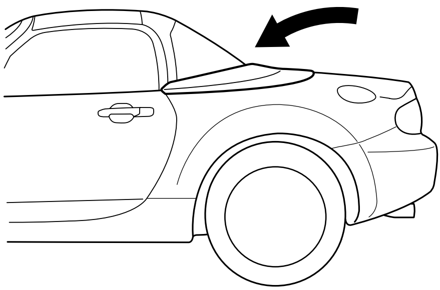


知識

ロープの一端は必ず車内へ入れてください。マツダ販売店で点検を受けていただくときに作業が困難になります。

3 反対側も同様の作業を行ないます。

4 車両の両側に立って2人でデッキを閉めます。



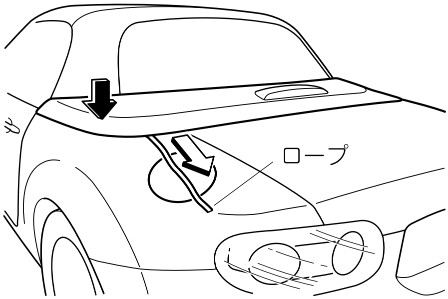
注意

作業は2人で行なってください。デッキを閉じるとき手をはさみ、けがをするおそれや車両に無理な力がかかり車両を損傷させるおそれがあります。

5 デッキを軽く下に押しながら、ロープをトランクに沿って引っ張りデッキを固定します。

知識

ロープは車両後方へ水平に引っ張ってください。

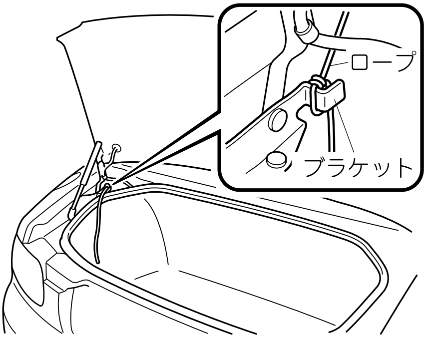


6 デッキを軽くゆすってデッキが確実に固定されていることを確認します。

7 キーまたは補助キーを使用して、トランクを開け、車外へ出したロープがたるまないようにブラケットの図に示す位置に二重に結びます。

注意

ロープは確実に結び付けてください。走行中デッキが開くおそれがあります。



知識

トランクを開けるときはキーまたは補助キーを使用してください。応急処置を行なうと、トランクリッドオープナー、アドバンストキーレス機能、リモートコントロール機能は作動しないことがあります。

8 反対側も同様にロープを結びます。

9 トランクを閉めます。

作業が終わった後

作業が終わったら必ずマツダ販売店で点検を受けてください。

警告

走行するときは車速を40km/h以下にしてください。走行中にハードトップが開くなど思わぬ事故につながるおそれがあります。

知識

応急処置を行なうと、トランクを開けるとき、トランクリッドオープナー、アドバンストキーレス機能、リモートコントロール機能は作動しないことがあります。

各部の開閉

こんなときは

リトラクタブルハードトップを誤って操作した場合や、使用上の注意が必要な場合にチャイムや表示灯でお知らせします。

警報	確認すること
オープンボタンまたはクローズボタンを押したときに、チャイムが「ピピピッ」と鳴るとき	パワーリトラクタブルハードトップの作動条件がすべて満たされているか確認してください。作動条件がすべて満たされているにも関わらずチャイムが鳴る場合は、マツダ販売店で点検を受けてください。
オープンボタンまたはクローズボタンをはなしたときに、チャイムが鳴るとき	ハードトップが全開または全閉ではありません。作業が完了するまでボタンを押し続けてください。
走行中にチャイムが「ピピピピピ…」と鳴り続け、作動表示灯が点灯したとき	ハードトップが全開または全閉ではありません。作業が完了するまでボタンを押し続けてください。全閉時は、トップロックレバーをロックしてください。
オープンボタンまたはクローズボタンを操作していないときに、作動表示灯が点滅しているとき	システムの異常が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。

イモビライザーシステム

イモビライザーシステムはアドバンストキーに信号発信機を内蔵し、あらかじめ登録されたアドバンストキー以外ではエンジンを始動できないようにした車両盗難防止装置です。

⚠ 注意

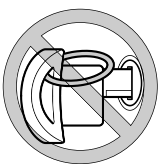
キーの故障を防ぐために次のことをお守りください。

- **強い衝撃をあたえたり、ぬらしたりしないでください。**
- **磁気を帯びた製品を近づけないでください。**
- **インストルメントパネルやボンネットの上など直射日光があたる場所や高温になる所に放置しないでください。**

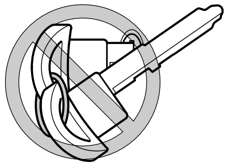
知識

アドバンストキーの電池切れや故障などにより、補助キーでエンジンを始動するとき、次のような状態にしないでください。車両が補助キーからの信号を正確に受信できず、エンジンが始動できない場合があります。

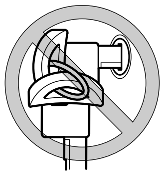
- キーグリップに金属製のリングがのっている



- キーグリップ部に他のキーの金属部や金属製のものが接している



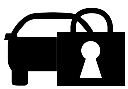
- 補助キーにスペアの補助キーや他の車両の盗難防止システムキー (信号発信機内蔵のもの) が重なっている、または近くにある



- 補助キーの近くに電子部品を含んだ製品やクレジットカードなどの磁気カードがある

システム作動

電源ポジションをONからACCまたはOFFにするとシステムが作動し、セキュリティ表示灯が点滅します。



盗難防止システム

システム解除

登録されたアドバンストキーで電源ポジションをONにするとシステムが解除され、表示灯が約3秒間点灯した後消灯します。表示灯が消灯せず点灯または点滅し続けるときはシステムの異常が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。

知識

- アドバンストキーを車内でも感知しにくい場所に置いていると、エンジンの始動ができず、セキュリティー表示灯が点灯/点滅する可能性があります。
→81ページ「作動範囲」
アドバンストキーを別の場所に置いて、電源ポジションをOFFにもどし、再度エンジンを始動してください。
- テレビ、ラジオ、トランシーバー、携帯電話などからの電波はイモビライザーシステムの作動に支障をあたえることがあります。登録されたアドバンストキーでもエンジンが始動しないときは、セキュリティ表示灯を確認してください。表示灯が点滅している場合は、電源ポジションをACCまたはOFFにもどし、しばらく待って再度エンジンを始動させてください。3回以上行なってもエンジンが始動しないときはマツダ販売店に連絡してください。
- セキュリティ表示灯が点灯/点滅したままの状態でエンジンを停止すると、再度エンジンを始動することができません。運転中にセキュリティ表示灯が点灯/点滅した場合は、エンジンを停止せずマツダ販売店で点検を受けてください。

知識

- イモビライザーシステムを修理するときはコードを再登録するためにアドバンストキー (補助キー含む) が必要です。お手持ちのすべてのアドバンストキー (補助キー含む) をマツダ販売店に持参してください。

メンテナンスについて

イモビライザーシステムまたはアドバンストキーに異常が見られる場合はマツダ販売店にご相談ください。

知識

- アドバンストキーを紛失したときのために、スペアのアドバンストキーを保管しておいてください。万一紛失したときはすぐにマツダ販売店にご相談ください。
- アドバンストキーには特有の電子コードが含まれていますので、マツダ販売店以外でアドバンストキーを追加することはできません。
- アドバンストキー (補助キー含む) を紛失した場合、盗難防止のため、イモビライザーシステムに登録されているアドバンストキーのコードをマツダ販売店で消去できます。消去した後に、今後使用するアドバンストキーを再登録する必要がありますので、お手持ちのすべてのアドバンストキー (補助キー含む) をマツダ販売店へ持参してください。登録されていないアドバンストキーではエンジンを始動することができません。

作動保証について

次のような場合はイモビライザーシステムの作動を保証できません。

- イモビライザーシステムを改造した場合。
- イモビライザーシステムに付加部品を取り付けた場合。

⚠ 注意

車両の故障を防ぐために、システムを改造したり、付加部品を取り付けたりしないでください。

ハンドル

⚠ 警告

■調節は必ず車両を停止した状態で行なってください。

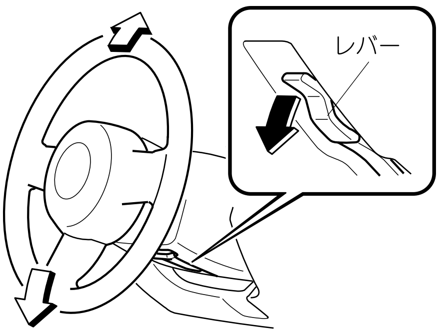
走行中に調節すると、運転姿勢が不安定になるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■調節後は、ハンドルを上下にゆさぶり、確実にロックされていることを確認してください。

走行中ハンドルが不意に動くと運転姿勢が不安定になるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

角度調節

ハンドル操作が適切にできる位置に調節することができます。



1 レバーを下げて、ハンドルを適切な位置に調節します。

2 調節後は、レバーを押し上げてロックします。

ドアミラー

⚠ 警告

■調節は走行前に行なってください。

走行中に調節すると、前方不注意で思わぬ事故につながるおそれがあります。

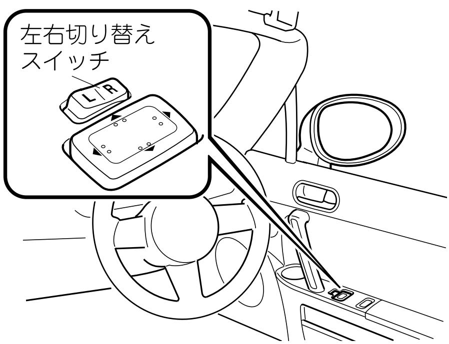
知識

ドアミラーに映る像の距離感覚は、実際より遠くに見えます。車線変更するときは、必ず肩越しに目視して後続車との距離を確認してください。

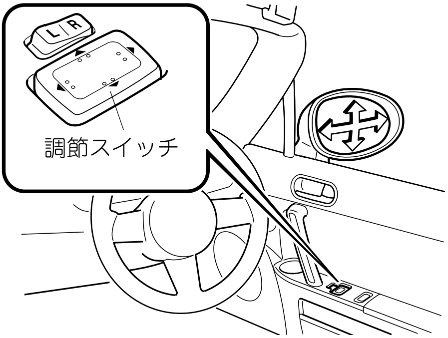
角度調節

電源ポジションがACCまたはONのとき調節ができます。

1 左右切り替えスイッチの右側 (運転席側) または左側 (助手席側) を押します。



2 調節スイッチを押して、後方が十分確認できるように調節します。



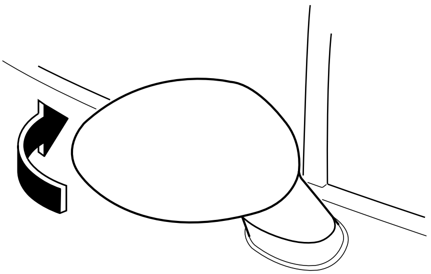
3 ミラーの調節後は、左右切り替えスイッチを中立位置にもどします。

格納するとき

⚠ 注意

ミラーを格納したまま走行しないでください。後方確認ができなくなります。

ミラー本体を手で倒して格納します。



走行前には、ミラー本体を手で持ち、ロックするところまでもどします。

ルームミラー

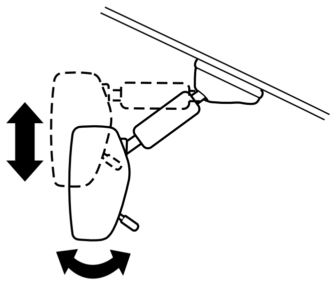
⚠ 警告

■ 調節は走行前に行なってください。

走行中に調節すると、前方不注意で思わぬ事故につながるおそれがあります。

角度/高さ調節

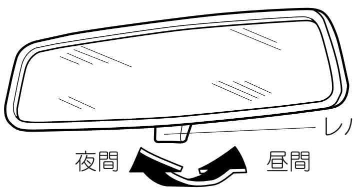
ミラー本体を動かして、後方が十分確認できるように調節します。



防眩切り替え

通常は、レバーを前方に押した状態にします。

夜間など、後続車のヘッドランプがまぶしいときは、レバーを手前に引いて調節します。



車高調整式サスペンションユニット★

車高調節を行なうことができます。
調節を行なう場合は、必ずマツダ販売店で行なってください。

警告

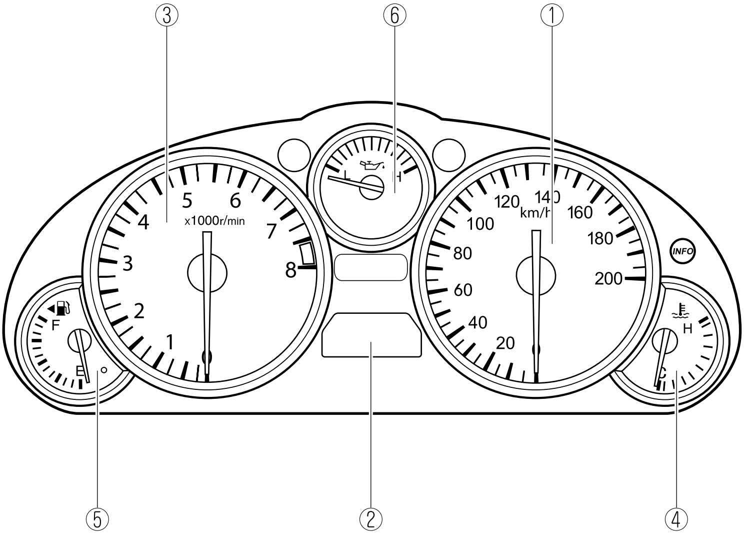
調節には専門知識が必要です。必ずマツダ販売店で行なってください。正しい方法で調節しないと車の走行安定性や操縦性が損なわれ、思わぬ事故につながるおそれがあります。

注意

車高を調節する場合は、車体と地面の距離に十分注意してください。

メーター

メーターはグレードや仕様により異なります。

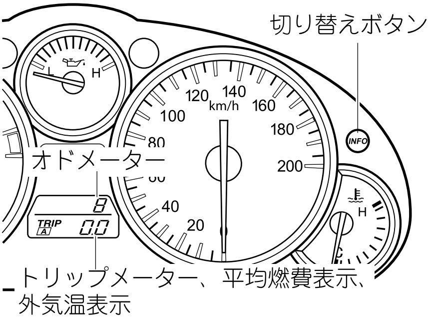


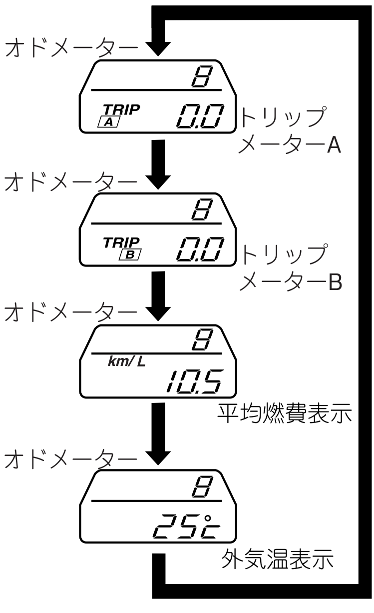
スピードメーター

走行速度をkm/hで示します。

オドメーター/トリップメーター/平均燃費表示/外気温表示

電源ポジションがONのとき、切り替えボタンを押すごとに、次のように表示が切り替わります。





オドメーター

走行した総距離をkm単位で示します。

トリップメーター

一定区間の走行距離をkm単位で示します。
(右側の数字は100m単位です。)
“TRIP”が表示されれます。

2種類 (TRIP A、TRIP B) の区間距離を計測することができます。

たとえば、TRIP Aモードで給油してからの距離を測りながら、TRIP Bモードで出発してからの距離を測ることができます。

トリップメーターを“0.0”にもどすときは、それぞれのモードのとき切り替えボタンを1秒以上押し続けます。

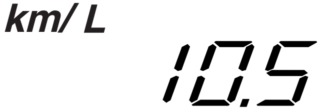
知識

次のようなときは、トリップメーターの表示が“0.0”にもどります。

- 車両整備などでバッテリーとの接続が断たれたとき。
- 走行距離が999.9kmを超えたとき。

平均燃費表示

お車を購入された時、または、過去のデータを消去した時はデータを消去した時からの累積走行距離と累積消費燃料から、約1分間毎に平均燃費を算出して表示します。



メーター、警告灯、表示灯の見方

知識

- 表示されている過去のデータを消去するには、切り替えボタンを約1秒以上押します。データを消去すると、燃費を再算出して表示する前に1分間 “−−−km/L” を表示します。
- 車両整備などでバッテリーとの接続が断たれると、過去の累積データは消去されます。

外気温表示

外気温を表示します。



知識

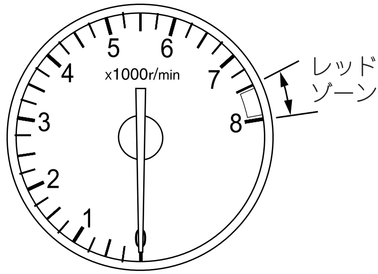
次のようなとき、外気温度表示の数値は周囲や車両の状況により、実際の外気温と異なることがあります。

- 著しく寒いとき、暑いとき
- 外気温が急激に変化したとき
- 停車時
- 低速走行時

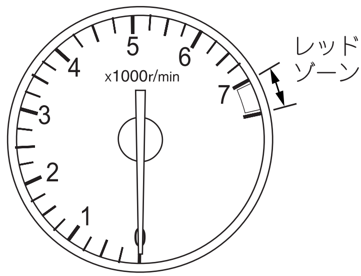
タコメーター

1分間あたりのエンジン回転数を示します。

マニュアル車



オートマチック車

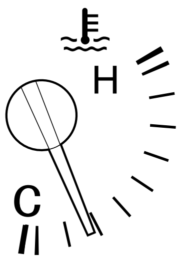


注意

指針がレッドゾーン (許容回転数以上を示す) にはいらないように運転してください。エンジンの故障につながるおそれがあります。

水温計

電源ポジションがONのとき、エンジン冷却水の温度を示します。

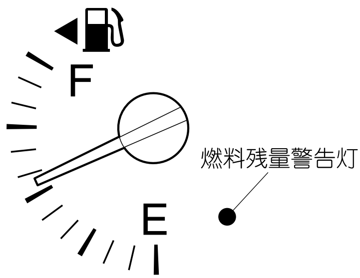


⚠ 注意

指針が"H"付近を示したときはオーバーヒートのおそれがあります。ただちに安全な場所に停車し、適切な処置をしてください。そのまま走行を続けると、エンジンの故障につながるおそれがあります。
→234ページ「オーバーヒートについて」

燃料計

電源ポジションがONのとき、燃料の残量を示します。



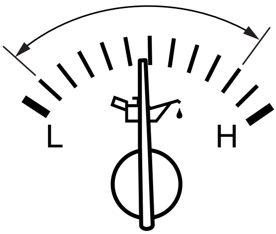
指針が"E"に近づいたら、早めに燃料を補給してください。
→106ページ「燃料補給口」

知識

- 燃料補給後は、指針が安定するまでしばらく時間がかかる場合があります。また、坂道やカーブなどでは、タンク内の燃料が移動するため、指針が振れることがあります。
- 矢印 (◀⛽) は燃料補給口が助手席側にあることを示します。
- 燃料タンク内の燃料残量が8L前後になった時に点灯します。点灯したときは、すみやかに燃料を補給してください。
- 走行状況や車両姿勢によっては、タンク内の燃料が移動する為、警告灯の点灯タイミングが変わる場合があります。

油圧計

エンジン回転中に、エンジン内部を潤滑しているオイルの圧力を示します。
針が矢印の範囲内を示していれば正常です。



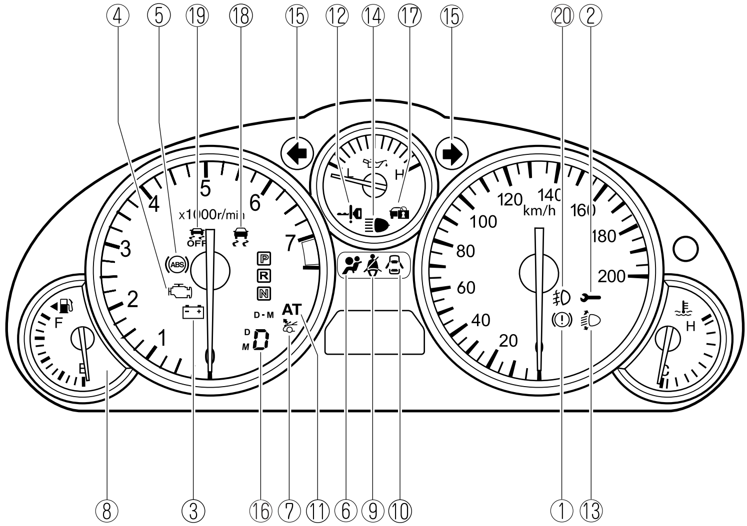
エンジン始動後に針が動かないとき、または運転中に針が“L”付近を示したときは、ただちに安全な場所に停車し、エンジンを止めエンジンオイル量を点検してください。オイルが不足しているときは補充してください。
エンジンオイルの点検、補充については別冊のメンテナンスノートに記載しています。
オイルを補充しても針が動かないときや針が“L”付近を示しているときはマツダ販売店に連絡してください。

⚠ 注意

油圧計の針が“L”付近を示しているときは、エンジンを止めてください。油圧が低くなっているため、エンジンの故障につながるおそれがあります。

警告灯、表示灯

メーターはグレードや仕様により異なります。



⑳ フロントフォグランプ
表示灯 154ページ

ブレーキ警告灯



点灯するとき

- 電源ポジションをONにすると点灯し、しばらくすると消灯します。
- パーキングブレーキをかけているときは点灯します。パーキングブレーキを解除すると消灯します。
- 次のようなときは点灯し続けます。ただちに安全な場所に停車し、マツダ販売店に連絡してください。
  - ブレーキ液が不足しているとき。
  - ブレーキ装置 (電子制御制動力配分システム) に異常があるとき。

警告

■ ブレーキ警告灯が点灯したまま走行しないでください。

ブレーキが効かなくなり思わぬ事故につながるおそれがあります。また停車するときは、ブレーキの効きが悪くなっているおそれがあるため、ブレーキペダルを通常より強く踏んでください。

■ ブレーキ警告灯とABS警告灯が同時に点灯したときは、ただちに安全な場所に停車し、マツダ販売店に連絡してください。

急制動時に後輪が通常より早くロックしやすくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

故障警告表示灯



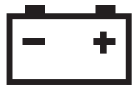
点灯するとき

- 電源ポジションをONにすると点灯し、しばらくすると消灯します。
- ブレーキスイッチに異常があると点灯し続けます。マツダ販売店で点検を受けてください。

警告

■故障警告表示灯が点灯したまま走行しないでください。
ブレーキが効かなくなり思わぬ事故につながるおそれがあります。また停車するときは、ブレーキの効きが悪くなっているおそれがあります。マツダ販売店で点検を受けてください。

充電警告灯



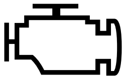
点灯するとき

- 電源ポジションをONにすると点灯し、エンジンをかけると消灯します。
- エンジン回転中、充電装置に異常があると点灯します。ただちに安全な場所に停車し、マツダ販売店に連絡してください。

警告

■充電警告灯が点灯したまま走行しないでください。
エンジンが不意に停止して思わぬ事故につながるおそれがあります。

エンジン警告灯



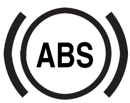
点灯するとき

- 電源ポジションをONにすると点灯し、エンジンをかけると消灯します。
- エンジン制御システムに異常があると点灯し続けます。高速走行をせず、マツダ販売店で点検を受けてください。

知識

点検を受けるときは、エンジン警告灯が点灯したときの走行状態をマツダ販売店にご連絡ください。

ABS警告灯



点灯するとき

- 電源ポジションをONにすると点灯し、しばらくすると消灯します。
- システムに異常があるときは点灯し続けます。マツダ販売店で点検を受けてください。

⚠ 警告

■ ブレーキ警告灯とABS警告灯が同時に点灯したときは、ただちに安全な場所に停車し、マツダ販売店に連絡してください。

急制動時に後輪が通常より早くロックしやすくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

知識

- ABS警告灯が点灯しているときは、ABSが作動しないため、急制動時やすべりやすい路面での制動時には、車輪がロックすることがあります。
- ABS警告灯が点灯しているときは、ABSは作動しませんが、通常のブレーキ性能は確保されています。

エアバッグ警告灯/プリテンショナー警告灯



点灯するとき

- 電源ポジションをONにすると点灯し、しばらくすると消灯します。
- 次のようなときはシステムの異常が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。
  - 電源ポジションをONにしても点灯しないとき。
  - 点灯し続けるとき。

点滅するとき

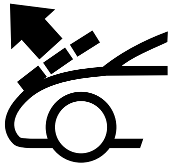
点滅し続けるときはシステムの異常が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。

⚠ 警告

■エアバッグ警告灯/プリテンショナー警告灯が点灯または点滅したまま走行しないでください。

衝突したときにエアバッグまたはプリテンショナー機構が正常に作動せず、重大な傷害につながるおそれがあります。マツダ販売店で点検を受けてください。

アクティブボンネット警告灯



点灯するとき

- 電源ポジションをONにすると点灯し、しばらくすると消灯します。
- 次のようなときはシステムの異常が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。
  - 電源ポジションをONにしても点灯しないとき
  - 点灯し続けるとき

点滅するとき

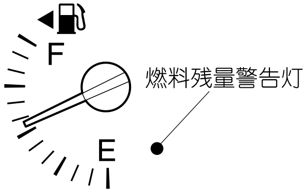
点滅し続けるときはシステムの異常が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。

⚠ 警告

■アクティブボンネット警告灯が点灯または点滅したまま走行しないでください。

歩行者に衝突したときにアクティブボンネット機構が正常に作動せず、本来の機能を果たせないおそれがあります。マツダ販売店で点検を受けてください。

燃料残量警告灯



点灯するとき

電源ポジションがONのとき燃料が少なくなると点灯します。燃料を補給すると消灯します。

知識

- 燃料タンク内の燃料残量が8L前後になった時に点灯します。点灯したときは、すみやかに燃料を補給してください。
- 走行状況や車両姿勢によっては、タンク内の燃料が移動する為、警告灯の点灯タイミングが変わる場合があります。

シートベルト警告灯



点灯するとき

電源ポジションがONのとき、運転席シートベルトを着用していないと点灯します。運転席シートベルトを着用すると消灯します。

点滅するとき

運転席シートベルトを着用しないまま約20km/h以上になると点滅します。その後も着用しないままだと点灯しつづけます。運転席シートベルトを着用すると消灯します。

→44ページ「正しい着用のしかた」

半ドア警告灯



点灯するとき

ドアが確実に閉まっていないと点灯します。ドアを確実に閉めると消灯します。

警告

■半ドア警告灯が点灯したまま走行しないでください。

走行中にドアが開き思わぬ事故につながるおそれがあります。

メーター、警告灯、表示灯の見方

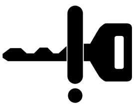
オートマチックトランスミッション警告灯(オートマチック車)

AT

点灯するとき

- 電源ポジションをONにすると点灯し、しばらくすると消灯します。
- 走行中、システムに異常があると点灯します。マツダ販売店で点検を受けてください。

KEY警告灯(赤)/KEY表示灯(緑)



KEY警告灯(赤)

点灯するとき

- 電源ポジションをONにすると点灯し、しばらくすると消灯します。
- アドバンストキーレス機能になんらかの故障が発生すると点灯し続けます。

注意

KEY警告灯(赤)が点灯し続けるときは、アドバンストキーレス機能による運転を続けないでください。安全な場所に停車し、補助キーによる運転に切り替え、早めにマツダ販売店で点検を受けてください。

点滅するとき

- 次のようなとき、警告灯が点滅し、電源ポジションをOFF以外にできないことをお知らせます。
  - アドバンストキーの電池が切れたとき
    →79ページ「電池の交換」
  - アドバンストキーが作動範囲内にないとき
  - アドバンストキーを車内でも感知しにくい場所に置いているとき
    →81ページ「作動範囲」
  - アドバンストキーに類似した他社のキーが作動範囲内にあるとき
- 次のようなときは警告灯が点滅し続け、電源ポジションをOFFにせずに、アドバンストキーを車外に持ち出したことを知らせます。
  アドバンストキーを車内にもどすと消灯します。
  - 電源ポジションをOFFにせずに、運転席ドアを開け、アドバンストキーを車外に持ち出したとき
  - 電源ポジションをOFFにせずに、アドバンストキーを車外に持ち出したあと、すべてのドアを閉めたとき

知識

警告灯の点滅と同時にチャイムでもお知らせします。
→90ページ「警報」

KEY表示灯(緑)

点灯するとき

電源ポジションがOFFの状態でスタートノブを押し込んだとき、正規のアドバンストキーが車内にあることを確認できると点灯し、スタートノブをACCにまわすことができることを知らせます。
→84ページ「エンジンの始動」

点滅するとき

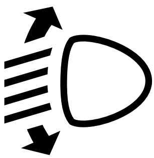
アドバンストキーの電池容量が残り少なくなっていると、電源ポジションをONからACCまたはOFFにしたときに、30秒間点滅します。

アドバンストキーが使用できなくなる前に新しい電池と交換してください。

→79ページ「電池の交換」

> **知識**
>
> 電池容量が少なくなっても、KEY表示灯(緑) が点滅しないように設定することができます。
>
> →92ページ「設定変更 (カスタマイズ機能)」

ヘッドランプオートレベリング警告灯

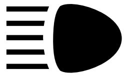


点灯するとき

- 電源ポジションをONにすると点灯し、しばらくすると消灯します。
- 点灯し続けるときはシステムの異常が考えられます。

  マツダ販売店で点検を受けてください。

ヘッドランプ上向き表示灯



点灯するとき

ヘッドランプを上向き (ハイビーム) にすると点灯します。下向き (ロービーム) にすると消灯します。

方向指示/非常点滅表示灯



点滅するとき

方向指示器/非常点滅灯スイッチを操作すると点滅します。

点滅が異常に速くなったとき

点滅が異常に速くなったときは電球切れが考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。

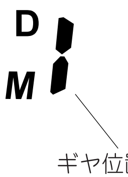
メーター、警告灯、表示灯の見方

セレクトレバー位置表示灯 (オートマチック車)

電源ポジションがONのとき、使用中のセレクトレバーのセット位置を示します。



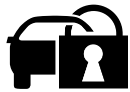
D - M



マニュアルモードまたはダイレクトモードのとき、使用しているギヤ位置を表示します。

→168ページ「マニュアルモード」
→172ページ「ダイレクトモード」

セキュリティ表示灯



点滅するとき

- 電源ポジションをONからACCまたはOFFにするとシステムが作動し、セキュリティ表示灯が点滅します。登録されたキー/アドバンストキーで電源ポジションをONにするとシステムが解除され、約3秒間表示灯が点灯した後消灯します。
- 登録されたキー/アドバンストキーで電源ポジションをONにしても表示灯が点滅し続けるときはシステムの異常が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。

点灯するとき

登録されたキー/アドバンストキーで電源ポジションをONにするとシステムが解除され、表示灯が約3秒間点灯した後消灯します。表示灯が消灯せず点灯または点滅し続けるときはシステムの異常が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。

TCS/DSC作動表示灯 (DSC装備車)



点灯するとき

- 電源ポジションをONにすると点灯し、しばらくすると消灯します。
- 次のようなときはシステムの異常が考えられます。
  マツダ販売店で点検を受けてください。
  - 電源ポジションをONにしても点灯しないとき、または点灯したままのとき。
  - 走行中に点灯したとき。

点滅するとき

走行中にTCSまたはDSCが作動すると点滅します。

DSC OFF表示灯 (DSC装備車)



点灯するとき

- 電源ポジションをONにすると点灯し、しばらくすると消灯します。
- DSC OFFスイッチを押して、TCS/DSCを解除すると点灯します。
- 次のようなときはシステムの異常が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。
  - 電源ポジションをONにしても点灯しないとき、または点灯したままのとき。
  - TCS/DSCを解除していないのに点灯したとき。

点滅するとき

バッテリーのターミナルやヒューズの脱着などにより、バッテリーとの接続が断たれるとDSCが作動しなくなり、DSC OFF表示灯が点滅します (TCS/DSC作動表示灯も点灯します)。次の手順で作動可能な状態にしてください。

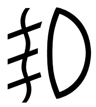
バッテリーとの接続が断たれたとき

DSCを作動可能な状態にするために、次の操作を行なってください。

1. 電源ポジションをONにします。
2. ハンドルを右いっぱいまでまわし、その後左いっぱいまでまわします。
3. DSC OFF表示灯が消灯することを確認します。
4. 電源ポジションをOFFにし、再度ONにします。
5. TCS/DSC作動表示灯が消灯することを確認します。

電源ポジションを再度ONにした後でもTCS/DSC作動表示灯およびDSC OFF表示灯が消灯しないときは、マツダ販売店に連絡してください。

フロントフォグランプ表示灯☆



点灯するとき

フォグランプを点灯させると点灯します。
フォグランプを消灯させると消灯します。

警報音

キー抜き忘れ防止チャイム

補助キーを差し込んだまま、電源ポジションをOFFまたはACCにして運転席ドアを開けると、チャイムが鳴り補助キーの抜き忘れを知らせます。

ランプ消し忘れ防止チャイム

ランプを点灯させたまま、電源ポジションをOFFにして (補助キー使用時はエンジンスイッチから補助キーを抜いて)、運転席ドアを開けると、チャイムが鳴りランプの消し忘れを知らせます。

リバースポジションチャイム (オートマチック車)

電源ポジションがONのとき、セレクトレバーをRにいれるとチャイムが鳴り、セレクトレバーがRにはいっていることを運転者に知らせます。
車外の人には聞こえないので注意してください。

シートベルト着用忘れチャイム

運転席シートベルトを着用していないまま、車速が約20km/h以上になるとしばらくの間チャイムが鳴ります。 (鳴り始めると、車速を落としても鳴り続けます。)
運転席シートベルトを着用すると鳴り止みます。

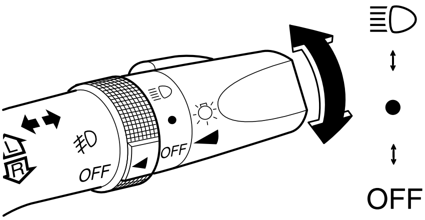
アドバンストキーレス警報

アドバンストキーレス機能を誤って使用した場合や、使用上の注意が必要な場合にチャイムとメーターの表示灯で知らせます。
→90ページ「警報」

ランプスイッチ

ランプの点灯/消灯

電源ポジションに関係なく使用できます。
ランプスイッチをまわすと、各ランプが点灯/消灯します。



スイッチ位置	OFF	●	≣D
ヘッドランプ	消灯	消灯	点灯
車幅灯、尾灯、番号灯	消灯	点灯	点灯

知識

- エンジンを停止しているときに、ランプを点灯させたままにしないでください。バッテリーがあがるおそれがあります。
- ヘッドランプ、制動灯などのランプは、雨天走行や洗車などの使用条件によりレンズ内面が一時的に曇ることがあります。これはランプ内部と外気の温度差によるもので、雨天時などに窓ガラスが曇るのと同様の現象であり、機能上の問題はありません。ただし、レンズ内面に大粒の水滴がついているときやランプ内に水がたまっているときは、マツダ販売店にご相談ください。

ディスチャージヘッドランプについて

ディスチャージヘッドランプは、太陽光に近い白い光で広範囲を照らします。
ヘッドランプのロービームに装備されています。

⚠ 警告

■ディスチャージヘッドランプの交換·修理をするときは、必ずマツダ販売店へご相談ください。

ディスチャージヘッドランプは高電圧を使用しているため、取り扱いを誤ると感電するおそれがあります。

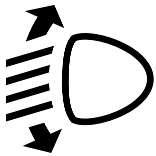
知識

ヘッドランプが点滅するとき、または著しく明るさが低下したときはバルブの寿命が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。

ヘッドランプレベリング

ヘッドランプを点灯したとき乗員や荷物の状況に応じてヘッドランプの照らす方向を上下方向へ自動で調節し、一定に保ちます。

ヘッドランプオートレベリング警告灯



点灯するとき

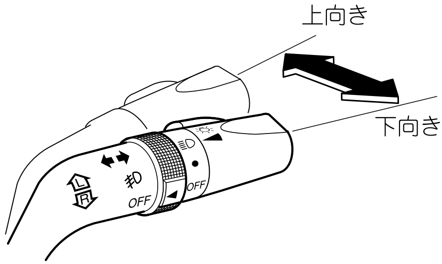
- 電源ポジションをONにすると点灯し、しばらくすると消灯します。
- 点灯し続けるときはシステムの異常が考えられます。
  マツダ販売店で点検を受けてください。

ランプ消し忘れ防止チャイム

ランプを点灯させたまま、電源ポジションをOFFにして (補助キー使用時はエンジンスイッチから補助キーを抜いて)、運転席ドアを開けると、チャイムが鳴りランプの消し忘れを知らせます。

ヘッドランプの切り替え

ヘッドランプが点灯しているとき、レバーを前後に操作すると、ヘッドランプの向きが切り替わります。
前方に押すと上向き (ハイビーム)、手前に引くと下向き (ロービーム) になります。
上向き (ハイビーム) のときは、メーター内のヘッドランプ上向き表示灯が点灯します。



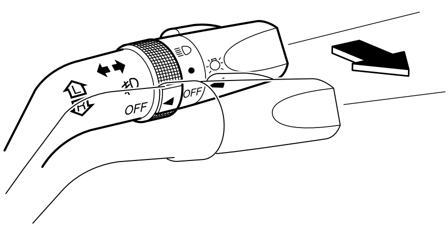
知識

- 遠くを照らしたいときに上向き (ハイビーム) にしてください。
- 対向車がいるときや、市街地走行などで上向きが不適切なときは下向き (ロービーム) にしてください。

パッシング合図

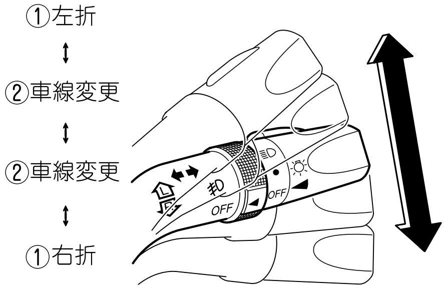
ランプスイッチの位置に関係なく、レバーを引いている間ヘッドランプが上向き (ハイビーム) で点灯します。

同時にメーター内のヘッドランプ上向き表示灯が点灯します。



方向指示器

方向指示器の操作



電源ポジションがONのとき使用できます。

レバーを操作すると、左または右のメーター内の方向指示灯が点滅し、手を離すと消灯します。

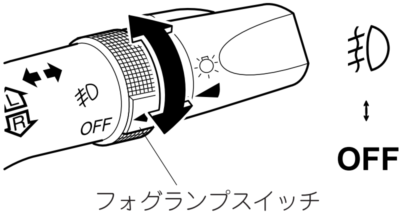
レバーはハンドルをもどすと、自動的にもとの位置にもどります。もどらないときは、手でもどしてください。

知識

- 点滅が異常に速くなった場合は、電球切れが考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。
- 方向指示器を操作するときは、非常点滅灯スイッチをOFFの位置にしてください。非常点滅灯が作動しているときは、方向指示灯は作動しません。

フォグランプスイッチ★

霧などで視界が悪いときに使用します。
ランプスイッチが● または≡D の位置のとき使用できます。
フォグランプスイッチを≢D の位置にすると、フォグランプが点灯します。



フォグランプスイッチをOFFの位置にする、またはランプスイッチをOFFの位置にすると消灯します。

ワイパー/ウォッシャースイッチ

電源ポジションがONのとき作動します。

⚠ 警告

■寒冷時にウォッシャー液を噴射するときは、ガラスをあたためてから行なってください。

ウォッシャー液がガラス面で凍結し、視界不良などで思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- 凍結時や長時間ワイパーを使用しなかったときは、ワイパーゴムがガラスに貼り付いていることがあります。ガラスに貼り付いたまま作動させると、ワイパーゴムの損傷、ワイパーモーターの故障につながるおそれがあります。
- ガラスがかわいているままでワイパーを作動させると、ガラスに傷がついたりワイパーゴムを損傷するおそれがあります。ガラスがかわいているときは、ウォッシャー液を噴射してください。
- ウォッシャー液が十分に出ないときは、ウォッシャースイッチを使用しないでください。ウォッシャー液が出ないままで、ウォッシャースイッチを操作し続けると、ポンプの故障につながるおそれがあります。

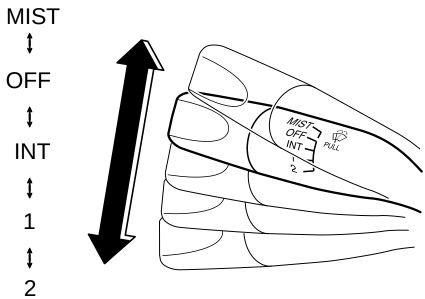
 ☆印はグレードや仕様変更などにより装備の有無が異なります。

知識

- ウォッシャー液を補給しても液が出ないときは、ノズルに異物がつまっていることがあります。針などでつまりを取ってください。
- 降雪時にワイパーを作動させていると、ガラスに雪が積もってワイパーが停止することがあります。積雪などでワイパーが停止したときは、安全な場所に停車してワイパースイッチをOFFの位置にした後、積もった雪を取り除いてください。

フロントワイパー/ウォッシャー

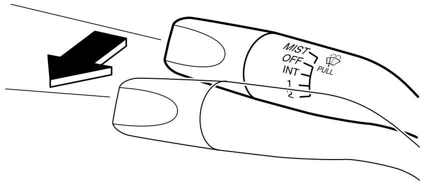
ワイパーの操作



レバー位置	作動状態
MIST	レバーを上に押し上げている間作動
OFF	停止
INT	間欠作動
1	低速作動
2	高速作動

ウォッシャーの操作

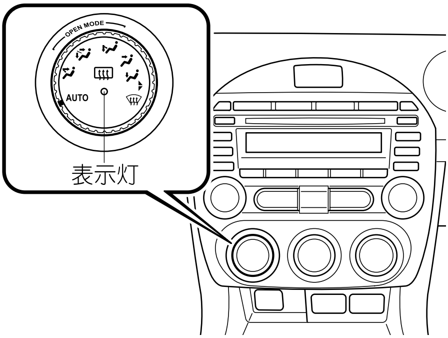
レバーを手前に引いている間、ウォッシャー液が噴射し、ワイパーが数回作動します。



リヤウインドーデフォッガー(曇り取り)スイッチ

リヤウインドーを熱線であたため、曇りを取ります。

電源ポジションがONのとき使用できます。
スイッチを押すと作動します。
作動中はスイッチ内の表示灯が点灯します。
作動を停止したいときは、もう一度スイッチを押します。



⚠ 注意

リヤウインドーの内側には熱線が取り付けてあります。清掃するときは熱線を傷つけないようにしてください。
→270ページ「ガラス、ミラーの手入れ」

知識

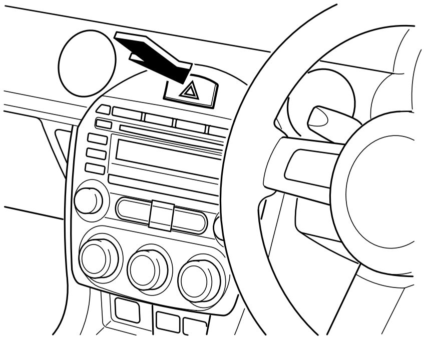
エンジン回転中に使用してください。また、連続して長時間使用しないでください。バッテリーがあがるおそれがあります。

ホーン

ハンドルの マーク周辺部を押すとホーンが鳴ります。

非常点滅灯スイッチ

故障などでやむをえず路上駐車するときや、非常時に使用します。
スイッチを押すとすべての方向指示灯が点滅します。同時にメーター内にある非常点滅表示灯も点滅します。
もう一度押すと消灯します。



知識

方向指示器を操作するときは、非常点滅灯スイッチをOFFの位置にしてください。

エンジンスイッチ

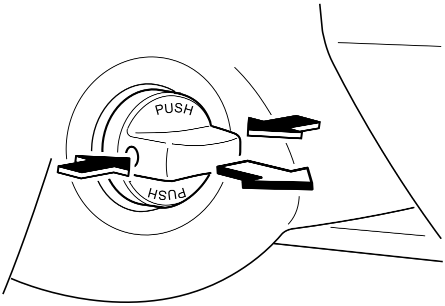
知識

アドバンストキーレス機能を使ってエンジンをかけるときは84ページの「エンジンの始動」をお読みください。

キー (補助キー) を使ってエンジンをかけるときは、次の操作を行なってください。

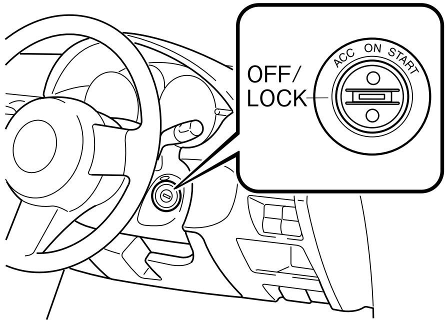
1 補助キーをアドバンストキーから取りはずします。
→88ページ「補助キー機能」

2 スタートノブをエンジンスイッチから取りはずします。
スタートノブは左右両側のボタンを押したまま手前に引くと、取りはずすことができます。



3 補助キーをエンジンスイッチへ差し込みます。

各位置の働き



※印字 (刻印) は実際の車両と異なる場合があります。

電源ポジション (エンジンスイッチ)	働き
OFF/LOCK	電源OFFの状態 キーまたは補助キー (エンジンスイッチ)を抜き差しできる位置
ACC	エンジン停止時に、オーディオなどが使用できる位置
ON	エンジン回転中の位置
START	エンジンを始動する位置

エンジンスイッチをまわして、電源ポジションをACCからOFF、またはOFFからACCにするときは、補助キーを押し込んでまわしてください。

知識

- エンジンスイッチをまわして、電源ポジションをONにしたとき、燃料タンク付近からフューエルポンプのモーター作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。
- エンジンを止めたままで、オーディオなどを長時間使用したり、電源ポジションをONまたはACCのまま放置しないでください。バッテリーがあがるおそれがあります。
- ハンドルがロックされているときは、キーまたは補助キー (エンジンスイッチ)をまわしにくいことがあります。ハンドルを左右に動かしながらキーまたは補助キー (エンジンスイッチ)をまわしてください。
- オートマチック車はセレクトレバーの位置がP以外のときは、エンジンスイッチをまわして、電源ポジションをACCからOFFにすることができません。

キー抜き忘れ防止チャイム

補助キーを差し込んだまま、電源ポジションをOFFまたはACCにしてドアを開けると、チャイムが鳴り補助キーの抜き忘れを知らせます。

エンジンの始動

エンジンをかける前に

1. パーキングブレーキがかかっていることを確認します。
2. マニュアル車はチェンジレバーがニュートラル位置、オートマチック車はセレクトレバーがPの位置にあることを確認します。
3. 正しい運転姿勢をとり、右足でアクセルペダルとブレーキペダルが確実に踏めるか確認します。
   ペダルの踏み間違いのないように、ペダルの位置を確認しておいてください。
   →40ページ「正しい運転姿勢」

クラッチスタートシステム (マニュアル車)

クラッチスタートシステムは、ギヤが入っている状態でクラッチペダルを踏まずにスターターをまわしたとき、車が動き出すのを防止する装置です。
エンジンをかけるとき、クラッチペダルをいっぱいに踏み込まないとスターターがまわらないため、エンジンがかかりません。

知識

クラッチスタートシステム装備車は、ギヤを入れたまま電源ポジションをSTARTにし続けて車を緊急避難させることができません。
→217ページ「エンストで動けなくなったとき」

エンジンをかけるとき

1 ブレーキペダルをしっかりと踏みます。

2 マニュアル車は、クラッチペダルをいっぱいに踏み込みます。

知識

クラッチペダルをいっぱいに踏み込まないとエンジンがかからないようになっています。
→163ページ「クラッチスタートシステム (マニュアル車)」

3 アクセルペダルを踏まずにエンジンスイッチをまわして、電源ポジションをSTARTにし、エンジンをかけます。

注意

連続して10秒以上エンジンスイッチをまわして、電源ポジションをSTARTにしないでください。スターターの故障やバッテリーあがりの原因になります。エンジンがかからないときは、エンジンスイッチをまわして、電源ポジションをOFFにもどし、10秒以上待ってからエンジンをかけなおしてください。

知識

冷間始動後は、エンジン制御システムの働きによりエンジン回転数が高くなりますが、自動的に適正な回転数に下がります。

エンジンの停止

知識

エンジンルームを早期に冷却するため、電源ポジションをONからOFFにしたとき、エアコンのON/OFFにかかわらず電動ファンが数分間回転することがあります。

1 マニュアル車はチェンジレバーをニュートラルの位置、オートマチック車はセレクトレバーをPの位置にします。

2 電源ポジションをOFFにします。

注意

車から離れるときは、電源ポジションがOFFになっていることを確認してください。

ブレーキ

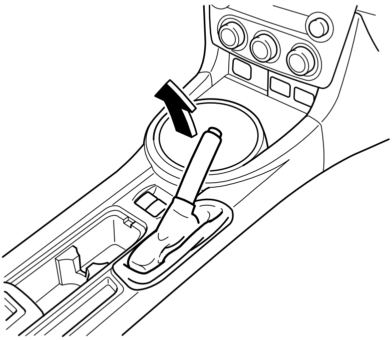
パーキングブレーキ

⚠ 警告

■パーキングブレーキをかけたまま走行しないでください。

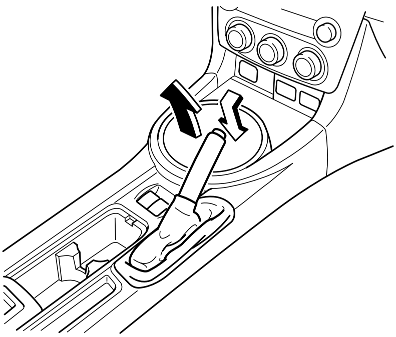
ブレーキ部品が早く摩耗したり、ブレーキが過熱するためブレーキの効きが悪くなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

かけるとき



解除するとき

レバーを少し引き上げ、先端のボタンを押してもどします。



ブレーキ警告灯



点灯するとき

- 電源ポジションをONにすると点灯し、しばらくすると消灯します。
- パーキングブレーキをかけているときは点灯します。パーキングブレーキを解除すると消灯します。
- 次のようなときは点灯し続けます。ただちに安全な場所に停車し、マツダ販売店に連絡してください。
  - ブレーキ液が不足しているとき。
  - ブレーキ装置 (電子制御制動力配分システム) に異常があるとき。

⚠ 警告

■ブレーキ警告灯が点灯したまま走行しないでください。

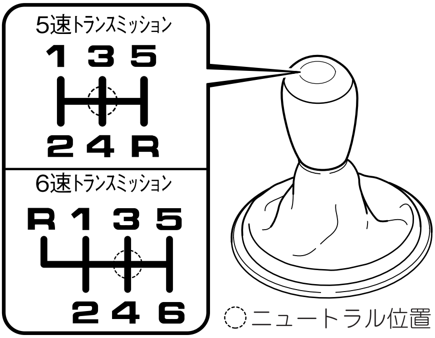
ブレーキが効かなくなり思わぬ事故につながるおそれがあります。また停車するときは、ブレーキの効きが悪くなっているおそれがあるため、ブレーキペダルを通常より強く踏んでください。

■ブレーキ警告灯とABS警告灯が同時に点灯したときは、ただちに安全な場所に停車し、マツダ販売店に連絡してください。

急制動時に後輪が通常より早くロックしやすくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

マニュアルトランスミッション

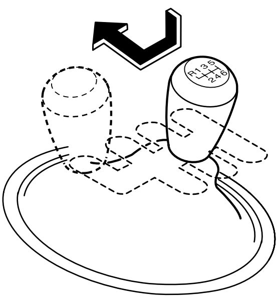
チェンジレバーを操作するときは、クラッチペダルをいっぱいに踏み込んでください。



マニュアルトランスミッションは、シフトの誤操作を防ぐ装置が装備されています。

(5速トランスミッション車)
Rにいれるときは、チェンジレバーをニュートラル位置にして、R方向へ操作してください。

(6速トランスミッション車)
Rにいれるときは、チェンジレバーを下方向へ押しながらR方向へ操作してください。



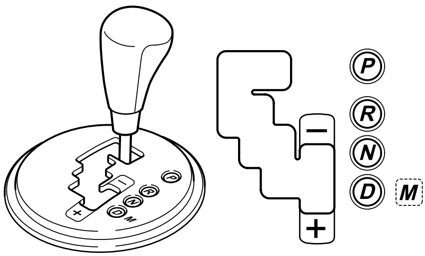
⚠ 注意

- Rにいれるときは、車が完全に止まってから行なってください。トランスミッションの故障につながるおそれがあります。
- 5速から4速に変速するときは、チェンジレバーを横方向に押し過ぎないでください。思いがけず2速に入りトランスミッションの故障につながるおそれがあります。
- (6速トランスミッション車)
  Rにいれるとき以外は、誤操作を防ぐためにチェンジレバーを下方向へ押さないでください。

オートマチックトランスミッション

173ページの「オートマチック車を運転するとき」もあわせてお読みください。

各位置の働き



P (パーキング)

駐車およびエンジンを始動する位置。
Pでのみエンジンスイッチから補助キーを抜くことができます。

R (リバース)

車を後退させる位置。
チャイムが鳴り、セレクトレバーがRにはいっていることを運転者に知らせます。

N (ニュートラル)

動力が伝わらない位置。
エンジンを始動することはできますが、安全のためPの位置で行なってください。

D (ドライブ)

通常走行する位置。
車速に応じて1速から6速までを自動変速します。
一時的にダイレクトモードにすることができます。
→172ページ「ダイレクトモード」

M (マニュアル)

マニュアル走行する位置。
ギヤ位置を手動で切り替えることができます。
→168ページ「マニュアルモード」

シフトロック装置

シフトロック装置は、発進時の誤操作を防ぐためのものです。

セレクトレバーをPから動かすとき

1 ブレーキペダルを踏み込んだままにします。

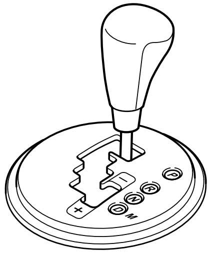
2 エンジンを始動させます。

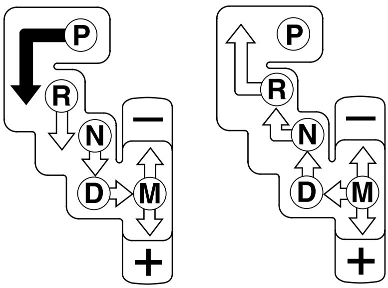
3 セレクトレバーを動かします。

知識

- 電源ポジションがACCまたはOFFのときは、セレクトレバーをPから動かすことはできません。
- セレクトレバーがP以外の位置ではキーを抜くことができません。

セレクトレバーの操作





レバー操作	
➡	ブレーキペダルを踏んだまま、セレクトレバーを操作します。
⇨	ゲートにそって、そのままセレクトレバーを操作します。

知識

- ⇨ の操作は、誤作動防止のため、各ギヤ位置ごとに節度をつけ確実に行なってください。
- セレクトレバーをPから操作するとき、セレクトレバーを助手席側に動かしたままブレーキペダルを踏むと操作できないことがあります。先にブレーキペダルを踏んでから操作してください。

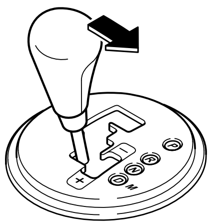
AASモードについて

AAS (アクティブアダプティブシフト) モードとは、快適に運転するため、道路の状況やドライバーの操作に最適なシフトポイントを自動的にコントロールするモードです。
セレクトレバーがDのとき、アクセルペダルをいっぱいに踏み込んで急加速をしたり、アクセルやブレーキの操作で加速または減速をしばらくの間行なうことでAASモードになる場合があります。

AASモードでコーナーに進入すると、ギヤ位置を維持したまま旋回することができるため、コーナー出口では、進入したときのギヤ位置から加速することができます。AASモードは、最適のギヤ位置を維持するためシフトチェンジが行なわれない場合がありますが異常ではありません。

マニュアルモード

セレクトレバーをDからMにいれるとマニュアルモードになります。
マニュアルモードでは、ギヤ位置を手動で切り替えることができます。



セレクトレバーをMからDにいれるとマニュアルモードが解除されます。

知識

- 停車時にマニュアルモードにした場合、ギヤは1速になります。
- Dレンジ5速走行時にアクセルペダルを踏み込まずにマニュアルモードにした場合、ギヤは4速になります。
- Dレンジ6速走行時にアクセルペダルを踏み込まずにマニュアルモードにした場合、ギヤは5速になります。

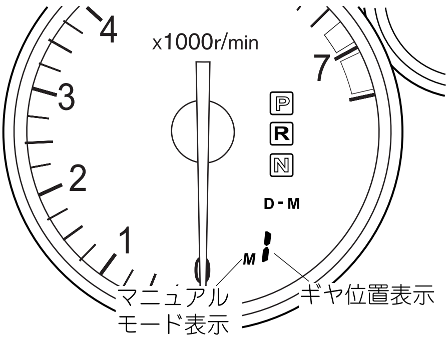
表示灯

マニュアルモード表示

マニュアルモードにすると、メーター内にあるセレクトレバー位置表示灯のMが点灯します。

ギヤ位置表示

ギヤ位置が表示されます。



高速走行中、速度によりシフトダウンできないときは、ギヤ位置表示が2回点滅します。

シフトチェンジ (変速) のしかた

セレクトレバーまたはステアリングシフトスイッチによりシフトチェンジすることができます。

知識

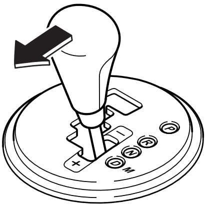
- ステアリングシフトスイッチ装備車は、左右のステアリングシフトスイッチを同時に操作しても1段しか変速されません。
- ステアリングシフトスイッチ装備車は、ステアリングシフトスイッチのUPスイッチとDOWNスイッチを同時に操作しても変速されません。

シフトアップ (M1→M2→M3→M4→M5→M6)

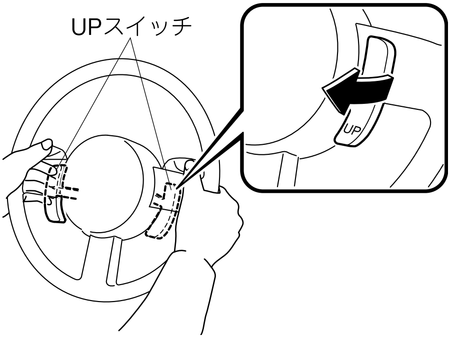
知識

- 低速時はシフトアップできないことがあります。
- タコメーターの指針がレッドゾーンに近づくと、トランスミッションは加速を損なうことなく自動的にシフトアップします。

(セレクトレバーでの操作)
セレクトレバーを＋側に動かすとシフトアップ(高速ギヤに変速)します。



(ステアリングシフトスイッチでの操作)
ステアリング裏側のUPスイッチを手前に引くとシフトアップ(高速ギヤに変速)します。



シフトダウン(M6→M5→M4→M3→M2→M1)

⚠ 警告

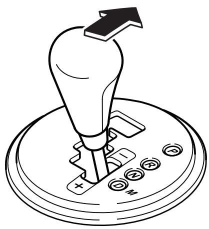
■高速走行中、またはぬれた路面や積雪路、凍結路を走行しているときは、急激なエンジンブレーキの使用(シフトダウン)は避けてください。

タイヤがスリップし、思わぬ事故につながるおそれがあります。

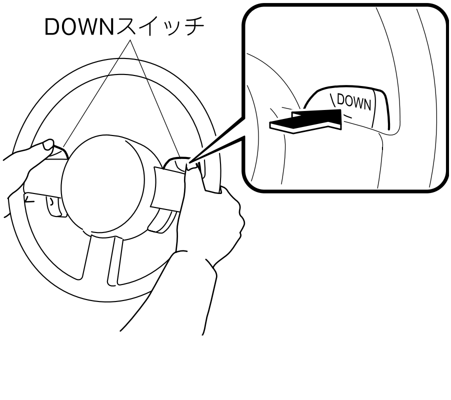
知識

- 高速走行中は、速度によりシフトダウンできないことがあります。
- 減速中は、速度により自動的にシフトダウンします。
- マニュアルモードでは、アクセルペダルをいっぱいに踏み込んでもキックダウンしません。
→173ページ「オートマチック車の特性」

(セレクトレバーでの操作)
セレクトレバーを－側に動かすとシフトダウン(低速ギヤに変速)します。



(ステアリングシフトスイッチでの操作)
ステアリング表側のDOWNスイッチを押すとシフトダウン(低速ギヤに変速)します。



2速固定モード

車両が停止しているとき、セレクトレバーを＋ 側に動かして2速にすると2速固定モードになり、ギヤ位置は2速に固定されます。雪道などすべりやすい路面での発進や走行がしやすくなります。2速固定モードのときに、セレクトレバーを＋ 側または－ 側に動かして2速以外にすると2速モードは解除されます。

シフトチェンジ (変速) 制限速度

マニュアルモードでは、次の速度条件のときセレクトレバーを操作すると変速します。

シフトアップ

低速走行中にシフトアップする場合、各ギヤ位置での制限速度より低いときは変速しません。

ギヤ位置	速度
M1→M2	0～18km/h以上 (アクセルペダルを踏み込む量による)
M2→M3 M3→M4	22～32km/h以上 (アクセルペダルを踏み込む量による)
M4→M5	40～48km/h以上 (アクセルペダルを踏み込む量による)
M5→M6	50～68km/h以上 (アクセルペダルを踏み込む量による)

シフトダウン

高速走行中にシフトダウンする場合、各ギヤ位置での制限速度を超えているときは変速しません。
このとき、ギヤ位置表示が2回点滅し、変速できないことを運転者に知らせます。

ギヤ位置	速度
M2→M1	35km/h以下
M3→M2	80km/h以下
M4→M3	117km/h以下
M5→M4	164km/h以下
M6→M5	—

減速時、次の速度条件のときは自動的にシフトダウンします。

ギヤ位置	速度
M2→M1	12km/h以下
M3→M2	15km/h以下
M4→M3	20km/h以下
M5→M4	38km/h以下
M6→M5	47km/h以下

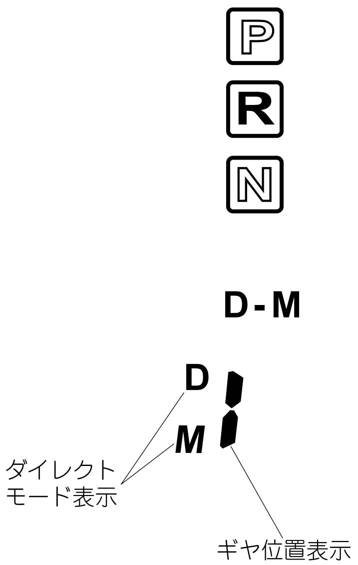
知識

2速固定モード時は、自動的に1速にシフトダウンしません。

ダイレクトモード☆

セレクトレバーをDの位置で走行中、ステアリングシフトスイッチを操作すると一時的にギヤ位置を切り替えることができます。
ダイレクトモードのときは、表示灯にDとMが点灯し、使用しているギヤ位置が表示されます。
ダイレクトモードは、次の状態になると解除されます。

- 定速走行になったとき
- タコメーターの指針がレッドゾーンに近づいたとき
- アクセルペダルを大きく踏み込んだとき
- 停車したとき、または、低速走行になったとき



知識

ダイレクトモードは、速度によりシフトアップ、シフトダウンできないことがあります。また、アクセルペダルの踏み込み量や加速度によってダイレクトモードが解除されますので、長時間任意のギヤで走行したい場合は、マニュアルモードをご使用ください。

オートマチック車を運転するとき

オートマチック車の特性

クリープ現象

エンジンがかかっているとき、セレクトレバーがP、N以外にはいっていると、アクセルペダルを踏まなくても車が動き出します。この現象をクリープ現象といいます。

- 停車中は車が動かないようにブレーキペダルをしっかり踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- エンジン始動直後やエアコン作動時は、エンジンの回転数が高くなりクリープ現象が強くなります。ブレーキペダルをしっかり踏んでおいてください。
- 渋滞や狭い場所での移動は、クリープ現象を利用すると、アクセルペダルを踏まずにブレーキ操作のみで速度を調節できます。

キックダウン

走行中、セレクトレバーがDのときアクセルペダルをいっぱいに踏み込むと、自動的に低速ギヤに切り替わり、急加速させることができます。
この操作をキックダウンといいます。

- 追い越しや高速道路での合流など、加速が必要なときに行ないます。
- すべりやすい路面やカーブを走行するときは、急激なアクセル操作はしないでください。

発進するとき

警告

■アクセルペダルを踏んだままセレクトレバーを操作しないでください。

車が急発進し思わぬ事故につながるおそれがあります。

知識

エンジン始動直後やエアコン作動時は、エンジンの回転数が高くなり、クリープ現象が強くなります。

1. ブレーキペダルを踏んだまま、セレクトレバーを操作します。
   前進 …D、M
   後退 …R
2. セレクトレバーの位置を確認します。
3. パーキングブレーキを解除します。
4. ブレーキペダルを徐々にゆるめ、アクセルペダルをゆっくり踏み発進します。

知識

- セレクトレバーをRにいれるとチャイムが鳴り、セレクトレバーがRにはいっていることを運転者に知らせます。
- 後退時は身体を後ろにひねった姿勢になります。ブレーキペダルを確実に踏めるよう注意してください。
- 少し後退したときなどはセレクトレバーをRにいれたことを忘れてしまうことがあります。後退したあとは、すぐにセレクトレバーをNにもどし、発進時にはセレクトレバーの位置を確認してください。

運転装置の使いかた

急な坂道での発進

パーキングブレーキをかけたまま、アクセルペダルをゆっくり踏み、車が動く感触を確認しながらパーキングブレーキをもどします。

走行するとき

⚠ 警告

■走行中はセレクトレバーをNにいれないでください。

トランスミッションの故障につながります。また、エンジンブレーキが全く効かないため思わぬ事故につながるおそれがあります。

■高速走行中、またはぬれた路面や積雪路、凍結路を走行しているときは、急激なエンジンブレーキの使用 (シフトダウン) は避けてください。

タイヤがスリップし、思わぬ事故につながるおそれがあります。

通常走行

セレクトレバーをDにいれて走行します。アクセルとブレーキの操作で加速/減速します。
ギヤは1速から6速の間で、自動的に変速されます。

マニュアルモード走行

停車中または走行中にセレクトレバーをDからMにいれると、マニュアルモードにセットされ、マニュアルトランスミッションのような操作ができます。
→168ページ「マニュアルモード」

急加速

セレクトレバーがDのとき、アクセルペダルをいっぱいに踏み込むと、キックダウンして急加速できます。

急な上り坂での走行

坂の勾配に応じ、マニュアルモードで変速してください。エンジン回転の変化が少ないなめらかな走行ができます。

下り坂での走行

⚠ 警告

■下り坂ではフットブレーキとエンジンブレーキを併用してください。

フットブレーキを使いすぎると、ブレーキが加熱して効きが悪くなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

エンジンブレーキが必要なときは、マニュアルモードにして、低速ギヤにシフトダウンしてください。
マニュアルモードのときは、走行速度にあわせて1段ずつシフトダウンし、エンジンブレーキを併用してください。

停車するとき

1. ブレーキペダルをしっかりと踏んでおきます。
2. 必要に応じてパーキングブレーキをかけます。
3. 停車時間が長くなりそうなときは、セレクトレバーをNまたはPにいれます。

⚠ 警告

■ 停車中、むやみにアクセルペダルを踏まないでください。

セレクトレバーがP、N以外にはいっているとき、誤ってアクセルペダルを踏むと急発進するため思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ 停車後、再発進するときはセレクトレバーの位置に思い違いがないよう確認してください。

意に反して車が動き出すと、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだり、上り坂でセレクトレバーを前進位置にいれ、アクセルをふかしながら停車しないでください。トランスミッションが過熱し、故障につながるおそれがあります。

駐車するとき

1. 車を完全に止めます。
2. セレクトレバーをPにいれます。
3. ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキをかけます。
4. エンジンを止めます。

⚠ 警告

■ 駐車するときは、セレクトレバーをPにいれ、パーキングブレーキをかけてください。

パーキングブレーキをかけただけや、セレクトレバーをPにいれただけで駐車していると、車が勝手に動き出し思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ エンジンをかけたまま駐車しないでください。

万一セレクトレバーがP以外にはいっていた場合、クリープ現象で車が勝手に動き出したり、乗り込むときに誤ってアクセルペダルを踏み、急発進するなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

セレクトレバーをPにいれるときは、車を完全に止めてから行なってください。車が完全に止まる前にセレクトレバーをPにいれると、トランスミッションに無理な力がかかり故障につながるおそれがあります。

そのほかに気をつけること

⚠ 警告

■ 坂道などで、セレクトレバーを前進位置に入れたまま後退したり、後退位置に入れたまま前進することは行わないで下さい。

エンジンが停止してブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなったりして思わぬ事故につながるおそれがあります。

MEMO

4 快適カーライフのために

エアコンを上手に使用していただくために

使用するときは

エアコンはエンジンをかけた状態で使用してください。

ガラスが曇るときは

湿度の高い日はガラスが曇りやすくなります。このようなとき、エアコンを使用して曇りを取ることができます。エアコンを作動させると吹き出し風が除湿されるため、効果的に曇りを取ることができます。

外気導入と内気循環について

通常は外気導入で使用してください。内気循環は、トンネル内や渋滞など外気が汚れているときや、急速に冷房したいときなど外気を遮断したいときに一時的に使用してください。

炎天下に駐車したあとは

炎天下に駐車したあとは室内の温度が大変高くなります。このようなときは、窓ガラスを開けて、室内の熱気を逃がしてからエアコンを作動させてください。

長期間エアコンを使用しないときは

長期間エアコンを使用しないときにも、内部のオイル循環のため、1か月に1回程度エアコンを作動させてください。

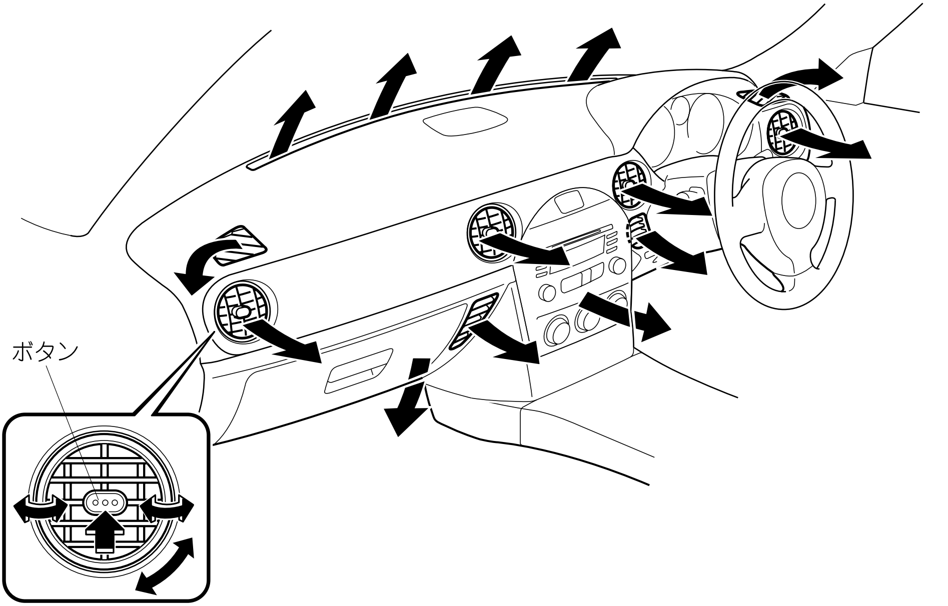
暑くなる前のチェック

エアコンの冷媒 (エアコンガス) が不足していると冷房性能が低下します。夏になる前に冷媒量の点検を受けておきましょう。

知識

エアコンガスはHFC134a (R134a) を使用しています。補充、交換の際には必ずHFC134aを入れてください。エアコンガスは地球温暖化に悪影響をおよぼすため大気放出はしないでください。点検、補充、交換、廃棄についてはマツダ販売店にご相談ください。

吹き出し口



吹き出し口の調節

ルーバーを動かして、吹き出し風の向きを調節します。
サイドルーバーのボタンを押すごとに、吹き出し口の全閉と全開が切り替わります。

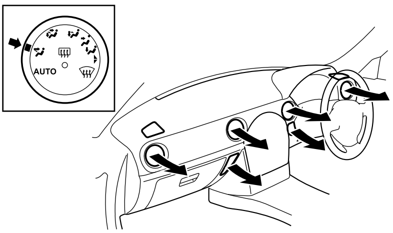
知識

冷房中に吹き出し口から白煙が出ているように見えることがあります。これは湿度の高い空気が急激に冷やされて起こる現象で、異常ではありません。

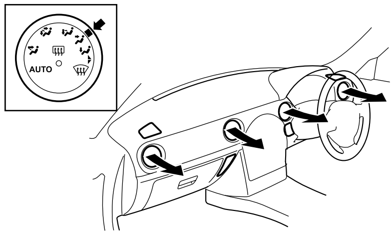
吹き出し口の選択

使用目的にあわせて吹き出し口を選択することができます。

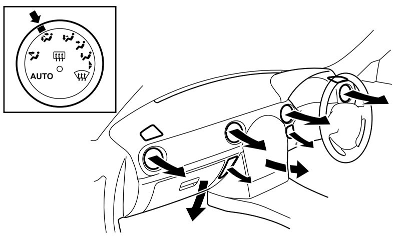
上半身に送風するとき (OPEN MODE)



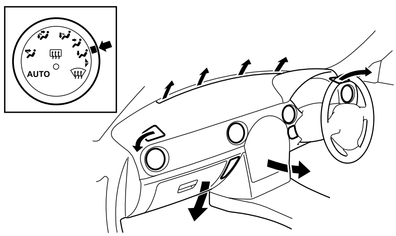
上半身に送風するとき



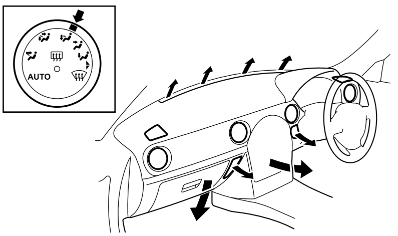
上半身、足元に送風するとき (OPEN MODE)



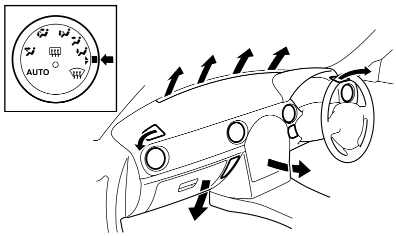
主に足元に送風するとき



主に足元に送風するとき (OPEN MODE)

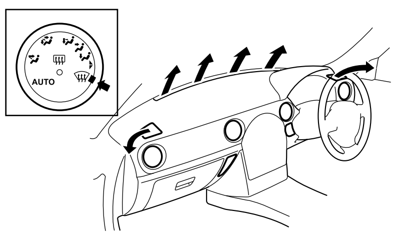


足元への送風とガラスの曇りを取るとき

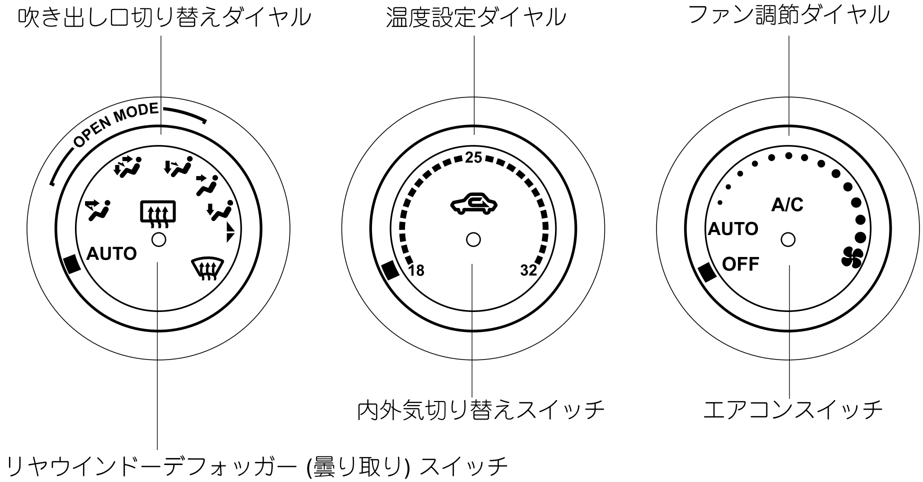


ルーフを開けた状態で使うときは
ダイヤルを OPEN MODE の位置に
すると、快適になります。

ガラスの曇りを取るとき



フルオートエアコン



各スイッチの使いかた

温度設定ダイヤル

ダイヤルをまわして設定温度を調節します。
ダイヤルの表示数字は室温設定時のめやすとなります。

知識

ダイヤルを左側いっぱいにまわすと最大冷房、右側いっぱいにまわすと最大暖房に固定されます。

ファン調節ダイヤル

AUTO位置のとき設定温度にあわせて、吹き出し風量が自動制御されます。
AUTO以外の位置にダイヤルをまわすと、吹き出し風量をお好みで調節できます。
右側いっぱいにまわすと、最大風量に固定されます。

吹き出し口切り替えダイヤル

AUTO位置のとき、設定温度にあわせて吹き出し口の切り替えを自動で行ないます。
AUTO以外の位置にダイヤルをまわすと、使用目的にあわせて吹き出し口を選択することができます。
→180ページ「吹き出し口の選択」

空調

知識

ルーフを開けた状態で使う時はダイヤルをOPEN MODEの位置にすると、快適になります。

エアコンスイッチ

ファン調節ダイヤルがONのとき、スイッチを押すごとにエアコン (冷房·除湿機能) の作動と停止が切り替わります。
エアコンが作動しているときは、表示灯が点灯します。

知識

外気温が0°C近くまで下がると、システム保護のためエアコンは作動しません。

内外気切り替えスイッチ

内気循環 (外気を遮断する) と外気導入 (外気を室内に入れる) の切り替えができます。
スイッチを押すごとに内気循環と外気導入が切り替わります。

- 内気循環 (表示灯点灯)
  トンネル内や渋滞など外気が汚れているときや、急速に冷房したいときなど外気を遮断したいときに一時的に使用します。
- 外気導入 (表示灯消灯)
  外気を取り入れて換気したいときや、ガラスの曇りを取るときに使用します。

知識

長時間、内気循環にするとガラスが曇りやすくなります。通常は外気導入で使用してください。

通常の使いかた

1. 吹き出し口切り替えダイヤルをAUTOの位置にします。
2. 内外気切り替えスイッチを外気導入 (表示灯消灯) にします。
3. ファン調節ダイヤルをAUTOの位置にします。
4. エアコンスイッチを押して、エアコンを作動 (表示灯点灯) させます。

知識

- 最初は温度設定ダイヤルを25前後にあわせて使用し、その後お好みで調節してください。
- 設定温度を極端に低く (高く) しても、希望の温度になるまでの時間はほとんど変わりません。
- エンジンが冷えているときの暖房開始直後は、冷風の吹き出しを防止するため、風量が少なくなります。
- ルーフを開けた状態で使う時は吹き出し口切り替えダイヤルをOPEN MODEの位置にすると、快適になります。吹き出し口切り替えダイヤルをAUTOの位置にすると、OPEN MODEのと の吹き出し口は自動では選択されませんので、手動で切り替えて使用してください。

5. 作動を停止したいときは、ファン調節ダイヤルをOFFの位置にします。

ガラスの曇りを取るとき

吹き出し口切り替えダイヤルを [defroster symbol] にします。自動的に外気導入に切り替わります。また、エアコンが自動的に作動し、除湿された吹き出し風がフロントガラス、フロントドアガラスに送風されます。

⚠ 警告

ガラスの曇りを取るときは、吹き出し風の温度を低くしないでください。ガラスの外側が曇り、視界不良などで思わぬ事故につながるおそれがあります。

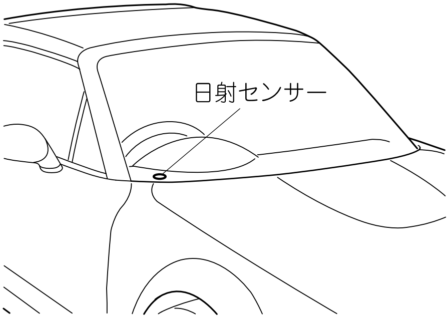
知識

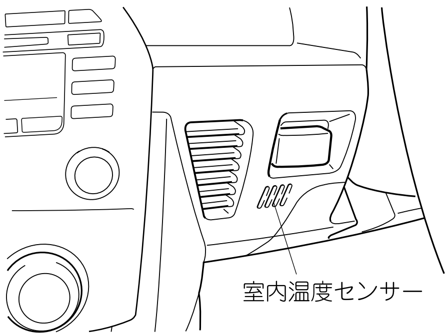
次の操作をすると、より早くガラスの曇りが取れます。

- ファン調節ダイヤルを操作して、風量を増す。
- 温度設定ダイヤルを操作して、吹き出し風の温度を上げる。

センサーについて

フルオートエアコンには日射センサーと室内温度センサーが取り付けられています。
日射センサーの上に物を置いたり、室内温度センサーをふさいだりしないでください。
室内温度が正しく調節されないことがあります。





アンテナ

脱着式

取りはずすときは、左にまわします。取り付けるときは右にまわし、しっかりと締めます。



注意

天井の低い車庫に入れるときや洗車するときは、アンテナを取りはずしてください。取り付けているとアンテナが損傷するおそれがあります。

オーディオを上手に使用していただくために

警告

■オーディオの操作は、車が止まっているときに行なってください。

走行中は、運転操作がさまたげられ思わぬ事故につながるおそれがあります。

注意

安全運転をさまたげないように、運転中は車外の音が聞こえる程度の音量で使用してください。

知識

- エンジンを止めたままで、オーディオを長時間使用しないでください。バッテリーがあがるおそれがあります。
- 車内または車の近くで携帯電話や無線機を使用すると、ノイズ (雑音) が発生することがありますが故障ではありません。

ラジオについて

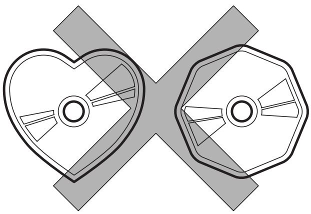
ラジオの受信は、車両の移動に伴いアンテナの位置が刻々と変わるため電波の強さが変わったり、障害物や電車、信号機などの影響により、最良な受信状態を維持することが困難な場合があります。

CDについて

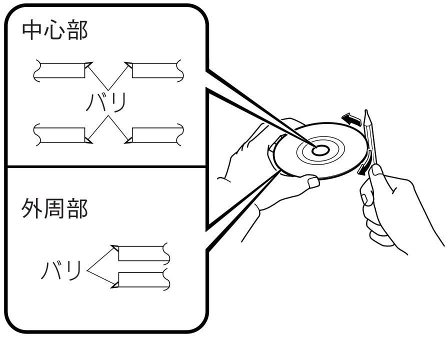
- 下記のマークのついているCD以外は使用できません。

- コピーコントロールCD (著作権保護を目的とした技術が搭載された音楽CD) の中で、CDの規格に準拠していないものは、再生できない場合があります。

- ハート型や八角形など特殊形状のCDは使用しないでください。機械の故障の原因となることがあります。



- 新しいCDは、外周部や中心の穴のまわりがあらくなっている場合があります。そのような場合は、ボールペンや鉛筆などであらい部分 (バリ) を取り除いてから使用してください。そのまま使用すると音飛びを起こしたり、CDを挿入できなくなったりすることがあります。



- 悪路走行などで激しく振動した場合、音飛びを起こすことがあります。

- 寒いときや雨降りのときは、プレーヤー内部に露 (水滴) が生じ、正しく作動しなくなることがあります。このようなときは、CDを取り出して室内を換気または除湿してから使用してください。

- CD信号面に直接手で触れると、CDの信号面が汚れ、音飛びなどを起こすことがあります。CDの端と中心の穴をはさんで持ってください。

- CDはケースに入れ、直射日光を避けて保管してください。直射日光や高温など、車内での保管状況により、再生できなくなる場合があります。

- CDの汚れを取るときは、やわらかい布でCDの中央から外側へ向けて汚れをふき取ってください。ベンジン、シンナー、帯電防止剤などを使用すると、CDの表面を傷める原因になりますので使用しないでください。

- CDに文字を書き込んだり、ラベルやシールを貼り付けたりしないでください。
- 変形したり、ひびがはいったりしたCDは使用しないでください。
- CD差し込み口に指や異物を入れないでください。故障の原因になることがあります。
- CD-R/CD-RWは、録音に使用したレコーダーやディスクの状態によっては再生できない場合があります。
- ファイナライズ処理 (通常のCDプレーヤーで再生できるようにする処理) されていないCD-R/CD-RWは再生できません。
- 700MBを超えるCD-R/CD-RWの再生はできません。
- 音楽用CDレコーダーまたはパソコンで記録したCD-R/CD-RWは、ディスクの特性、キズ·汚れ、または本機内部のレンズの汚れ·露などにより、本機では再生できない場合があります。
- パソコンで記録したディスクは、アプリケーション (ライティングソフト) の設定および環境によって再生できないことがあります。正しいフォーマットで記録してください。 (詳細はアプリケーションの発売元にお問い合わせください。)
- CD-R/CD-RWに記録されているタイトルなどの文字情報は、音楽データ (CD-DA) 再生時に表示できない場合があります。
- CD-RWは、ディスクを挿入してから再生が始まるまで、通常のCDやCD-Rより時間がかかります。
- CD-R/CD-RWの取扱については、ディスクの説明書や注意書きを十分お読みください。
- セロハンテープやレンタルCDのラベルからのりがはみ出していたり、ラベルをはがしたりしたあとがあるものは、使用しないでください。また、市販のCD-Rラベルを貼付けたディスクも使用しないでください。ディスクが取り出せなくなるなど、故障の原因となることがあります。

MP3について

知識

フランス、トムソン社からのMP3特許ライセンスについて
本機は、個人の使用または非商用的な使用を目的としています。以下のような、商用目的には使用できません。ご使用には、別途、トムソン社からの商用使用許諾が必要です。
詳しくはhttp://mp3licensing.com をご覧ください。

- 有料リアルタイム放送 (地上波、衛星、ケーブル、その他の放送媒体)
- インターネットによる放送またはストリーミング
- イントラネット/ネットワーク
- 有料オーディオ·アプリケーションやオーディオ·オンデマンド·アプリケーションなどの電子情報配信システム

- MP3ファイルが記録されたCD-R/CD-RW/CD-ROMの再生に対応しています。次のフォーマットに準拠して記録されたディスクが再生可能です。
  - ISO9660 レベル1
  - ISO9660 レベル2
  - 拡張フォーマットJoliet
  - 拡張フォーマットRomeo
- 本機はヘッダ部およびデータ部が共にMP3形式に準拠したMP3ファイルに対応しています。

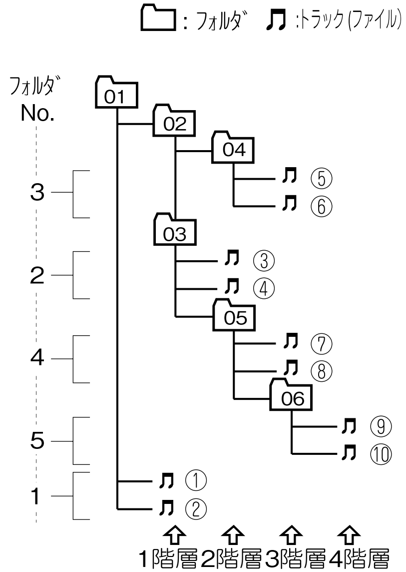
- 本機は40セッションまでのマルチセッション方式で記録されたディスクの再生に対応しています。
- 本機での再生可能なサンプリング周波数は16/22.05/24/32/44.1/48kHzです。
- 本機は8kbps～320kbpsのMP3ファイルの再生に対応していますが、ある一定の音質で音楽を楽しんでいただくためには、128kbps以上のビットレートで記録されたディスクの使用をおすすめします。
- パケットライト方式で記録されたディスクは聞くことができません。
- MP3i (MP3 interactive) フォーマット、MP3 PROフォーマット、RIFF形式MP3フォーマットには対応していません。

フォルダ、ファイルについて

- 再生などの操作でMP3ファイルやフォルダが選択される順番は、階層の浅い順番になります。MP3ファイルを収録したディスクのイメージ、再生の順番は次のようになります。
  - ファイルナンバー
    階層の浅いフォルダに属するファイルから順に番号を割り当てられます。
  - フォルダナンバー
    階層の浅いフォルダから自動で番号を割り当てられます。

知識

同一階層内のフォルダやトラック (ファイル) はライティングソフトによってディスクに書き込まれた順序で再生します。



- フォルダ番号は自動で割り当てられます。任意の番号を割り当てることはできません。
- MP3ファイルを含まないフォルダは認識されません。 (フォルダ番号の表示をせず、スキップします。)
- MP3ファイルのヘッダ部およびデータ部が共にMP3形式に準拠していないMP3ファイルは、再生せずスキップします。
- 本機は8階層までのMP3ファイルの再生に対応していますが、多くの階層を持つディスクは、再生が始まるまでに時間がかかります。ディスク作成時には、階層を2つ以下にすることをおすすめします。
- 一枚のディスクで再生可能なファイル数は512ファイルまでです。また一つのフォルダで再生可能なファイル数は255ファイルまでです。

- MP3ファイルに名前をつけるときは、ファイル名の後に必ず拡張子 (.mp3) を付けてください。
- ファイル名として付けることのできる最大文字数は次のとおりですが、本機に表示される文字数は拡張子 (.mp3) を含めて32文字までです。

	ファイル名最大文字数 (区切り文字“.”と拡張子3文字を含む)
ISO9660 レベル1	12*
ISO9660 レベル2	31*
拡張フォーマット Joliet	64
拡張フォーマット Romeo	128

* 使用できる文字は半角英数字 (大文字のみ) とアンダーバー“_”

- 表示部の表示は半角英数字にのみ対応しています。全角文字 (漢字、ひらがななど) や一部の特殊文字は表示することができません。

⚠ 注意

本機は拡張子 (.mp3) がついているファイルをMP3ファイルとして再生します。MP3ファイル以外にはMP3拡張子を付けないでください。雑音や故障の原因となります。

ID3 Tagの表示について

本機はVer.1.0/1.1/2.2/2.3 形式で入力されたID3 Tag のアルバム名、トラック名、アーティスト名の表示にのみ対応しています。その他の情報を入力しても表示することはできません。

表示を切り替えるとき

表示部の表示は半角英数字にのみ対応しています。ID3 Tagは半角英数字で入力してください。全角文字や一部の特殊文字は表示することができません。

用語解説

MP3 (エムピースリー)

「MPEG Audio Layer 3」の略で、ISO (国際標準化機構) のワーキンググループ (MPEG) の定めた音声圧縮の規格です。

MP3は音声データを元のデータの約10分の1に圧縮することができます。

ISO9660

CD-ROMのファイルおよびフォルダに関する論理フォーマットの国際基準です。
ファイル名の付け方やデータ配置などの違いによってレベル1～3に分けられます。

マルチセッション

CD-ROMやCD-R、CD-RWにデータを記録するとき、その記録の始めから終わりまでをひとまとめにした単位をセッションといいます。マルチセッションとは、1枚のディスクに2つ以上のセッションデータを記録する方法のことです。

サンプリング

アナログデータである音を一定時間ごとにデータ化し、デジタルデータにすることをいいます。また、1秒間に行なうサンプリング回数をサンプリング周波数といい、単位はHzで表します。サンプリング周波数が高いほど音質は良くなりますが、データ量が大きくなります。

ビットレート

1秒あたりの情報量を表し、単位はbps (bit per second) です。一般的にMP3ファイルは、圧縮時の転送ビットレートの数字が大きいほど音楽を再現するための情報を多く持つことになるため、音質が良くなります。

パケットライト

フロッピーやハードディスクと同じように、必要なファイルを必要な時点で、CD-Rなどに書き込む方式の総称です。

ID3 Tag

曲の関連情報をMP3ファイルに埋め込む方式です。埋め込むことのできる情報は、トラック名、アーティスト名、アルバム名などがあります。この内容はID3 Tag編集機能のあるソフトを利用して自由に編集できます。

VBR

「Variable Bit Rate (可変ビットレート) 」の略です。一般的にはCBR (固定ビットレート) が多く使われていますが、音声圧縮では圧縮状況に合わせてビットレートを可変することで、音質を優先した圧縮が可能となります。

WMAについて

WMAとは、Windows Media Audioの略称で、Microsoft社の音声圧縮フォーマットです。
MP3よりも高い圧縮率で音声データを作成·保存することができます。
※ Microsoft、Windows Mediaは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

再生できるWMAファイルの仕様

本機はWMAファイルが記録されたCD-R、CD-RWの再生に対応しています。次のフォーマットに準拠して記録されたディスクが再生可能です。
再生可能なWMAファイル仕様は以下のとおりです。

項目		内容
規格		Windows Media Audio Version 7.0, 8.0, 9.0
サンプリング周波	ビットレート	32kHz . . . . 32, 40, 48 kbps
		44.1kHz . . . . . 32, 48, 64, 80, 96, 128, 160, 192 kbps
		48kHz . . . . 64, 96, 128, 160, 192 kbps
VBR (可変ビットレート)		対応
チャンネルモード		ステレオ/モノラル
WMA タグ		タイトル、アーティスト名、アルバム名

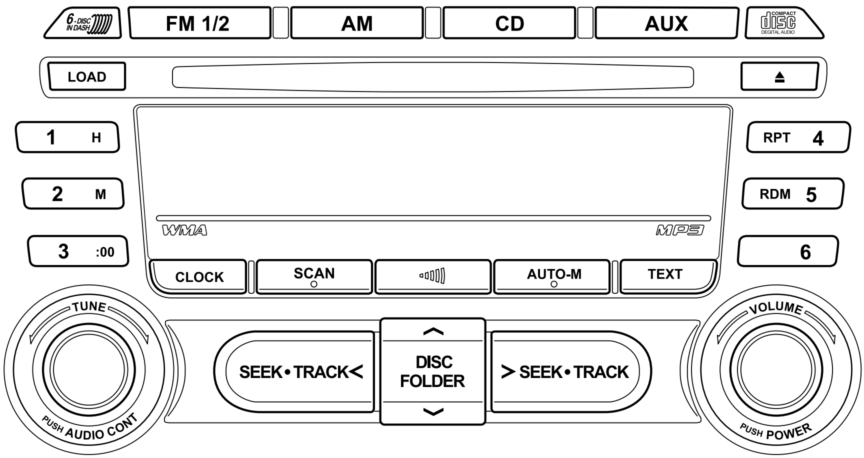
注意

本機は拡張子 (.wma) がついているファイルをWMAファイルとして再生します。WMAファイル以外にはWMA拡張子を付けないでください。雑音や故障の原因となります。

オーディオ

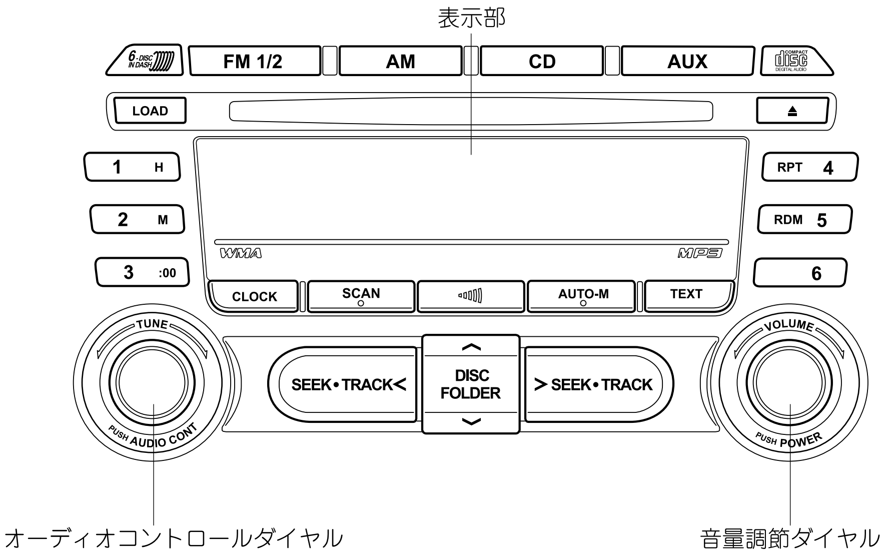
- WMAファイル内には曲名/アーティスト名/アルバム名/ジャンル名等の情報が“WMA-Tag”と呼ばれるデータで記録されており、モニター等でその情報を表示することができます。
- 記載している規格以外で書き込まれたWMAファイルは正常に再生できなかったり、ファイル名やフォルダ名などが正しく表示されない場合があります。
- パソコンのOSの種類やバージョン、ソフト、設定によって拡張子がつかない場合があります。その場合は、ファイルの最後に拡張子「.wma」を追記してからディスクに書き込んでください。

オーディオ★



6-DISC IN DASH
FM 1/2
AM
CD
AUX
COMPACT disc DIGITAL AUDIO
LOAD
1 H
2 M
3 :00
RPT 4
RDM 5
6
WMA
MP3
CLOCK
SCAN
AUTO-M
TEXT
TUNE
PUSH AUDIO CONT
SEEK•TRACK
DISC FOLDER
SEEK•TRACK
VOLUME
PUSH POWER

音量/音質の調節

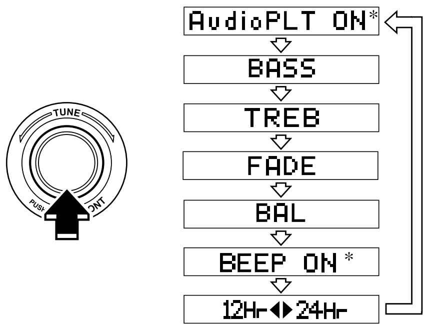


音量調節

音量調節ダイヤルをまわして調節します。
右へまわすと音量が大きくなり、左へまわすと小さくなります。

音質調節

1 オーディオコントロールダイヤルを軽く押して調節したいモードを選びます。
ダイヤルを押すごとにモードが切り替わります。



* 選択しているモードによって表示は異なります。

2 オーディオコントロールダイヤルをまわして調節します。

モード	ダイヤルをまわす方向	
	左	右
AudioPLT (自動音量調節)	OFF	ON
BASS (低音調節)	低音弱	低音強
TREB (高音調節)	高音弱	高音強
FADE (前後音量調節)	後側小	前側小
BAL (左右音量調節)	右側小	左側小
BEEP (操作音設定)	OFF	ON
12Hr ◀▶ 24Hr (時間表示設定)	12Hr (点滅)	24Hr (点滅)

知識

- 音量/音質調節値は表示部に表示されます。
- オーディオコントロールダイヤルを押してしばらくすると、音質調節前の表示にもどります。ピーと音がするまで押し続けると低音、高音、前後、左右の調節値が中央値 (初期値) にもどり“CLEAR”が表示されます。

AUDIOPILOT™ 2

AUDIOPILOT™ 2※は、走行時の車内の騒音量に応じて、自動的にオーディオの音量/音質が変化する機能です。ONにしておくと、騒音によって聞こえにくくなる音を、最適な状態で聞こえるよう自動的に補正します。
また、オープン時とクローズ時で最適な音響特性に自動切り替えするシステムを搭載しています。
切り替えはトップロックレバーに連動しており、切り替えの際、違和感をなくすため、約1.5秒音楽再生にミュートがかかります。

※AUDIOPILOT™ 2はBoseコーポレーションの登録商標です。

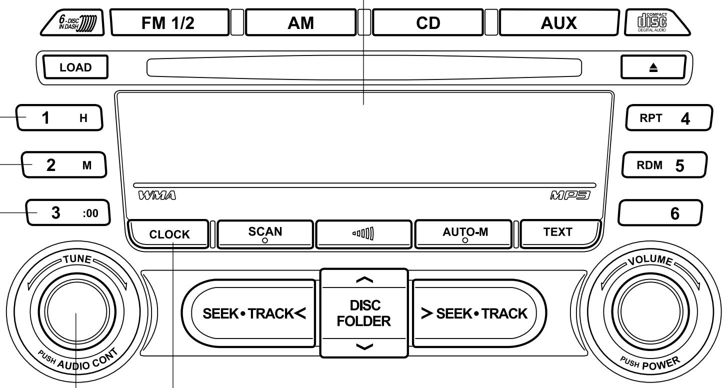
BEEP (操作音) 設定

オーディオ操作音のONとOFFを設定することができます。

時間調整

オーディオコントロールダイヤルをまわして、12/24時間の表示を切り替えることができます。
→194ページ「時計の調節」

時計の調節



時刻のあわせかた

1 電源ポジションをACCまたはONにします。

2 クロックボタン(**CLOCK**)をピーと音がするまで押します。
時刻が点滅表示されます。

3 時刻が点滅中に、時間調節ボタンを押して時刻をあわせます。
上(H)側を押している間"時"表示が早送りされます。
下(M)側を押している間"分"表示が早送りされます。

4 調節後、クロックボタン(**CLOCK**)を押します。

時報にあわせるとき

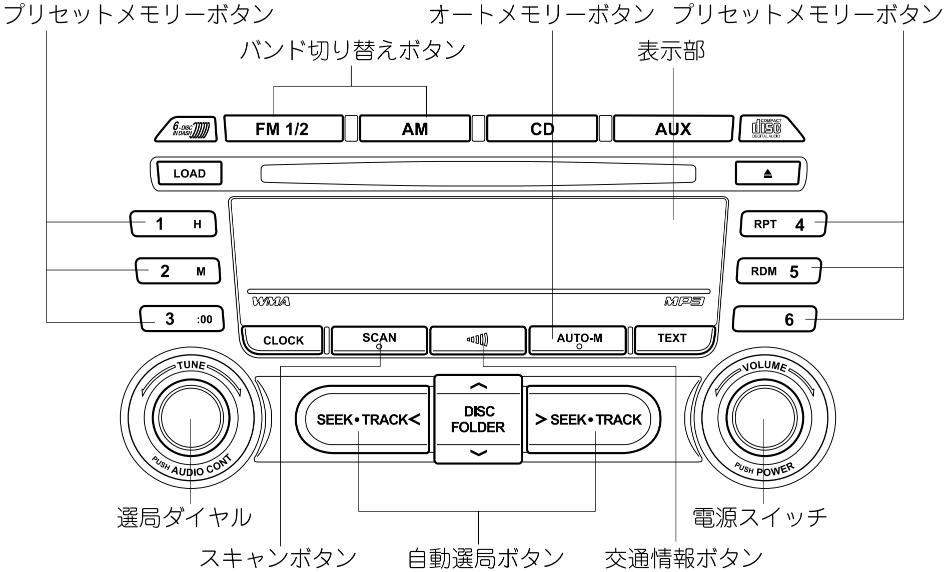
1 クロックボタン(**CLOCK**)をピーと音がするまで押します。
時刻が点滅表示されます。

2 時報セットボタン(**:00**)を押すと、時刻は次のように修正されます。
(例)
12:01～12:29→12:00
12:30～12:59→1:00

知識

- 時刻をあわせたあと、クロックボタン(**CLOCK**)を再度押した時点で"秒"は"00"からスタートします。
- 車両整備などでバッテリーとの接続が断たれたときは時計がリセットされます。もう一度設定してください。

ラジオの使いかた



1 電源ポジションをACCまたはONにします。

2 バンド切り替えボタンを押し、聞きたいバンドを選択します。

3 選局します。

- 自動選局
  自動選局ボタン (>，<)を押すと、自動選局を始め、放送を受信すると止まります。
- 手動選局
  選局ダイヤルをまわして選局します。

4 音量/音質を調節します。

5 ラジオを止めるときは、電源スイッチを押します。

知識

- FMステレオ放送を受信中、電波が弱くなると自動的にモノラルに切り替わり、ノイズを減らします。
- 受信する電波が弱いときは、手動選局をしてください。

オートメモリー選局

1 オートメモリーボタン (**AUTO-M**) をピーと音がするまで押すと、選局を始めます。

2 電波の強い順に最大6局までの周波数を記憶します。

3 オートメモリーボタン (**AUTO-M**) を軽く押すごとに、順次記憶された周波数に切り替わります。

知識

受信できるものが1局もない場合は“A”が表示されます。

放送局を記憶するとき

プリセットメモリーボタンを使って、選局した周波数を記憶させておくと便利です。
AM、FM1、FM2それぞれ6局まで記憶できます。

1. 記憶させたい放送局を選びます。
2. プリセットメモリーボタンのいずれか1つをピーと音がするまで押します。
3. 呼び出すときは、プリセットメモリーボタンを軽く押します。

知識

- 呼び出すときに、ボタンをピーと音がするまで押すと、そのとき受信している周波数が記憶されます。
- 車両整備などでバッテリーとの接続が断たれたときは記憶が消去されます。もう一度記憶させてください。

聞きたい局を探すとき

スキャンボタン (SCAN) を使って、受信可能な放送局を探すことができます。

1. スキャンボタン (SCAN) を押すと、周波数の低い方から高い方へ5秒間ずつ受信していきます。
2. 聞きたい局が受信されたらもう一度スキャンボタン (SCAN) を押します。その周波数を受信し続けます。

交通情報の受信

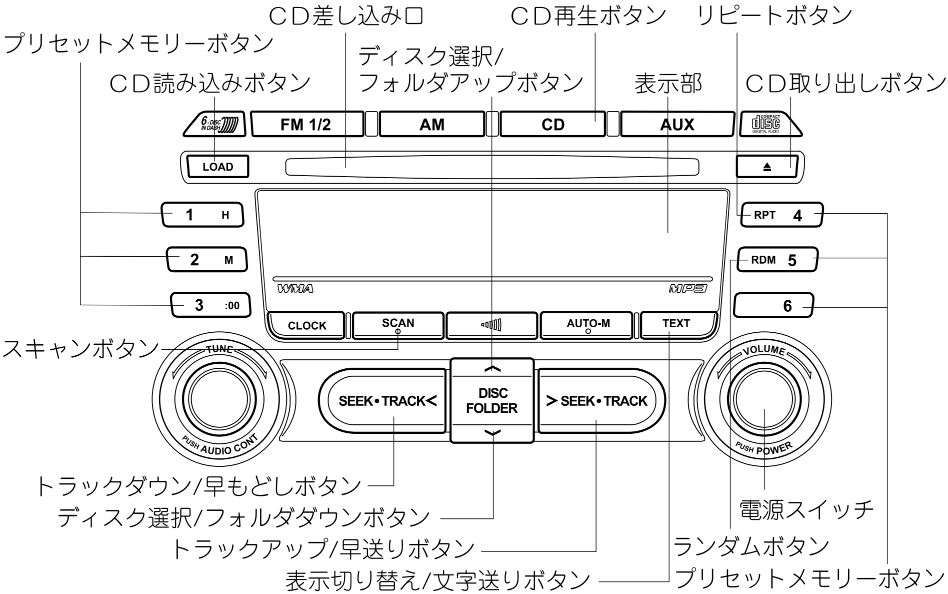
交通情報を放送している地域では、交通情報ボタン (•ıııı) を押すと交通情報を受信できます。

1. 交通情報ボタン (•ıııı) を押すと、AM1620kHzまたはAM1629kHzを受信します。
2. もう一度押すともとの状態にもどります。
3. 受信中、ボタンをピーと音がするまで押すごとに、AM1620kHzとAM1629kHzを切り替えることができます。

知識

交通情報ボタン (•ıııı) で受信中は、プリセットメモリーボタンを押しても放送局は選局されません。

インダッシュCDチェンジャーの使いかた



インダッシュCDチェンジャーが装着されている場合、操作することができます。

タイプ	再生できるデータ
音楽/MP3/WMA CDプレーヤー	● 音楽データ(CD-DA) ● MP3/WMAファイル

知識

一枚のディスクに音楽データ(CD-DA)とMP3/WMAファイルが混在しているときは、ディスクに記録する方法によって再生される内容が異なります。

CDのセットのしかた

インダッシュCDチェンジャーにはCDを6枚までセットすることができます。
電源ポジションがACCまたはONのときにセットできます。

知識

インダッシュCDチェンジャーは12cmCD専用です。8cmCDアダプターを使用することができないため、8cmCDを再生することはできません。8cmCDアダプターを使用すると故障の原因になりますので、使用しないでください。

1枚だけセットする

1 CD読み込みボタン (LOAD) を軽く押します。
チェンジャー内の空いているトレーの中で最も小さいトレー番号が点滅し、“WAIT”が表示されます。

2 表示部に“IN”が表示されたら、CDのラベル面を上にして、CD差し込み口に軽く押し込みます。CDが自動的に送り込まれ、再生を始めます。

知識

表示部に“WAIT”が表示されている間はCDを挿入することができません。“IN”が表示されるまでお待ちください。また、“WAIT”表示中はピーと音がします。

トレーを指定してセットする

1 CD読み込みボタン (LOAD) をピーと音がするまで押します。

2 “WAIT”表示中に希望するトレー番号 (1～6) のプリセットメモリーボタンを押します。

3 表示部に“IN”が表示されたら、CDのラベル面を上にして、CD差し込み口に軽く押し込みます。CDが自動的に送り込まれ、そのCDの再生を始めます。

知識

指定したトレーにすでにCDがはいっている場合はCDを入れることはできません。

2枚以上続けてセットする

1 CD読み込みボタン (LOAD) をピーと音がするまで押します。

2 表示部に“IN”が表示されたら、CDのラベル面を上にして、CD差し込み口に軽く押し込みます。

3 再度、表示部に“IN”が表示されたら、次のCDを挿入します。
セットしたい枚数 (チェンジャー内のCDを含めて最大6枚) だけ、この動作をくり返します。
CDの挿入が完了すると、自動的に最初に挿入したCDの再生を始めます。

知識

“IN”が表示されてから15秒経過するか、チェンジャーがいっぱいになるとCDの再生を始めます。

CDの取り出しかた

1枚だけ取り出す

CD取り出しボタン (⏏) を軽く押します。
排出されるトレー番号と、“DISC OUT”表示が点滅し、CDが出てきます。

トレーを指定して取り出す

1 CD取り出しボタン (⏏) をピーと音がするまで押します。

2 5秒未満に取り出したいCDのトレー番号 (1～6) のプリセットメモリーボタンを押します。
排出されるトレー番号と、“DISC OUT”表示が点滅し、CDが出てきます。

チェンジャー内のCDをすべて取り出す

1 CD取り出しボタン (⏏) をピーと音がするまで押します。

2 CDを取り出します。

3 自動的に次のCDが出てきます。
すべてのCDを取り出すまでこの動作がくり返されます。

再生するとき

1 電源ポジションをACCまたはONにします。

オーディオ

2 CDをセットします。
→198ページ「CDのセットのしかた」
CDがはいっているときは、CD再生ボタン (**CD**) を押すと再生を始めます。

3 音量/音質を調節します。

4 再生を止めるときは電源スイッチを押します。(もう一度押すと再生できます。)

知識

- CDがはいっていないときにCD再生ボタン (**CD**) を押すと、“NO DISC”が表示されます。
- CD-ROM/CD-R/CD-RWを差し込むと、本機はCD-ROM/CD-R/CD-RWからファイル形式などの情報を読み取ります。ディスクの書き込み内容やディスクの状態によっては読み取りに時間がかかる場合があります。読み取り中は表示部に“CD READING”が表示されます。
- (MP3/WMA CD)
再生はフォルダ番号の順に行なわれます。MP3/WMAファイルがないフォルダはスキップされます。

CDを選択するとき

音楽CD再生中

再生中にディスク選択ボタン (∧、∨) を押すと、ディスクナンバーが切り替わります。

MP3/WMA CD 再生中

再生中にディスク選択ボタン (∧、∨) を1.5秒以上押すと、ディスクナンバーが切り替わります。

聞きたいフォルダを選択するとき (MP3/WMA CD再生中)

今聞いているフォルダの前のフォルダを選択するときはフォルダダウンボタン (∨)、次のフォルダを選択するときはフォルダアップボタン (∧) を押します (1.5秒未満)。

早送り/早もどしをするとき

1 早送りするときは早送りボタン (**>**)、早もどしするときは早もどしボタン (**<**) を押し続けます。

2 ボタンから手をはなすと、その位置から再生を始めます。

知識

(MP3/WMA CD)
VBR (可変ビットレート) を利用して録音されたファイルを再生しているときは、早送り/早もどしをするときに再生経過時間が正しく表示されないことがあります。

曲の頭出しをするとき

今聞いている曲の頭にもどしたいときはトラックダウンボタン (**<**)、次の曲の頭に進めたいときはトラックアップボタン (**>**) を軽く押します。

同じ曲をくり返して聞くとき

音楽CD再生中

1 再生中にリピートボタン (**RPT**) を押すと、その曲をくり返して再生します。表示部に“RPT”が表示されます。

2 もう一度押すと解除されます。

MP3/WMA CD再生中

(今聞いている曲をくり返し聞くとき)

1 再生中にリピートボタン（**RPT**）を押すと、その曲をくり返して再生します。表示部に"TRACK RPT"が表示されたあとに"RPT"が表示されます。

2 3秒以上経過したあとにもう一度押すと解除されます。

(今聞いているフォルダ内をくり返し聞くとき)

1 再生中にリピートボタン（**RPT**）を押し、3秒以内にもう一度押すとそのフォルダ内の曲をくり返して再生します。表示部に"FOLDER RPT"が表示されたあとに"F-RPT"が表示されます。

2 もう一度押すと解除されます。

ランダム選曲をするとき

曲をランダム(無作為)に選曲し、再生することができます。

音楽CD再生中

1 再生中にランダムボタン（**RDM**）を押すと、CD内の曲をランダムな順序で再生します。表示部に"RDM"が表示されます。

2 もう一度押すと解除されます。

MP3/WMA CD再生中

(フォルダ内の曲をランダムに聞くとき)

1 再生中にランダムボタン（**RDM**）を押すと、フォルダ内の曲をランダムな順序で再生します。表示部に"FOLDER RDM"が表示されたあとに"RDM"が表示されます。

2 3秒以上経過したあとにもう一度押すと解除されます。

(CD内の曲をランダムに聞くとき)

1 再生中にランダムボタン（**RDM**）を押し、3秒以内にもう一度押すとCD内の曲をランダムな順序で再生します。表示部に"DISC RDM"が表示されたあとに"D-RDM"が表示されます。

2 もう一度押すと解除されます。

聞きたい曲を探すとき

音楽CD再生中

CD内の曲を10秒間ずつ再生し、聞きたい曲を探すことができます。

MP3/WMA CD再生中

再生中のフォルダ内の曲を10秒間ずつ再生し、聞きたい曲を探すことができます。

1 再生中にスキャンボタン（**SCAN**）を押すと、次の曲の頭から順に10秒間ずつ再生されます。

2 聞きたい曲が再生されているときにもう一度スキャンボタン（**SCAN**）を押します。その曲の再生がそのまま続きます。

> **知識**
>
> 全ての曲の再生が終わると自動的に解除され、通常の再生にもどります。

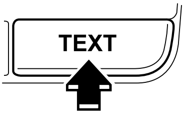
表示を切り替えるとき

再生中、表示切り替えボタン（**TEXT**）を押すごとに、次のように表示部が切り替わります。

音楽CD

ディスクナンバー/トラック
ナンバー/再生経過時間表示

トラック名表示



アルバム名表示

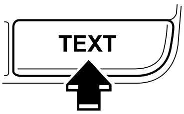
アーティスト名表示

MP3/WMA CD

ディスクナンバー/
ファイルナンバー/
再生経過時間表示

ディスクナンバー/フォルダ
番号表示/ファイルナンバー

ファイル名表示



フォルダ名表示

アルバム名表示 （ID3 Tag）

曲名表示 （ID3 Tag）

アーティスト名表示
（ID3 Tag）

知識

- 表示部に表示できる情報がCDに記録されている場合のみ、CDの情報が表示されます。
- 本機の表示は半角英数字に対応しています。それ以外の文字が記録されている場合は、正しく表示されない場合があります。

隠れているタイトルを表示する

表示部に一度に表示できる文字数は13文字までです。タイトルが長く、最後まで表示されていないときは文字送りボタン (**TEXT**) を長押しします。次の13文字に表示をスクロールします。最後の文字を表示しているときに文字送りボタン (**TEXT**) を長押しすると、タイトルの最初の文字を表示します。

知識

表示される文字数には制限があります。拡張子 (.mp3/.wma) を含めて32文字を超えた場合、表示されない場合があります。

メッセージが表示されたときは

“CHECK CD”のメッセージが表示されたときは、CDに何らかの異常があります。CDにキズや汚れがないか、または記録されている内容にMP3/WMAファイルがあるか確認して正しく入れ直してください。再度メッセージが表示されたときは、マツダ販売店で点検を受けてください。

AUXモード (外部入力) の使いかた☆

AUXモード (外部入力) では、市販のポータブルオーディオをAUX端子に接続することで、車両のスピーカーで音声を聞くことができます。

→206ページ「ポータブルオーディオ機器を使用していただくために」

オーディオリモートコントロールスイッチ★

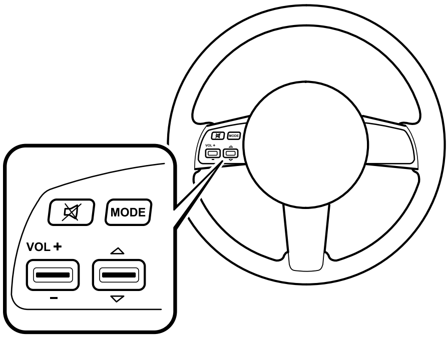
ハンドルの左側にあります。

オーディオの電源が入っているときに、手元でオーディオの操作をすることができます。

知識

次のようなときはオーディオの電源が切れるため、各スイッチを操作することができません。

- 電源ポジションをOFFにしたとき。
- オーディオの電源スイッチを押して電源を切ったとき。

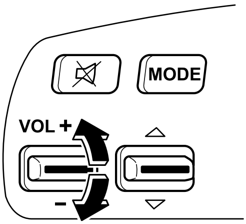


音量を調節するとき

音量調節スイッチ (＋ 、−) を操作して、音量を調節します。

■ 大きくするとき
音量調節スイッチを引き上げます。

■ 小さくするとき
音量調節スイッチを引き下げます。

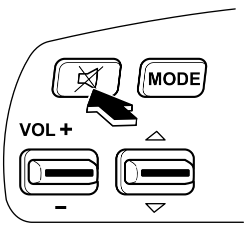


消音にするとき

ミュートスイッチ (🔇) を押すと、消音できます。
もう一度スイッチを押すともとにもどります。

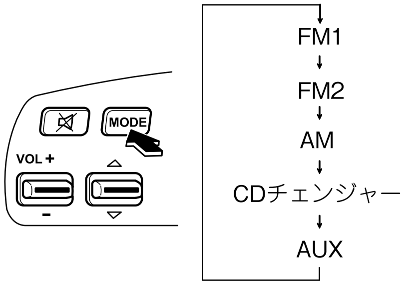
知識

消音にしたあと電源ポジションをOFFにすると、消音は解除されます。その後エンジンをかけると、消音にする前の状態にもどります。音を消したいときは、再度ミュートスイッチ (🔇) を押してください。



モードを選択するとき

モードスイッチ (MODE) を押して、オーディオのモードを切り替えます。
スイッチを押すごとに次のようにモードが切り替わります。

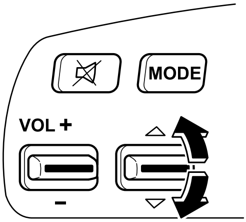


知識

- 次のモードは、オーディオに設定がある場合のみ選択できます。
  - CDチェンジャー
  - AUX
- CDが挿入されていないとき、AUX端子に市販のポータブルオーディオ機器が接続されていないときは、モードを選択できません。

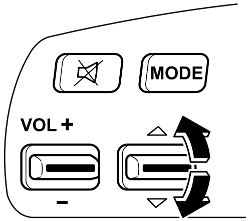
選局するとき

ラジオを聞いているときに選局スイッチ(▲、▼)を軽く操作すると、プリセットメモリーボタンを使ってあらかじめ記憶させておいた放送局を呼び出すことができます。
スイッチを操作するごとに順次記憶された放送局に切り替わります。
また、ピーと音がするまで操作すると、自動選局を始めます。放送を受信すると止まります。



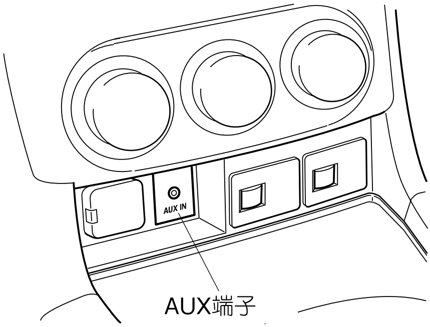
曲の頭出しをするとき

CDを聞いているときに頭出しスイッチ(▲、▼)を操作すると、曲の頭出しをすることができます。
次の曲の頭に進めたいときは早送りスイッチ(▲)を引き上げ、今聞いている曲の頭にもどしたいときは早もどしスイッチ(▼)を引き下げます。



ポータブルオーディオ機器を使用していただくために★

AUXモード (外部入力) では、市販のポータブルオーディオをAUX端子に接続することで、車両のスピーカーで音声を聞くことができます。



⚠ 警告

- 操作は、車が止まっているときに行なってください。走行中は、運転操作がさまたげられ思わぬ事故につながるおそれがあります。
- AUX端子に接続したコードがパーキングブレーキレバーやチェンジレバーに絡まないようにしてください。運転操作がさまたげられ思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

接続する機器によっては車に装着されている電源ソケットを使用すると、再生時、ノイズが発生することがあります。(ノイズが発生した場合は電源ソケットを使用しないでください。)

知識

- ご使用前に、市販のポータブルオーディオの取扱書をよくお読みください。
- ポータブルオーディオをAUX端子に接続するための接続コードは、市販の抵抗なしのステレオミニプラグ (3.5ϕ) を使用してください。ご使用前に接続コードの取扱書をよくお読みください。
- エンジンを止めたままで、オーディオを長時間使用しないでください。バッテリーがあがるおそれがあります。
- 接続する機器によっては、ノイズが発生することがあります。
- 接続する機器の電源は、ポータブルオーディオ機器のバッテリーなどを使用してください。
- プラグはAUX端子に確実に差し込んでください。
- プラグの抜き差しはAUX端子の穴に対して垂直に行なってください。
- プラグの抜き差しはプラグの先端を持って行なってください。

ポータブルオーディオ機器を聞くには

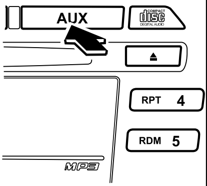
1 電源ポジションをACCまたはONにします。

2 コード先端のプラグをAUX端子に接続します。

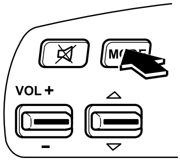
3 オーディオユニットの電源スイッチをONにします。

4 オーディオユニットのソース切り替えボタン（**AUX**）またはオーディオリモートコントロールスイッチのモードスイッチ（**MODE**）を押してAUXモードに切り替わります。

オーディオ



オーディオリモートコントロールスイッチ

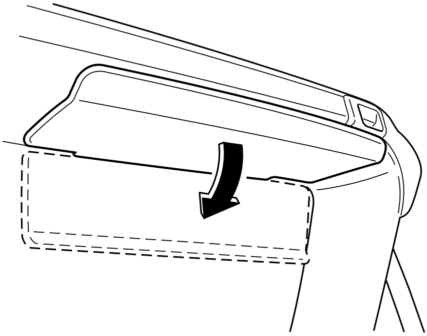


知識

- 接続する機器の音が歪まない範囲で最大にし、オーディオユニットの音量調節ダイヤルまたはオーディオリモートコントロールスイッチの音量調節スイッチ（**+**、**−**）を操作して音量を調節してください。
- 音量調節以外の操作はポータブルオーディオ本体のみで行えます。オーディオパネルでは操作できません。
- AUXモード中にAUX端子からコードを抜いたり、接続している機器側のプラグを抜くとノイズが発生することがあります。

サンバイザー

前からの光をさえぎるときは、下げます。



バニティミラー (化粧鏡)

バニティミラーは、サンバイザーの裏側にあります。

室内照明

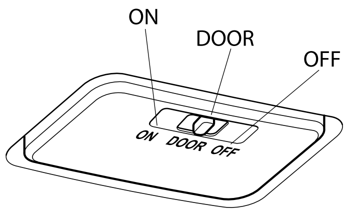
知識

エンジンを停止しているとき、ランプを長時間点灯させたままにしないでください。バッテリーがあがるおそれがあります。

ルームランプ

電源ポジションに関係なく使用できます。

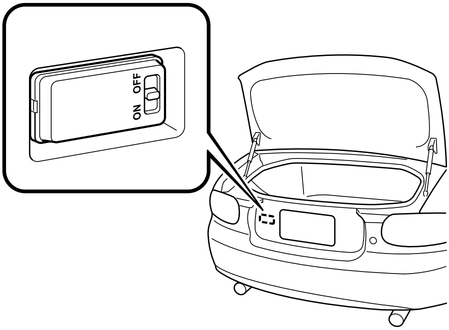
スイッチ位置	ルームランプ
DOOR	ドアを開けると点灯し、閉めると消灯します。
OFF	常時消灯
ON	常時点灯



トランクルームランプ

電源ポジションに関係なく使用できます。

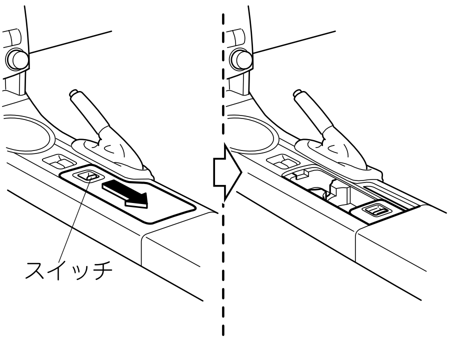
スイッチ位置	トランクルームランプ
ON	トランクを開けると点灯し、閉めると消灯します。
OFF	常時消灯



カップホルダー

⚠ 注意

走行中は熱い飲み物を置かないでください。熱い飲み物がかかると、やけどをするおそれがあります。
また、使用しないときはフタを閉めてください。急停車したときなどに急にフタがしまり、手をはさむなど思わぬけがにつながるおそれがあります。

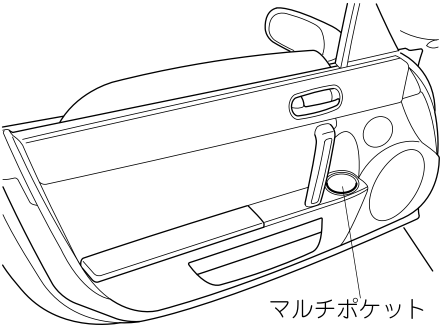


マルチポケット

注意

ふたのないペットボトルなどは置かないでください。走行中やドアを開閉するときにペットボトルなどの中身がこぼれるおそれがあります。

ペットボトルなどを置くことができます。



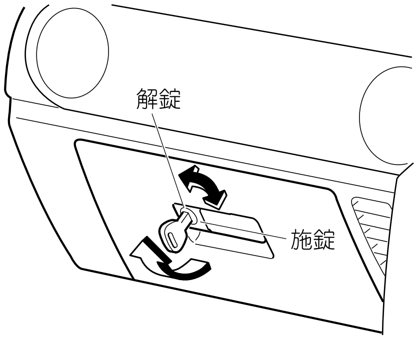
収納

注意

- フタ付きの収納は、走行中は必ずフタを閉めてください。急ブレーキ時や衝突時にフタや内部の物でけがをするおそれがあります。
- 炎天下に駐車するときは、収納ボックス内にメガネやライターを放置しないでください。収納ボックス内が高温になるため、ライターが爆発したり、プラスチックレンズ･プラスチック素材のメガネが変形･ひび割れを起こすことがあります。

グローブボックス

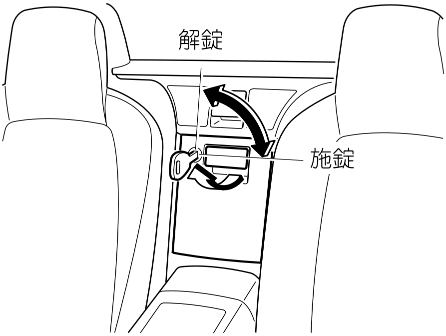
キーまたは補助キーを差し込み右側にまわすと施錠し、左側にまわすと解錠します。



閉めるときは、カチッと音がするまでフタを確実に押さえます。

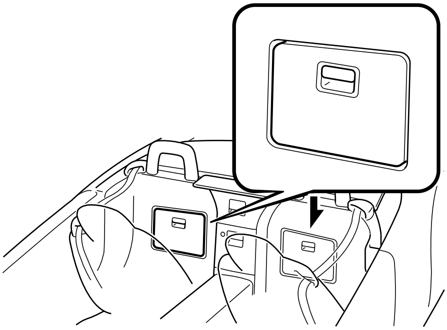
リヤコンソールボックス

開くときは、ノブを引きます。
閉めるときは、カチッと音がするまでフタを確実に押さえます。
キーを差し込み右側にまわすと施錠し、左側にまわすと解錠します。



リヤストレージボックス☆

小物などを収納できます。



使用するとき

1 シートをいちばん前へスライドさせます。
→42ページ「前後調節 (スライディング)」

2 シートの背もたれを前に倒します。
→42ページ「角度調節 (リクライニング)」

3 フタがあるときはノブを引いて開きます。

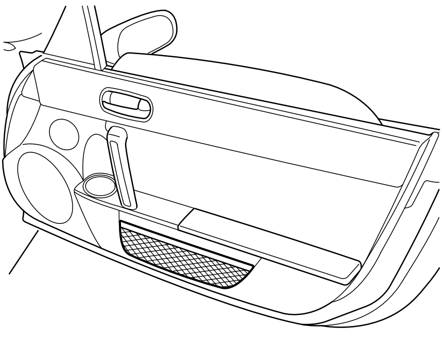
使用後はシートをもとの位置にもどします。
もどした後は、シート、背もたれを前後に軽くゆさぶって、確実にロックされていることを確認してください。

⚠ 注意

リヤストレージボックスに重いものを収納しないでください。無理な力がかかると、変形または、破損するおそれがあります。

メッシュポケット

地図やパンフレットなどを入れることができます。



⚠ 注意

メッシュポケットに厚いものを入れないでください。メッシュポケットが損傷するおそれがあります。

電源ソケット

電源ポジションがACCまたはONのとき、電気製品の電源として使用します。
最大消費電力120W (DC12V―10A) 以下の電気製品を使用してください。
フタを開けて使用します。



⚠ 注意

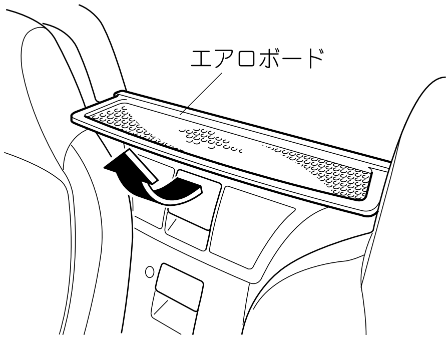
- 使用しないときは、必ずフタを閉めておいてください。ソケットに異物が入ったり、飲料水などがかかると、故障につながるおそれがあります。
- 電気製品のプラグはソケットに確実に差し込んでください。プラグが確実に差し込まれていないと、異常に発熱することがあり、ヒューズが切れるおそれがあります。
- 消費電力が120W (DC12V―10A) を超える電気製品は使用しないでください。故障につながるおそれがあります。
- 電源ソケットに接続される機器によってはオーディオにノイズが発生することがあります。
- 電源ソケットに接続される製品によっては、警告灯が点灯するなど車両のシステムに影響をおよぼすおそれがあります。接続されている機器を外し、問題が改善されるか確認してください。改善された場合、機器をソケットから外したあと、電源ポジションをOFFにしてください。問題が継続する場合、マツダ販売店にご相談ください。

知識

エンジンを停止しているときやアイドリング状態で長時間使用すると、バッテリーがあがることがあります。

エアロボード

エアロボードは、ソフトトップを開けて走行するとき、後方からの風の巻き込みを防ぎます。
エアロボードを起こして使用します。



MEMO

5 万一のときは

路上で故障したとき

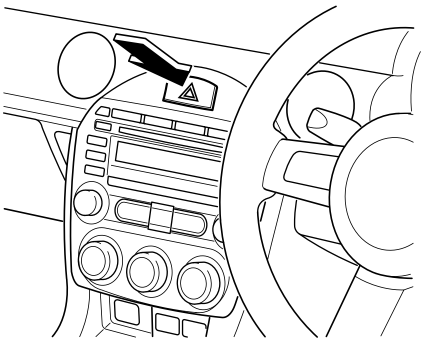
一般の道路で動けなくなったときに付近に人がいる場合は救援を求めてください。
チェンジレバー/セレクトレバーをNにいれ、安全な場所まで押し出します。

⚠ 警告

■万一、事故や故障などで車から燃料がもれている場合は、すぐにエンジンを止めてください。

爆発、火災につながるおそれがあり危険です。また、発炎筒は車から離れたところで使用してください。

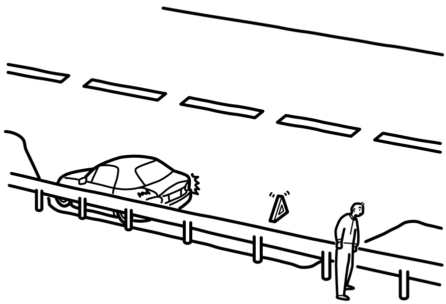
1 車を路肩に止め、非常点滅灯を点滅させます。



2 必要に応じて停止表示板 (停止表示灯)、発炎筒を使用し、後続車に故障車であることを知らせます。
→218ページ「発炎筒」

- 高速道路や自動車専用道路などでは車の後方に停止表示板または停止表示灯を置くことが法律で義務づけられています。
- 停止表示板を置くときには、発炎筒を使って合図をするなど、後続車に十分注意してください。

3 全員が車から降り、ガードレールの外などの安全な場所に、すみやかに避難してください。



4 安全を確保した後、救援を求めます。
故障の修理などお困りの際はマツダ販売店へ連絡してください。
別冊の「サービス網お客様相談窓口」をご覧ください。

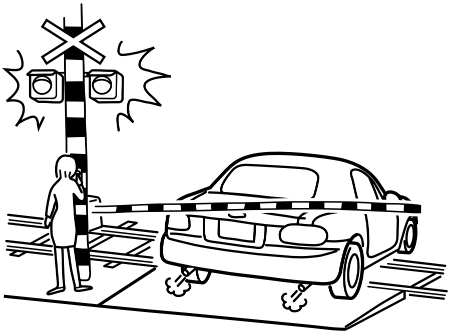
知識

停止表示板 (停止表示灯) はお客様のお車に標準で搭載されておりません。万一に備えてあらかじめ用意しておいてください。マツダ販売店でお求めいただけます。

踏切内で動けなくなったとき

脱輪などで動けなくなったとき

1 踏切の非常ボタンを押します。
緊急を要するときは、発炎筒で列車に合図します。
→218ページ「発炎筒」



2 付近の人に救援を求めます。

エンストで動けなくなったとき

1 エンジンをかけ直します。

2 エンジンがかからないときは、踏切の非常ボタンを押します。
緊急を要するときは、発炎筒で列車に合図します。
→218ページ「発炎筒」

3 付近の人に救援を求めます。
チェンジレバー/セレクトレバーをNにいれ、安全な場所まで押し出します。

知識

マニュアル車は、ギヤがはいっている状態でスターターをまわしたときに車が動き出すのを防ぐため、クラッチスタートシステムが装備されています。
→163ページ「クラッチスタートシステム (マニュアル車)」
そのため、ギヤを入れたまま電源ポジションをSTARTにし続けて車を緊急避難させることができません。

緊急用具の取り扱い

発炎筒

⚠ 警告

■ 油、ガソリンなど可燃物の近くでは使用しないでください。
火災につながるおそれがあります。

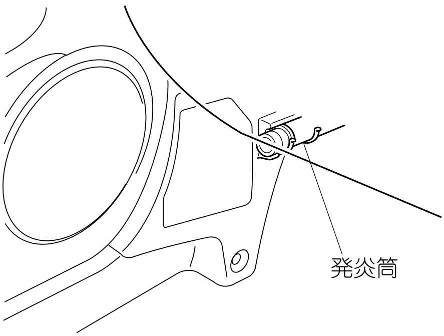
■ 使用するときは筒先を顔や身体に向けたり近づけたりしないでください。
やけどなど、重大な傷害につながるおそれがあります。

■ お子さまにはさわらせないでください。
誤って使用すると、やけどや思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ トンネル内では発炎筒を使用しないでください。
トンネル内で発炎筒を使用すると、煙で視界が悪くなるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。必要なときは非常点滅灯を使用してください。

発炎筒について

事故や故障で停車したとき、周囲に危険を知らせるために使います。

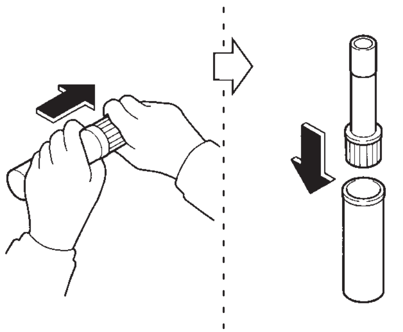


知識

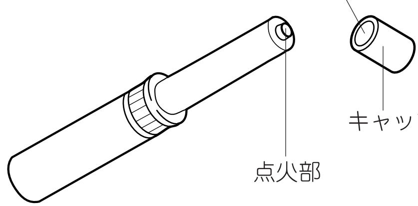
- 発炎筒は点火すると、約5分間燃え続けます。
- 発炎筒には有効期限があります。発炎筒に書いてありますので確認して、有効期限がきれる前にマツダ販売店でお求めください。

発炎筒の使いかた

1 本体をひねりながら取り出し、逆にして差し込みます。



2 点火部をキャップの頭部のすり薬でこすると着火します。



工具、ジャッキ

⚠ 警告

■車に搭載されているジャッキはお客様のお車専用のものです。

他の車には使用しないでください。また、他の車のジャッキや車に搭載されているジャッキ以外のジャッキをお客様のお車に使用しないでください。車体が損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあります。やむをえず、車に搭載されているジャッキ以外を使用するときは、マツダ販売店にご相談ください。

⚠ 注意

- ジャッキはタイヤ交換、タイヤチェーンの取り付け、取りはずし以外に使用しないでください。
- 工具、ジャッキを使用したあとは走行中に動かないよう、所定の位置にしっかりと固定してください。

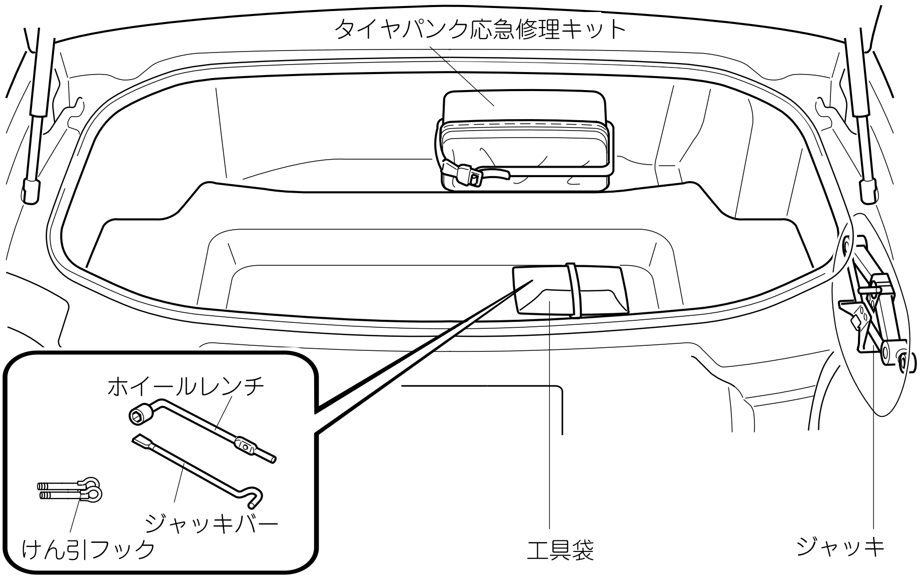
知識

スペアタイヤはお客様の車に搭載されておりません。

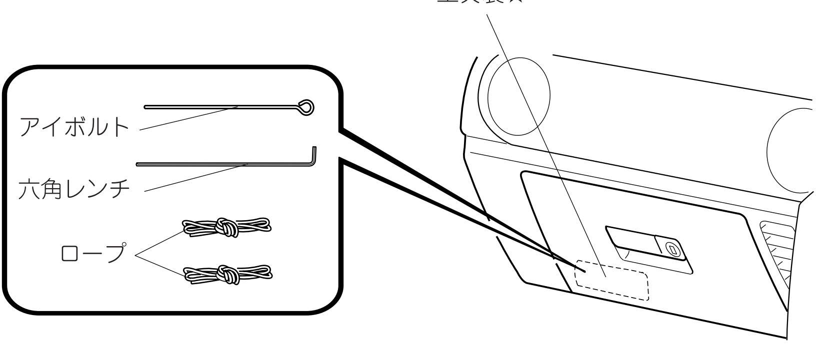
緊急用具の取り扱い

工具、ジャッキは図の位置に格納されています。

トランクルーム内



グローブボックス内



☆印はグレードや仕様変更などにより装備の有無が異なります。

ジャッキの取り扱い

ジャッキアップする前に

1 交通のさまたげにならず、安全に作業できる地面の平らで固い場所に車を移動します。

2 マニュアル車はチェンジレバーを1またはRに、オートマチック車はセレクトレバーをPにいれます。

3 ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキをしっかりとかけ、エンジンを止めます。

4 必要に応じて、非常点滅灯を点滅させ、停止表示板 (停止表示灯) を使用します。

5 人や荷物を降ろし、工具、ジャッキを取り出します。
→219ページ「工具、ジャッキ」

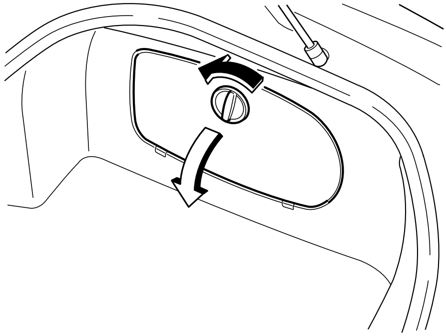
6 輪止めを用意します。

知識

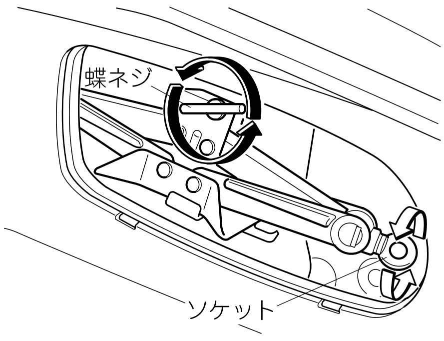
輪止めや停止表示板 (停止表示灯) はお客様のお車に標準で搭載されておりません。
必要に応じてマツダ販売店でお求めください。なお、輪止めには、タイヤを固定できる大きさの石や木材が代用できます。

取り出すとき

1 カバーを取りはずします。



2 蝶ネジを左にまわしてはずし、ソケットをゆるめてジャッキを取り出します。

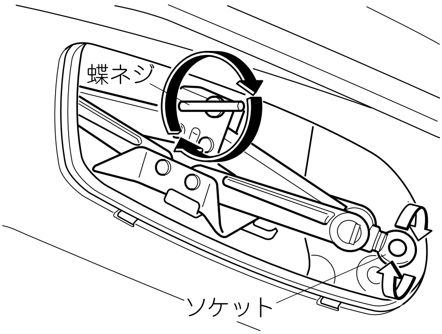


緊急用具の取り扱い

格納するとき

1 ソケットが後側になるような方向で蝶ネジをジャッキに差し込み、右にまわしていったん固定します。

2 ソケットを図の方向にまわします。



3 蝶ネジをしっかりまわしてジャッキを固定します。

知識

ジャッキが完全に固定されていないときは、走行中に音がする場合があります。再度ソケットをまわしてジャッキを固定してください。

ジャッキアップするとき

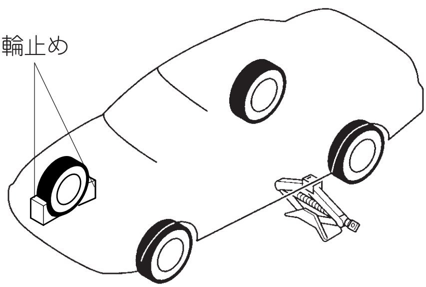
⚠ 警告

■ジャッキアップするときはマニュアル車はチェンジレバーを1またはRに、オートマチック車はセレクトレバーをPにいれ、パーキングブレーキをかけ、ジャッキをかける位置と対角の位置に輪止めをしてください。

チェンジレバーが1またはR、セレクトレバーがPにはいっていても、車が動きジャッキがはずれて思わぬ事故につながるおそれがあります。

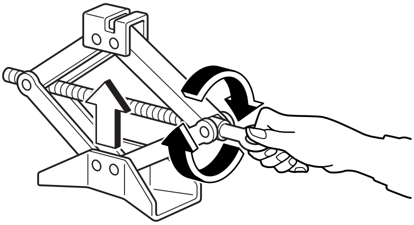
1 パーキングブレーキをしっかりとかけ、ジャッキをかける位置と対角の位置にあるタイヤに輪止めをします。

- 前輪をジャッキアップするときは、後輪の前後
- 後輪をジャッキアップするときは、前輪の前後

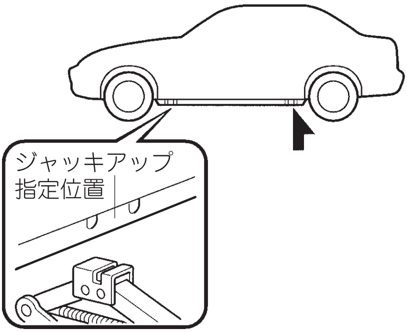


2 ジャッキを地面に置きます。

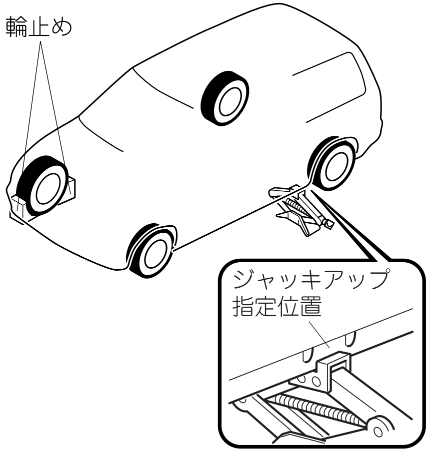
3 ジャッキの図の部分を手でまわしてジャッキをジャッキアップ指定位置の近くにくるよう調節します。



4 ジャッキをジャッキアップ指定位置に直角にセットします。



5 ジャッキを徐々に上げて、ジャッキアップ指定位置にジャッキがはまっていることを確認します。



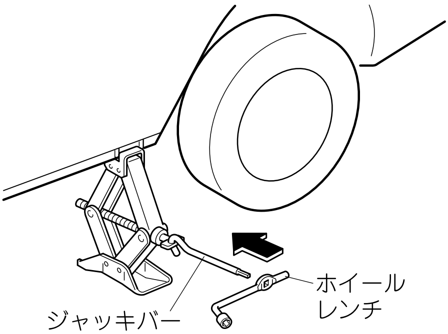
⚠ 警告

■ジャッキアップ指定位置以外にジャッキをかけたり、ジャッキの上下に台やブロックなどを入れないでください。

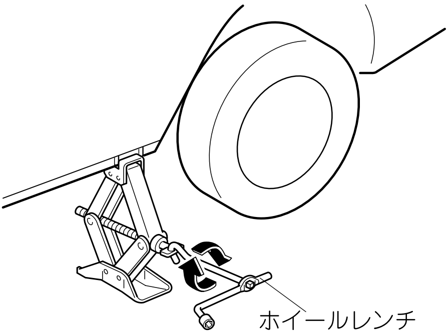
車体が変形したり、ジャッキがはずれたりして思わぬ事故につながるおそれがあります。

緊急用具の取り扱い

6 ジャッキにジャッキバーをかけ、ジャッキバーにホイールレンチを組み付けます。



7 タイヤが地面から少し離れるまで車をジャッキアップします。



⚠ 警告

■必要以上にジャッキアップしないでください。

車体が不安定になるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ジャッキアップした状態で車のエンジンをかけないでください。

ジャッキがはずれた場合、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ジャッキアップした車の下には絶対にはいらないでください。

万一ジャッキがはずれた場合、重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 注意

人を乗せたままジャッキアップしないでください。

タイヤ交換

⚠ 警告

■タイヤを交換するときは前後輪とも必ず指定された同一サイズ、同一種類のものを使用してください。

指定された組み合わせ以外のタイヤを装着すると走行安定性が損なわれるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

知識

タイヤサイズは、運転席ドアに貼付されているラベルで確認してください。
くわしくはマツダ販売店にご相談ください。

タイヤ交換をする前に

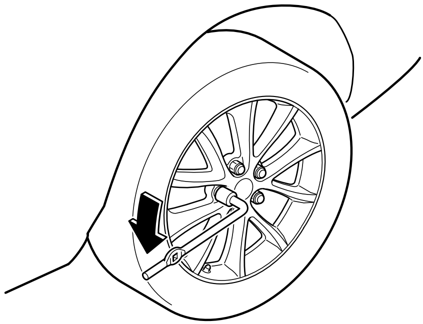
1. 交通のさまたげにならず、安全に作業できる地面が平らで固い場所に車を移動します。
2. マニュアル車はチェンジレバーを1またはRに、オートマチック車はセレクトレバーをPにいれます。
3. ブレーキペダルを踏んだままパーキングブレーキをかけエンジンを止めます。
4. 必要に応じて、非常点滅灯を点滅させ、停止表示板 (停止表示灯) を使用します。
5. 人や荷物を降ろし、工具、ジャッキを取り出します。
   →219ページ「工具、ジャッキ」
6. 輪止めを用意します。

知識

輪止めや停止表示板 (停止表示灯) はお客様のお車に標準で搭載されておりません。
必要に応じてマツダ販売店でお求めください。なお、輪止めには、タイヤを固定できる大きさの石や木材が代用できます。

タイヤの取りはずし

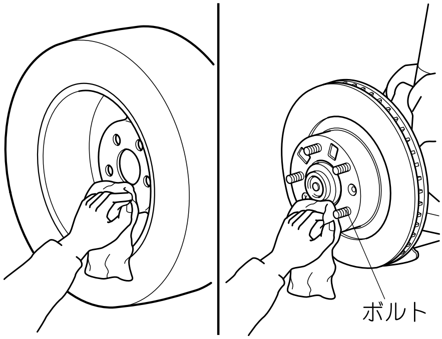
1. ホイールレンチでナットを左に約1回転まわしてゆるめます。



2. タイヤが地面から少し離れるまで車をジャッキアップします。
   →222ページ「ジャッキアップするとき」
3. ナットをはずし、タイヤを取りはずします。

緊急用具の取り扱い

4 ボルトとホイール裏側の接触面に付着している汚れを布などでふき取ります。

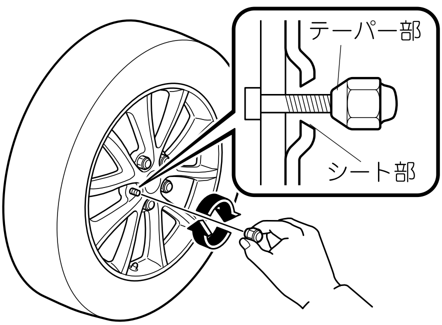


⚠ 警告

ボルトやホイール裏側の接触面がホコリなどで汚れていると、走行中にナットがゆるみタイヤがはずれ、思わぬ事故につながるおそれがあります。

タイヤの取り付け

1 タイヤを取り付けてから、ナットのテーパー部がホイールのシート部に軽くあたる程度まで、ナットを右にまわして仮締めします。



⚠ 警告

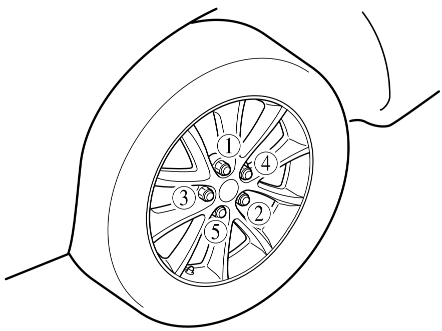
ナットやボルトにオイルやグリースをぬらないでください。ナットがゆるんでタイヤがはずれ、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、必要以上に締め付けられて、ナットやボルトが破損するおそれがあります。

2 ジャッキハンドルを左にまわし、車をおろします。

3 ホイールレンチで図の番号順にナットを2〜3回に分けて締め付けます。

ナットの締め付けトルク:

N·m (kgf·m)	88〜118 (9〜12)



⚠ 注意

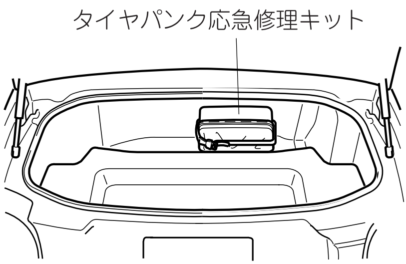
ホイールレンチを足で踏んでナットを必要以上に締め付けないでください。ボルトが破損するおそれがあります。

知識

- タイヤを交換してから約1,000km走行した後、ナットにゆるみが無いことを確認してください。
- タイヤを交換した後はホイールバランスが狂うことがあります。走行中に車体の振動などの異常を感じたら、マツダ販売店で点検を受けてください。

タイヤパンク応急修理キット

本キットはタイヤの接地面に刺さった釘やネジなどによる軽度のパンクを一時的に修理するものです。
タイヤパンク応急修理キットは図の位置に格納されています。



知識

- お客様のお車にはスペアタイヤが搭載されておりません。タイヤがパンクしたときは、タイヤパンク応急修理キットを使用し、パンクタイヤを一時的に修理してください。修理するときは、タイヤパンク応急修理キット内に付属している取扱説明書もあわせてご覧ください。
- タイヤパンク応急修理キットで応急修理したタイヤは、できるだけ早くマツダ販売店で修理、交換を行なってください。

タイヤパンク応急修理キットについて

タイヤパンク応急修理キット内には、次のものが格納されています。



⚠ 警告

■ 万一飲用したときは、すぐに多量の水を飲み、応急処置が済んだら、医師の診察を受けてください。

修理剤を飲用すると健康に害があります。

■ 修理剤が目に入ったり、皮膚に付着したときは、すぐに多量の水で洗浄してください。

それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。

■ お子さまには修理剤をさわらせないでください。

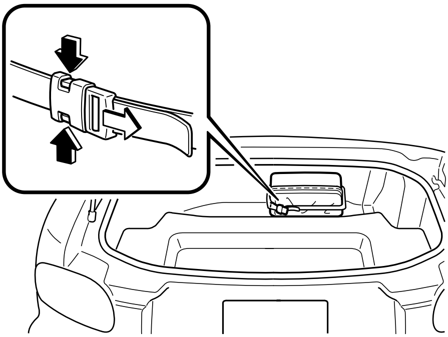
誤って使用すると、やけどや思わぬ事故につながるおそれがあります。

知識

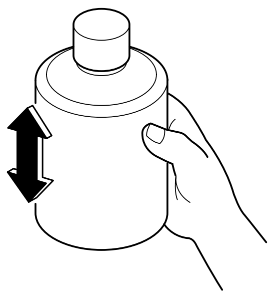
- 一度使用した修理剤は再使用できません。新しい修理剤をマツダ販売店でお求めください。
- 次のようなときには、修理剤を使用することができません。マツダ販売店またはJAFなどに連絡してください。
  - 修理剤の有効期限がきれているとき (有効期限はボトルのラベルに記載されています)
  - 約4mm以上の切り傷や刺し傷があるとき
  - 接地部以外が損傷を受けたとき
  - ほとんど空気の抜けた状態で走行したとき
  - タイヤがホイールからはずれているとき
  - ホイールが破損しているとき
  - タイヤが2本以上パンクしているとき

タイヤパンク応急修理キットの使いかた

1. 交通のさまたげにならず、安全に作業できる地面の平らで固い場所に車を移動します。
2. マニュアル車はチェンジレバーを1またはRに、オートマチック車はセレクトレバーをPにいれます。
3. ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキをかけ、エンジンを止めます。
4. 必要に応じて、非常点滅灯を点滅させ、停止表示板 (停止表示灯) を使用します。
5. 人や荷物を降ろし、タイヤパンク応急修理キットを取り出します。



6. 修理剤のボトルをよく振ります。



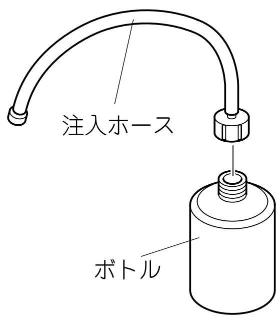
注意

注入ホースをねじ込んだ後にボトルを振ると、修理剤が注入ホースから飛び散るおそれがあります。修理剤が衣服などに付着すると取れないおそれがありますので、注入ホースをねじ込む前にボトルを振ってください。

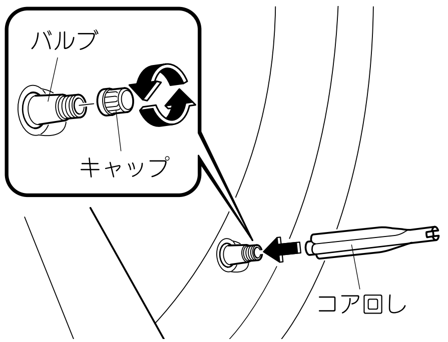
知識

0°C以下の寒冷時では修理剤が固まりやすくなり、注入作業がしにくくなります。車内などで暖めると注入作業がしやすくなります。

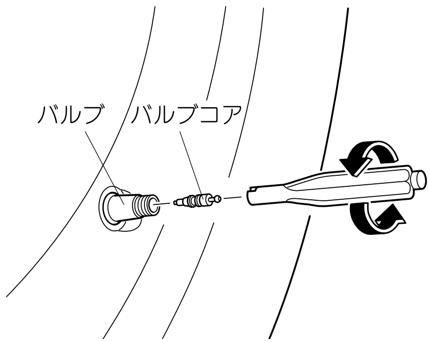
7 ボトルのキャップをはずします。内ぶたをつけたままの状態で注入ホースをボトルにねじ込むと、ボトルの内ぶたが破れます。



8 パンクしたタイヤのバルブからキャップを取りはずし、コアまわしの後ろでバルブ内のバルブコアを押してタイヤの空気を完全に抜きます。



9 コアまわしでバルブコアを左にまわし、バルブコアを取りはずします。



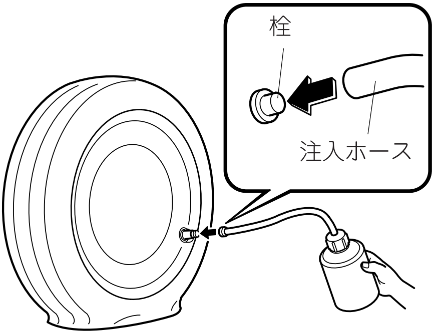
注意

バルブコアをはずすとき、タイヤに空気が残っているとバルブコアが飛び出すおそれがあります。バルブコアは慎重に取りはずしてください。

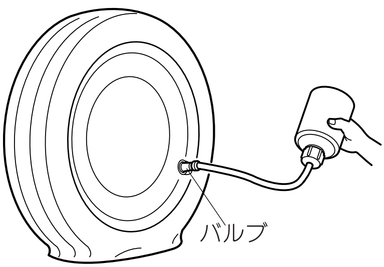
知識

バルブコアは汚れないように保管してください。

10 注入ホースの栓をはずし、注入ホースをバルブに差し込みます。



11 ボトルを逆さまにして持ち、手でボトルを圧迫し、修理剤を全てタイヤの中に注入します。

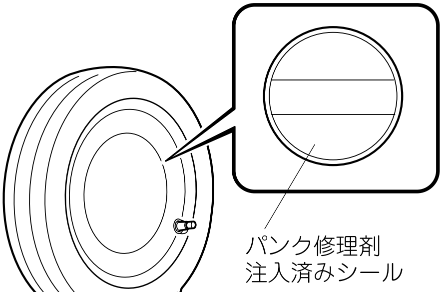


知識

一度使用した修理剤は再使用できません。新しい修理剤をマツダ販売店でお求めください。

12 注入ホースをバルブから引き抜き、コアまわしでバルブコアを右にまわし、バルブにバルブコアを取り付けます。

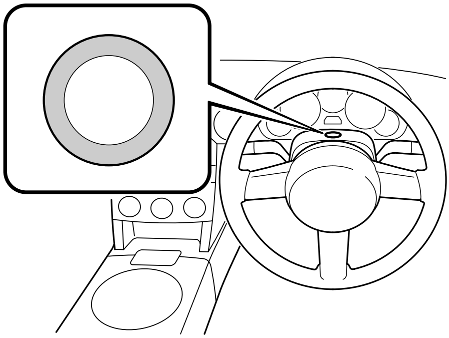
13 パンク修理剤注入済みシールをホイールの平らなところに貼ります。



知識

注入が完了した空ボトルは、タイヤ交換または恒久修理の際に修理剤の回収に使用しますので、ボトルは捨てずにマツダ販売店までお持ちください。

14 運転者のよく見えるところに速度制限シールを貼ります。



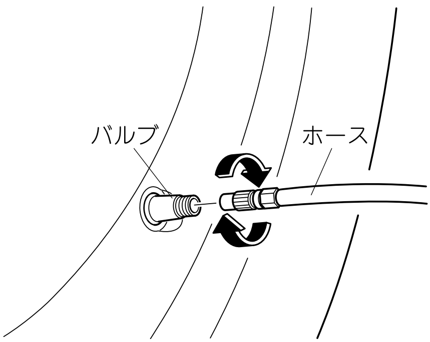
パンクしたとき

⚠ 警告

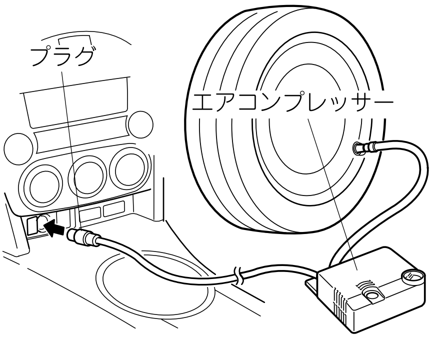
■ハンドルのパッド部に制限速度シールを貼らないでください。

万一の場合エアバッグが正常に作動しなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。また、警告灯やスピードメーターが見えなくなる位置には貼らないでください。

15 エアコンプレッサーのホースをバルブに取り付けます。



16 エアコンプレッサーのプラグを車内の電源ソケットに差し込み、電源ポジションをACCにします。
→212ページ「電源ソケット」



⚠ 注意

- **電源ソケットにエアコンプレッサーのプラグを抜き差しするときは、エアコンプレッサーのスイッチがOFFになっていることを確認してください。**
- **エアコンプレッサーのON、OFFはエアコンプレッサー本体のスイッチで行なってください。**

17 エアコンプレッサーのスイッチをONにして、タイヤを適正空気圧まで昇圧します。

知識

- タイヤの適正空気圧は運転席ドアに貼付されているラベルで確認してください。
- エアコンプレッサーは長時間使用すると故障につながるおそれがありますので、10分以上連続して作動させないでください。
- タイヤ空気圧が昇圧できない場合は修理できません。もし、10分以内に適正空気圧にならなければ、タイヤがひどい損傷を受けている可能性があります。この場合は、本修理キットで応急修理することができません。マツダ販売店またはJAFなどに連絡してください。
- 空気を入れすぎたときはエアコンプレッサーのホースの口金を緩めて空気を抜いてください。

18 適正空気圧まで昇圧できたら、エアコンプレッサーのスイッチをOFFにしエアコンプレッサーのホースをバルブから抜きます。

19 バルブキャップを取り付けます。

20 修理剤をタイヤ内にゆきわたらせるため、直ちに走行を始めます。

注意

80km/h以下の速度で慎重に運転してください。80km/h以上の速度で走行した場合、車体が振動することがあります。

21 10分間もしくは5km程度走行後に手順15の方法でタイヤにエアコンプレッサーを接続し、エアコンプレッサーに付属している空気圧計でタイヤ空気圧をチェックします。適正空気圧より低下していたら、手順16の作業から再度行ないます。

警告

■ **空気圧が130kPa (1.3kgf/cm²) 以下に低下していたら、本修理キットによる応急修理はできません。**

運転を中止してマツダ販売店またはJAFなどに連絡してください。

■ **手順15〜21の作業を繰り返しても、空気圧の低下が認められる場合は、運転を中止してください。**

マツダ販売店またはJAFなどに連絡してください。

知識

タイヤ空気圧を空気圧計で確認するときは、エアコンプレッサーのスイッチをOFFにしてから確認してください。

22 空気圧が低下していなければ、応急修理完了です。

すみやかにマツダ販売店まで慎重に運転し、タイヤの交換を行なってください。

知識

- タイヤパンク応急修理キットで応急修理をしたタイヤは、新しいタイヤに交換することをおすすめします。修理・再使用については、マツダ販売店にご相談ください。
- ホイールは付着した修理剤をふき取れば再使用できます。ただし、バルブは新しいものと取り替えてください。

タイヤパンク応急修理キットの点検

タイヤパンク応急修理キットの点検は定期的に行なってください。

- 修理剤の有効期限の確認
- コンプレッサーの作動の確認

知識

修理剤には有効期限があります。有効期限がきれたものは使用できませんので、ボトルのラベルに記載されている有効期限を確認し、有効期限がきれる前にマツダ販売店で新しい修理剤をお求めください。

オーバーヒートしたとき

オーバーヒートについて

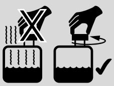
次のようなときは、オーバーヒートです。

- 水温計の針がH付近を示し、エンジンの出力が急に低下したとき。
- エンジンルームから蒸気が出ているとき。

⚠ 警告

■エンジンルームから蒸気が出ているときは、ボンネットを開けないでください。

エンジンルーム内が熱いとき、ボンネットを開けると、蒸気や熱湯が噴き出してやけどなど、重大な傷害につながるおそれがあります。また、蒸気が出てない場合でも高温になっている部分があります。ボンネットを開けるときは十分に注意してください。



■エンジンが十分に冷えるまではリザーバータンクのキャップを開けないでください。

エンジンが熱いときにキャップをはずすと、蒸気や熱湯が噴き出してやけどなど、重大な傷害につながるおそれがあります。



■エンジンルーム内を点検するときは、ファンやベルトなどの回転部に触れないようにしてください。

特に、エンジンルームが高温のときは、エンジンが止まっていてもファンが回転することがあるため、手や指などが巻き込まれるなど、重大な傷害につながるおそれがあります。

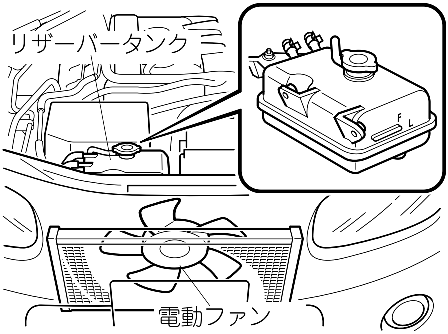
処置方法

1. 安全な場所に車を止めます。
2. エンジンルームから蒸気が出ていないかどうかを確認します。
   エンジンルームから蒸気が出ていないときは
   エンジンをかけたままボンネットを開け、エンジンを冷やします。
   エンジンルームから蒸気が出ているときは
   エンジンを止めてください。蒸気が出なくなるまで待ち、風通しをよくするためにボンネットを開け、エンジンを始動してください。
3. 電動ファンが作動していることを確認し、水温計の針が下がってきたらエンジンを止めます。

⚠ 注意

電動ファンが作動していないときは、エンジン温度がさらに上昇します。ただちにエンジンを止め、マツダ販売店にご連絡ください。

4 エンジンが十分に冷えてから、冷却水の量を点検します。量が不足しているときはリザーバータンクに冷却水を補充してください。
補充後はキャップを確実に取り付けてください。



⚠ 警告

■ **エンジンが十分に冷えるまではラジエーターとリザーバータンクのキャップを開けないでください。**

エンジンが熱いときにキャップをはずすと、蒸気や熱湯が噴き出してやけどなど、重大な傷害につながるおそれがあります。

知識

- 冷却水がない場合は、一時的に水を補充してください。
  一時的に水だけを補充したときは、冷却水の濃度をもとにもどしてください。
- 冷却水を補充しても少なくなるときは、冷却水のもれが考えられます。早めにマツダ販売店で点検を受けてください。

バッテリーがあがったとき

バッテリーあがりについて

次のような状態はバッテリーあがりです。

- スターターがまわらない。またはまわっても回転が弱く、なかなかエンジンがかからない。
- ホーンの音が小さい、または鳴らない。
- ランプ類がいつもより極端に暗い。

⚠ 警告

正しく安全にバッテリーを取り扱うために、バッテリー使用前または点検前には必ず次の注意事項をお読みください。

■バッテリーを取り扱うときは必ず保護メガネを着用してください。
バッテリー液には有毒で腐食性の高い希硫酸が含まれており、目に入ると失明など重大な傷害につながるおそれがあります。また、バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあります。

■バッテリーを取り扱うときはバッテリー液をこぼさないでください。
バッテリー液には有毒で腐食性の高い希硫酸が含まれており、目や皮膚に付着すると重大な傷害につながるおそれがあります。万一付着したときは、すぐに多量の水で洗浄し、応急処置が済んだら、医師の診察を受けてください。

■バッテリーの近くでお子さまを遊ばせないでください。
バッテリー液には有毒で腐食性の高い希硫酸が含まれており、目や皮膚に付着すると重大な傷害につながるおそれがあります。

■バッテリーを取り扱うときは、絶対に火気を近づけないでください。
バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険です。火気の発生を防ぐため、＋ 端子や－ 端子に工具などの金属部分が触れないようにしてください。また、ブースターケーブルの接続、取りはずしのときは、＋ 端子がボディーや－ 端子に触れないように十分注意してください。

■換気の悪い場所では、バッテリーの充電を行なわないでください。
バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険です。

■ブースターケーブルを使用してエンジンを始動する前に必ずバッテリー液の量を点検してください。
バッテリー液の量が下限 (LOWER LEVEL) より不足している状態でエンジンを始動すると、破裂 (爆発) につながるおそれがあり危険です。バッテリー液が不足しているときは、エンジン始動前に必ず補充液または蒸留水を補充してください。

処置方法

押しがけによる始動はできません。
別売のブースターケーブルを使用して、救援車 (他の車) のバッテリーと自車のバッテリーを接続してエンジンをかけます。
自車と同じ12Vバッテリーを搭載した救援車を依頼してください。

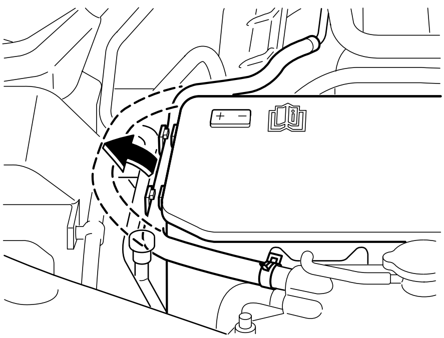
⚠ 注意

ブースターケーブルを接続するときは慎重に行なってください。ブースターケーブルがベルトなどの回転部に巻き込まれるおそれがあります。

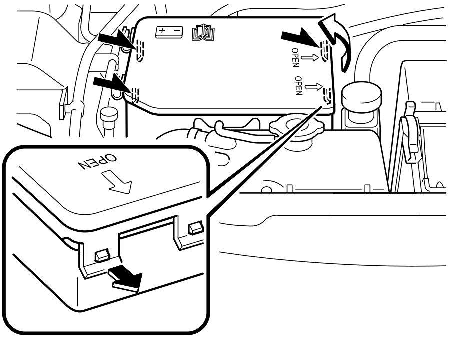
1 自車のバッテリーと救援車のバッテリーが一番近い位置になるように、車を移動させます。

2 ヘッドランプやエアコンなどの電源が切ってあることを確認します。

3 ホースをバッテリーカバーから取りはずします。



4 バッテリーカバーを取りはずします。

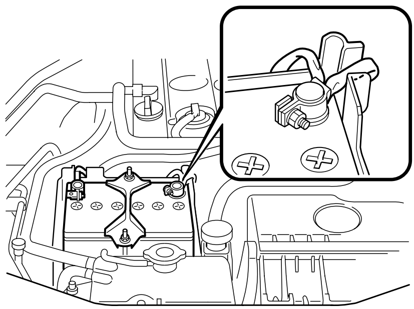


⚠ 注意

バッテリーカバーを取り付けたあとは、カバーが確実に固定されていることを確認してください。確実に固定されていないと走行中他の装置と接触し故障につながるおそれがあります。

知識

バッテリーカバーを取り付ける前に、バッテリーのマイナス端子 (バッテリー右側) に繋がっている2本の線が、図のようにバッテリーの右側とバッテリーの奥に向かって配線されていることを確認してください。



バッテリーがあがったとき

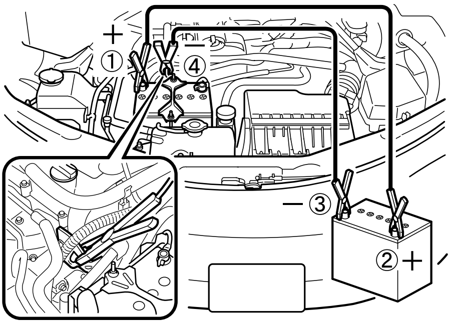
5 救援車のエンジンを止めて、ブースターケーブルを次の順で接続します。
ブースターケーブルを接続する前に各バッテリーの端子(＋、ー)の位置を確認してください。

1本目

① 自車のバッテリーの＋ 端子
② 救援車のバッテリーの＋ 端子

2本目

③ 救援車のバッテリーのー 端子
④ 図で表示の箇所(アースを取る)



⚠ 警告

■ バッテリーを取り扱うときは、絶対に火気を近づけないでください。

バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険です。
また、火花の発生を防ぐため次の点を必ず守ってください。

- ④ の接続は自車バッテリーのー 端子につながないでください。
- ブースターケーブルの接続、取りはずしのときは、＋ 端子がボディーやー 端子に触れないように十分注意してください。

6 救援車のエンジンをかけ、エンジン回転数を高めにします。

7 自車のエンジンをかけます。約3分間エンジンを回転させて、応急的に自車のバッテリーを充電します。

⚠ 警告

■ 充電中はバッテリーに近づかないでください。

バッテリー液は希硫酸です。目や皮膚に付着すると重大な傷害につながるおそれがあります。万一付着したときは、すぐに多量の水で洗浄し、応急処置が済んだら、医師の診察を受けてください。

8 ブースターケーブルを接続したときと逆の順で取りはずします。

9 早めにマツダ販売店で点検を受けてください。

ランプ類、電気装置が作動しないとき

ランプ類が点灯しないときや電気装置が作動しないときは、ヒューズ切れや電球切れが考えられます。
まずヒューズを点検し、必要に応じて交換してください。

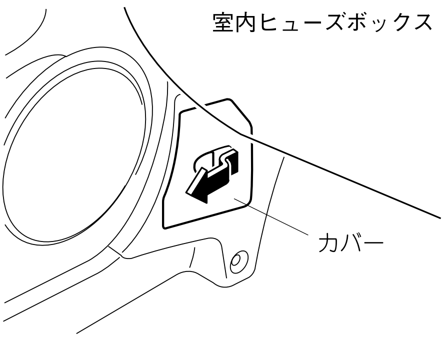
知識

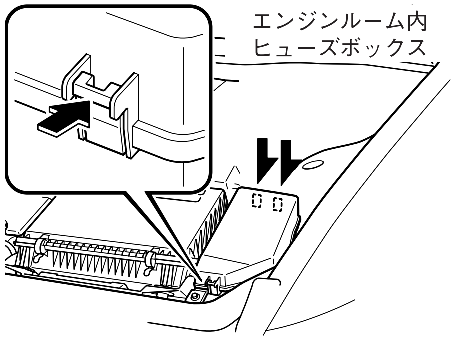
ヒューズは電気装置を過負荷から保護する働きをしています。

ヒューズの交換

1 電源ポジションをOFFにします。

2 ヒューズボックスのカバーを開きます。
ヒューズボックスは助手席グローブボックス下と、エンジンルーム内にあります。



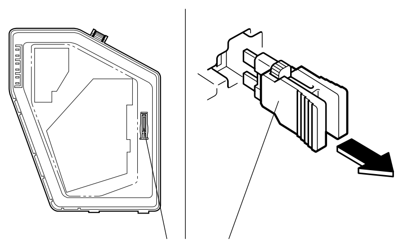


知識

- 各ヒューズはグレードや仕様により無い場合があります。
- ヒューズボックスのカバー裏側に各ヒューズの規定容量が表示されています。

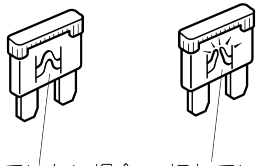
3 ヒューズの位置を確認し、故障の状況から、点検すべきヒューズを確認してください。
→250ページ「ヒューズの受け持つ装置」

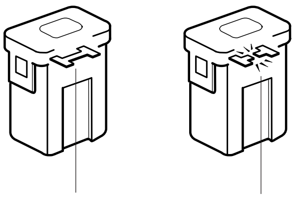
4 ヒューズを抜き取ります。



ヒューズ切れ、電球切れのとき

5 ヒューズを点検し、切れている場合は、規定容量のヒューズと交換します。





警告

■規定容量を超えるヒューズを使用したり、ヒューズの代わりに針金や銀紙などを使用しないでください。

配線などが過熱し、焼損して火災になるおそれがあります。

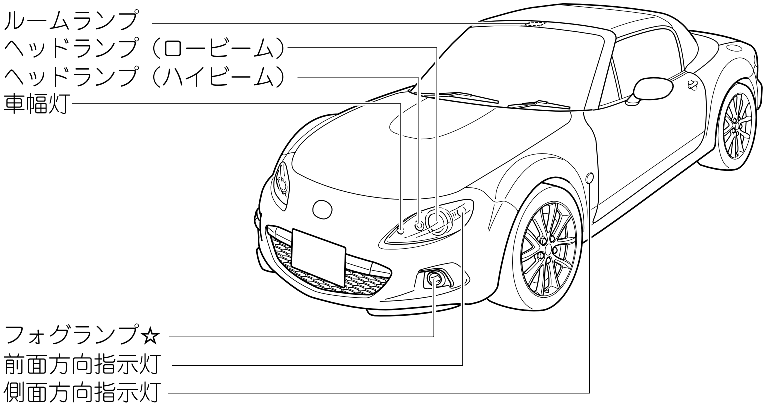
知識

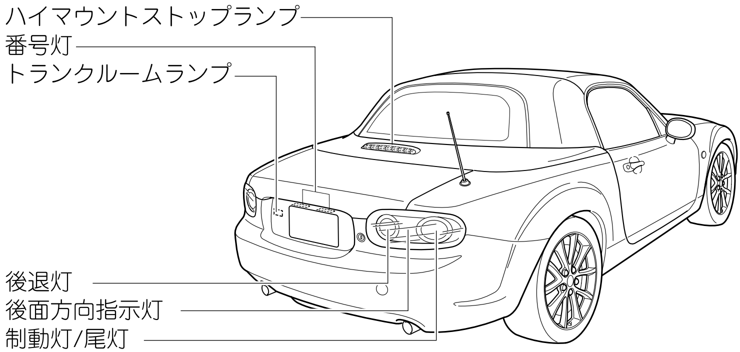
- ヒューズが切れていないとき、またはヒューズを交換してもランプ類が点灯しないときは、電球切れが考えられます。電球を点検し、切れているときは交換してください。
- ヒューズが切れていないとき、またはヒューズを交換しても電気装置が作動しないときは、マツダ販売店で点検を受けてください。
- ヒューズを交換してもすぐ切れる場合は、マツダ販売店で点検を受けてください。

6 カバーをもとにもどし、確実に取り付けられていることを確認します。

電球 (バルブ) の交換

ヒューズが切れていないのにランプ類が点灯しないときは、電球切れが考えられます。電球を点検し、切れているときは交換してください。記載されていない電球の交換については、マツダ販売店にご相談ください。





☆印はグレードや仕様変更などにより装備の有無が異なります。

⚠ 警告

ヘッドランプの下向き (ロービーム) にはディスチャージヘッドランプが装備されています。
ディスチャージヘッドランプは高電圧を使用しているため、取り扱いを誤ると感電するおそれがあります。ディスチャージヘッドランプの交換·修理をするときは、必ずマツダ販売店へご相談ください。

ヒューズ切れ、電球切れのとき

注意

- **電球を交換するときは、各ランプを消灯させ、電球が冷えてから交換してください。やけどをするおそれがあります。**
- **電球および電球固定具の取り付けは確実に行なってください。確実に取り付けされていないと、水入りなどによる故障およびレンズ内面の曇りにつながるおそれがあります。**
- **ハロゲン球はガラス内部の圧力が高いため、落としたり、物をぶつけたり、傷をつけたりすると破損してガラスが飛散するおそれがあります。取り扱いには十分注意してください。また、素手で触れずにきれいな手袋を着用してください。**

知識

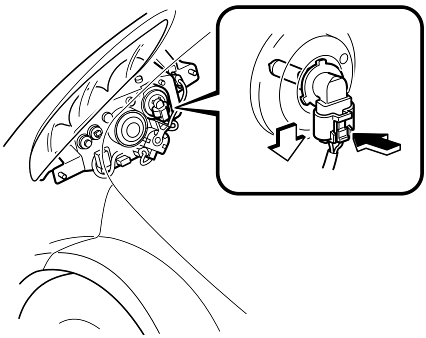
- ハロゲン球を素手で触れてはいけませんが、万一、誤ってハロゲン球に触れてしまったときは、水で薄めた中性洗剤 (約5%) をやわらかい布に含ませ、汚れをふき取ってください。
- 必ず同じW数の電球を使用してください。
- ヘッドランプ、制動灯などのランプは、雨天走行や洗車などの使用条件によりレンズ内面が一時的に曇ることがあります。これはランプ内部と外気の温度差によるもので、雨天時などに窓ガラスが曇るのと同様の現象であり、機能上の問題はありません。ただし、レンズ内面に大粒の水滴がついているときやランプ内に水がたまっているときは、マツダ販売店にご相談ください。

ヘッドランプ

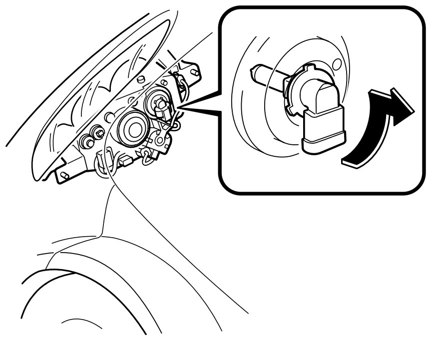
上向き (ハイビーム)

1 ボンネットを開けます。

2 ツメを押し、コネクターをはずします。



3 ソケットをまわして取りはずします。



4 電球を取り換えます。

5 はずした手順と逆の手順で取りつけます。

下向き (ロービーム)

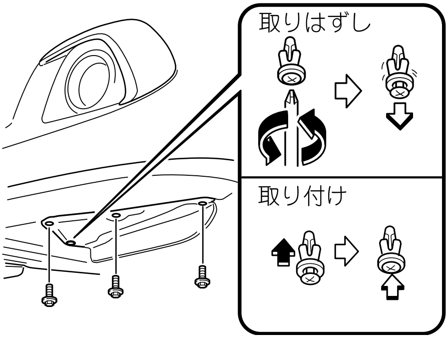
ヘッドランプのロービームにはディスチャージヘッドランプが装備されています。

⚠ 警告

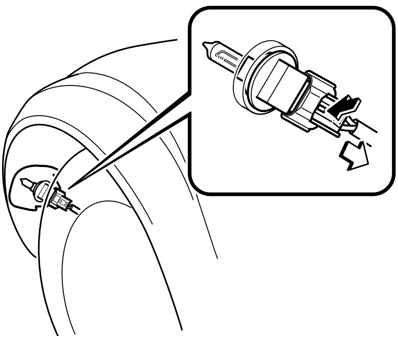
ディスチャージヘッドランプは高電圧を使用しているため、取り扱いを誤ると感電するおそれがあります。ディスチャージヘッドランプの交換･修理をするときは、必ずマツダ販売店へご相談ください。

フォグランプ☆

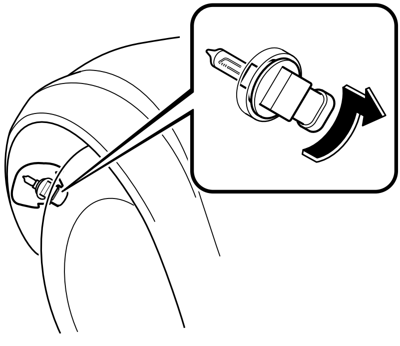
1 ファスナー、ネジをはずし、マッドガードをめくります。



2 ツメを押し、コネクターをはずします。



3 ソケットをまわして取りはずします。



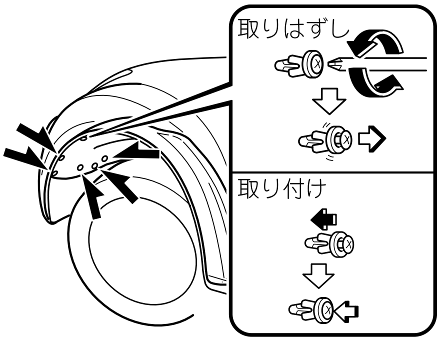
4 電球を取り換えます。

5 はずした手順と逆の手順で取りつけます。

前面方向指示灯

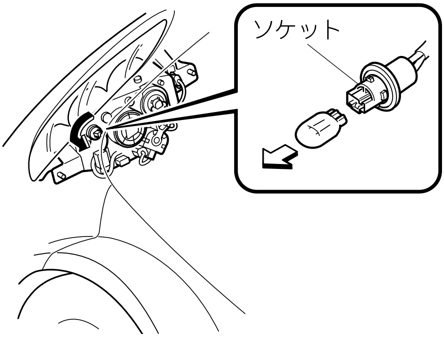
1 エンジンをかけ、交換する側と同じ方向にハンドルをいっぱいにきり、エンジンをきります。

2 ファスナーをはずし、マッドガードをめくります。



ヒューズ切れ、電球切れのとき

3 ソケットをまわして取りはずし、電球を抜き取ります。



4 電球を取り換えます。

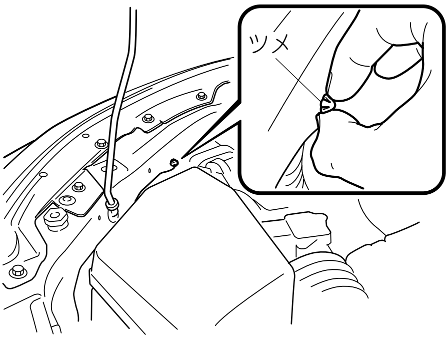
5 はずした手順と逆の手順で取りつけます。

車幅灯

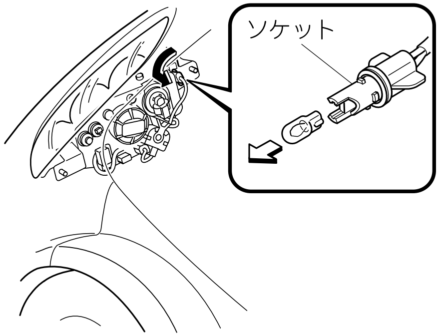
(助手席側ランプ交換)

1 ボンネットを開けます。

2 メインハーネスのツメを外し、スペースをつくります。



3 ソケットをまわして取りはずし、電球を抜き取ります。



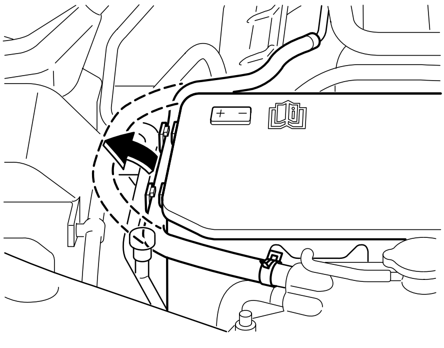
4 電球を取り換えます。

5 はずした手順と逆の手順で取りつけます。

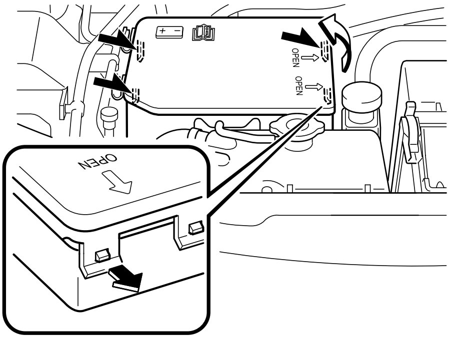
(運転席側ランプ交換)

1 ボンネットを開けます。

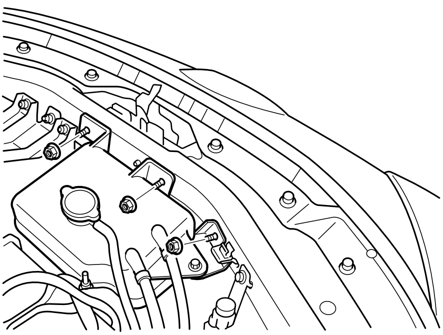
2 ホースをバッテリーカバーから取りはずします。



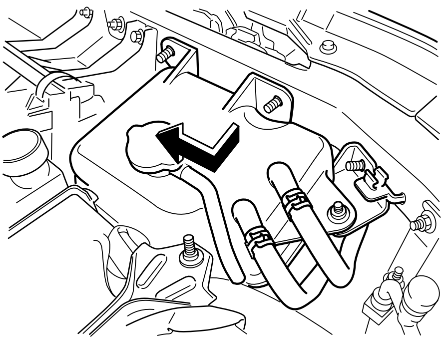
3 バッテリーカバーを取りはずします。



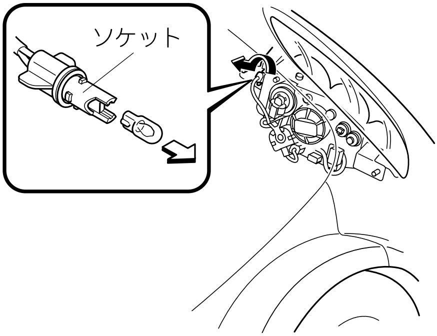
4 リザーバータンクのナットをはずします。



5 リザーバータンクタンクをエアクリーナー側に動かし、スペースをつくります。



6 ソケットをまわして取りはずし、電球を抜き取ります。



7 電球を取り換えます。

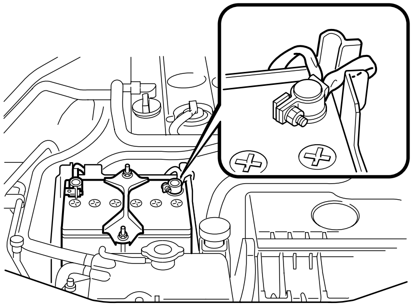
8 はずした手順と逆の手順で取りつけます。

⚠ 注意

バッテリーカバーを取り付けたあとは、カバーが確実に固定されていることを確認してください。確実に固定されていないと走行中他の装置と接触し故障につながるおそれがあります。

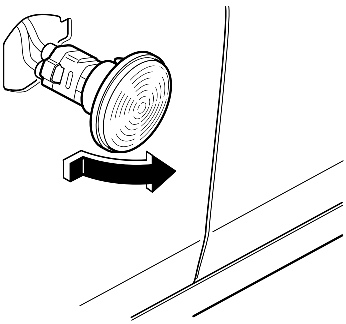
知識

バッテリーカバーを取り付ける前に、バッテリーのマイナス端子 (バッテリー右側) に繋がっている2本の線が、図のようにバッテリーの右側とバッテリーの奥に向かって配線されていることを確認してください。

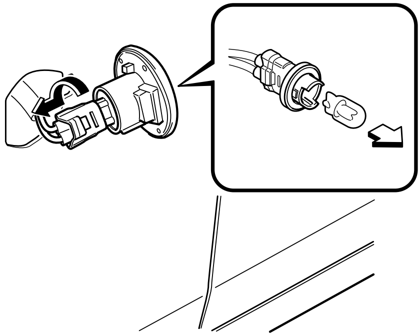


側面方向指示灯

1 ユニットを車両後方にスライドさせ、取りはずします。



2 ソケットをまわして取りはずし、電球を抜き取ります。



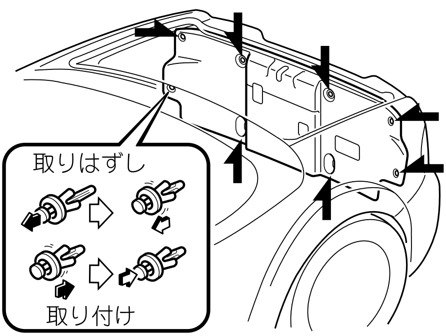
3 電球を取り換えます。

4 はずした手順と逆の手順で取りつけます。

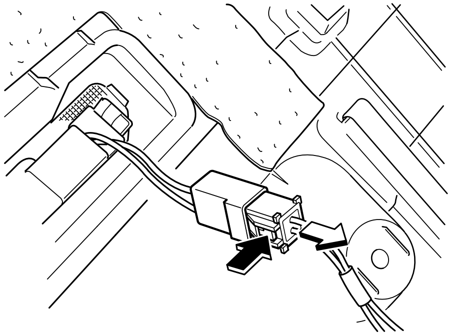
後面方向指示灯、後退灯、制動灯/尾灯

1 トランクを開けます。

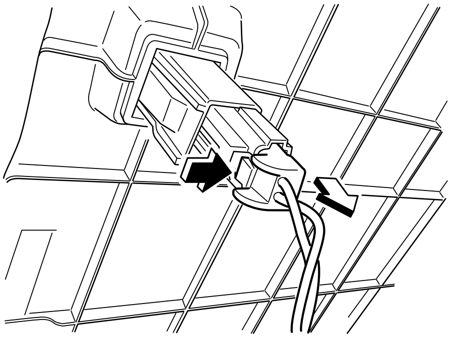
2 ファスナーを取りはずしてトランクエンドトリムを取りはずします。



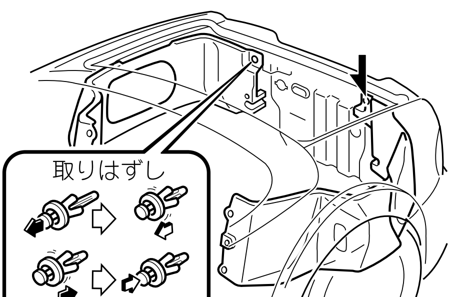
3 トランクルームランプのコネクターをはずします。



4 トランクオープナーキャンセルスイッチのコネクターをはずします。

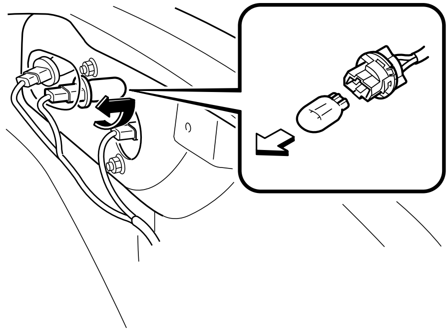


5 ファスナーを取りはずしてトランクサイドトリムをめくります。

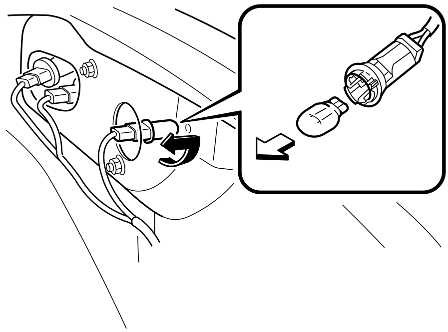


6 ソケットをまわして取りはずし、電球を抜き取ります。

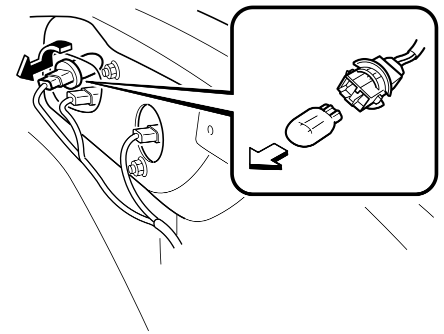
後面方向指示灯



後退灯



制動灯/尾灯



7 電球を取り換えます。

8 はずした手順と逆の手順で取りつけます。

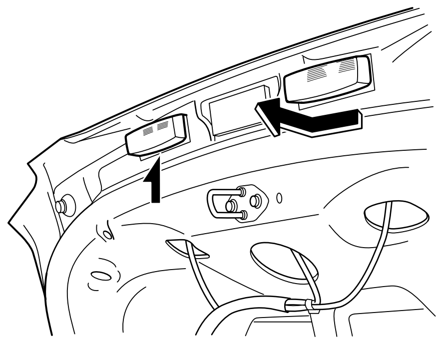
ハイマウントストップランプ

LEDタイプの電球のため交換はできません。交換については、マツダ販売店へご相談ください。

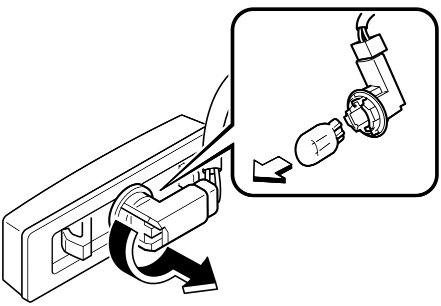
番号灯

1 トランクを開けます。

2 ユニットを車両左側にスライドさせ、取りはずします。



3 ソケットをまわして取りはずし、電球を抜き取ります。

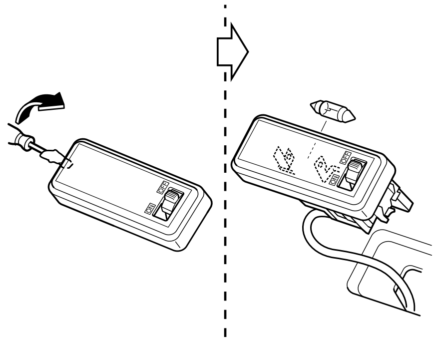


4 電球を取り換えます。

5 はずした手順と逆の手順で取りつけます。

トランクルームランプ

1 ランプ本体を取りはずし、電球を抜き取ります。

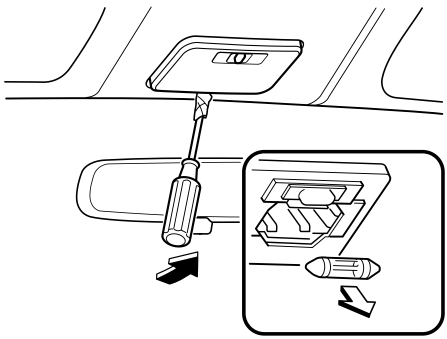


2 電球を取り換えます。

3 はずした手順と逆の手順で取りつけます。

ルームランプ

1 カバーを取りはずし、電球を抜き取ります。

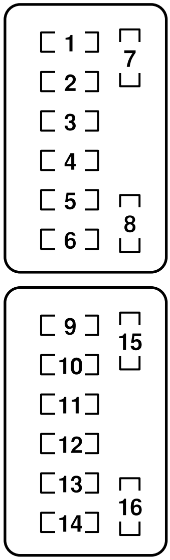


2 電球を取り換えます。

3 はずした手順と逆の手順で取りつけます。

ヒューズの受け持つ装置

室内ヒューズボックス



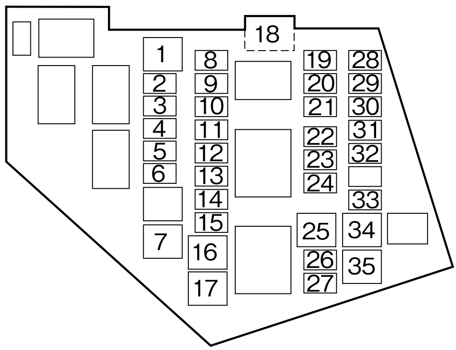
位置	表示	容量	保護装置
1	ACC	7.5A	オーディオ、電動ミラー
2	AUX PWR	15A	電源ソケット
3	METER	15A	メーター
4	SEAT WARM	20A	シートヒーター☆
5	ILLUMI	7.5A	イルミネーション
6	A/C	7.5A	エアコン
7	ENGINE	7.5A	エンジンコントロールシステム
8	—	—	—

 ☆印はグレードや仕様変更などにより装備の有無が異なります。

位置	表示	容量	保護装置
9	M.DEF	—	—
10	AUDIO	20A	オーディオ☆
11	D.LOCK	20A	パワードアロック
12	SILEN	—	—
13	—	—	—
14	—	—	—
15	—	—	—
16	—	—	—

ヒューズ切れ、電球切れのとき

エンジンルーム内ヒューズボックス



位置	表示	容量	保護装置
1	FAN	30A	クーリングファン
2	FAN	7.5A	クーリングファン
3	DEFOG	20A	リヤウインドーデフォッガー (曇り取り)
4	H/CLEAN	—	—
5	ROOM	15A	ルームランプ、トランクルームライト、トランクリッドオープナー
6	IG KEY2	15A	各ヒューズへの電源
7	HEATER	40A	エアーコンディショナー
8	ABS	30A	ABSユニット
9	FOG	15A	フロントフォグランプ☆

 ☆印はグレードや仕様変更などにより装備の有無が異なります。

位置	表示	容量	保護装置
10	R.FOG	—	—
11	RHT L	30A	パワーリトラクタブルハードトップ(左)☆
12	RHT R	30A	パワーリトラクタブルハードトップ(右)☆
13	MAG	7.5A	エアーコンディショナー
14	ST	20A	スターター
15	TAIL	15A	尾灯、車幅灯、イルミネーション
16	ABS	40A	ABSユニット
17	BTN	30A	各ヒューズへの電源
18	MAIN	120A	各ヒューズへの電源
19	EGI INJ	10A	インジェクター
20	EGI COMP1	10A	エンジンコントロールシステム
21	EGI COMP2	10A	エンジンコントロールシステム
22	HEAD LOW L	15A	ヘッドランプ 左 (Low)
23	HEAD LOW R	15A	ヘッドランプ 右 (Low)
24	HEAD	15A	ヘッドランプ (High)
25	P.WIND	—	—
26	ENGINE	15A	エンジンコントロールシステム
27	WIPER	20A	ワイパー/ウォッシャー
28	DRL	—	—
29	HORN	15A	ホーン
30	STOP	10A	制動灯

☆印はグレードや仕様変更などにより装備の有無が異なります。

ヒューズ切れ、電球切れのとき

位置	表示	容量	保護装置
31	ETV	10A	エレクトリックスロットルバルブ
32	FUEL PUMP	15A	フューエルポンプ
33	HAZARD	10A	非常点滅等、方向指示灯
34	P.WIND2	20A	パワーウインドー
35	IG KEY1	40A	各ヒューズへの電源

けん引してもらうとき

けん引はできるだけマツダ販売店またはJAFなどに依頼してください。特に、エンジンがかかっているのに車が動かないときや異常な音がするときは駆動装置の故障が考えられます。必ずマツダ販売店またはJAFなどに連絡してください。

⚠ 警告

■長い下り坂を降りるときは、レッカー車でけん引してください。

ロープでけん引をすると、車間距離を保つためにフットブレーキを多用し、ブレーキが過熱して効かなくなります。このような状態でけん引を続けると、前の車に衝突するおそれがあります。

⚠ 注意

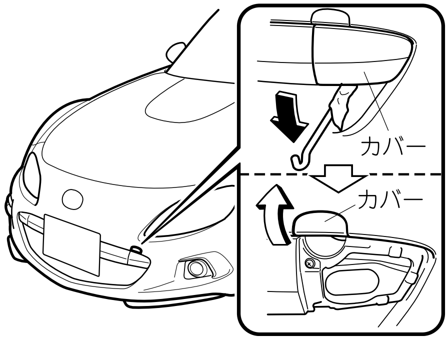
- **オートマチック車をロープでけん引してもらうときは、速度30km/h以下、走行距離は30km以内にしてください。高速走行や長距離走行をすると、駆動装置に悪影響をおよぼし、損傷するおそれがあります。できるだけマツダ販売店やJAFなどに依頼し、レッカー車またはトレーラーを使用してください。**
- **けん引してもらうときは次の点に注意してください。けん引フックや車体および駆動装置を損傷するおそれがあります。**
  - **急発進など、けん引フックやロープに大きな衝撃が加わる運転をしないでください。**
  - **けん引フック以外にロープをかけないでください。**

知識

金属製のチェーンやワイヤーロープなどを使用するときは、ロープやロープ先端についているフック部に布などを巻いてください。直接バンパーにあたると、傷がつくおそれがあります。

やむをえずロープでけん引してもらうときは、車両の前側にあるけん引フックを使用し、次の手順で行なってください。

1. けん引フック、ホイールレンチ、ジャッキバーをトランクから取り出します。
→219ページ「工具、ジャッキ」
2. ジャッキバーの先端に布を巻いてカバーを取りはずします。



⚠ 注意

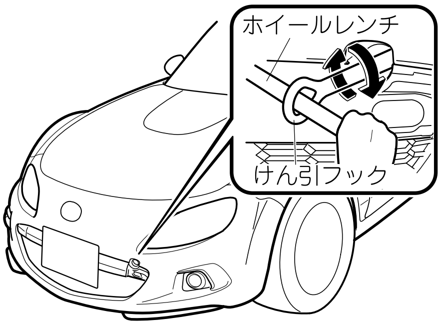
カバーはバンパーから完全に取り外し、紛失しないように保管してください。

知識

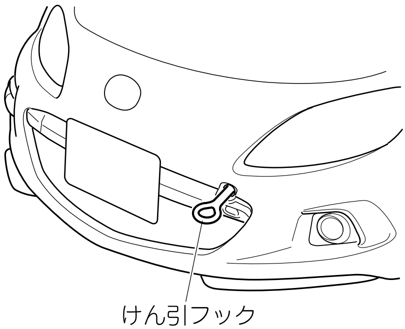
ジャッキバーを使用するときは、先端に布などを巻いてください。ジャッキバーが直接バンパーにあたると、傷がつくおそれがあります。

けん引について

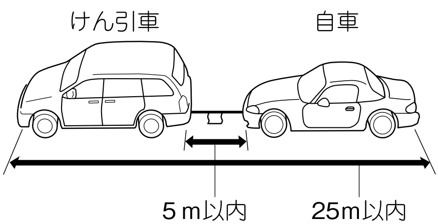
3 ホイールレンチを使ってけん引フックを確実に取り付けます。



4 けん引ロープをフックにかけます。



5 ロープは5m以内にして、中央に0.3m平方(0.3m×0.3m) 以上の白い布を必ずつけてください。



6 けん引してもらう車はエンジンをかけ、チェンジレバー/セレクトレバーをNにいれます。エンジンがかからないときは、電源ポジションをACCにします。

警告

■ やむをえずエンジンがかかっていない状態でけん引される場合は、慎重に運転してください。

エンジンがかかっていないときは、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が重くなるなど運転操作が困難になり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

注意

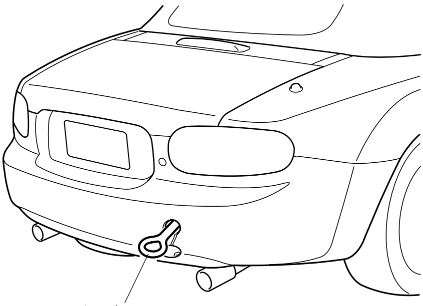
電源ポジションをOFFにしないでください。OFFにするとハンドルがロックされ、操作できなくなります。

7 パーキングブレーキを解除します。

8 けん引する車の制動灯に注意し、ロープをたるませないように走行してください。

故障車をけん引するとき

一般路上でやむをえず故障した車をロープでけん引するときは、後ろ側のけん引フックにロープをかけてけん引してください。



⚠ 注意

けん引するときは次の点に注意してください。けん引フックや車体および駆動装置を損傷するおそれがあります。

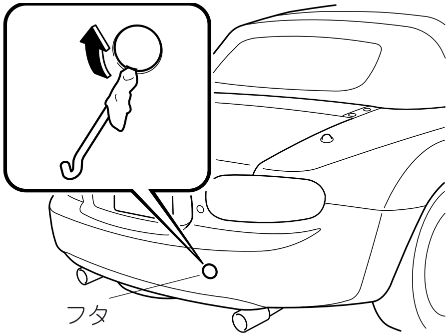
- **自車の重量より重い車はけん引しないでください。**
- **急発進など、けん引フックやロープに大きな衝撃が加わる運転をしないでください。**
- **けん引フック以外にロープをかけないでください。**

知識

金属製のチェーンやワイヤーロープなどを使用するときは、ロープやロープ先端についているフック部に布などを巻いてください。直接バンパーにあたると、傷がつくおそれがあります。

1 けん引フック、ホイールレンチをツールボックスから取り出します。
→219ページ「工具、ジャッキ」

2 ジャッキバーの先端に布を巻いてカバーを取りはずします。



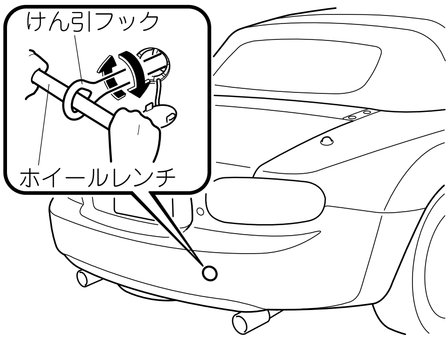
⚠ 注意

カバーはバンパーから完全に取りはずすことができません。無理に取りはずそうとすると破損するおそれがあります。

知識

ジャッキバーを使用するときは、先端に布などを巻いてください。ジャッキバーが直接バンパーにあたると、傷がつくおそれがあります。

3 ホイールレンチを使ってけん引フックを確実に取り付けます。



万一事故が起きたとき

事故が起きたときは、あわてず次の処置をしてください。

1.事故の続発防止

他の交通のさまたげにならない安全な場所(路肩、空き地など)に車を移動させ、エンジンを止めます。

2.負傷者の救護

負傷者がいる場合は、医師、救急車などが到着するまでの間、可能な応急手当を行ないます。
この場合、とくに頭部に傷を受けているようなときは、むやみに動かさないようにします。ただし、後続事故のおそれがある場合は、安全な場所に移動させます。

3.警察への連絡

事故の発生場所、状況、負傷の程度などを報告し、指示を受けます。

4.相手の氏名、住所などの確認

5.マツダ販売店、保険会社への連絡

知識

軽いけがでも、必ず警察に届けましょう。また、外傷がなくても頭部などに強い衝撃を受けたときは、医師の診断を受けましょう。後遺症がでることがあります。

6 車との上手なつきあいかた

点検整備について

安全で快適な運転をするために、日常点検整備および定期点検整備を実施することが法律で義務づけられています。
安心してお車に乗っていただくために、また、大きなトラブルを防ぐ意味からも、定期的に点検整備を実施してください。

使用済バッテリーやタイヤ、エンジンオイルなどの廃液を処分するときは、マツダ販売店にご相談ください。

警告

■点検は平らな場所で、車に輪止めをしてから行なってください。

車が不意に動き出すと、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■エンジンルーム内を点検するときは、ファンやベルトなどの回転部に触れないようにしてください。

特に、エンジンルームが高温のときは、電源ポジションがACCまたはOFFのときでも電動ファンが回転することがあるため、手や指などが巻き込まれるなど、重大な傷害につながるおそれがあります。

注意

エンジンルーム内を点検するときは、エンジンの高温部に触れないようにしてください。やけどをするおそれがあります。

知識

- 冷却水の温度が高いときは、エンジン保護のため、エンジンを止めても電動ファンが約10分間作動することがあります。
- 新車登録後1か月 (または走行距離1,000km)、6か月 (または走行距離5,000km) は無料で点検が受けられます。

定期点検

12か月、24か月の定期点検整備はマツダ販売店で受けてください。

知識

- 点検の結果は別冊のメンテナンスノート内「定期点検整備記録簿および定期点検整備の記録」に記入してください。
- 一般的な使用よりも厳しい使われ方をした車はシビアコンディションとして早めに点検整備をする必要があります。
  くわしくは、別冊のメンテナンスノートに記載しています。

日常点検

お客様のお車の使用状況に応じて、お客様自身の判断で適切な時期に実施していただく点検です。
日常点検はお客様自身で実施可能な項目となっておりますので、長距離走行前や洗車時、給油時などを目安に実施してください。

「日常点検整備のしかた」については別冊のメンテナンスノートに記載しています。

知識

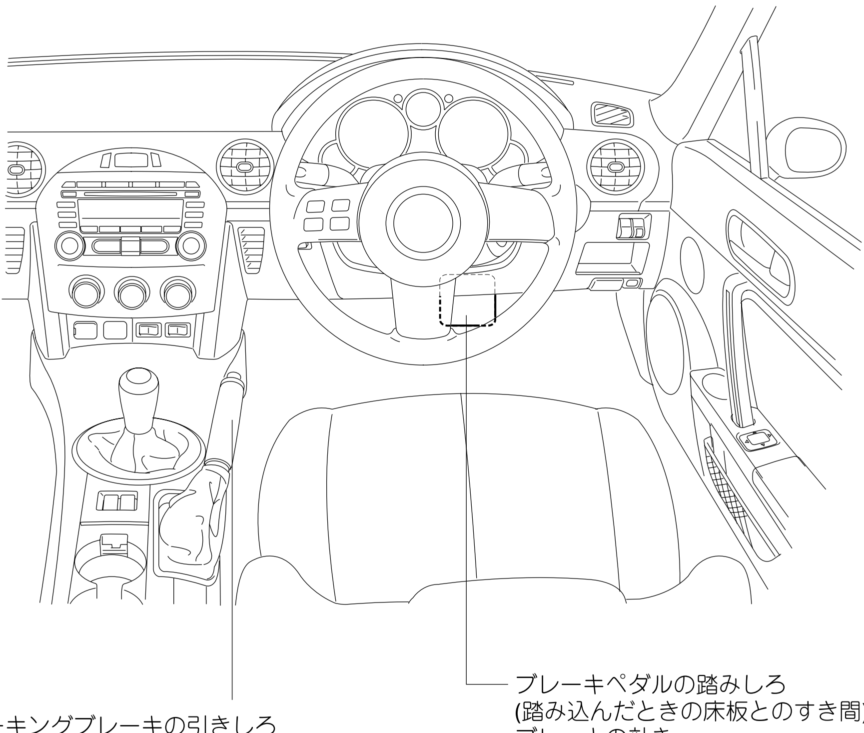
点検の結果は別冊のメンテナンスノート内「メンテナンスレコード」に記入してください。

点検項目と点検箇所

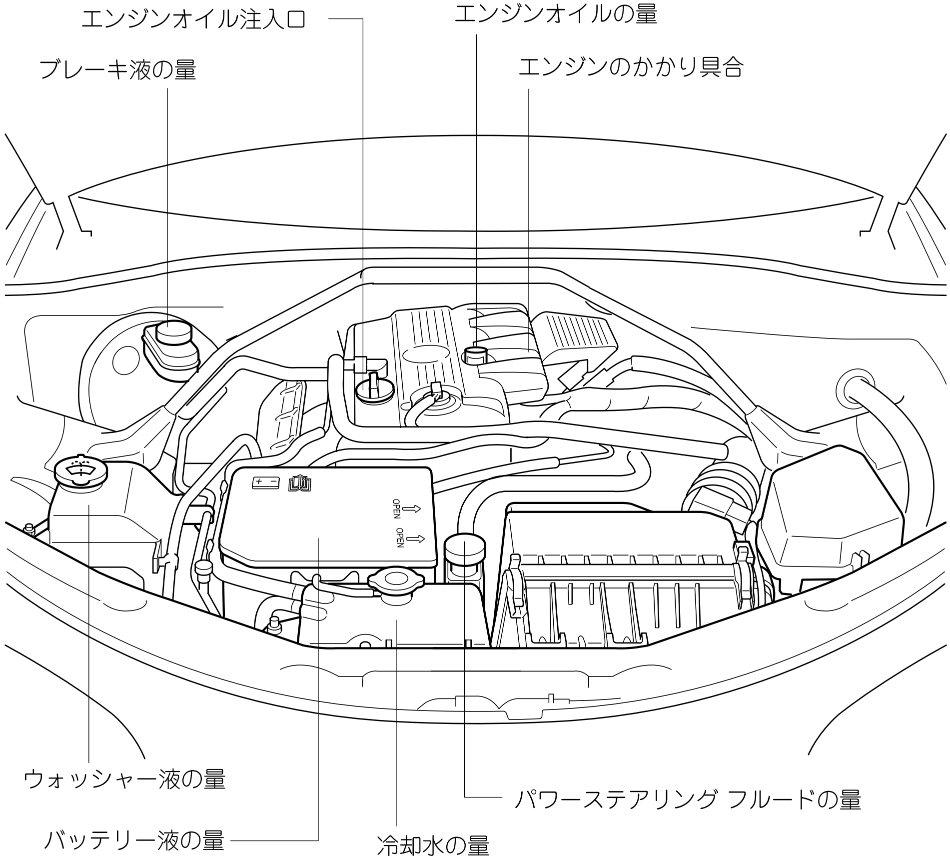
運行において異常が見られた箇所

前回の運転中に異常を認めた箇所について運転に支障がないかを点検します。
点検要領については別冊のメンテナンスノートに記載しています。

運転席にすわって



エンジンルームをのぞいて

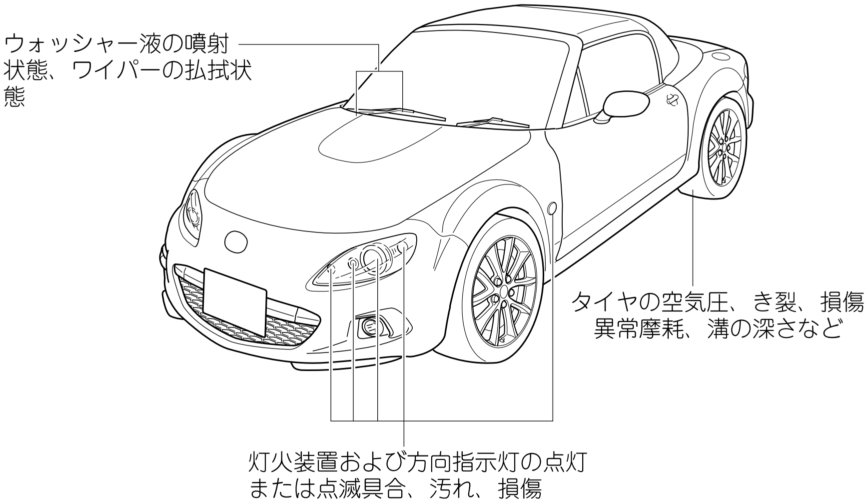


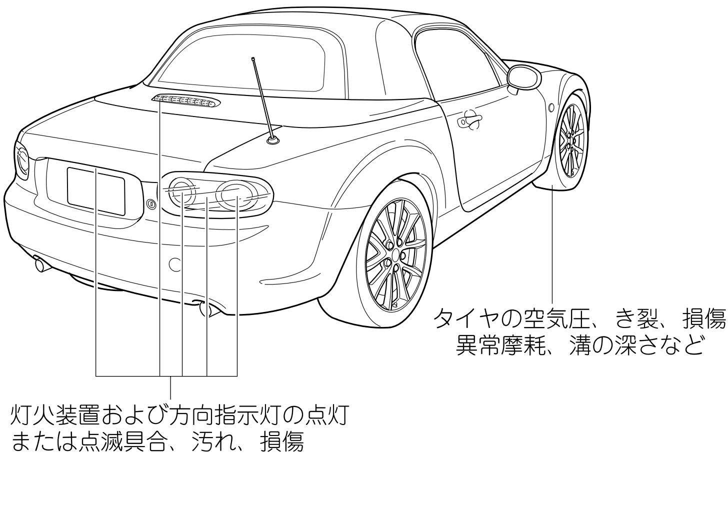
⚠ 注意

エンジンルームの点検をしたときは、工具や布を置き忘れないようにしてください。置き忘れるとエンジンなどを損傷したり、火災につながるなど思わぬ事故につながるおそれがあります。

点検、整備

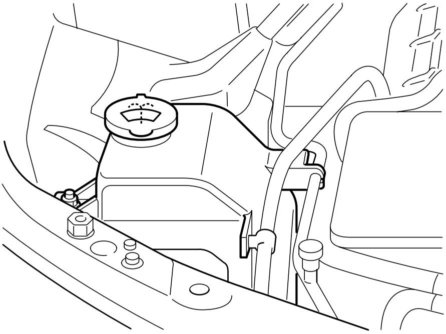
全体を見まわして





ウォッシャー液の補充

純正ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考に濃度を調節し、補充してください。



⚠ 注意

エンジンがかかっているときやエンジンが熱いときはウォッシャー液を補充しないでください。ウォッシャー液がエンジンなどにかかると、出火するおそれがあります。

知識

- ウォッシャー液のかわりに石けん水などを入れないでください。塗装のシミになるおそれがあります。
- 寒冷地では、ウォッシャー液をタンクいっぱいまで補充しないでください。

タイヤの点検

日常点検としてタイヤは定期的に点検してください。

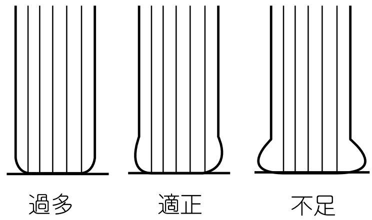
点検要領については別冊のメンテナンスノートを参照してください。

空気圧の点検

⚠ 警告

■ タイヤの空気圧が不足したままで走行しないでください。

タイヤの空気圧が不足していると車両の安定性を損なうばかりでなく、タイヤが偏摩耗したりします。また、タイヤの空気圧が不足したままで高速走行すると、タイヤがバースト (破裂) するなどして、思わぬ事故につながるおそれがあります。



- タイヤの空気圧は走行に伴い約1割程度上がることがあります。日常はタイヤが冷えている時にタイヤの接地部のたわみ状態を見て空気圧が適当であるかを点検します。
- ラジアルタイヤはたわみの状態での点検では空気圧が分かりにくいので、空気圧計で点検します。
- タイヤの空気圧は徐々に (自然に) 低下しますので、目安として月に一度空気圧計を使用して空気圧が適当であるかを点検します。
- 適正空気圧は、運転席ドアに貼付されているラベルで確認してください。

き裂、損傷の点検

タイヤの接地部全周や両側に著しいき裂や損傷およびクギ等の異物が刺さっていないかを目視で点検します。

⚠ 警告

■異常があるタイヤを装着しないでください。

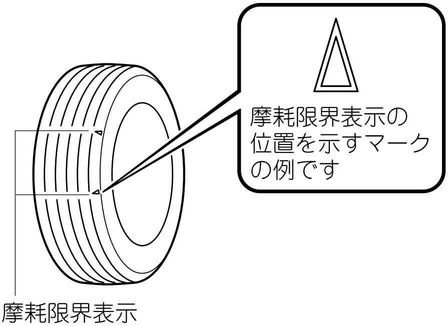
- 異常があるタイヤを装着すると、走行中にハンドルがとられたり、異常な振動を感じることがあります。
  また、パンクやバースト (破裂) などにより思わぬ事故につながるおそれがあります。
  走行中、異常な振動を感じた場合はマツダ販売店で点検を受け、正常なタイヤと交換してください。
- 異常のあるタイヤを装着していると、車の性能 (燃費・走行安定性・制動距離など) が十分に発揮できないばかりでなく、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、部品に悪影響をあたえるなど、故障の原因になるおそれがあります。

■道路の路肩などにタイヤの側面を接触させたり、凹凸やわだちの乗り越しは避けてください。

タイヤの損傷、き裂などをまねくおそれがあります。

溝の深さ、異常摩耗の点検

タイヤの溝の深さが十分であるか、摩耗限界表示 (ウェアインジケーター) が現れていないか、また、タイヤに片減りや局部摩耗、段付き摩耗がないかを目視で点検します。



⚠ 警告

■タイヤの溝の深さが少ないタイヤや摩耗限界表示 (ウェアインジケーター) が現れているタイヤを使用しないでください。

そのまま使用すると、制動距離が長くなったり、雨の日にハイドロプレーニング現象※により、ハンドル操作ができなくなったり、タイヤがバースト (破裂) するなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。摩耗限界表示が現れたらすみやかに正常なタイヤと交換してください。

※ぬれた路面を高速で走行すると、タイヤと路面の間に水の膜ができ、タイヤが浮いた状態になり、ハンドルやブレーキが効かなくなる現象。

知識

ウェアインジケーターは、タイヤの接地面にあり、他の部分より溝が1.6mmだけ浅くなっています。

外装の手入れ

車を美しく保つためには日ごろの手入れが大切です。



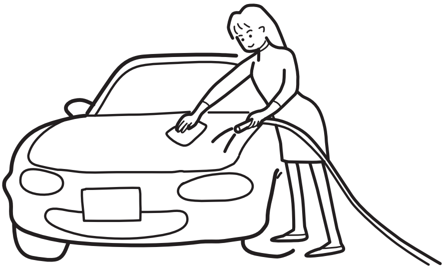
- 保管、駐車は風通しのよい屋根のある場所をおすすめします。
- 走行後は、車体についたほこりをやわらかい布か毛ばたきで払い落としましょう。
- とび石などによる塗装の傷は腐食の原因となります。見つけたら早めに補修してください。
- 洗車やワックスがけ、装備品の手入れは定期的に行ないましょう。
- ベンジンやガソリンなどの有機溶剤は塗装を損傷するので付着させないでください。
  万一付着した場合はただちにふき取るか、洗車してください。
- 次のようなときは、早めに洗車などの手入れを行なってください。
  そのまま放置しておくと、塗装の変色や車体の腐食の原因となります。
  - 海岸地帯を走行したとき。
  - 凍結防止剤を散布した雪道を走行したとき。
  - ばい煙や粉じん、鉄粉、化学物質などの降下の多い場所を走行したとき。
  - 鳥のふん、虫の死がい、樹液、果実などが付いたとき。
  - コールタール、塗料、砂じん、コンクリートの粉などが付いたとき。
  - 泥、ほこりが著しく付いたとき。
  - 雨の中を走行したときや、雨にぬれたとき。

知識

工場から排出される化学物質や車の排気ガスなどが雨に溶けて降り注いだものを酸性雨といいます。
酸性雨をボディーに付着させたままにしておくと、塗装を傷つけるおそれがあります。早めに水で洗い流してください。

洗車するとき

水洗いするとき



1 車の足まわりに付いている泥を洗い落とします。

2 車体上部から水をかけながら、やわらかいスポンジやセーム皮などで洗います。汚れがひどいときは洗車用洗剤を使用し、水で十分洗い流してください。

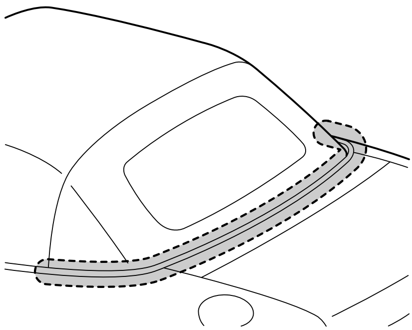
3 はん点が残らないように水をふき取ってください。

注意

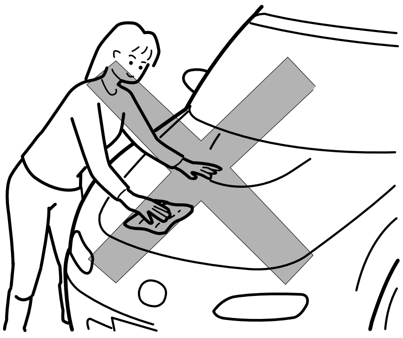
- 車の下まわりや足まわりを洗うときはけがをしないよう注意してください。
- エンジンルーム内に水をかけないでください。エンジンの始動不良や電気部品の故障につながるおそれがあります。
- 窓ガラスと幌の合わせ目付近に、直接水をかけないでください。車内に水が入るおそれがあります。

注意

- ボディーと幌の合わせ目付近に、直接水をかけないでください。トランク内に水が入る恐れがあります。



- 自動洗車機 (コイン洗車機) や高圧洗車機を使用しないでください。幌が破損したり、損傷するおそれがあります。
- 洗車後は、ブレーキパッドがぬれているため、ブレーキの効きが悪くなっているおそれがあります。低速で走りながら、アクセルペダルを放してブレーキペダルを軽く数回踏んで、効きが回復するまでブレーキを乾かしてください。
- 洗車やワックスがけを行うときは、車体のボンネット部に強い力をかけないようにしてください。強い力をかけると、車体がへこむことがあります。



知識

洗車するときは、硬いブラシやたわしなどを使用しないでください。
塗装を傷つけるおそれがあります。

ワックスをかけるときは



- ワックスがけは月に一回程度、または水のはじきが悪くなったときに洗車してから行なってください。
- 直射日光を避け、ボディーが冷えているとき (体温以下が目安) に行なってください。

知識

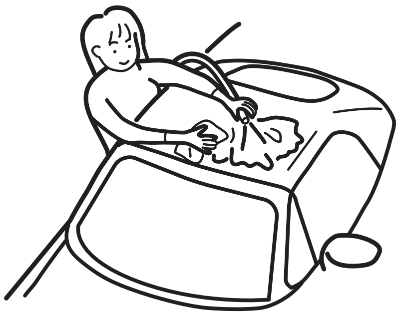
- コンパウンド (みがき紛) 入りのワックスを使用すると、塗装の光沢が失われることがあります。
- ワックス容器に記載してある使用説明をよく読んでから使用してください。

ソフトトップの手入れ☆

ソフトトップは高品質の幌生地を使用しています。
手入れの方法を誤ると、生地が硬化したり、シミや光沢ムラなどを起こすおそれがあります。

水洗いするとき

水洗いする前に毛のやわらかいブラシを使用し、砂埃を取り除きます (キャンバス生地のみ)。
車体上部から水をかけながら、やわらかいスポンジやセーム皮などで洗います。
ボディー用ワックスや油脂類が付着したときは、水で薄めた中性洗剤 (約5%) を使用して落としてください。



知識

- シンナー、ガソリンなどの有機溶剤やアルコール、塩素系漂白剤などを使用しないでください。生地が硬化したり、シミや光沢ムラなどを起こすことがあります。
- ソフトトップの手入れは定期的に行なってください。汚れたままにしておくと、汚れが落ちにくくなったり、シミなどの原因になります。

パワーリトラクタブルハードトップの手入れ☆

水洗いするとき

1 ハードトップに付いている汚れを洗い落とします。

2 車体上部から水をかけながら、やわらかいスポンジやセーム皮などで洗います。汚れがひどいときは洗車用洗剤を使用し、水で十分洗い流してください。

3 はん点が残らないように水をふき取ってください。

知識

洗車するときは、硬いブラシやたわしなどを使用しないでください。
塗装を傷つけるおそれがあります。

ワックスをかけるとき

- ワックスがけは月に一回程度、または水のはじきが悪くなったときに洗車してから行なってください。
- 直射日光を避け、ボディーが冷えているとき (体温以下が目安) に行なってください。

知識

- コンパウンド (みがき紛) 入りのワックスを使用すると、塗装の光沢が失われることがあります。
- ワックス容器に記載してある使用説明をよく読んでから使用してください。

ガラス、ミラーの手入れ

ガラスやミラーについた油膜を取るときは、純正ガラスクリーナーを使用してください。

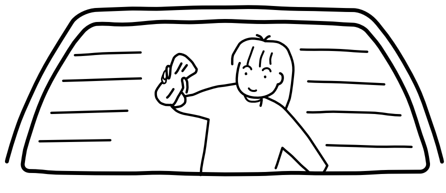
知識

フロントガラスに油膜があると、ワイパーがふき取りにくくなったり、雨の夜に対向車のライトなどが乱反射して見えにくくなることがあります。

ガラスの内側をふくときは、水やぬるま湯でぬらしたやわらかい布で、軽くふいてください。

注意

熱線を損傷するおそれがあるため、熱線にそってふいてください。ガラスクリーナーなどを使用すると、熱線をいためるおそれがあります。



 ☆印はグレードや仕様変更などにより装備の有無が異なります。

撥水加工ガラス/ミラー☆

運転席/助手席窓ガラス

撥水加工が施されているため、運転席/助手席窓ガラスについた水滴が小さな水玉状になります。
また、撥水加工により、泥、油膜などが付きにくく、霜、雪なども落としやすくなります。

ドアミラー

撥水加工が施されているため、ドアミラーについた水滴が小さな水玉状になります。
また、撥水加工により、泥、油膜などが付きにくく、霜、雪なども落としやすくなります。

手入れについて

水滴をはじく持続期間には限りがあります。長持ちさせるために次の点を守ってください。

- ガラスやミラーが汚れているときは、早めにやわらかい湿った布などで清掃してください。
- 運転席/助手席窓ガラスの汚れがひどいときは、汚れを取り除いてから、ガラスの開閉を行なってください。
- ガラスやミラーを清掃するときは、コンパウンド (みがき粉) のはいったガラスクリーナーやワックスは使用しないでください。また、ガラスクリーナーを使用しても曇る場合は、湿った布などでふき取ってください。
- 自動洗車機 (コイン洗車機) を使用するときは、ガラスやミラー表面の泥などの汚れを落としてから洗車してください。
- ワックス洗車を使用したときは、ガラスやミラー表面についたワックスにより、水滴がはじきにくくなることがあります。このようなときは、ワックスをふき取ってください。

アルミホイールの手入れ

アルミホイールに海水や凍結防止剤を付着させたままにしておくと、腐食するおそれがあります。
できるだけ早く水洗いしてください。
汚れのひどいときは中性洗剤をしみこませたやわらかい布などでふき取ってください。

⚠ 注意

中性洗剤以外は使用しないでください。
ご使用の際には成分をご確認ください。
変色·シミの原因となります。

知識

- アルミホイールは傷がつきやすいので、砂入り石けんや硬いブラシは使用しないでください。
- 自動洗車機を使用すると、ブラシにより傷がつくことがあります。

外装樹脂部品の手入れ

- バンパーなど樹脂部品の塗装面にガソリン、オイル、冷却水、バッテリー液などが付着すると変色、シミ、塗膜はがれなどの原因となります。すみやかに軟らかい布でふき取ってください。
- 高圧洗車機は機種によって洗浄水が高温、高圧になるものがあります。必要以上に洗車ノズルを近づけたり長時間水圧をかけると樹脂部品の変形や塗膜の損傷などの原因になることがありますのでご注意ください。
- コンパウンド (みがき粉) 入りのワックスを使用すると、塗膜を損傷するおそれがありますので使用しないでください。
- 電動またはエア工具を使用してコンパウンド (みがき粉) がけやワックスがけを行なうと摩擦熱が発生して、樹脂部品の変形や塗膜の損傷などの原因になることがありますので使用しないでください。
- プラスチックレンズを使用しているランプ類は、ガソリン、灯油、高濃度アルコール類、塗料、シンナー、強酸性洗剤、強アルカリ性洗剤などの化学液により表面が変色したりダメージを受けて、機能を著しく損なうおそれがあります。お手入れの際には使用しないでください。万一付着したときは、すみやかに水で洗い流してください。

内装の手入れ

⚠ 警告

■室内に水をかけない。
オーディオ、スイッチなどの電気部品に水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。

布張り部分の手入れ☆

汚れたままにしておくと、汚れが落ちにくくなったり、シミや変色を生じることがあります。早めに手入れを行なってください。

1. 水で薄めた中性洗剤 (約5%) をやわらかい布に含ませ、軽くたたくようにして汚れた部分をふき取ります。
2. きれいな水にひたした布を固くしぼり、残った洗剤をふき取ります。

知識

- 硬いブラシや布で強くこすると、傷がつくことがあります。
- シンナー、ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤や、アルコール、塩素系漂白剤などでふかないでください。変色、シミの原因になります。

革張り部分の手入れ☆

汚れたままにしておくと、汚れが落ちにくくなったり、シミや変色を生じることがあります。早めに手入れを行なってください。

1. 掃除機などでホコリや砂を取り除きます。
2. 純正専用クリーナーまたは水で薄めた中性洗剤 (約5%) をやわらかい布に含ませ、汚れをふき取ります。

3 きれいな水にひたした布を固くしぼり、残った洗剤をふき取ります。

4 乾いたやわらかい布で水分を取り、風通しのよい日陰で乾燥させます。
雨などでぬれたときも早めに水分をふき取り、乾燥させてください。

知識

- 天然素材のため、シボ (本革表面の凹凸) の不均一や牛革本来の傷が分かる場合があります。
- 品質を長く保つため、年に2回程度の定期的なお手入れをおすすめします。
- シート表面についた砂やホコリなどは、本革表面の保護膜を傷つけ早期摩耗の原因になります。
- 本革部分に油汚れなどが付くとカビやシミなどの原因になります。
- 硬いブラシや布で強くこすると、傷がつくことがあります。
- シンナー、ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤や、アルコール、塩素系漂白剤などでふかないでください。変色、シミの原因になります。
- シートがぬれたときはすぐに乾いた布で水分をふき取ってください。表面に水分が残っていると硬化、収縮など変質の原因になります。
- 直射日光に長時間さらすと、変質、縮みなどの原因になります。長時間駐車するときは、サンシェード (日除け) を使用するなどして直射日光をさえぎってください。
- ビニール製品を長時間シートの上に置かないでください。変質、変色の原因になります。室内が高温になっているとビニールが変質して本革部分に付着するおそれがあります。

スウェード調表皮の手入れ☆

汚れたままにしておくと、汚れが落ちにくくなったり、シミや変色を生じることがあります。早めに手入れを行なってください。

汚れの落としかた

1 やわらかい布に水を含ませ、軽くこすり汚れをふき取ります。

2 乾いた布で水分を十分にふき取ります。

知識

水で落ちない汚れは、石けん水または中性洗剤でふき取ってください。

雨などでぬれたとき

やわらかい布で軽くふき取ってください。

樹脂部品の手入れ

樹脂部品に油脂類が付着すると、変色、シミ、ひび割れ、塗膜はがれの原因になります。
早めにやわらかい布などでふき取ってください。

⚠ 注意

つや出し剤を使用しないでください。
含まれる成分によっては変色、シミ、ひび割れ、塗膜はがれの原因になります。

車の手入れ

ピアノブラックパネルの手入れ☆

次の箇所には特殊な塗装処理が施されたパネルが取り付けられています。

· インパネサイドガーニッシュ

· ハンドルの一部

パネルが汚れたときは、やわらかい布などでふき取ってください。

知識

硬いブラシや布で強くこすると、傷がつくことがあります。

シートベルトの手入れ

汚れたままにしておくと、汚れが落ちにくくなったり、ベルトの巻き取りが悪くなることがあります。早めに手入れを行なってください。

1. 水で薄めた中性洗剤 (約5%) をやわらかい布に含ませ、軽くたたくようにして汚れた部分をふき取ります。
2. きれいな水にひたした布を固くしぼり、残った洗剤をふき取ります。
3. 手入れのため引き出したシートベルトを巻き取らせるときは、十分に乾燥させ、水分が残っていないことを確認してください。

警告

■シートベルトにほつれ、すりきずなどの異常があるときは、マツダ販売店で交換してください。

そのままの状態で使用すると、万一の場合シートベルトの効果が十分に発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。

知識

- 硬いブラシや布で強くこすると、傷がつくことがあります。
- シンナー、ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤や、アルコール、塩素系漂白剤などでふかないでください。変色、シミの原因になります。

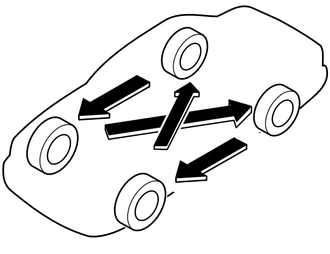
その他の手入れ

タイヤの位置交換 (タイヤローテーション)

タイヤの偏摩耗を防ぎ、寿命をのばすために、約5,000km走行ごとにタイヤの位置を交換してください。

知識

お客様のお車にはスペアタイヤが標準で搭載されていないため、搭載されているジャッキではタイヤの位置交換を行なうことができません。タイヤの位置交換を行なうときはマツダ販売店にご相談ください。



警告

■タイヤを交換するときは指定されたタイヤを装着してください。

指定された組み合わせ以外のタイヤを装着すると走行安定性が損なわれるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

知識

タイヤの位置交換を行うまえにタイヤの空気圧、摩耗を点検してください。
→265ページ「タイヤの点検」

冬にそなえて

エンジンオイルの準備

外気温に応じたエンジンオイルに交換してください。
→287ページ「エンジンオイル」

冷却水の濃度の調節

冷却水には、凍結を防止するために不凍液が入っています。
冬場になっても凍結しないよう冷却水の濃度を調節してください。

不凍液の割合	使用温度範囲(外気温)
30%	−16°C以上
50%	−37°C以上

純正ロングライフクーラント(ゴールデン) FL22 を使用する場合
純正ロングライフクーラント(ゴールデン) FL22 は濃度調整済みの冷却水です。
薄めずそのままご使用ください。

冷却水量の点検や補充については別冊のメンテナンスノートに記載しています。
冷却水を交換する場合はマツダ販売店にご相談ください。

ウォッシャー液の濃度の調節

ウォッシャー液が凍結するのを防ぐため、ウォッシャー液容器に表示してある凍結温度を参考にして、外気温に応じた濃度に調節してください。
→265ページ「ウォッシャー液の補充」

バッテリー液の点検

気温が下がるとバッテリー性能が低下するためエンジン始動が困難になる場合があります。
バッテリー液の量、比重を点検し、必要に応じて液の補充をしてください。

- 点検、補充の要領は別冊のメンテナンスノートに記載しています。
- 交換するときは、車両スペックを参照してください。
  →292ページ「バッテリー」

冬用タイヤ、タイヤチェーンの準備

冬用タイヤに交換するときは、前後輪とも指定された同一サイズ、同一種類のものを使用してください。

⚠ 警告

■ タイヤを交換するときは前後輪とも必ず指定された同一サイズ、同一種類のものを使用してください。

指定された組み合わせ以外のタイヤを装着すると走行安定性が損なわれるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

タイヤチェーンはタイヤサイズに合った純正品を準備し、使用する前に一度装着してみてサイズを確認しておきましょう。
→279ページ「タイヤチェーンの取り付け」

運転する前に

幌やルーフ、ボンネットに雪が積もっているときは

- 走行中、ガラスに雪が落ちると視界のさまたげとなり危険です。
  またボンネットに雪が積もったまま走行すると、万一のときにアクティブボンネットが作動しにくくなるおそれがあります。
  走行前に取り除いてください。
- 気温が5°C以下のときは、ソフトトップの開閉操作をしないでください。凍結により幌生地が損傷するおそれがあります。

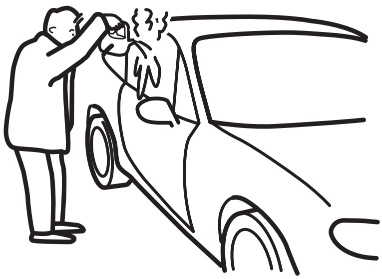
ガラスに雪や霜がついているときは

視界を確保するため取り除いてください。プラスチックの板などを使用して取り除くことができます。プラスチックの板などを使用する時はガラスに傷をつけないように注意して取り除いてください。

足まわりなどに雪や氷が付着しているときは

部品に傷をつけないように注意して取り除いてください。

ドアなどが凍結しているときは



- ドアが凍結しているときは、お湯をかけて氷を溶かしてから開けてください。
  無理に開けようとすると、ドアまわりのゴムがはがれたり、周辺部を損傷するおそれがあります。
- ドアのキー穴部にはお湯をかけないでください。凍結してキーが差しこめなくなるおそれがあります。
- お湯をかけたあとは、すぐに水分をふき取ってください。
- ワイパー、パワーウインドー、電動ドアミラーなどが凍結して動かない場合もお湯をかけて氷を溶かしてから操作してください。
  無理に動かそうとすると故障の原因になります。

車に乗るときは

靴についた雪をよく落としてから乗車してください。
ペダル類を操作するときにすべったり、室内の湿気が多くなるため窓ガラスが曇ったりすることがあります。

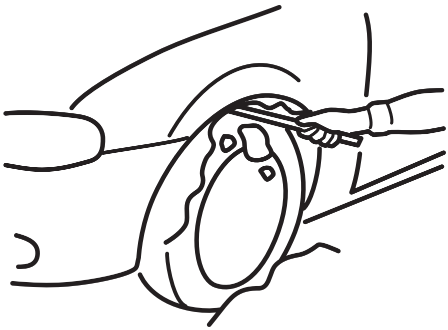
走行するときは

すべりやすい路面を走行するときは



- 早めに冬用タイヤまたはタイヤチェーンを装着してください。
  →279ページ「タイヤチェーンの取り付け」
- 急発進、急ハンドルや急ブレーキを避け、ひかえめな速度で運転してください。
- 日陰や橋の上、水たまりなど、凍結しやすい場所にさしかかる前では速度を落とし、注意して走行してください。

ハンドルの切れ具合に注意



走行中、フェンダーの裏側に雪が付着して氷になり、ハンドルの切れが悪くなることがあります。
ときどき車を止めて点検し、氷塊が大きくなる前に取り除いてください。

ブレーキの効き具合を確認

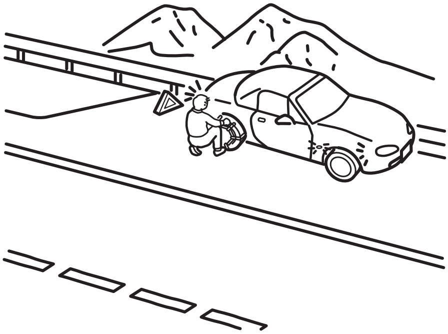
ブレーキ装置に雪や氷が付着すると、ブレーキの効きが悪くなるおそれがあります。
　効きが悪いときは、低速で走りながらアクセルペダルを放してブレーキペダルを軽く数回踏んで、効きが回復するまでブレーキを乾かしてください。

駐車するときは



- 寒冷時はパーキングブレーキをかけると凍結して解除できなくなるおそれがあります。
  パーキングブレーキは使わず、マニュアル車はチェンジレバーを1またはRに、オートマチック車はセレクトレバーをPにいれてタイヤに輪止めをしてください。
- ボンネット側を風下に向けて駐車してください。風上に向けるとエンジンが冷えすぎて始動しにくくなることがあります。
- ワイパーアームは立てて駐車してください。寒冷時はワイパーゴムがガラスに凍りつくことがあります。

タイヤチェーンの取り付け



タイヤチェーンは後輪に取り付けます。
タイヤチェーンはタイヤサイズに合った純正品を使用してください。タイヤチェーンに付属の取扱説明書にしたがって正しく取り付けてください。
タイヤチェーンの取り付けは、交通のさまたげにならず、安全に作業ができる平らな場所で行なってください。
路上で行なう場合は、非常点滅灯、停止表示板 (停止表示灯) を使用してください。

⚠ 注意

- **後輪がパンクしたときは、タイヤパンク応急修理キットでパンクタイヤを修理し、タイヤチェーンを装着してください。**
  →228ページ「タイヤパンク応急修理キット」
- **純正品以外のタイヤチェーンを使用するとボディーなどに干渉し、傷をつけるおそれがあります。くわしくは、マツダ販売店にご相談ください。**

積雪、寒冷時の取り扱い

注意

- タイヤチェーンを装着して走行するときは、突起物や穴を乗り越えたり、急ハンドルや車輪がロックするようなブレーキ操作などをしないでください。
  極端に車体が沈み込んだ場合、ボディーなどに干渉し、傷をつけるおそれがあります。
- 積雪路、凍結路以外ではタイヤチェーンを装着して走行しないでください。
  チェーンの摩耗を早める原因になります。
- タイヤチェーンを装着したときは、30km/h以下で走行してください。
  30km/h以上で走行すると、タイヤチェーンにかかる負担が大きくなるため、チェーンが切れやすくなります。

知識

- お客様のお車にタイヤチェーンは標準で搭載されていません。必要に応じてマツダ販売店でお求めください。
- タイヤチェーンを取り付けると、ホイールに傷がつくおそれがあります。

寒冷地用ワイパーブレードについて★

降雪期にフロントガラスに雪が付着するのを防ぐために、寒冷地用ワイパーブレードをお使いください。
寒冷地用ワイパーブレードは通常のワイパーブレードの金属部分をゴムでおおってあります。
必要に応じてマツダ販売店でお求めください。

知識

高速走行時は、通常のワイパーブレードよりふき取りにくくなりますので、ワイパー使用時は速度を落として走行してください。

夏期の取り扱い

エアコンのチェック

エアコンの冷媒 (エアコンガス) が不足していると、冷房性能が低下します。
夏になる前にマツダ販売店で点検を受けておきましょう。

知識

エアコンガスはHFC134a (R134a) を使用しています。補充、交換の際には必ずHFC134aを入れてください。エアコンガスは地球温暖化に悪影響をおよぼすため大気放出はしないでください。点検、補充、交換、廃棄についてはマツダ販売店にご相談ください。

炎天下に駐車したあとは

炎天下に駐車したあとは室内の温度が大変高くなります。このようなときは、窓ガラスを開けて、室内の熱気を逃がしてからエアコンを作動させてください。

オーバーヒートを防ぐために

冷却水の量が不足していないかこまめに点検してください。
点検要領は別冊のメンテナンスノートに記載しています。

雨の日の運転

ガラスが曇るときは

湿度の高い日はガラスが曇りやすくなります。このようなとき、エアコンを使用して曇りを取ることができます。エアコンを作動させると吹き出し風が除湿されるため、より効果的に曇りを取ることができます。
→178ページ「エアコンを上手に使用していただくために」
リヤガラスの曇りを取るときは、リヤウインドーデフォッガースイッチを押してください。
→160ページ「リヤウインドーデフォッガー (曇り取り) スイッチ」

フロントガラスの油膜をとるときは

雨の夜は、フロントガラスに油膜があると、対向車のライトなどが乱反射して、見えにくくなることがあります。
ガラスクリーナーを使ってフロントガラスの表面をきれいにしてください。

環境保護のために

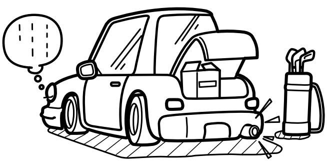
経済的な運転

地球環境にやさしい、経済的な運転を心がけてください。

以下に示す数値は、対象車種2.0リットル乗用車 (AT) の燃費＝11.7km/l (10·15モード) が計算ベースです。 (社団法人 日本自動車工業会調べ)

アイドリングストップ

コンビニでの買い物、人待ちや荷降ろしなど、ちょっとした駐車のときにもエンジンを止めましょう。5分間アイドリングをやめると、約65mlの燃料を節約できます。



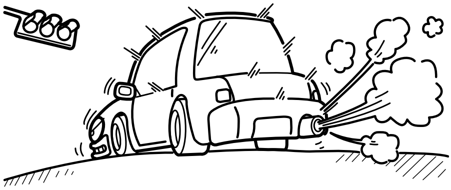
不要な荷物は積まない

荷物が多いほど、燃料を多く消費します。不要な荷物は降ろして走行しましょう。10kgの荷物を降ろして50km走ると、約15mlの燃料を節約できます。



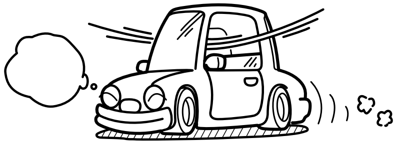
空ぶかしをしない

空ぶかしは環境にも車にもよくありません。空ぶかしを10回やめると、約60mlの燃料を節約できます。



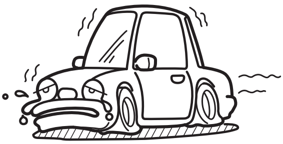
エアコンの使用は控えめに

エアコンの使用を控えると、燃料の節約になります。エアコンを5分間停止すると、約55mlの燃料を節約できます。



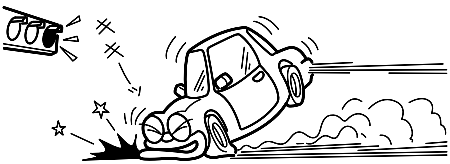
タイヤの空気圧を適正に

こまめに点検し、適正な空気圧に調整しましょう。適正値で50km走ると、50kPa減のときに比べて、約150mlの燃料を節約できます。



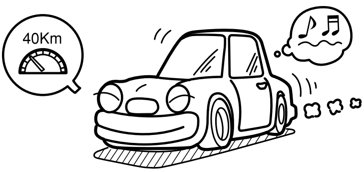
ゆとりある走行を

急発進、急加速、急ブレーキは避けましょう。急発進を10回やめると約170ml、急加速を10回やめると約110mlの燃料を節約できます。



経済的速度

一般道路で40km/h、高速道路で80km/h程度の等速走行が経済的です。



アクセルペダルの上手な踏みかた

加速終了時 (オートマチック車)

アクセルペダルを少し大きめにもどしてみましょう。適切に無駄なく自動変速されるため、燃費がよくなります。

下り坂に入るとき、減速を始めるとき

早めにアクセルペダルをもどし、エンジンブレーキを使いましょう。アクセルペダルをもどすと燃料噴射が停止されるので、燃費がよくなります。

等速走行時

アクセルペダルの踏み加減を一定に保ちましょう。
アクセルペダルの踏み込み、踏みもどしは少ないほど燃料噴射が少なくなるため、燃費がよくなります。

環境保護のために

10·15モード燃費について

「10·15モード」とは

車両カタログに記載されている「10·15モード」燃費は、一定の条件に従って測定された燃費です。
このモードは都市内走行状態を再現したもので、図1のようにシャシーダイナモメーター上で実際の道路上の走行状態を再現し、エンジン暖機後、図2のようなパターンを走行するものです。

図1.シャシーダイナモメーター

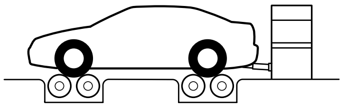
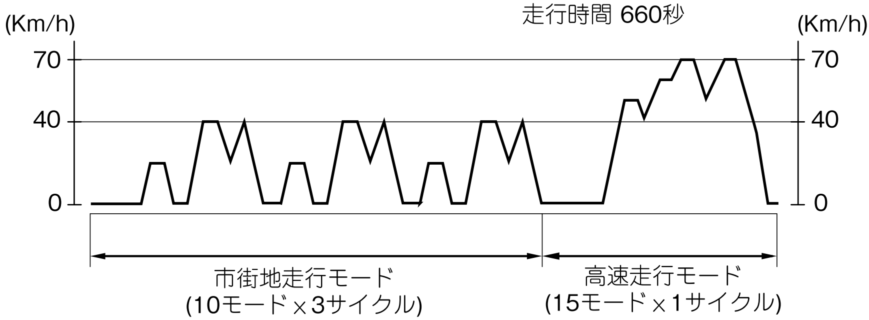


図２.「10·15モード」

平均速度 22.7Km/h
走行距離 4.16Km
走行時間 660秒



「10·15モード」は、都市内走行状態を再現したものですが、あくまでも代表的な走行パターンです。そのため、実際の走行とは異なる場合が多く、
例えば

- 走行速度の平均が「10·15モード」より低い
- 停車比率 (運転中に車が止まっている割合) が高い
- 急な加速を行った

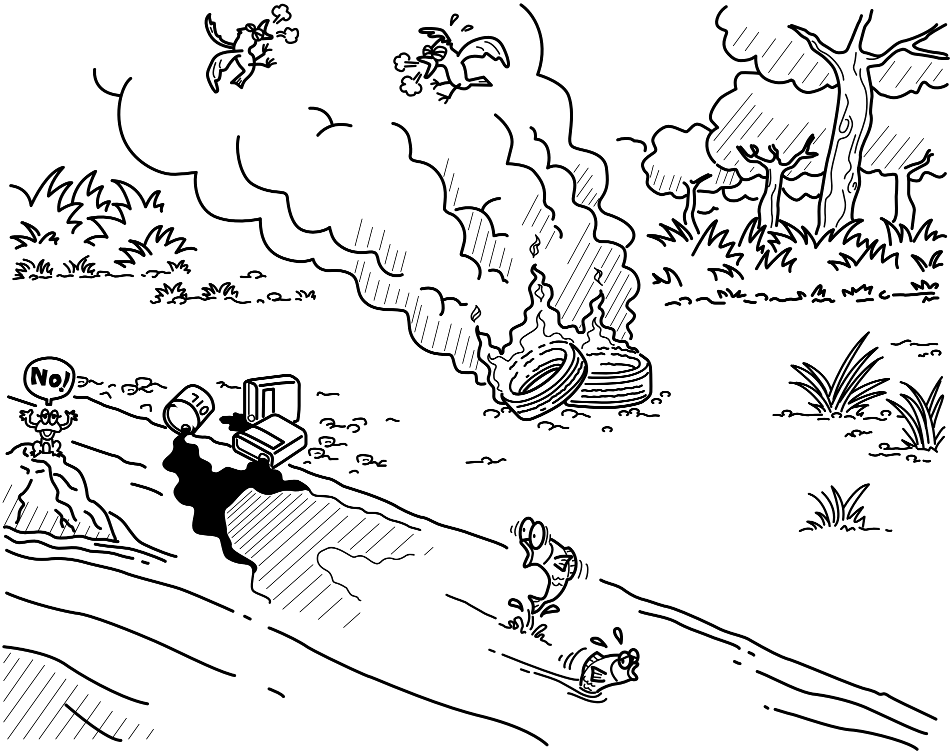
など条件の違いにより燃費が悪くなります。
参考資料

- (社) 日本自動車工業会:「あしたへECO-MOTION」
- (社) 日本自動車連盟:「ECO MANUAL 車に関する環境エコ基礎知識集」

廃棄物を処理するときは

廃棄物については、法律上適切な処理が求められています。

- タイヤを燃やすと有毒なガスが発生するので、自己処理はしないでください。使用済みタイヤは新品タイヤを購入した販売店に処分を依頼してください。
- バッテリーは鉛や硫酸が使われています。使用済みバッテリーは新品バッテリーを購入した販売店に処分を依頼してください。
- エンジンオイルやクーラントが地下や川などに流れ出すと、環境を悪化させます。交換済みのエンジンオイルは新品エンジンオイルを購入した販売店に処分を依頼してください。また、クーラントを交換する場合はマツダ販売店にご相談ください。
- エアコンにはオゾン層を破壊しない代替フロンガスHFC134a (R134a) を使用しています。それでも代替フロンガスには地球を温暖化するはたらきがあります。ガスの大気放出を防止するため、エアコンの点検、修理はマツダ販売店か専門の修理業者に依頼してください。



サービスデータ

燃料、オイル、液類

■燃料

使用燃料については、106ページの「燃料補給口」もあわせてお読みください。

項目	サービスデータ
使用燃料	無鉛プレミアム (無鉛ハイオク) ガソリン
タンク容量 (参考値)	50L

■フューエルフィルター

項目	サービスデータ
交換時期	160,000km走行ごと

■エンジンオイル

オイル量の確認は、必ずレベルゲージで行なってください。
交換時期は走行kmまたは年月のどちらか早い方で交換してください。
寒冷地では、エンジンオイルが劣化しやすいので、早めにオイルを交換してください。

項目	サービスデータ		
交換時期	標準		15,000kmまたは1年ごと
	シビアコンディション*1		7,500kmまたは6か月ごと
オイルグレード	純正モーターオイルゴールデンECO SM*2		API SM/ILSAC GF-4、SAE 0W-20
	純正モーターオイルゴールデンSM		API SM/ILSAC GF-4、SAE 5W-20
			API SM/ILSAC GF-4、SAE 5W-30
			API SM/ILSAC GF-4、SAE 10W-30
	純正モーターオイルゴールデンSL		API SL/ILSAC GF-3、SAE 5W-30
交換量 (参考値)	オイルのみ		4.05L
	オイルとオイルフィルター	マニュアル車	4.55L
		オートマチック車	4.45L

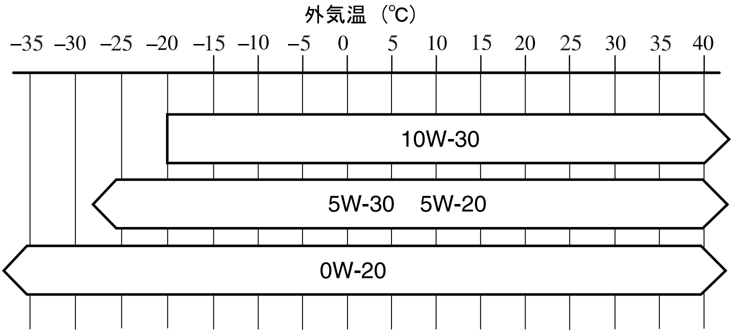
*1 シビアコンディションの条件については、別冊のメンテナンスノートに記載しています。

*2 純正モーターオイルゴールデンECO SMは省燃費性に優れたエンジンオイルです。

サービスデータ

使用温度範囲

エンジンオイルは外気温に応じた粘度のものを次の表にもとづき使用してください。



■エンジンオイルフィルター

交換時期は走行kmまたは年月のどちらか早い方で交換してください。

項目	サービスデータ	
交換時期	標準	15,000kmまたは1年ごと
	シビアコンディション*1	7,500kmまたは6か月ごと

*1 シビアコンディションの条件については、別冊のメンテナンスノートに記載しています。

■マニュアルトランスミッションオイル

項目		サービスデータ
推奨オイル		純正ロングライフ SAE 75W-90 (GL-4)
容量 (参考値)	5MT	2.0L
	6MT	2.1L

■オートマチックトランスミッションフルード

項目	サービスデータ
推奨フルード	ATF JWS3317
容量 (参考値)	7.4L

■ディファレンシャルオイル

項目	サービスデータ	
交換時期	標準	無交換
	シビアコンディション*	60,000km走行ごと
推奨オイル	純正ロングライフハイポイド SAE 90 (GL-5)	
容量 (参考値)	0.7L	

* シビアコンディションの条件については、別冊のメンテナンスノートに記載しています。

■パワーステアリングフルード

液量の確認は、リザーバータンク表面のゲージで行なってください。

項目	サービスデータ
推奨フルード	純正ATF M-III
容量 (参考値)	1.16L

■ブレーキ液

液量の確認は、リザーバータンク表面のゲージで行なってください。

項目	サービスデータ
交換時期	2年ごと (初回は3年)
推奨液	純正ブレーキフルードBF-3 (DOT-3)

■冷却水

液量の確認は、リザーバータンク表面のゲージで行なってください。

項目		サービスデータ
交換時期	純正ロングライフクーラント	2年ごと (初回は3年)
	純正ロングライフクーラント (ゴールデン)*1	100,000km走行または4年ごと (初回は180,000km走行または9年)
推奨液		純正ロングライフクーラント、 純正ロングライフクーラント (ゴールデン)*1
容量 (参考値)	マニュアルトランスミッション	7.7L
	オートマチックトランスミッション	7.0L

*1 ラジエーターキャップまたはその付近に FL22 のマークがある場合は、純正ロングライフクーラント (ゴールデン) を使用してください。詳しくはマツダ販売店にご相談ください。

■ウォッシャー液

液量の確認は、レベルゲージやリザーバータンク表面のゲージで行なってください。

項目	サービスデータ
タンク容量 (参考値)	1.2L

各部の点検値、交換時期

■ブレーキペダル

項目	サービスデータ
遊び	2.8～6.5mm
床板とのすき間 (踏力147N {15kgf})	90mm以上
フロアマットとのすき間 (踏力147N {15kgf})	60mm以上

■パーキングブレーキ

項目	サービスデータ
引きしろ (操作力98N {10kgf})	3～6ノッチ

■クラッチペダル

項目	サービスデータ
遊び	1.0～3.0mm
床板とのすき間	75mm以上

■オルタネーターベルト

項目	サービスデータ
たわみ量	自動調整式 (使用限度をこえているものは交換)

■エアクリーナーエレメント

項目	サービスデータ	
交換時期	標準	50,000km走行ごと
	シビアコンディション*1	25,000km走行ごと

*1 シビアコンディションの条件については、別冊のメンテナンスノートに記載しています。

電気部品/電球 (バルブ)

■スパークプラグ

項目		サービスデータ
型式	NGK	ILTR6A13G、LTR6BI13

⚠ 注意

イリジウムプラグを使用していますので、ワイヤーブラシなどによる清掃は行なわないでください。イリジウム合金チップおよび白金チップの微粒子膜が損傷または脱落するおそれがあります。

■バッテリー

項目	サービスデータ
型式、容量	46B24L、45Ah (20時間率)

■電球 (バルブ) の容量

電球 (バルブ)		W数 (12V用)	規格 (ECE R (SAE))
ヘッドランプ	Hi	60W	HB3 (—)
	Lo	35W	D2S (D2S)
フォグランプ☆		55W	H11 (H11)
車幅灯		5W	W5W (—)
前面方向指示灯/非常点滅灯		21W	WY21W (—)
側面方向指示灯/非常点滅灯		5W	WY5W (—)
後面方向指示灯/非常点滅灯		21W	WY21W (—)
制動灯/尾灯		21/5W	W21/5W (#7443)
後退灯		18W	W16W (#921)
番号灯		5W	W5W (4CP)
ハイマウントストップランプ		LED*1	— (—)
ルームランプ		10W	— (—)
トランクルームランプ		8W	— (—)

*1 LEDはLight Emitting Diodeの略で発光するダイオードです。

■ヒューズ

→250ページ「ヒューズの受け持つ装置」

サービスデータ

タイヤ/ホイール

■タイヤ/ホイールサイズ

タイヤサイズは、運転席ドアに貼付されているラベルで確認してください。

タイヤサイズ	ホイール		
	サイズ	インセット(オフセット)	ピッチサークル直径
205/50R16 87V	16×6-1/2J	55mm	114.3mm
205/45R17 84W	17×7J		

■タイヤ空気圧

適正空気圧は、運転席ドアに貼付されているラベルで確認してください。
→14ページ「日常点検としてタイヤを定期的に点検する」

タイヤサイズ	タイヤ空気圧	
	前輪	後輪
205/50R16 87V	200 kPa (2.0 kgf/ cm^2)	200 kPa (2.0 kgf/ cm^2)
205/45R17 84W	200 kPa (2.0 kgf/ cm^2)	200 kPa (2.0 kgf/ cm^2)

■ブレーキディスクの摩耗限度情報

ブレーキディスクの使用限度値とその測定方法に関する情報が必要な場合は、マツダ販売店にご相談ください。

さくいん

A

E

S

ア

ア

イ

ウ

エ

エ

オ

オ

カ

キ

ク

ハ

ヒ

ビ

フ

お問い合わせ、ご相談はお近くのマツダ販売店または、
下記へお願いいたします。

マツダ㈱コールセンター
全国共通フリーダイヤル
0120-386-919
受付時間
平日　9:00〜17:00
土・日・祝日　9:00〜12:00 13:00〜17:00
携帯電話からもご利用になれます。

弊社における個人情報の取扱いは、
弊社ウェブサイトに掲載しています。
(http：//www.mazda.co.jp)

発行元 マツダ株式会社
〒730-8670 広島県安芸郡府中町新地3-1
発行 2012年 6月
印刷 2012年 6月
301頁 初版